# PANN News Letter

Printmaker's Association of Nishi Nippon

Vol.01

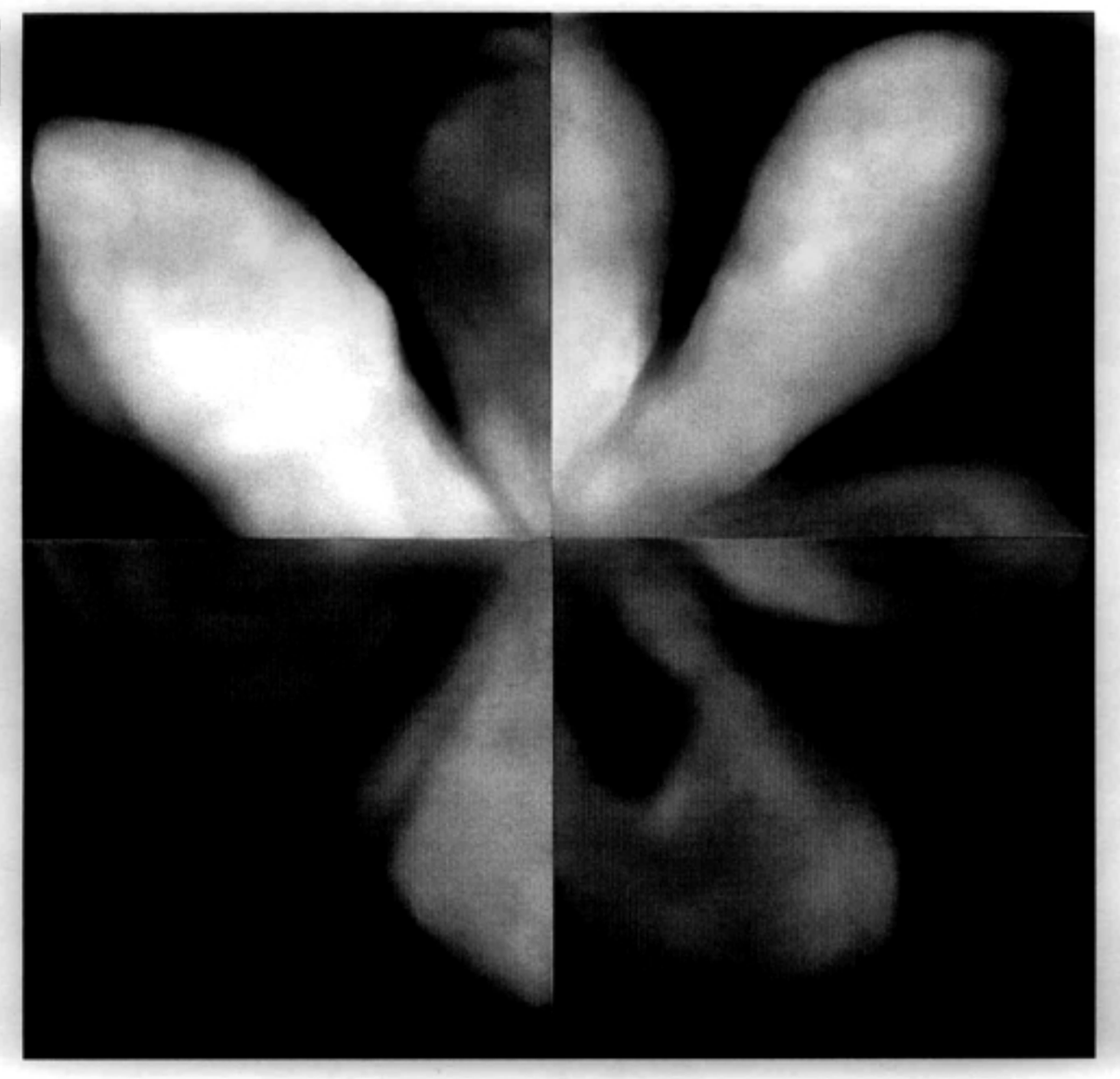
Aug 2002


## ● 会報を発行するにあたって ●

KYOTO版画展も今年で3年目を迎えることになりました。
これまで、参加作家が互いに意見を交換し合う場として、年に数回会議の場が設けられてきましたが、遠方に在住の作家が多いため、なかなか全体的に意見を交換し合う事はできませんでした。また、展覧会の開催において、出品作家の作品を知ることはできますが、それぞれの個人的な作家活動までをも知る機会は今まで設けることができませんでした。
そこで、前回発送いたしました資料でもお知らせいたしましたように、今年度より年2回の会報を発行することになりました。
この会報では、出品作家個人の作家活動の情報や、KYOTO版画展についての意見や疑問点、また版画についての様々な情報などを広く募集し、掲載していきたいと考えております。
出品作家同士が、意見や情報の交換を通して互いに刺激し合い、より意識の高い展覧会を作っていくために、少しでも役立てばと考えております。
この会報は、皆様の参加なしには成り立ちません。どしどし情報をお寄せ下さい。

## Fukumori Yuta

福森　優太



「結晶－3」
180×180cm　油彩・帆布カンヴァス
2002年制作

## Contents


■会報を発行するにあたって

■作家紹介　福森優太さん

■中国展情報
中国展について ～張　珂～

■公募展案内

■掲示板
KYOTO版画200X
・京都版画展実行委員会会議
・作品研究会 ～佐久間嘉明　藤村嘉猛　山本桂右～
・KYOTO版画2003展関連企画 ～坂爪　厚生～

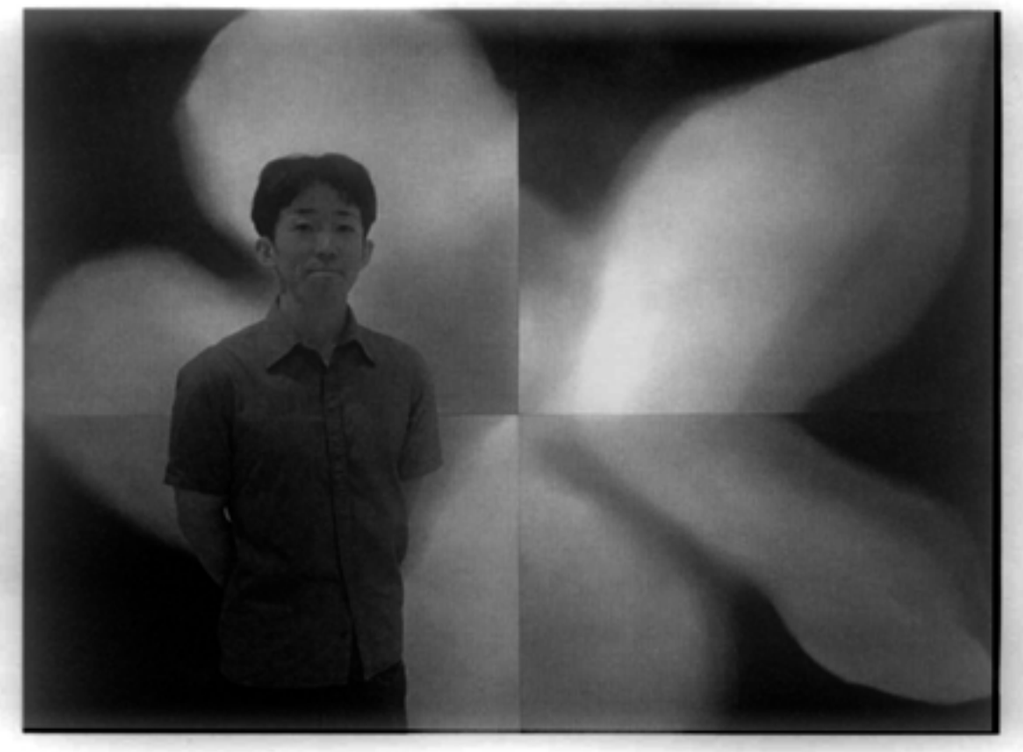
■次回告知

■編集後記

作家紹介

# Fukumori Yuta

## 福森　優太 さん



**編集スタッフが気になる作家を紹介していきます。今回は岡山県倉敷市在住の福森優太さんです。福森さんの作品から一見して感じられる静謐さと力強さは見る側にいつまでも印象的な感覚を残します。**
**スタッフが2002年5月9日～19日に倉敷市のGALLERY K（Tel 086-426-7171）にて開催された＜福森優太展＞会場で若手の作家がグループに所属する事についてどう考えるか、等についてお聞きしたところ後日回答をいただきました。**
**文中のインタビューはご本人によるものです。まさに自問自答！**

某日某所にて

**── 君は今までにも何度かグループ形式の展覧会に参加してるけど、今の時代にグループで展示する事の意味をどう考えてるの？**

「何らかの旗があってそこに集うのがグループ展だとすれば、それは単純に個人では成しにくい事、例えば自分が携わる表現領域に外的な閉息感や沈滞感があったとしてその壁をどうぶっ壊そうか、ていう時一般的に考えて個人レベルの攻撃力とはワケが違う。とても効果的な方法。現代でも通用する普遍的な発表形態だと思う。それに結局は個人活動にもキチンと良い形で還元されるハズだから、両方の形態を状況に応じて選択していくのがベストじゃないのかな。個人的にそう思ってるけど。」

**── 要はどんな旗かによるよね。そこでもう少し個人レベルの話しでも結構なんだけど、今までグループ形式の展覧会に実際に参加してみて何か感じた事は？**

「なにより自分にないものをたくさん持ってる、既にこの世界で何年も活動してきた先輩達と交流がもてた事は大きいね。まあ交流っていっても、ホント一方的に近いけど。貰ってばっかり。感謝してます。」

**── 具体的には？**

「例えば展覧会の運営とか。会議なんかに同席すると、とにかくノウハウをたくさん吸収できる。その反面自分の未熟さを痛感するし（苦笑）」

**── 君みたいに未熟な人間はどんどん外に出ていって鍛えるべきだね（笑）。では最後に、君自身の今後の展開について何かあれば一言。**

「アカデミックな表現以外だと、特に地方に行けば行く程世間との温度差があるように感じる。色んな面でやりにくい。その体質が変わればもっと自分自身活動しやすくなるし、現在の中央主権的な流れではない新しい形での文化発信が実現できるんじゃないかと‥アバウトな言い方だけど、その為の受け皿をつくれたら素晴らしい。だから今はそんな活動の場があれば参加したいし、少しでも力になれればと考えてる。独り効果的な形式を模索しつつ練りつつ‥ね。」

**── 言うは易し。くれぐれも有言実行でお願いします（笑）**

**（福森優太）**

### プロフィール

1977年　岡山県倉敷市生まれ・在住

2002年　倉敷芸術科学大学大学院修了（高橋秀・田中孝ゼミ）
現在同大学非常勤講師
今夏、広島県知事の助成を受け渡米・研修予定

### 主な活動

1999年　「池田満寿夫記念芸術賞展」佳作賞／東京国際フォーラム、他
「第24回全国大学版画展」買上賞（第25・26回も同賞）
／町田市立国際版画美術館
「第50回県展」県展賞／岡山県立美術館

2000年　個展「すろおが463」（岡山）
「第8回浜松市美術館版画大賞展」奨励賞／浜松市美術館
日配親善ステージ「HAICHI in 五服座」舞台美術
「KYOTO版画2000展」新人賞／京都市美術館別館
NHK主催全国高専「RoBoCon2000」審査員

2001年　個展「田島美術店AOYAMA」（東京）
「第6回昭和シェル石油現代美術賞展」／目黒区美術館、他
「あおもり版画トリエンナーレ2001」青森テレビ賞
／青森市民美術展示館
「KYOTO版画2001ー日本・中国国際版画展」
／京都市美術館別館、他

2002年　個展「ギャラリーK」（倉敷）
広島・岡山県美術大学合同卒業制作選抜展
「HOPES 2002」大賞／ふくやま美術館（広島）



PANN
Printmaker's Association
of Nishi Nippon

# 中国展情報

**本年は日中国交正常化30周年にあたりますが、版画京都展実行委員会では日中国際版画展の巡回展を西安と南京で開催します。中国展担当の運営委員、張　珂さんに現在の状況について聞きました。**

西安美術学院において2002年9月12日～17日の5日間開催される「日中当代版画作品展」「探索展」にむけて、昨年京都で開催した日中国際版画展に出品された中国側の90人90点の作品と共に、日本側の65名、90点の作品を6月20日に西安に送りました。9月には日本側の作家が西安を訪れる予定です。西安美術学院版画学科からの要請により版画教育、技法研究の一環として行われるシンポジウムにおいて日本人作家の講演会及び実演を行います。黒崎彰氏の講演に加え、坂爪厚生氏のメゾチント・斉藤修氏の木口木版・平木美鶴氏の水性木版の実演を企画しました。
この見学訪問、講演会・実演の他に中国側では図録「日中当代国際版画名家作品集」（陝西美術出版社）の刊行が計画されています。

今回訪れる西安は、紀元前11世紀から唐代まで11王朝の都が置かれていた6000年の歴史を持つ、中国最古の都市のひとつです。漢代から「長安」と呼ばれ、最盛期の唐の時代には、シルクロードの東の起点として繁栄しました。民間美術が盛んで、人形や年画制作、切り絵や製紙などが古くから伝わっています。

また、2002年12月21日～27日には本展が南京に巡回開催され、北京・南京の訪問ツアーも行われます。北京ではスケールの大きな歴史遺産の数々を訪れます。荘厳な大舞台「故宮」、明の十三陵、ケタ違いに壮大な万里の長城をはじめ中国水印木版画の伝統技法を継承する工房「栄宝斉」も訪ねます。

南京では14世紀の明代から木版画が繁栄し、17世紀に胡正言の十竹斉工房による多色木版の技法は、版画の歴史に大きく貢献しました。ツアーでは圧倒的な「中山陵」「旧城壁」「博物館」なども見学します。
以上、版画にゆかりのある西安と南京における日中版画国際展の開催は日中両国にとって大変意義の深いことだと思います。

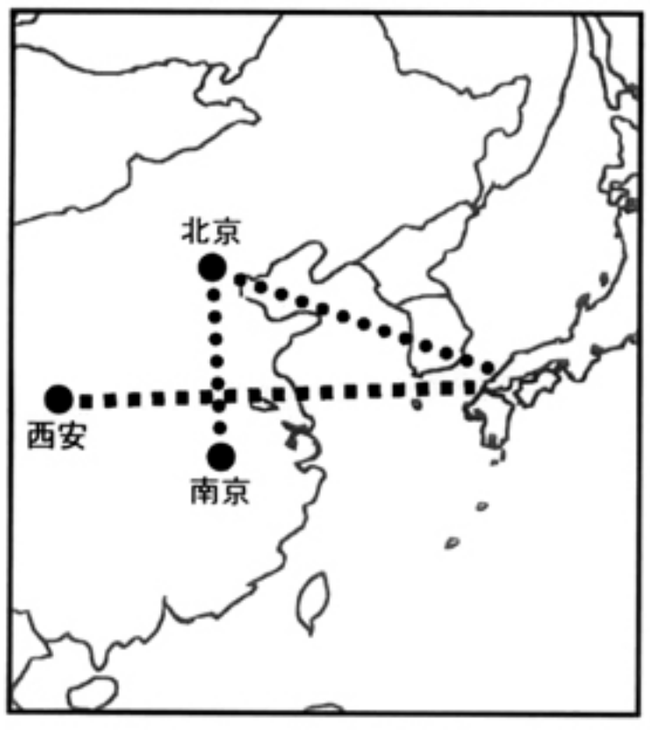
それから私は去年の「KYOTO版画2001-日中版画国際展」について、中国の版画芸術雑誌と美術報新聞に中国の作品と作家、日本の作品と作家を紹介する記事を書きました。日本で中国の作品の主な特徴である現実社会を表す社会リアリズムが注目されたことや日本現代版画の発展の流れ等についてです。日本側作家の作品写真も若干掲載されました。（張　珂）

## ●中国訪問ツアー

現時点での西安訪問ツアー参加者は出品者とその関係者を含め21名となっています。

**●スケジュール**
**西安7日間**
**（2002年9月10日～16日）**
**北京、南京7日間**
**（2002年12月21日～27日）**

**お問い合わせは**
**版画京都展実行委員会**
**中国ツアー係**
**張　珂、山本　桂右まで。**




# 公募展案内

**（詳細を知りたい方は、応募要項をお取り寄せ下さい。）**

## 山本鼎版画大賞展

**＜作品規定＞**
・平成13年以降に制作した作品で、受賞作品を除く　・一人2点まで
・額の大きさが110×100cm以内
**＜出品料＞**　・1点につき3000円
**＜審査員＞**　・北岡文雄　瀬木慎一　黒崎彰　野田哲也　遠藤　彰子
**＜賞＞**
・大賞1点　100万円（買い上げ）と賞状
・準大賞2点　30万円（買い上げ）と賞状
・奨励賞1点　10万円と賞状
・佳作　5点　5万円と賞状
**＜応募期間＞**　・平成14年7月1日～8月31日まで
**＜搬入期間＞**　・平成14年9月20日～9月22日
**＜お問い合わせ先＞**
〒386－0026　長野県上田市二の丸3－4上田市山本鼎記念館内
「山本鼎版画大賞展」係　tel・fax 0268－22－2693
URL http://museum.umic.ueda.nagano.jp/kanae/

## THE 12TH SPACE INTERNATIONAL PRINT BIENNIAL,SEOUL

**＜展覧会期日＞**
・2002年11月5日～11月24日
**＜作品規定＞**
・2000年以降に制作された作品　・紙サイズが110×80cm以内
・1人2点まで
**＜応募・出品締めきり＞**　・2002年9月10日
**＜お問い合わせ＞**
THE 12TH SPACE INTERNATIONAL PRINT BIENNIAL,SEOUL219
Wonseo-dong,Jongno-gu,Seoul,110-280Korea
+82-2-747-2892 FAX +82-2-747-2894
e-mail: master@spaceprintbiennial.org
http://www.spaceprintbiennial.org（※応募要項をダウンロードできます。）

## 第3回大野城まどかぴあ版画ビエンナーレ展

**＜展覧会期日＞**　・平成14年10月6日～10月31日
**＜作品規定＞**
・公募展未発表作に限る　・サイズは6号～30号以内
・1人3点まで（出品料1点につき2000円）
**＜賞＞**
・池田満寿夫賞　30万円　・大野城市長賞　15万円
・大野城まどかぴあ賞　5万円　・審査員特別賞　3万円
**＜審査員＞**　・山本容子　佐藤陽子
**＜作品搬入＞**　・平成14年9月15日～16日
**＜お問い合わせ先＞**
第3回大野城まどかぴあ版画ビエンナーレ展係
〒816－0934　福岡県大野城市曙町2丁目3番1号　tel 092－586－4000

## 第9回浜松市美術館版画大賞展

**＜展覧会期日＞**　・平成15年1月19日～2月16日
**＜作品規定＞**
・2年以内に制作した個人作品　・1人2点以内
・サイズは額装の状態で180×180cm以内
**＜出品料＞**　・2点まで3000円
**＜審査員＞**　・井田照一　柳澤紀子
**＜賞＞**
・大賞　30万円（1点）
・SBS静岡放送賞　20万円（1点）
・静岡新聞社賞　20万円（1点）
・奨励賞　5万円（4点）
**＜搬入期限＞**
・委託搬入　平成14年11月1日～11月18日必着
・直接搬入　平成14年11月23日、24日
**＜お問い合わせ＞**
〒430－0947浜松市松城町100－1浜松市美術館事務局
tel 053－454－6801　fax 053－454－6829

PANN
Printmaker's Association
of Nishi Nippon

# 掲示板

会報にお寄せいただいた京都版画展の出品者の展覧会、活動情報です。詳細は会場等へお問い合わせください。

**●大下　百華　Ohshita Yuka●**
**＜個展＞**
会期:2002年10月18日(金)～29日(火)
場所:楓画廊(新潟市西堀通鶴5番町829-3　　tel　025-228-7781)
1年ぶりの個展となります。表現の幅がすこしでも拡がればと思考錯誤の日々が続いています。彫ること、描くことを通して多くのHEARTと繋がることができたらと思っています。
木版とミクストメデイアを展示する予定です。(大下　百華)
**＜木による版と彫刻　2人展　大下正之･大下百華＞**
会期:　2002年12月3日(火)～15日(日)
場所:　平安画廊(京都市中京区寺町通三条上ル西側　tel　075-231-0694)
「木から生まれる生命力」というテーマに基づいて、大下百華による木版画、大下正之による彫刻を展示します。(大下　百華)
**＜きつつき展＞**
会期:　2002年12月17日(火)～29日(日)
場所:　平安画廊(京都市中京区寺町通三条上ル西側　tel　075-231-0694)

**●川端　千絵　Kawabata Chie●**
**＜個展＞**
会期:　2002年11月19日(火)～24日(日)
場所:　ギャラリーアーティスロング(京都市中京区三条通堀川西入る一筋目角
tel　075-841-0561)
油性木版と水性木版の混合技法による新作展です。是非ご高覧下さい。(川端　千絵)
**＜京都府美術工芸新鋭選抜展＞**
会期:　2003年2月1日(土)～16日(日)月曜閉館
場所:　京都府京都文化博物館　4階特別展示室(京都市中京区高倉通三条上がる
tel　075-222-0888)

**●角間　貴生　Kakuma Takao●**
**＜角間貴生&田中玉実　二人展＞**
会期:　2003年1月27日(月)～2月1日(土)
場所:　養清堂画廊(東京都中央区銀座5-5-15 tel　03-3571-1312)
九州現代版画展のグループを母体にここ7年、韓国の現代版画家(主にソウル、プサン)との交流を続けています。今年(2002年)の6月18日から24日、プサンの石波美術館(東州大学付属美術館　韓国釜山広域市沙下区槐亭洞山15－1　tel051-200-3354)内で個展を開きました。『アート◎天文博物館』というタイトルのもと、縦30m横10mの展示スペースの壁面に木版画や銅版画などを貼ってSPACICなエネルギーを表現するインスタレーション展示です。折りも折り、日韓W杯の期間中なので、韓国パワーに負けない日本のヴァイタリティをアートの分野で示せれたら…と頑張りました。(角間貴生)

**●黒崎　彰　Kurosaki Akira●**
**＜個展＞**
会期:　2002年10月7日(月)～19日(土)
場所:　シロタ画廊(東京都中央区銀座7-10-8 tel　03-3572-7971)
**＜出版＞**黒崎　彰著『版画史解剖　＜正倉院からゴーギャンへ＞』／阿部出版
新刊9月発売予定　¥2,500

**●斉藤　修　Saitoh Osamu●**
平成14年度文化庁派遣芸術家在外研修員として、9月26日よりパリのアトリエ　コントラポアンに銅板一版多色摺りの研修のため80日間滞在予定。
9月発行予定の版画芸術秋号で木口木版画の特集があり、小生の作品も掲載されます。この企画に合わせて京都ではギャルリー宮脇(tel　075-231-2321)にて柄沢　斎氏と小生の作品、また東京の不忍画廊(tel　03-3271-3810)でも同様の企画で陳列される予定。　(斉藤　修)

**●坂爪　厚生　Sakazume Atsuo●**
**＜個展＞**
会期:　2002年8月17日(土)～25日(日)
場所:　画廊翠巒(すいらん)　(前橋市文京町1-47-1 tel　027-223-6311)
**＜個展＞**
会期:　2002年11月25日(月)～12月7日(土)
場所:　シロタ画廊(東京都中央区銀座7-10-8 tel　03-3572-7971)
34年6ヶ月の長かった教師生活も、この3月31日を持って無事?定年を迎えることが出来ました。と言っても、こんどは特別嘱託として、おなじ扇町総合高校に週3日化学の教師として勤務してます。少しは版画制作の時間が増えたかなと思いますが、結構いろいろ忙しくしています。今年は上記の2カ所で個展を予定しています。いうところの還暦、定年となんとなく一つの区切りの気持ちでこれまで制作したものから選んで新作といっしょに展示したいと思ってます。
また、9月の日中交流展での西安市訪問は楽しみです。現地でメゾチントのデモをすることになりましたが、上手く技法が伝えられればいいなと思っています。(坂爪厚生)

**●坂本　恭子　Sakamoto Kyoko●**
**＜個展＞**
会期:　2002年12月2日(月)～7日(土)
場所:　Oギャラリーeyes(大阪市北区西天満4－10－18　石之ビル3F tel　06-6316-7703)
**＜比良美術館　夏期展　「心像的思考が語る現代世界」展＞**
会期:　2002年7月31日(水)～8月31日(土)火曜閉館
場所:　比良美術館　(滋賀県高島郡高島町鹿ヶ瀬岩倉75-1　tel　0740-37-0777)
**＜あおもり版画大賞･あおもり版画トリエンナーレ2001受賞者展＞**
会期:　2002年9月4日(水)～9日(月)
場所:　青森市民美術展示館　3･4階　(青森市新町2丁目7-1　tel　017-773-1770)
**＜現代版画NAGOYA「版の思考･版の手法2002展」＞**
会期:　2002年12月3日(火)～8日(日)
場所:　愛知県美術館ギャラリー　8階G1･2展示室(名古屋市東区東桜1-13-2
tel　052-971-5511)

**●張　珂　Zhangke●**
**＜個展＞**
会期:　2002年9月3日(火)～13日(金)
場所:　galerie DECO　ギャルリーデコ(名古屋市熱田区新尾頭3-1-17林ビル4F
tel 052-681-8856)

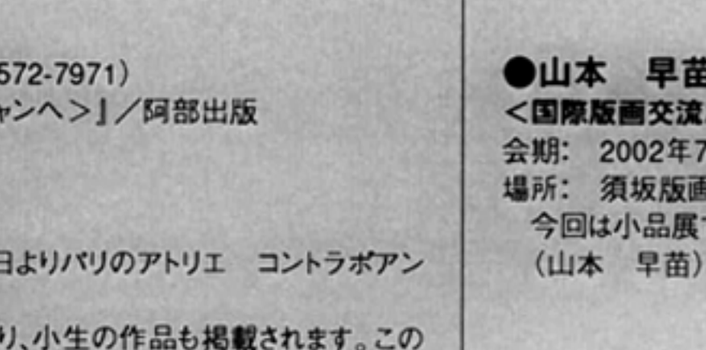
**●夏目　陽子　Natsume Yoko●**
**＜夏目　陽子展　WORK1985～2002＞**
会期:　2002年8月20日(火)～9月21日(土)日･月･祝休日休館
場所:　尼信会館(尼崎市東桜木町3番地　tel 06-6413-1121)

**●山本　早苗　Yamamoto Sanae●**
**＜国際版画交流展　-ロシア･バルト三国･日本-＞**
会期:　2002年7月30日(火)～9月1日(日)月曜休館
場所:　須坂版画美術館　(長野県須坂市大字野辺1386-8　tel 026-248-6633)
今回は小品展で　PRINT　MEETINGなどのイヴェントがメインの交流展となります。
(山本　早苗)

# KYOTO版画200X

## ● 京都版画展実行委員会会議 ●

京都版画展を運営するにあたって実行委員会では京都展開催年には年間約4回の会議を開いています。今年の上半期には中国での巡回展準備のため会議と総会の計2回がありました。この会議は、実行委員(実行委員=出品者です)に関西の作家が多いためどうしても京都の会場を使うことになってしまいますが、毎回長崎や四国･中国地域、愛知、石川など遠方からの参加があり驚いています。そして4時間に及ぶ真剣な会議(お茶と、なぜかいつもおかき付き)のあとには真の交流、飲み会が待っています･･･たぶん。ぜひ一度会議にご参加ください。



## ● 作品研究会 ●

8月に予定されていた作品研究会は、今年度は京都版画展が開催されないため変更となりました。2003年1月頃を予定しています。詳細は決定しだいお知らせします。運営に興味のある方はぜひ!ご参加ください。

作品研究会係　　佐久間嘉明　藤村嘉猛　山本桂右

## ● KYOTO版画2003展関連企画 ●

京都版画2003年展関連企画として2003年2月に京都のギャラリー三条(tel 075-221-3341)で一週間展覧会をさせていただくことになりました。展示係としては、ギャラリーのスペースとの関係やKYOTO版画2001展での小品展示が好評だったことからミニチュア展を検討しています。今後画廊の小森さんと展示の仕方など具体的なことを決めたいと思ってます。いい考えを係りまでお寄せ下さい。　　展示係　　坂爪　厚生

## 次回告知

第2号の会報の発行に向けて、次の情報を募集します。
･2003年3月～7月の展覧会情報　･国内、外の公募展情報
･その他版画に関することならなんでも。
(例:プレス機買います、売ります／～について購入先を教えて下さい／この技法を知りたい／～地域でアトリエを探しています／搬入出アシスタント募集!などなど。)

会報担当:川端　千絵(尚、メールのみ坂本宛になっております。)

## 編集後記

梅雨明け宣言とともに、これでもか!といわんばかりの暑い夏の日が到来したまさにその頃、大阪のとある一室にて、会報の編集作業が行われました。ちょうどその日は、そこからほんの数キロのところで大掛かりな野外ライブが開催されており、音楽ファンでもある会報有志スタッフは、そちらに心を奪われながらもぐっとこらえて編集作業にあたりました。
記念すべき第一号ということですが、全くの手探り状態で作りました。まだまだ不備な点や改良点がたくさんあることと思います。何かお気付きの点やご意見など、どんどんお寄せ下さい。また、この会報はあくまで有志によって運営されております。どなたでも参加できます。我こそは!と思われる方は、いつでもご一報下さい。

MONTAGE

# PANN News Letter

Printmaker's Association of Nishi Nippon

Vol.02

May 2003


## ● 会報第2号の発行によせて ●

今年はご承知の通り、京都での展覧会の開催年となっております。

一昨年の中国との交流展に引き続き、今年はブルガリアの版画作家の方達との交流展を開催する運びとなりました。

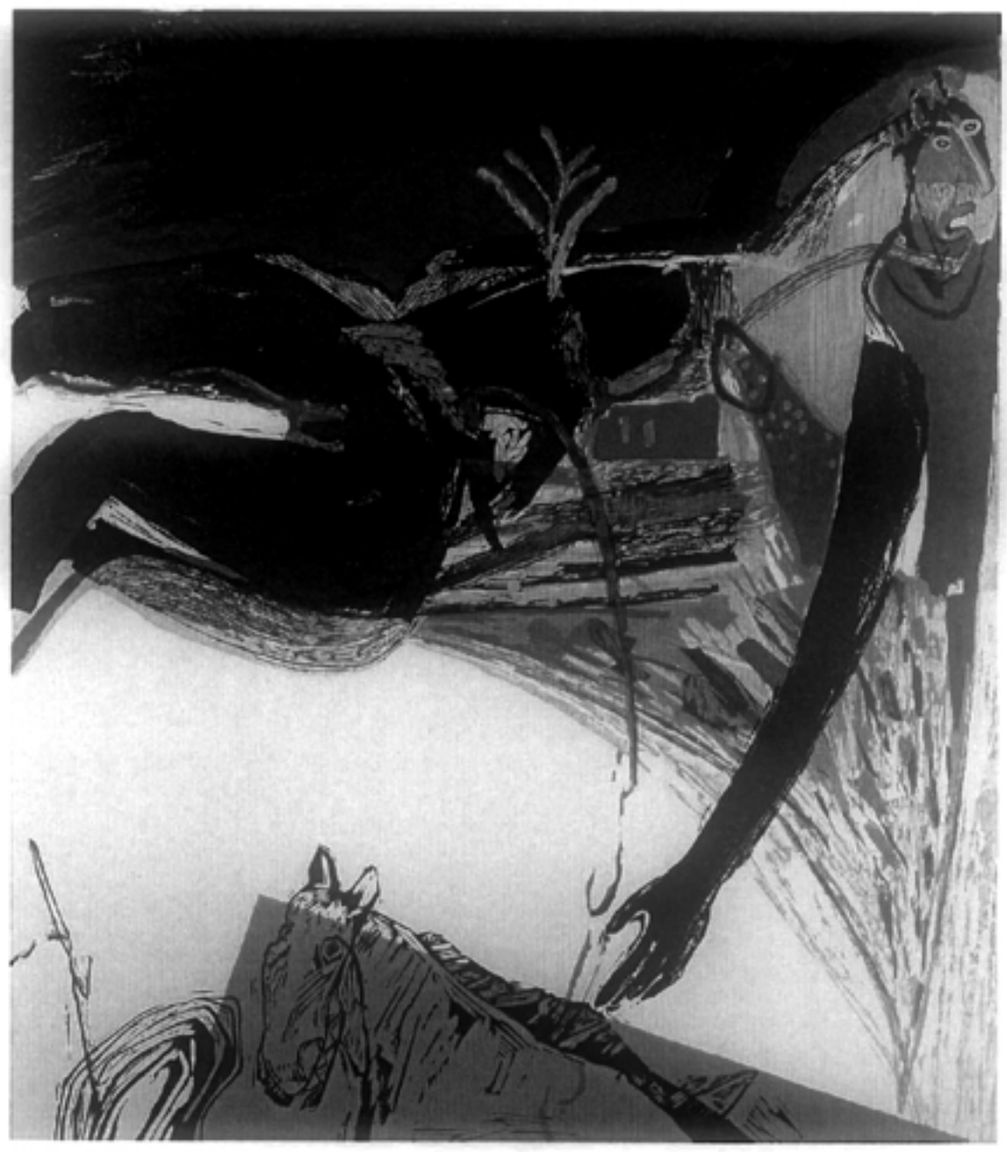
前回とはまた趣きの違った展覧会となることでしょう。

この会報は、会の活動そのものを主体に取り上げるのではなく、会の活動だけでは見え難い、出品作家の個別の活動を取り上げ、

広く知らせる事を目的としておりますので、京都展の細かい情報等は掲載いたしませんが、関連する内容もありますので、是非お読み下さい。

## Ohshita Yuka

**大下　百華**



目には見えないもの

たとえば、希望や光、生命

そんなもの達に意識を運びながら

わたしは線をひき　色を選び木を彫る‥‥。

そこから生まれる多くのイメージは

生命の仮の姿（人や動物）や

自然の中から流れてくるメッセージだったりする

今日も生かされている生命の詩を歌いたい。

「To the immanent sky（内在の空へ）」
100×90cm　多色木版
2003年制作

## Contents


■会報第2号の発行によせて

■作家紹介　大下百華さん

■ブルガリアの「白雪姫」　～黒崎　彰～

■文化庁特別派遣芸術家在外研修員報告①
～齋藤　修～

■中国ツアーレポート　～酒井　宣彦～

■掲示板

KYOTO版画200X

・作品研究会を終えて　～藤村　嘉猛～

■次回告知

■編集後記

作家紹介

# Ohshita Yuka

## 大下　百華 さん



「作家活動とは何かを考える」をテーマに編集スタッフがお話を伺います。今回は大下百華さんです。
大下さんは各地で数多くの個展やグループ展での発表を続けています。
生命力溢れるイメージは刻々と変化を遂げ近年はタブローや立体的な作品まで幅広く発表されています。
大阪での個展前で忙しくされている時期でしたが質問にお答えいただきました。

**Q1. ご自身の作品について（テーマ、コンセプト等）**
**Q2. 作品を作る上で、1番大事にされている所はどんな所ですか？**
**Q3. グループ（団体）に所属して作品を発表する事について、どう思いますか？**
**Q4. 全国各地で展覧会を数多く催されておられますが、色々な場所で作品を発表される中で、何か感じられる事はありますか？**
**Q5. 今後の作家活動について何か一言**

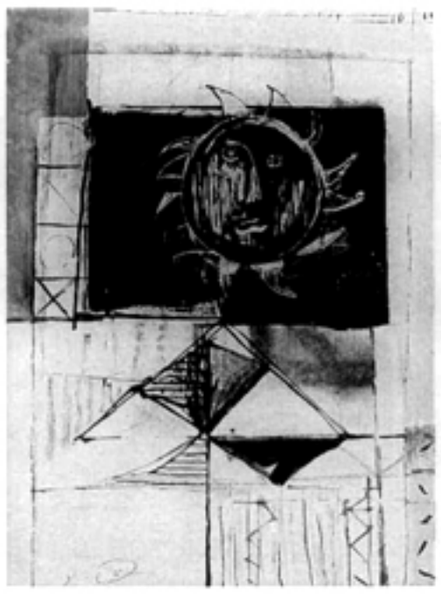
**A1.** 作品を発表してから今年で6年目になります。この間、いつも大切にしていたことは常に自分自身の心と対話し、イメージの扉が開かれるまで、とにかく描くこと手で考えることをしてきました。私にとって描き彫ることは、感覚とフォルムを結びつけることであって、感覚的な解釈をすることなのです。そしてそこから生まれてくる生命の躍動感をとても大切にしてきました。

**A2.** 表現することとは、ただ感覚的な解釈ということだけなのか?自己充足的なリアリティーにおさまるものなのか?とよく自問自答します。私にとって描き彫ることはある意味、自身の内に深く入りこむことと同時に世界を解釈することだと思います。さまざまに表現される形や色に意味を見い出すというよりは、それはすべて比喩にすぎないのであって内的、外的世界の本質を捉える作業だと思います。

**A3.** あまり深く考えずに団体展に出品してきましたが、今考えるとたくさん助けられてたきた面があると思っています。また、ありきたりですが、ひとりで活動していたなら、なかなかいろいろな作家の方々と交流する機会もてなかったと思います。ただ現代の美術表現において、団体展の役割が従来のままだと確かに新しい表現をしてゆきたい作家にとっては意味のないことのように思われるという点もこれからの大きな問題だろうと感じます。わたしも今後どのように関わりをもたせてゆくべきか?考えてゆきたいと思います。

**A4.** 発表するごとに多くの人々に感謝する気持ちと反省する面がドンドンふくれあがり、押しつぶされてゆくようような気持ちになるのですが、それを乗り越えるバイタリティーと追求心を持たないといけないなと感じます。

**A5.** 版画についてより学んでゆくことと、またその版画という概念にとどまることなく表現することについて自己をもっと掘りさげつつ、新しいチャレンジをしてゆきたい！ とにかく前進のみ、やってゆくしかないと思っています。



「and every time the sun come ･･･
（そして太陽が昇るたびに･･･）」
ミクストメディア（版木、木炭紙、インク）
2000年制作



「Sing with a forest
（森とうたう）」
90×60cm　木版・彫り進み法
2002年制作

### プロフィール

1971年　東京都生まれ（石川県出身）
1997年　創形美術学校ファインアート科版画専攻卒業
1998年　創形美術学校研究科版画課程終了
2003年　文化庁芸術インターンシップ国内研修員

### 主な活動

**●グループ展●**

1997年　創形美術学校「創形賞」
　　第22回全国大学版画展（町田国際版画美術館）「買上賞」
1998年　創形美術学校「高澤賞」
　　第66回日本版画協会展（上野東京都美術館）「山口源新人賞」
　　あおもり版画大賞（青森市民美術展示館）「準大賞」
　　第5回鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞展
1999年　第1回飛騨高山現代木版画ビエンナーレ「優秀賞」
　　第67回日本版画協会展（上野東京都美術館）「日本版画協会賞」
　　山本鼎版画大賞展
　　現代版画NAGOYA'99　版表現拡がる表象
　　第33回現代美術選抜展（文化庁）
2000年　第5回日本.ハンガリー現代版画展（長野）
　　KYOTO 版画 2000（京都市立美術館　別館）
2001年　第7回鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞展
　　現代日本の版画 - 平安画廊コレクション展（メキシコ）
　　現代日本-ハンガリー版画展...10年の軌跡（ハンガリー）
　　日本ブルガリア現代版画展（ブルガリア）
　　ジュオール国際ビエンナーレ（ハンガリー）
　　KYOTO 版画 2001（京都市立美術館　別館）
2002年　KYOTO版画　2002　中国日本国際版画展（南京、北京）
　　山本鼎版画大賞展
　　二人展 ― 木による表現. 木彫と木版画（京都　平安画廊）
2003年　第71回日本版画協会展　「準会員賞」

**●個展●**

1998年　コートギャラリ-国立（東京）　青樺画廊（東京）
1999年　平安画廊（京都）　ギャラリーA.C.S（名古屋）　現代画廊（長崎）
　　ギャラリー52（東京）
2000年　シロタ画廊（東京）　ギャラリーA.C.S（名古屋）　平安画廊（京都）
　　楓画廊（新潟）
2001年　画廊梵（岐阜）　ギャラリーベルンアート（大阪）
　　ギャラリーA.C.S（名古屋）　ART GALLERY TAPIES（神戸）
　　グリーンアートギャラリー（金沢）
2002年　楓画廊（新潟）
2003年　ギャラリーベルンアート（大阪）
　　ギャラリーA.C.S（名古屋）

PANN
Printmaker's Association
of Nishi Nippon

# ブルガリアの「白雪姫」

黒崎　彰




アメリカ式のスーパーマーケットやコンビニの普及によって、急速に変貌する日本の食事はますます平均化への道をたどり、時にはうんざりさせられる。そのせいか、海外を訪ねる機会がある時々に私が最もうれしいのは、その国々の独特な食に出会えることである。

ブルガリアは決して豊かな国ではないが、農業立国でもあるためだろうか、食事はリッチな味とバラエテイに富んだ献立で楽しい。黒海からとれる豊富な魚をはじめ、ビーフ、ポーク、マトン、チキン、兎などの肉類に加え、野菜はほとんどがそろっていて、用いる香辛料の幅も極めて広い。またそれぞれの食材が日本とはちょっと違った深い味覚を持っている。

例えば、毎食に登場するポピュラーな「ケバブチ」は、ポークミンチを練ったシシカバ風グリルであるが、いかにも簡素な作り方なので私もレシピを持って帰国し、トライしてみたが同じ味にはどうしてもならなかった。つまるところミートそのものが違うとしか考えられず、日本のポークはチキンのようで、チキンはターキーのように味が数段薄いのではないかと思われた。

だれもが知るブルガリアといえばヨーグルト。これは日本が作り上げた幻影では決してなく、本場の本格的な食材そのものといえる。ヨーグルト料理のふところの深さは別として、日本の漬け物のようにいつも食卓に並べられる「スネジャンカ」、訳せば「白雪姫」という可憐で可愛い名前を持つヨーグルトサラダは、その姿も味もまことに抜群である。

簡単なのでここにスネジャンカの作り方を紹介しておきたい。まず深さがあるザルにサラシ木綿をあてがい、1パックのヨーグルトをそこにあけて一晩放置する。翌日余分な水分を除いたペースト状のヨーグルトに、小さく切った3本ばかりのキュウリを放り込む。次に大粒に挽いたクルミ、細かく砕いたニンニク、地中海の香辛料バジル等を適量ふりかけ、好みによってオリーブオイルと塩の量を調整しながら、全体を混ぜあわせればでき上がりである。真っ白なヨーグルトに爽やかなキュウリがのぞく、さっぱりとした夏向きのサラダといえよう。

さて、ブルガリアに滞在して嬉しいのは、とにかくどこでもタバコが吸え、酒が飲めることである。アメリカ流の理屈っぽい健康法やピューリタニズムはここでは通用しない。人々はどっかと通りのカフェテラスに座ってたらふくビールを飲み、やたらタバコをふかして「ケバブチ」と「スネジャンカ」を口にする。

昔から変わらない日々の風習でもあろうが、酒、タバコが決められた場所でしか許されないアメリカと比べ、どちらが幸福な食生活で、どちらが健康な食文化なのであろうか。私は管理され、ごたくを並べられる「食」だけは、何ともご容赦願いたいと思っている。

# 文化庁特別派遣芸術家在外研修員報告①

齋藤　修

平成14年度の特別在外研修員としてパリの銅版一版多色刷りの工房（コントラポアン）での研修の体験を書けとのことなので二回にわたって書かしていただきます。

まず在外研修員制度の概略について。この制度は、昭和42年度より実施され現時点での派遣数(美術)は、350日（18－50歳未満）が23名、700日（18－35歳未満）が3名、1050日(18－32歳未満)1名、私が行きました特別派遣の80日（18歳以上）10名の4種類と国内研修の芸術インターシップがあります。

応募の資格は、原則として日本国籍を有する者もしくは日本の永住権を有する者であること、年齢は（　）内の条件を満たし①現に専門とする分野で芸術活動の実績があること。②外国での研修に堪え得る語学力を有すること。③渡航先の研修施設の受け入れ保証があること。④心身ともに健全であること。以上の条件を満たせば応募できます。

私の場合は、日本版画協会の推薦を受け日本美術家連盟推薦により文化庁に上げていただきました。他に芸術家在外研修員推薦団体一覧表が募集案内にありますので参照してください。

私が行きましたアトリエコントラポアンは、ウイリアム、ヘイターが主宰していました銅版画の1版多色刷りの工房アトリエ17を彼の死後、遺族から施設のすべてを譲りうけた2人のディレクター（エクトール、ホアン）によってヘイターメソッドを継承しているアトリエです。所在地は、10, rue Didot.75014 PARIS FRANCE.モンパルナスから歩いて10分ぐらいの場所にあり下町のにおいのする所です。アトリエの近くに銅版画の刷り師の工房が1軒あり、私は、朝アトリエに入る前に彼の仕事ぶりを窓越しに見せてもらうのがたのしみの1つでした。

**次回はアトリエでの仕事について。　　つづく**

# 中国
## ツアーレポート

**2002年9月10日から16日に西安、12月21日から27日に北京・南京の日程で企画されたKYOTO版画2002・日本 中国 国際版画展訪問ツアーに参加した酒井さんのレポートです。インターネットのYAHOO Briefcaseのページ中に、ツアー中の写真が公開されています。酒井さんによるキャプション付きです。ぜひご覧下さい。**
**（http://briefcase.yahoo.co.jp/liq_ya）**

昨年に実施された2度の中国訪問旅行に参加してきました。中国の様々な文化にふれ、名所旧跡を尋ねる事ができ、さらに美味しい料理も食べられるという、実に有意義な体験でした。

旅の途中で体調を崩して寝込んでしまい、西安でのオープニングに参加できなかったのは残念でしたが、まあそれも貴重な体験のひとつということで。

これらの事を自分なりに消化して、今後の作品に活かすことができればと思っています。

（酒井　宣彦）


天壇で凧上げ


メリー。


刷り


彫り



本を
いただきました



いざ。


さあ食べるぞぉ!



先生、がんばって!

PANN
Printmaker's Association
of Nishi Nippon

# 掲示板

会報にお寄せいただいた京都版画展の出品者の展覧会、活動情報です。詳細は会場等へお問い合わせください。

**●大下　百華　Ohshita Yuka●**
**＜個展＞**
会期:　2003年7月12日(土)～7月27日(日)　月.火曜休廊
場所:　Gallery A.C.S(名古屋市昭和区花見通3-17)　tel.052-835-3780

**●片岡　れいこ　Kataoka Reiko●**
**＜出版物＞**
3月15日(メイツ出版)発行　『イタリアへ行きたい!』¥1500
著者:ユーメイル舎(イラスト/片岡れいこ　文/村上敏子、協力/山下智子)
京都在住のイラストレーター(版画家)、ライター、ツアーコンダクターの共同作業により生まれたイラストガイドブック。現地取材旅行で見つけた情報やツアコンならではの情報をふんだんに盛り込んだ、イタリア初心者からリピーターまでお楽しみいただける内容満載です。(片岡　れいこ)




**●角間　貴生　Kakuma Takao●**
ぼくらの東京・銀座、養清堂画廊の二人展(角間貴生&田中玉実展)はおかげさまで大成功でした。今後の予定をお知らせします。(角間　貴生)
**＜日韓版画交流展＞**
会期:　2003年5月13日(火)～5月18日(日)
場所:　福岡市美術館特別展示室B(福岡市中央区大濠公園1-6)　tel.092-714-6051
李教室の生徒さんの木版画(韓国)と角間貴生・教室の生徒さん(日本)の銅版画作品の競演、そして日韓の文化交流
**＜角間貴生版画展　『アート◎天文博物館』＞**
会期:　2003年6月1日(日)～6月30日(月)
場所:　久我記念美術館・1F全館(福岡県須恵町須恵77)　tel.092-932-4987
福岡市広報誌「鴻都」表紙に掲載中の作品を中心に、角間貴生の宇宙的なテーマの巨大木版画によるインスタレーション展示。そして緻密な銀河心象風景の銅版画作品を加えた版画空間『アート◎天文博物館』

**●川端　千絵　Kawabata Chie●**
**＜RELISH＞** 版と陶によるグループ展
会期:　2003年6月20日(金)～29日(日)
場所:　ギャラリー陶泉堂　(京都市左京区下鴨松の木町59)　tel. 075-701-6414
**＜個展＞**
会期:　2003年10月13日(月)～18日(土)
場所:　画廊　編(大阪市中央区千日前1－2－6)　tel. 06-6214-2595

**●黒崎　彰　Kurosaki Akira●**
**＜「木版画へのいざない　黒崎彰とその仲間たち」展＞**
会期:　2003年7月23日(水)～8月10日(日)
場所:　ポートピアホテルギャラリー
(神戸市中央区港島中町6丁目10番地1ポートピアホテル1F)　tel.078-303-7373
出品作家/黒崎彰・齋藤修・平木美鶴・張　珂・坂本恭子

**●坂本　恭子　Sakamoto Kyoko●**
**＜個展＞**
会期:　2003年10月7日(火)～19日(日)
場所:　平安画廊(京都市中京区寺町通三条上ル西側)　tel.075-231-0694
京都では9年ぶりの個展となります。会期中の前半は「京都版画2003」展と重なりますので、併せてご覧いただけましたら幸いです。また、7月の「木版画へのいざない　黒崎彰とその仲間たち」展、10月のガレリアキマイラ(東京都大田区久が原1-22-1　tel.03-3754-2200)でのグループ展への出品を予定しております。(坂本　恭子)

**●その他●**
**＜ドイツ現代木版画展＞**
会期:　2003年5月22日(木)～6月21日(水)
場所:　京都精華大学　ギャラリーフロール
(京都市左京区岩倉木野町137　京都精華大学)　tel.075-702-5230
XYLON(キシロン・国際木版画協会)に所属するドイツ作家による展覧会。計59名の作家による85点によって木版画の伝統と新しい可能性を提示します。
講演会:5月24日(土)pm1:00～3:00　マリー・ルイーズ・サルデン氏(作家)
対談:司会/小林昌夫氏(学芸員)・黒崎彰・マリー・ルイーズ・サルデン氏　参加無料

**＜京都府所蔵品展～近年の収蔵品から～＞**
会期:　2003年4月5日(土)～7月6日(日)　**※開催中**
場所:　京都文化博物館(京都市中京区三条高倉)　tel.075-222-0888

**●公募展情報●**
**＜INTERNATIONAL PRINT BIENNIAL IN BEIJING 2003＞**
会期:　2003年9月6日(土)～18日(木)
場所:　Yan-huang Arts Gallery (北京 /中国)
応募作品送付:　2003年6月1日(日)まで
※応募要項を希望される方は80円切手同封の上総務までお問い合わせください。
版画京都展実行委員会　総務　坂本 恭子
〒565-0081　大阪府豊中市新千里北町1-1 C26-109



# KYOTO版画200X
## 作品研究会を終えて

2003年1月19日、京都会館で第2回作品研究会が開催されました。13名の方が作品を持参し、実行委員会の後、諸先生方にご講評いただきました。

私自身は、日頃は自らの作品作りに悩みつつも、近くに意見をもらえる機会がないため、貴重なアドバイスをいただいて、大変ありがたい研究会でした。また、ほかの皆さんの作品も以前から目にはしていたものの、いろんな版種にわたり、制作者の意図や作品作りの思いを聞けて、大変参考になりました。やはり今回のような機会が作品制作には欠かせないものだと改めて感じました。

3月にはいよいよ版画協会展です。残りわずかの期間となりましたが、今回の研究会での先生方のご講評を胸に、制作に臨んでいます。

みなさんがんばりましょう。

研究会の準備に佐久間先生、山本先生お世話になりました。

(藤村　嘉猛)









## 次回告知

第3号の会報の発行に向けて、次の情報を募集します。
・2003年12月～2004年5月頃の展覧会情報・活動情報
・その他版画に関することならなんでも。(例:プレス機買います、売ります/～について購入先を教えて下さい/この技法を知りたい/などなど。)

会報担当:川端　千絵

## 編集後記

山の緑が日毎に濃くなり、まるでブロッコリーの様に見えます5月、会報2号の発行です。

今回は、中国ツアーレポートやブルガリア情報、斉藤先生のフランス滞在記など、国際色豊かな内容になったかと思います。それにしても北京は今、物凄い事になっている様ですが……。中国ツアー、何事もなく帰国できてよかったです。

次号の発行は、まだ未定ですが、半年後位を予定しています。皆さんからのご寄稿や、展覧会情報などを広く募集しております。どしどしお寄せ下さい。

MONTAGE

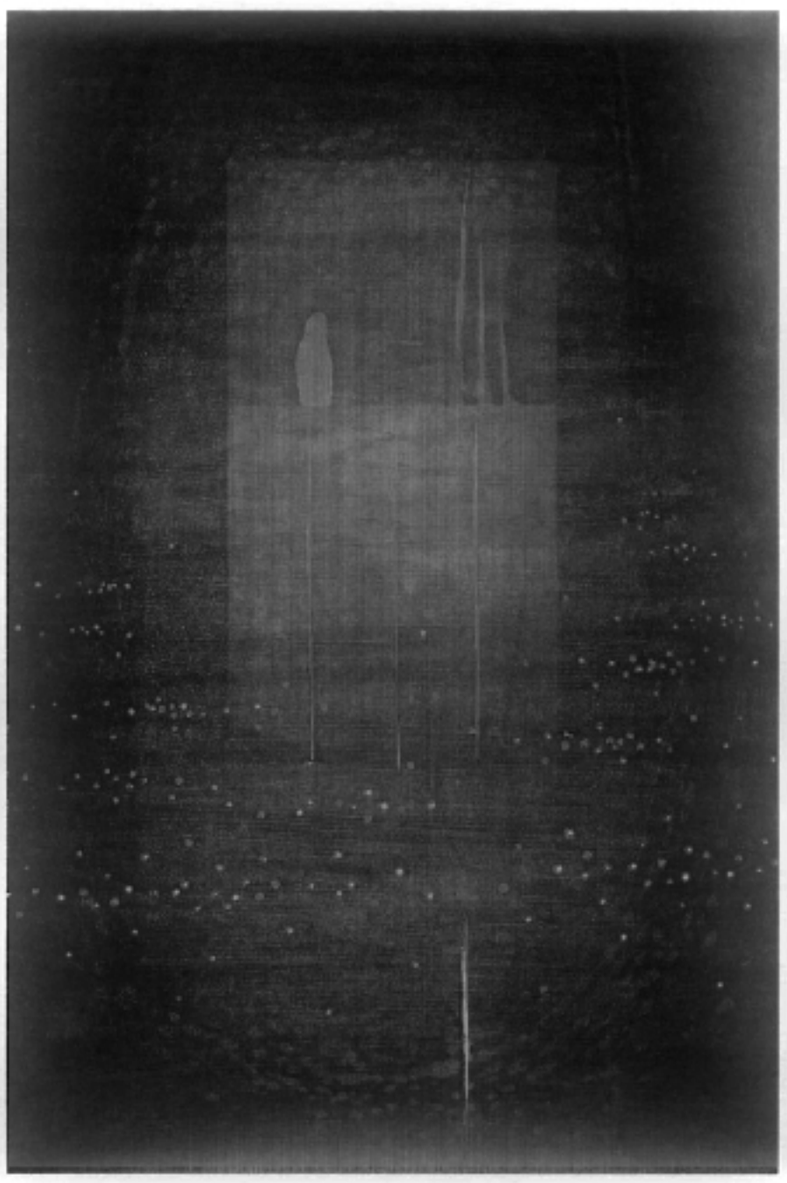
PANN News Letter
Printmaker's Association of Nishi Nippon
Vol.03
Apr 2004

## ● 会報第3号の発行によせて ●

ようやく厳しい寒さがやわらぎ、春の訪れを感じる季節となってまいりました。

今回の会報は、作品を作るという事を通して、様々な形で国際交流を行った作家の方々にその体験談を寄せて頂きました。
交流の形はそれぞれですが、とても興味深い内容となっています。是非じっくりと読んでください。

# Kondo Miyuki
近藤　幸



「浮華（ふか）に咲く」
90cm×60cm　木版
2004年制作

## Contents

■会報第3号の発行によせて

■作家紹介　近藤幸さん

■長沢アートパーク　アーティスト・イン・レジデンス
～汾陽　佐和子～

■文化庁特別派遣芸術家在外研修員報告②
～齋藤　修～

■「絵を描くのはなぜ」　～田中　玉美～

■男同士の夜語りもなかなか捨てがたいものですね…
～角間　貴生～

■掲示板

■編集後記

作家紹介

# Kondo Miyuki

## 近藤　幸 さん

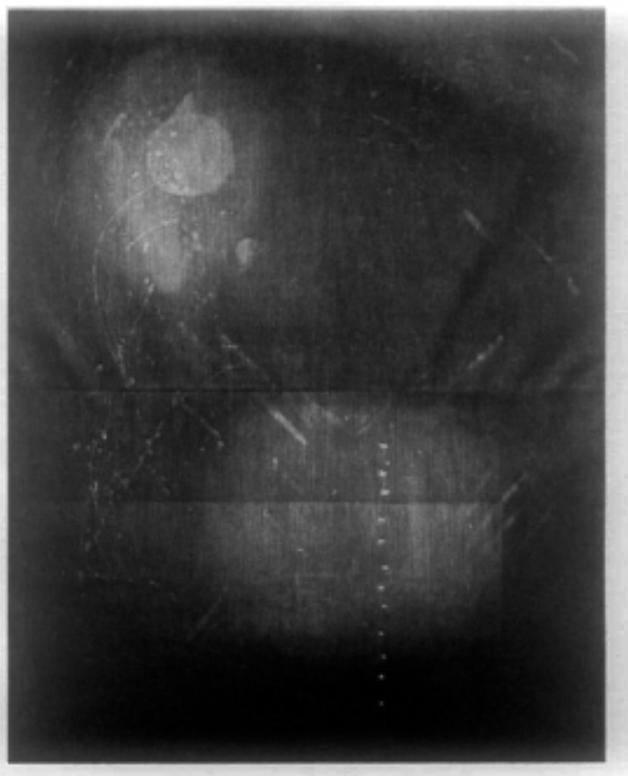
**「作家活動とは何かを考える」をテーマに編集スタッフがお話を伺います。今回は近藤幸さんです。近藤さんは昨今、様々な公募展や個展で作品発表され、注目を集めておられます。深い藍色の中に浮かび上がる幻想的な風景のイメージの原点を語って頂きました。**

**＜Q1＞ご自身の作品について**

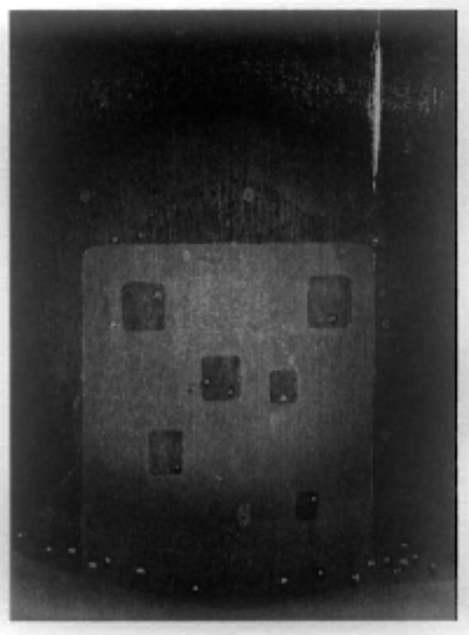
**＜Q2＞作品を作る上で、一番大事にされている所はどんな所ですか？**

**＜Q3＞グループ（団体）に所属して作品を発表する事について、どう思いますか？**

**＜Q4＞今後の作家活動について何か一言**



「雫　～Cross Over～」
120cm×90cm　木版
2001年制作



「夜ふかし」
30cm×22.5cm　木版
2003年制作

**＜A1＞**

―夜の風景―

「忙しい」と感じる日常から解放される瞬間、山に囲まれた狭い夜空に、手が届きそうな満天の星が輝いている。自分の力ではどうすることもできない現実に打ちひしがれた帰り道、おごりや虚しさを切り裂くように、低い三日月が細く突き出している。充実した一日を終えて背伸びをすれば、雲の隙間から月明かりが空を彩っている。

夜の闇に包まれるとき、月や星や街の小さな灯りたちによって、本当に大切なものだけが見えてくる。今、自分が生きているということ。どんな今日も意味があるということ。

人との関わりの中で生まれる様々な感情と場所が絡み合うことで、風景は特別なものとなる。

**＜A2＞**

風景との出会い。見なれている風景の中にも心に留るものがある。旅先でも、旅の途中でもそれに出会うことがある。その風景が自分の心の中の何に響いているのか考え、向き合っていくこと。そうして風景を通して見えてきた思いを昇華し、普遍化させていくことが大事だと思う。

**＜A3＞**

大きな会場での展示はとても勉強になっていると思う。他の作品と並ぶと自分の甘さや弱さがはっきり出てしまうので、緊張感を持って制作できる。また、公募展に出品し、たくさんの作家の方からご指導頂けたり、励まされることで努力し続けることができている。

地方で制作していると作家同士で話をする機会がないので、グループに所属することは刺激にもなるので、できる限り参加していきたい。

**＜A4＞**

昨年は、展覧会や個展などが絶え間なく続き、先のことを考えると不安になる日もありましたが、逆に追われる中で作り続けられたことが自信にもなりました。これからも「作り続けること」で自分の世界を追求していきたいと思います。

### プロフィール

1961年　徳島県生まれ
1984年　徳島大学教育学部美術教育課程卒業
2001年　鳴門教育大学大学院芸術系（美術）課程修了（版画研究室）

### 主な活動

1999年　徳島県美術展　絵画部門　奨励賞
2001年　第7回鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞展
個展　ギャラリー花杏豆（徳島）
第69回　日本版画協会展
第75回　国画会展
ふくみつ棟方記念版画大賞展
KYOTO版画2001
2002年　第8回鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞展
関西国展　「新人賞」
第70回　日本版画協会展
第76回　国画会展
第2回山本鼎版画大賞展
2003年　第71回　日本版画協会展　「奨励賞」
第77回　国画会展　「新人賞」
関西国展　「関西国画会賞」
個展　ギャラリーマロニエ（京都）
KYOTO版画2002　「美術文化振興協会賞」
個展　Wake Upギャラリー（徳島）
2004年　第10回鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞展

## 長沢アートパーク
# アーティスト・イン・レジデンス

汾陽　佐和子

淡路島にある津名町長沢は棚田のある美しい農村です。1997年から長沢アートパークを開所し、アーティスト・イン・レジデンス事業を開始しました。毎年世界のアーティスト達が集まり2ヶ月間、共同生活をしながら水性多色木版画の研修に励むものです。オープンスタジオや町民と交流する機会もあり、淡路の文化を体感し、地元の人との交流からイメージを作品に反映させていきます。私は黒崎先生に推薦して頂き参加しました。



スタジオでは朝9時から夕方5時まで月～土と仕事をしました。スコットランドとマレーシアから男性の作家2人と、ドイツ、カナダ、韓国から女性作家3人が参加しました。私は3人の女性とスタジオより町にある一建屋で共同生活をしました。30代がほとんどで私と同世代で夜遅くまで、絵画についてやお互いのプライベートな事に至るまで話しをしました。夕食を一緒に作りました。魚が苦手な人がいたので、週に2回町のスーパーに買い出しに行きましたがなんとなく遠慮してわかめや魚なしのメニューが続き少々つらかったです。今回はじめてイスラム教徒の方に会い、肉が食べられないそうで珍しかったです。断食もされていました。ドイツ出身のエバさんの誕生パーティーがあった時は一品ずつ作ったのですが、食のオリンピックのようで楽しかったです。今回参加した全員供、いい人達で、家族のようでした。滞在中の思い出はあまりにありすぎて書き切れません。スタジオの昼休みには皆と隣の全生徒11人という小学校で子供達とドッチボールをしていました。これがきっかけかもしれませんが、スコットランドの作家が淡路の小学校の先生と結婚した事も一番の思い出です。長沢の自然があまりにも美しくドラマチックにしたのかも・・・。又スタジオが閉まる前には朝9時から夜9時まで、エバさんと居残りしたのも懐かしいです。

それぞれにバックボーンの異なる国で作家活動をしている者が木版画に魅かれ、同時期に交流できた事は、まるで留学しているかのように密度の濃い時間でした。外国の作家のモチーフのとらえ方、色使いから刺激され、固くなりかけた頭をリフレッシュしてくれました。また木版画に対する情熱や、日本に対する関心の深さに驚かされました。日本の神社の飾りについてや家庭ののれんについて、宮司さんの身につけている帽子について質問をうけ困りましたが、日本の文化について考えさせられました。毎日英語のシャワーをあびて英語の修得にはありがたい日々でした。

木版画の基本を指導して頂き、微妙な紙の湿しなど大変勉強になりました。別世界のような時をすごした2ヶ月は強烈に印象に残っていて、気持ちが作品に現れています。これから作品を作る時はただ漫然と作るのではいけないと実感しました。短期間ではありますが、一緒にすごした海外の友を得て、これからも友情を続けていきたいし情報交換していきたいです。



# 文化庁特別派遣芸術家 在外研修員報告②

齋藤　修

アトリエ　コントラポアンは、一版多色刷り銅版画のテクニック創始者、W,ヘイターの開設した（アトリエ17）の方針を彼の生前の意思によりエクトールソニエ、ホアンの両名に後を託した唯一の一版多色刷り銅版の工房です。彼の死後、遺族が彼の生前の意思を尊重しアトリエの諸設備を両名に譲りアトリエの存続を許しました。但し新たなアトリエ名を付けることになり両名は、ヘイターの平面に於ける3次元の意識と対（音楽用語）の哲学意識を加味しアトリエ　コントラポアンと改名し現在に至っています。

研修先のアトリエはモンパルナスから歩いて15分、最寄の地下鉄の駅より5分から10分でつきます。公営アパートに付属したアトリエの三つの内の一つです。二つのアトリエは、市民サービス用の絵画、彫刻、工芸のアトリエです。近所には、美術史に名前のある作家が使用していたアトリエ等があり又銅版画の刷り師の工房があります。小生は毎月刷り師の工房を外から覗くのを楽しみにしながらアトリエに通いました。

アトリエでは、最初にヘイターの制作哲学のレクチャーを受けその哲学にのっとった体験制作をジンク版で制作を行いました。

まず版の上にソフトグランドをローラーで万遍無くのせます。この面上に三次元を意識しながらフリーハンドで何本か曲線（上下、前後左右を意識しながら）をひきます。その後、松脂樹脂をアルコールで溶かした液で版面を十文字に筆書きで四分割します。樹脂が乾いた後塩酸液に一時間浸し腐食します。腐食している間に銅版画の技法のひとつであるエングレービング技法の実習をこれもヘイターメソッドにのっとった制作を体験します。

一回目の腐食が終わり版面の樹脂、ソフトグランドを拭き取りインクキングして一度目の刷りを行います。

これがこれから続けてゆく版制作の基礎となるわけです。腐食を繰り返すごとにプリントを行い次の表現の参考にします。この後、版面にソフトグランドをひいてテクスチャー（布、レース、ネット等を使って）や不定形のパターンを腐食することを10～12回くらい繰り返し版面制作します。最終の仕事は、版面を2つの不定形を描きこれを黒ワニスで塗りつぶしディープエッチングします。この腐食は6-7時間腐食液に浸け置きました。これで版制作が終わりました。次にアシスタントに手伝ってもらって黒とオレンジ、黒とブルーの二種類のプリントをします。この後、ディレクターによる多色刷りを刷ってもらいます。これで体験制作が終わります。

一版多色刷りのインキングは、使用するインクの粘度の違いで行われます。最初に固めのインクを、腐食された処に詰め凸部のインクを拭き取り、次にのせるインクにリンシードオイルを混ぜてマヨネーズ状にしてローラーでのばしインキングします。この時インキングしたくない場所にはマスキングをしたり版面上の形を切り抜いた紙をずらして版面上に置いてローラーでインキングをします。使用するローラーの円周は版面を一度にインキングできるサイズのものを使用します。またハードとソフトのローラーを使い分けてインキングします。ローラーワークですのでローラー写しの技法もつかえます。

ディレクターの色インクの使い方は純色使用が基本でした。美しい色彩の重なりでカラーバリエーションを増やす方法です。3～4回のローラーワークでカラーワークを見せてくれました。

PANN
Printmaker's Association
of Nishi Nippon

# 絵を描くのは何故

田中　玉美

「この時期、世界一平和な街じゃないの」とばかり、ほぼ4年振りにパリを訪れたのは、3月末、シラク大統領が大反対するイラク戦争の真最中。思いがけず夏日のような陽光に溢れたこの美しい街で、その一件は起こった。

遊びにきたわけではない。パリ時代4年間通った版画のアトリエが、25周年記念展をするのに、出品を誘われたのだ。一ヶ月前に作品は送ったはずだった。が、パリに乗り込んだ展覧会オープニング前日、まだギャラリーに作品は届いていなかったのである。

何が、どこで、どうなったの？　郵便局で調べてもらうと、まだパリの空港で留まっていると言う。作品は商品と見なされ、関税がかかり、商品に見合った税金を払わなければ配達されないというのだ。

どこの国でも、お役所仕事は融通がきかない。特に外国人相手では…。自分の作品に格安の値段を付け、証明書をでっちあげ、明日から展覧会が始まるので、税金は払うから明日中に配達してくれ、と友人知人の手を借り、電話とファックスで何度もやりとりして、やっとの思いで手配を終えた。でも、なにせここはフランス、本当に明日届くのか、疑心暗鬼である。

すべての発端は、日本から送るとき、贈り物の所に×印を付けなかったのが間違いだった、と気づいたが、後の祭。まったく、パリに着いた当日に、こんな一大難事業が待ち受けているなんて…。

さて翌日、オープニングパーティは午後6時からである。パリの仲間たちの作品は、全て前日に飾り終えている。ハラハラ、ドキドキ、神様お願い!

と、昼頃、ギャラリーのオーナー・ミッシェルよりホテルに電話あり、「作品は無事着いたよ」。「よかったー!」

パリ9区、にぎやかにテーブルが外にはみ出したカフェやレストラン、路向こうには立派なアパルトマンが建ち並ぶ。なかなか素敵な地区にギャラリーはあった。

「まあ、こんな所に…」ガラス張りのギャラリーから、パーと私の作品が目に飛び込んできた。まるで広告塔のように…。本当にいい場所を私の作品のために確保しておいてくれたんだ、と感謝感激。

ドアを開けると、「タマミー!」と、フランソワーズの大きな声が響く。オフェリア、ディナ、ミレイユ、フランシス、…懐かしい面々とアンバラス（両頬にキス）。この4年、いつかこんな場面がきてほしい、と思い描いていたっけ。でもでも、エーイじれったい、浮き立つ気持ちを思うようにフランス語で伝えられない。

6時過ぎ、日本人の友人たちが次々と駆けつけてくれた。福岡県人会の仲間たち。ガイドの宮永さん、新聞社の山崎さん、…などなど、パリに長く住む人たちは、本当に自由闊達である。ワイン片手に、尽きないおしゃべりと笑い。永遠に青春である。版画をしていて本当によかった。

古い出会いと、新しい出会い。人と出会い、自分と出会う。案外、絵を描き続ける理由は、この幸福な瞬間を味わうためかもしれない。

昨日どしゃぶり、今日快晴。こうして不思議なパリの夜がまた更けていった。

2003年6月　　田中　玉実

# 男同士の夜語りもなかなか捨てがたいものですね…

角間　貴生

この1月31日と2月1日、坂爪先生が福岡を訪問されたので、福岡のぼくらは中洲の割烹でささやかな宴会の席を設けた。華やかなネオンサインの明かりをきらきら映す那珂川の流れの部屋は残念ながらとれなかったけれど、話は盛りあがり…酒はすすみ…、久しぶりにとても楽しい夜でした。

ところで、版画作家との交流と言えば、ぼくは韓国はプサンの安永燦とソウルの李珉とはまるで兄弟みたいな付き合いをしている。李珉は日本の多摩美術大学の大学院に在学したこともあって、ぼくより日本語が上手で（?）なぜか日本を訪れる時は決まってわざわざ福岡のぼくの所まで来て泊まっていく。いつも、酒を飲みながら色々な女性の話などたわいない話で終始するのが常だったけれど、昨年の晩秋、ぼくがソウルの彼の家に3泊4日泊まった時は全く違っていた。彼は真夜中に延々と、光州からも遠く隔たった寒村の貧しい母子家庭の日々を語り、また、衝撃的な光州事件の話をしてくれたのだった。たまたま一介の高校生としてデモに参加した光州の民主化闘争。彼の眼の前で、軍隊から銃撃されて次々と倒れ死んで行く大学生の男達の幾つかの顔が今も眼の前に浮かぶのだと言う。その後、李珉は自分の命の空しさを感じて、最も過酷で危険な奥地の炭坑の鉱夫として働く事になる。その頃の彼はただ死に最も近いところに身を置きたかったのだという。

それぞれの作家が自分の創作を続けていく原点を語る機会はそんなにないように思う。李珉はぼくより15歳以上も若い作家だが、彼は夜中ぢゅう話しつづけた。かつての百済・韓国の田舎で少年時代見つづけた自然と風俗の様々なシンボルやイメージ…そして生と死の意味を否応なく突き付けられた光州事件が彼の創作の原点なのだとかれは言う。ぼくにとって、ハンサムな貴公子だった李珉が、ソウルの夜半に突如、真摯な芸術家の顔になっていた。そう…、たまには男同士の夜もなかなかいいものだ。

坂爪先生、…今度、福岡に来られる時は良かったら、ぼくの家に泊まっていってくださいね。

**銅版画通信講座『夢らいふ工房』**
**http://members.jcom.home.ne.jp/yumelife/**

**角間貴生の世界**
**http://members.jcom.home.ne.jp/yumedouhanga/**
**http://naish.tripod.co.jp/kakuma.html**
**Email:yumelife@jcom.home.ne.jp**
**福岡市南区老司5−5−20　TEL092-565-8682**

# 掲示板

会報にお寄せいただいた京都版画展の出品者の展覧会、活動情報です。詳細は会場等へお問い合わせください。

**●朝日　みお●**
**＜展覧会＞**
会期:　2004年4月3日（土）～11日（日）
場所:　ギャラリーART G　（高崎市新後閑町10−23）　tel.027-328-1041
会期:　2004年5月21日（金）～28日（金）
場所:　由美画廊　（浜松市大工町303−15）　tel.053-455-0004　fax.053-455-3984

**●大下　百華●**
**＜大下　百華　木版画展＞**
会期:　2004年5月25日（火）～6月6日（日）
場所:　平安画廊　（京都市中京区寺町三条上ル）　tel.075-231-0694

**●角間　貴生●**
**＜角間　貴生　版画個展＞**
会期:　2004年 8月2日（月）～8日（日）
場所:　ギャラリー風（1・2F）　（福岡市中央区天神2−8−136　新天町北通り）
tel.092-711-1140　fax.092-741-8882
木版画と銅版画の新作を中心に、1Fは小品 2Fは大きな作品を展示します。
連絡先:　tel/fax.092-565-8682（夢らいふ工房・角間）

**●數地　光子●**
**＜展覧会＞**
会期:　2004年6月8日（火）～19日（土）　月曜休廊
場所:　ギャラリー　八十川　（神戸市東灘区住吉本町1−6−8）　tel.078-845-9366

**●田中　玉美●**
**＜展覧会＞**
会期:　2004年11月1日（月）～7日（日）
場所:　ギャラリーおいし　3階にて　（福岡市中央区天神2−9−212）　tel.092-721-6013
**＜出版＞**
E-book「知ってはならないパリ」（エッセイ、田中玉実・田中一彦共著）は、
文芸社の電子出版サイト http://www.boon-gate.com　にて販売中

**●平木　美鶴●**
**＜平木　美鶴展（木版画、絵画）＞**
会期:　2004年6月12日（土）～27日（日）
場所:　美術館松欅堂　（愛知県豊田市若林東町東山13）　tel.0565-52-3150

## 編集後記

今回の会報は、原稿依頼をさせて頂いた方々がとてもみっちりと濃い内容の原稿を書いて下さったので、非常に読みごたえのあるものになったと思います。
作品を通して世界が広がりつながっていくことは、とても素晴らしく、そして平和的なことだなあと編集しながら思いました。

MONTAGE

PANN News Letter
Printmaker's Association of Nishi Nippon
Vol.04
Apr 2004

## ● 会報第４号の発行によせて ●

今年はご承知の通り、京都での展覧会の開催年となっております。

中国、ブルガリアとの交流展に引き続き、今年はタイの版画作家との交流展を開催する運びとなりました。

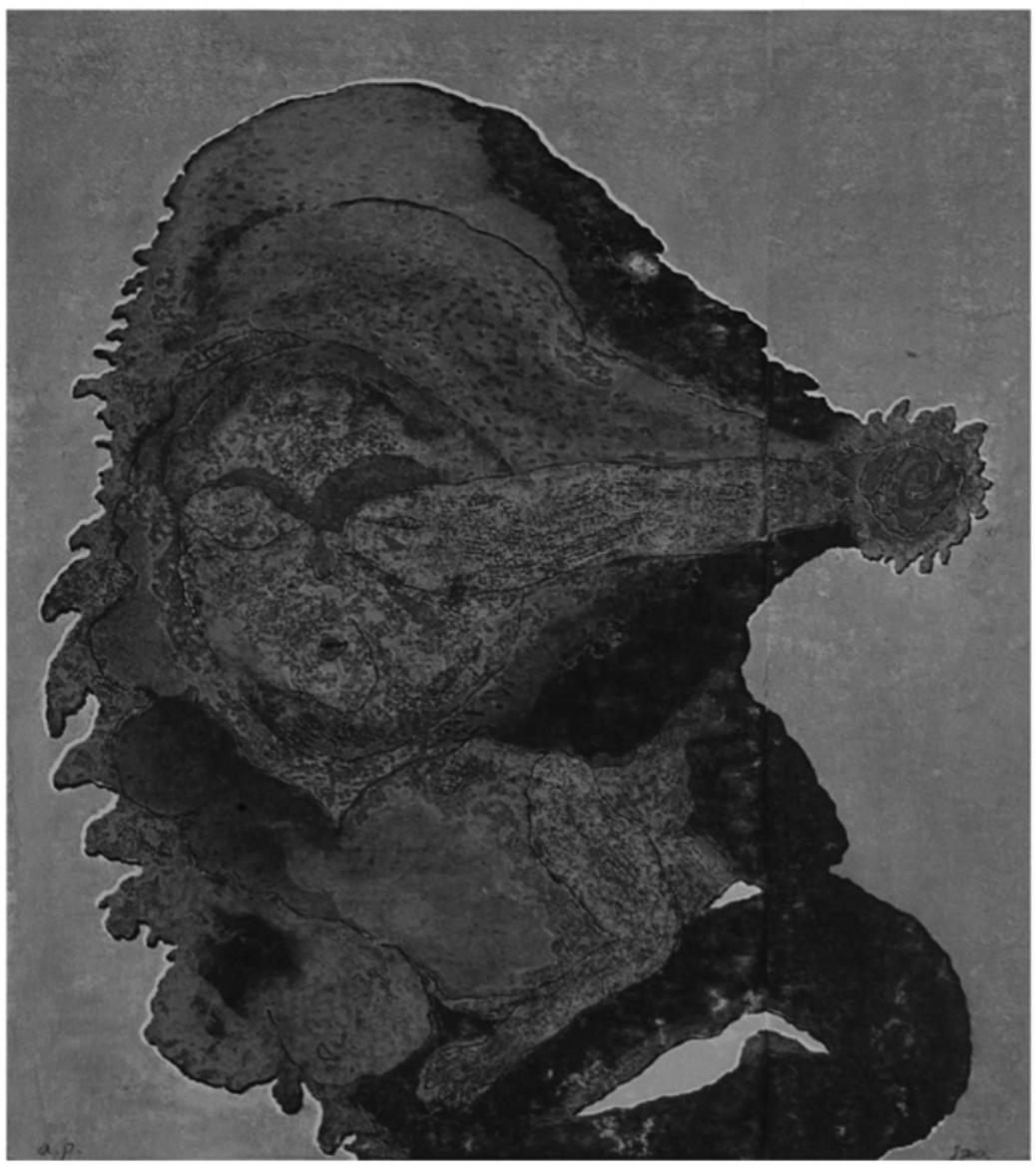
同じアジアでも、日本とはまた違った趣きの作品が多く見られることでしょう。

今回の会報では、今年開催される日本・タイ国際版画展に向けて少しでもタイについて知って頂きたいと思い、タイの版画について紹介致します。

また、作家紹介では今年３月に平安画廊にて開催される『版画ＫＹＯＴＯ展実行委員会新鋭展』の出品作家である大野経典氏を取り上げました。

それぞれ、大変興味深い内容となっておりますので、是非じっくりと読んで下さい。

# Ohno Keisuke
**大野　経典**



「天緩児」
85cm×83.5cm　木版（一版多色法）
2004年8月制作

## Contents

■会報第４号の発行によせて

■作家紹介　大野経典さん

■タイの版画について
～和歌山県立近代美術館学芸員
奥村泰彦～

■第4回大野城まどかぴあ版画ビエンナーレ展
グランプリ池田満寿夫大賞は角間貴生さん

■特報！日本版画協会展搬入、搬出代行について

■公募展案内

■掲示板

■編集後記

MOMYAGE

作家紹介

# Ohno Keisuke

## 大野　経典 さん

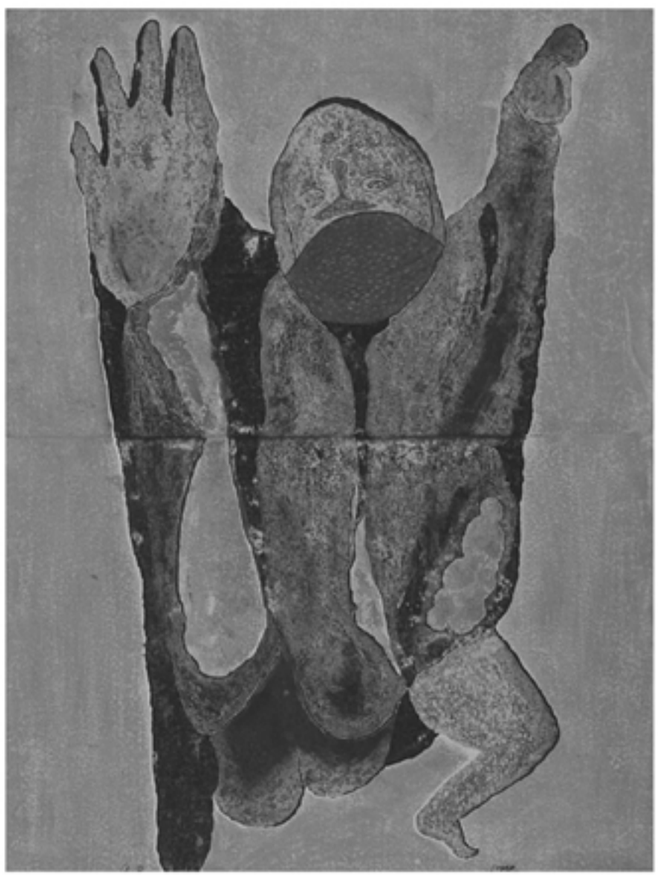


「作家活動とは何かを考える」をテーマに編集スタッフがお話を伺います。今回は大野経典さんです。大野さんは京都から沖縄へと移り、現在沖縄にて制作をなされています。人物を中心とした、とても力強い木版画をつくっておられます。また、2005年3月に平安画廊にて展覧会も開催される予定です。

**Q1.** ご自身の作品について（テーマ、コンセプト等）
**Q2.** 作品を作る上で、1番大事にされている所はどんな所ですか？
**Q3.** グループ（団体）に所属して作品を発表する事について、どう思いますか？
**Q4.** 大野さんは３年程前から、製作の場を京都から沖縄に移されましたが、沖縄に移った事で、ご自身の作品に影響している事はありますか？また、作家活動を行う上で、京都と沖縄では違いがありますか？
**Q5.** 今後の作家活動について、将来の夢など教えてください。
**Q6.**沖縄のお勧め料理はありますか？また、沖縄で驚いた食材はありますか？

**<A1>**
日常の生活の中で、人との対話や様々な事柄の中で感じている、感情や欲望は、自分の弱さや性質と直結するものであり、それらの感情を表現し追求することで、本質的な自己の存在を見いだしていきたいと考えています。また、その作品を観る人達と、共有し得る部分をより多く持つことは、私にとって重要な要素であると考えています。

**<A2>**
自分の中で、大事な事や拘る部分は沢山ありますし、どれが一番かと問われると簡単には答えられないのですが、色や質感、目の表現や身体の線の細かい表現などは、特に意識しているところではあります。また、作品から醸し出される空気感や雰囲気も、大事なものの一つにあります。



**<A3>**
日本版画協会に所属することになって、まだ１年足らずなので、特に今まで通りに作品を発表しています。ですが、やはり協会に所属することで得た展示機会などもありますし、また版画に関する多くの情報を知る事ができる様になったと思います。

**<A4>**
５年前に、沖縄県立芸術大学院の進学の為に、沖縄に来ました。沖縄の文化に触れ、沖縄で生活する中で想像しえた作品制作は、京都での制作と比べて、より自由な発想・視点を持ってとり組めたと感じています。沖縄は、高い湿度と乾燥の変化が激しい気候なので、紙や版木を扱う上で苦労し、工夫して対応した面はたくさんありました。

**<A5>**
これまでの、国内での公募展への作品発表は、これからも続けていきたいと考えています。そして、個展・海外への公募展への出品等の、展示機会も積極的に増やしていきたいと考えています。

**<A6>**
ほとんどの沖縄料理を美味しいと思います。その中でも好きなのは、「ナーベラ」と呼ばれるヘチマの味噌炒めで、ヘチマが、沖縄でとても身近に使われる食材であるのにも驚きました。他に好きなのは、さんぴん茶とオリオンビール。この二つの飲み物と沖縄で出会えた事は一生の宝になりそうです。

左 「僕生来」
90cm×120cm
木版（一版多色法）
2004年

右 「器」
90cm×60cm
木版（一版多色法）
2004年

プロフィール

1977年　鹿児島県生まれ
1996年　京都精華大学美術学部造形学科版画専攻入学
1998年　交換留学生としてオーストラリア国立キャンベラ大学に半期留学
2000年　京都精華大学美術学部造形学科版画専攻卒業
2002年　沖縄県立芸術大学環境造形専攻絵画大学院卒業
2003年　沖縄県立芸術大学工芸専攻／木版画実習の非常勤講師

主な活動

1999年　第 24 回　全国大学版画展　出品
（同展にて、第２５・２６回に買い上げ賞　第２７回に出品）
2000年　PORTFOLIO　00＝01　共同画集制作展　in ベルギー
交流合同展示「美術と地域」展に参加（長崎ブリックホール）
2001年　第２回飛騨高山現代木版画ビエンナーレ　入選
第７回鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞展　入選
ふくみつ棟方記念木版画大賞展　入選
あおもり版画トリエンナーレ２００１　１部優秀賞
2002年　第７０回記念日本版画協会展　奨励賞
日本版画協会展受賞者展　（時津画廊・星が丘ギャラリー）
第２回山本鼎版画大賞展　入選
2003年　第５５回沖展版画部門　奨励賞
第３回飛騨高山現代木版画ビエンナーレ　入選
第119号版画芸術第２特集木版画ダイナイズムの系譜に掲載
『版の表現』版画６人展（沖縄　ギャラリーアトス）
2004年　第５６回沖展版画部門　入選
第１０回鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞展　準大賞
第７２回日本版画協会展　立山賞　準会員推挙
元麻布ギャラリー Okinawa にて２ヶ月間　常設展示
ふくみつ棟方記念木版画大賞展　入選
日本版画協会展受賞者展に出品(時津画廊･星が丘ギャラリー)
木版画三人展『木三色』（元麻布ギャラリー Okinawa）
『P-point』沖芸大学絵画教員展（沖縄県立芸大　企画展示室）
あおもり版画トリエンナーレ２００４　入選
木版画二人展　（元麻布ギャラリー Okinawa）

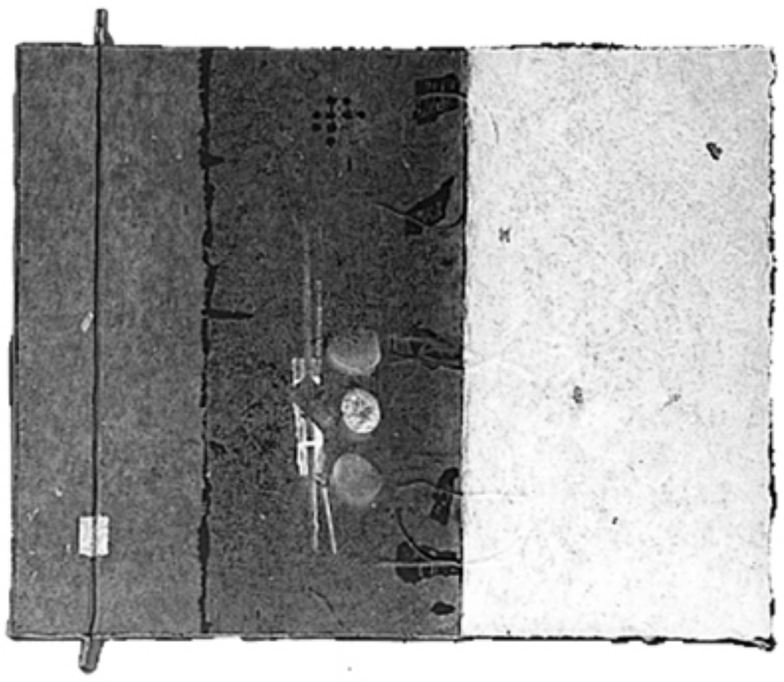


# タイの版画について

和歌山県立近代美術館学芸員　奥村　泰彦

**Q1、　タイの版画作品の傾向について教えてください。**

まず、版画が複製手段ではなく、独自の表現領域ととらえられている点が、大きな特徴でしょう。版画として独自の表現を生み出すことが前提となっているため、絵柄は当然として技術面でも作家自身がさまざまな工夫をすることに対して、非常に意識的であるように思います。おかげで抽象と言っても、作風についてはいろいろな傾向があります。もっとも抽象か具象かを問わず、硬い線やはっきりした色彩など、タイ美術に伝統的な密度の濃い表現は、版画に限らず一般に多く認められます。



ターウォン・コー＝ウドンヴィット
《儀式における象徴22》
62.0×78.0cm
木版、シルクスクリーン、紐、
コラージュ
1990年

**Q2、　タイの版画の中で特にポピュラーな版種はありますか、又、それには理由がありますか。**

上記のように、時代ごとに流行があるようです。まず、最初に木版画の制作が始まりますが、当初は他の技法についての知識も乏しく、また材料もなかったようです。プラパン・スリソータという作家がメゾナイトという集成材を利用し始めたことが、作品の大型化につながったと言われています。エッチングも盛んですが、材料費の問題から亜鉛版での制作がほとんどだとのこと。シルクスクリーンで制作している作家もいますし、80年代にはリトグラフも盛んになりました。また、木の板をジグソーで引いて形を作り、平版で画面を作っていくウッドブロックという技法が、教育課程では盛んに行われているようですが、なぜか歴史に残るような作品は生まれていないようです。一方、同じことを紙でやるペーパーブロックというとても面倒な技法による作品には、高い評価を受けているものも多く、不思議なことです。近年では、腐食や感光という技術的な煩わしさを嫌い、自然回帰志向もあって、木版が再評価されているようです。

**Q3、　タイの版画の歴史について聞かせて下さい。**

タイで版画が作られるようになったのは第二次世界大戦後のことで、それまでの伝統や蓄積はありません。タイに西洋の美術を紹介し、教育をはじめとして大きな影響を与えたのが、イタリア人のコッラード・フェッローチで、ついにはタイに帰化してシラパ・ビラスリィと名乗りました。彼が、美術学校での教科書の挿絵に木版画を用いたのが、タイにおける版画の濫觴であると言われています。1950年代の後半になって、木版画で農村の伝統的な生活を描写した作品が制作されるようになり、それが東京やリュブリアナでの国際的な版画展で評価を受けたことから、版画制作は盛んになっていきます。そういった作家の一人であるチャルード・ニムサマーが、欧米で学び、さまざまな技法を持ち帰りました。彼は1966年、国立の美術学校に版画科を創設します。エッチングやシルクスクリーンも制作されるようになり、また技術的な難しさのため盛んにならなかったリトグラフも、1980年代にカニヤ・チャレオンスプクルが再興して流行しました。50年代の作品は具象ですが、60年代以降になると抽象的な作品が占める割合が非常に高くなり、現在もその傾向が認められます。また近年は、インスタレーションとして見せる作品も試みられています。

**Q4、　タイの作家が作品を制作するうえで、大切にしている考えはありますか。（仏教やタイ独自の文化について）**

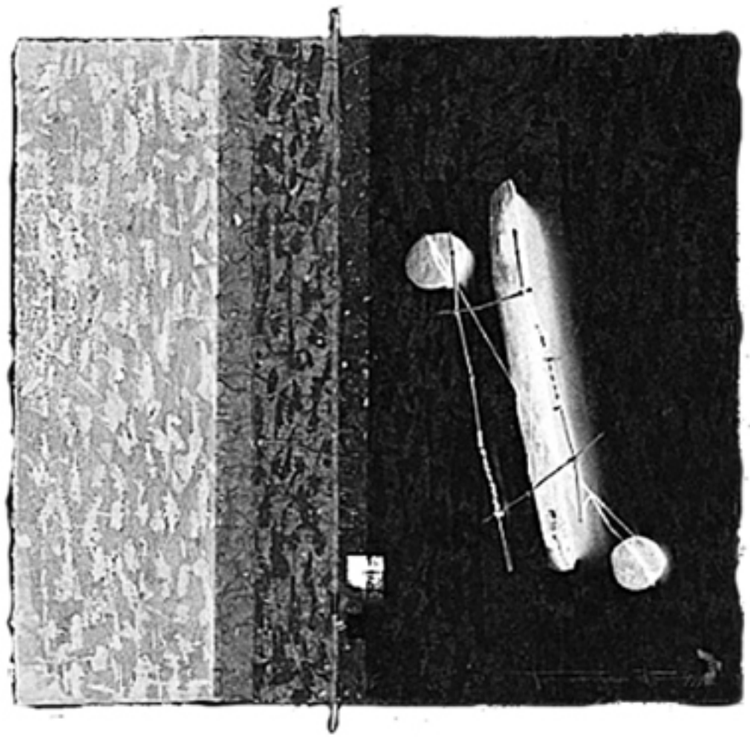
伝統的な文化をいかに受け継ぎ、生かしてゆくかについては、かなり意識的に取り組まれているようです。現代美術に取り組む作家も、大学では基礎的な勉強として、古典美術の模写などをやるようです。カリキュラムもそうなっているようですが、むしろ作家を目指す人たちはやるべきこととして古典の模写などを行っています。そのため、アユタヤやスコータイの美術に見られる、独特の柔らかいけれども同時に硬く、閉じた曲線を用いた造形が基本になっていると感じられます。また、生活に密着した数多くの仏教寺院があり、伝統的な造形と現代的な感覚は同居しています。寺院において、きらびやかな装飾の抽象性と仏像や説話絵画の具象性が矛盾無く共存している状態は、美術の在り方にも反映していると思われます。また、まったく抽象的な作品でも、仏教説話を下敷きに制作されていたりします。一方、タイ仏教は小乗仏教であるため、非常に個人主義的な考え方が根づいているらしく、個性が非常に重視されるようです。さまざまな表現に取り組む作家がいるのも、個性が尊重されることの裏返しかも知れません。

**Q5、　来年、タイと日本の交流版画展が行われます。タイ側の代表者、ターウォン氏について教えて下さい。（作品、人柄など）**

ターウォン氏はまず、伝統的な素材を組みあわせて作り上げた複雑な画面で、国際的な評価を得ました。金箔や紐をすき込んだ紙と版画を組みあわせるなど、緻密な作業を必要とする繊細な作品です。紙のマチエールだけでも美しいものですが、制作の主題となっているのは、宗教的な行為にまつわるさまざまのものです。と言って、特別なものではなく、日常的なちょっとした占いやお祈りのための器具や、祖先を偲ぶよすがなる古い道具などです。そんなものの中に、深い感情を見出せる繊細な方で、お酒も煙草もたしなまれません。が、日常ではどうも、いらいらしているように受け取られることもあるらしく、タイでは「彼は日本のビジネスマンのようだ」とも言われてました。

**Q6、　その他、タイの版画について興味深い話があれば教えて下さい。**

一つの技法、一つのスタイルを守り続けて制作をする人がいる一方で、さまざまな素材、技法、表現に一人で取り組み、どんどん変身していく人も多いようです。一歩間違えば無節操のそしりを免れないのですが、それだけ制作に対する態度が自由なのでしょう。また、タイにはちゃんとしたアート・マーケットがあるようで、タイの画廊の方に、日本人は旅行者も滞在者も作品を全然買わないのはなぜなのかと質問され、困ってしまったことがあります。タイで版画が盛んになったのは、国際的な展覧会に出品し、評価を得ることが比較的簡単な分野だったという理由もあります。版画は制作過程が複雑で、特別な設備が必要ですし、最近はインスタレーションやパフォーマンスの方が国際的に評価を得やすいこともあり、大学で版画を学んでも、卒業後はやめてしまう人も少なくないとのことです。それでも、技術のおもしろさにとどまらず、制作に対する基本的な姿勢を身につけるためには最適の分野として、進学希望者も多く、教育においても重視されているようです。



ターウォン・コー＝ウドンヴィット
《儀式における象徴1992/3》
74.2×80.0cm
木版、シルクスクリーン、紐、
コラージュ
1992年

PANN
Printmaker's Association
of Nishi Nippon

## 故池田満寿夫さん公募展 グランプリは角間さん

### 第4回大野城まどかぴあ版画ビエンナーレ展



池田満寿夫大賞　「月の停車場」
角間貴生さん（福岡市南区）

版画など多彩な分野で国際的に活躍した芸術家、故・池田満寿夫さんを記念した公募展「大野城まどかぴあ版画ビエンナーレ展」の入賞、入選作品が、大野城市曙町２丁目大野城まどかぴあで開催されました。全国から寄せられた97点の版画作品の中から、銅版画家・山本容子さんと佐藤陽子まどかぴあ館長の厳正な審査によって、42名の皆さんの作品が選ばれました。グランプリの池田満寿夫大賞は、福岡市南区の角間貴生さんの「月の停車場」が選ばれました。
山本さんは「詩情豊かで、版の重なりがうまくマッチしている」と講評しました。

**特報！＜版画京都展実行委員会メンバーの皆様へ＞**

**日本版画協会展　搬入、搬出代行について**

毎年春の版画展搬入、搬出にはいつもご苦労されている方々が多いことと思います。そこで、委員会では作品集荷を関西で一本化し、2005年春により皆さんの搬入、搬出を無料とする（出品料、別配達は有料）計画を進めています。
詳細は決まり次第お知らせ致します。
委員会メンバーの特典として、ぜひご利用下さい。

版画京都実行委員会

## 公募展案内

（詳細を知りたい方は、募集要項をお取り寄せ下さい。）

### ■第４回飛騨高山木版画ビエンナーレ■

＜応募期間＞１２月１日～２００５年１月２１日
＜搬入＞２００５年１月２７、２８日
＜応募規定＞２００３年以降制作の未発表作品。紙サイズ１２０×１２０cm以内の木版画。額装自由、ガラス不可。
＜会期＞２００５年３月１２日～２７日
＜会場＞高山市民文化会館
＜賞＞大賞１点５０万円、他
＜募集要項・問い合わせ＞高山市教育委員会生涯学習課　飛騨高山木版画ビエンナーレ事務局
〒５０６－８５５５　高山市花岡町２－１８
＜TEL＞０５７７－３５－３１５５
＜FAX＞０５７７－３５－３１７２

### ■第１１回鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞■

＜搬入＞２００５年１月７日～１２日
＜応募規定＞木版画または木版を主たる版材とした２００４年以降制作の未発表作品。満年齢で１８～４０歳。要額装、ガラス不可。額外寸８０×１００cm、厚さ１０cm以内。一人１点まで。
＜会期＞２００５年１月３０日～２月１３日
＜会場＞文化活動交流会館・ギャラリー
＜賞＞大賞１点１００万円、準大賞３点３０万円、ほか。
＜応募要項・問い合わせ＞木版画大賞事務局　〒３２２－００３１　鹿沼市睦町２８７－１４　鹿沼市立川上澄生美術館内
＜FAX＞０２８９－６２－８２２７

## 掲示板

会報にお寄せいただいた京都版画展の出品者の展覧会、活動情報です。詳細は会場等へお問い合わせください。

**●大野　経典／近藤　幸●**
**＜新鋭作家展＞**
会期：　２００５年３月１４日～２１日　大野経典
　　２００５年３月２１日～２８日　近藤　幸
場所：　平安画廊
　　京都市中京区寺町三条上ル
TEL/FAX: 075-231-0694　　営業時間　ＡＭ12：00～ＰＭ8：00　定休日　月曜日

**●川端千絵●**
**＜川端　千絵　木版画展＞**
会期：　２００５年3月１５日（火）～２７日（日）
場所：　ギャラリーアーティスロング
　　京都市中京区三条通堀川西入る一筋目角
TEL/FAX: 075-841-0561

**●二階　武宏●**
**＜木口木版七人展＞**
会期：　２００４年１２月３日～１２月２１日 オープニング１２月６日
場所：　アートゾーン神楽岡
　　京都市左京区吉田 神楽岡町4
TEL ：　075- 754- 0155

**●福岡　舞子●**
**＜京都精華大学大学院１回生展『M1展』＞**
会期：　２００５年1月２０日（木）～２４日（月）
場所：　京都精華大学内ギャラリーフロール
　　京都市左京区岩倉木野町１３７
TEL ：　075-702-3330

**●崔　廷洧／福岡　舞子●**
**＜Work in progress　京都精華大学版画専攻大学院生展＞**
会期：　２００５年3月１日（火）～6日（日）
場所：　ギャラリーアーティスロング
　　京都市中京区三条通堀川西入ル
TEL/FAX: 075-841-0561

**●崔　廷洧●**
**＜展覧会＞**
会期：　2005年4月8日～4月26日
場所：　アートゾーン神楽岡
　　京都市左京区吉田 神楽岡町4
TEL ：　075- 754- 0155

**●山本桂右●**
**＜「ミニヨン展」＞**
会期：　2004年12月8日～26日
場所：　日動画廊
　　東京都中央区銀座５－３－１６
TEL ：　03-3571-255３
**＜「新たなる視覚展」＞**
会期：　2005年1月13日～23日
場所：　福岡日動画廊
　　福岡市中央区渡辺通１－１－２　ホテルニューオータニ博多１F
TEL ：　092-713-044０
**＜「昭和会展」＞**
会期：　2005年2月1日～２月10日
場所：　日動画廊
　　東京都中央区銀座５－３－１６
TEL ：　03-3571-255３
**＜「日下部直起、蛭田均、山本桂右、三人展」＞**
会期：　2005年3月1日～13日
場所：　ギャラリー恵風
　　京都市左京区丸太町東大路東入る一筋目角（野村ビル２階）
TEL ：　075-771-1011

**●新会員●**
**＜京都版画新人展＞**
会期：　2005年2月26日～3月6日
場所：　ギャラリー三条
　　京都市中京区三条小橋西入　鶴の井ビルF３
TEL ：　075-221-3341　　FAX：　075-221-3308

編集後記

この号から、会報担当者が川端委員から堤、福岡、二階委員に代わりました。今回、初めてこのような会報を担当し、てんやわんやとようやく第４号が発行となりました。不慣れ、不手際、トラブル発生！とまあ、よくここまで出来たものだと、編集部一同、感心しております。これも、原稿を依頼させて頂いた方々、各種情報をお寄せ頂いた方々のおかげだと大変感謝しています。次回の発行は半年後を予定しています。皆さんからのご寄稿や、展覧会情報などを広く募集しておりますので、どしどしお寄せ下さい。それでは、今後とも宜しくお願い致します。尚、掲載希望の記事、情報等の送り先も代わりましたので、お間違えの無いようご注意下さい。

会報担当　堤 明香・福岡 舞子・二階 武宏　　発行　版画京都展実行委員会

PANN News Letter
Vol.05
Printmaker's Association of Nishi Nippon
July 2005

## ● 会報第５号の発行によせて ●

今年はご承知の通り、京都での展覧会の開催年となっております。

中国、ブルガリアとの交流展に引き続き、今年はタイの版画作家との交流展を開催する運びとなりました。

今回の会報では、今年４月にブルガリアで開催されたブルガリア・日本国際版画展の報告を特集致します。

また、作家紹介では今年３月に平安画廊にて開催された『版画ＫＹＯＴＯ展実行委員会新鋭展』の出品作家である柴田真由美氏を取り上げました。

それぞれ、大変興味深い内容となっておりますので、是非じっくりと読んで下さい。

# Shibata Mayumi

柴田　真由美



「宙～SORA～」
93cm×133cm　紙版／コラージュ
2005年

## Contents

■会報第５号の発行によせて

■作家紹介　柴田　真由美さん

■ブルガリア報告
ーコウノトリは見ているー
田中　玉実

■公募展案内

■掲示板

■編集後記

PANN
Printmaker's Association
of Nishi Nippon

作家紹介

# Shibata Mayumi

## 柴田　真由美 さん



「作家活動とは何かを考える」をテーマに編集スタッフがお話を伺います。
今回は柴田真由美さんです。柴田さんは東京から京都へと移り、現在京都にて制作をなされています。色鮮やかなダイナミックで力強い作品は見ている人に感動を与えてくれます。

**Q1.** ご自身の作品について（テーマ、コンセプト等）
**Q2.** 作品を作る上で、1番大事にされている所はどんな所ですか？
**Q3.** グループ（団体）に所属して作品を発表する事について、どう思いますか？
**Q4.** 柴田さんは、制作の場を東京から京都に移されましたが、京都に移った事で、ご自身の作品に影響している事はありますか？また、作家活動を行う上で、京都と東京では違いはありますか？
**Q5.** 関西と関東の作家の作風や気質の違いなどはありますか？
**Q6.**今後の作家活動について、将来の夢など教えてください。

**<A1>**
自己の記憶の中にちりばめられたさまざまな自然界の光や影、無機質で単純なフォルムの断面を日常的な空間から解き放し、多次元的な流動空間へと表出させた時の、その一瞬の輝きやパワーを版画という手段によって、その感触をさらに明確に意識し表現することを追求しています。

**<A2>**
常に新鮮な感触をとらえられるように、自己の“五感”を研ぎ澄ませておくことを心がけています。モノのかたち、色彩、自然の発する力（パワー）を作品に映して、観る側にもそれをダイレクトに感じてもらえるような作品を意図して制作しています。



「天泣」
93cm×133cm
紙版／コラージュ
2005年制作

**<A3>**
私は昨年より日本版画協会の準会員になりましたが、なんといっても展覧会時の観客数が多い事が強みだと思います。団体展に限らず、公募展等に入選し、作品が展示されることによって思わぬ所から声がかかり、展覧会の機会を頂いたりすることがあります。また、沢山の作品と対峙することによって今後の目指すべき方向を見付けるヒントにもなります。
様々な世代や地域の作家との交流による情報交換、そしてそれによって新しい技術・技法や人脈を広げるのにも役立っています。
それから団体に所属しているということで、「版画家」としてのステイタスの向上という点も作家にとって大事な要素の一つかもしれません。
将来的にも作家活動を続けていくという証にもなり、作品を購入してくださる方への安心感にもつながります。そして作家の方にもプロ意識が芽生えるので、メリットはあると思います。

**<A4>**
３年程前、結婚を機に京都市内に移住しました。京都は作家活動に対して理解があり、また社会的にも作家の地位が確立している土地柄ですので、東京より制作し易く、とても恵まれた環境だと思います。京都には常に何かに追われているような焦燥感をうち消し、初心に返ってゆっくりと自分を見つめ直す“時間”がありました。その流れ方が東京とは全く異なるのを日々実感しています。こちらでは少し肩の力を抜いてじっくり制作に打ち込めるようになりました。この環境の変化によって今後作品がどのように変わっていくか、自分自身とても楽しみです。

**<A5>**
関西は個性的で先進的な作風、例えばCGや写真の技法を取り入れたような作品があまり抵抗無く受け入れられる土壌があるように思います。関東の方でも新しい技術やメディアを用いて版画作品を制作する作家はおりますが、逆に版画のジャンルから飛び出して、もっと広い意味での芸術活動（インスタレーションなど）の方向に展開していく方が大半です。関東の版画作家は意外と保守的なこだわりを持っている方が多いです。一方、関西では技法や技術等にあまり固執することなく、楽しみながら作品を制作している作家が多く、自由な空気を感じます。

**<A6>**
関西を中心に展示する機会を多く持ちたいと考えています。また同時に公募展等にも積極的に出品していくつもりです。そして、より的確な自己表現の手段としての版画を常に模索しながら、一歩ずつ前進し続けていきたいと思います。



「CIPHER」
100cm×130cm
紙版
2004年制作

### プロフィール

| | |
|---|---|
| 1971年 | 東京都生まれ |
| 1994 | 多摩美術大学絵画科油画専攻版画専修卒業 |
| 1995 | 多摩美術大学研究生修了 |
| 1997 | 多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻版画専修修了 |
| 2002 | 結婚後、京都市内に移住　柴田姓に改姓（旧姓：大場） |

### 主な活動

| | |
|---|---|
| 1994 年 | 第 62 回日本版画協会 ... 以降 '00～'02 を除く毎年 |
| | 全国大学版画展＜買上賞・観客賞＞ |
| | 第４回 ARTBOX 大賞展 |
| 1995 | 第５回 ARTBOX 大賞展＜ギャラリー賞＞ |
| | 第４回プリンツ２１グランプリ展 |
| | 第１回国際ミニプリントトリエンナーレ |
| 1996 | 韓国国際大学交流展（弘益大学／ソウル） |
| | ２０代の木版画展（ギャラリー伸／銀座） |
| | 第 16 回天理ビエンナーレ |
| | 都版画賞展 |
| 1997 | 第５回プリンツ２１グランプリ展 |
| | 個展（世田谷美術館ギャラリー／世田谷） |
| 2000 | Print seed 展（ギャラリー神宮苑／表参道）... 以降毎年 |
| | 版画３０年展（多摩美術大学美術館／多摩センター） |
| 2003 | KYOTO 版画２００３＜奨励賞＞ |
| | 第３回池田満寿夫記念芸術賞展 |
| 2004 | 第 72 回日本版画協会展＜賞候補・準会員推挙＞ |
| | 京展２００４＜京展賞＞ |
| 2005 | 京都府美術工芸選抜展２００５＜京都府買上＞ |

PANN
Printmaker's Association
of Nishi Nippon

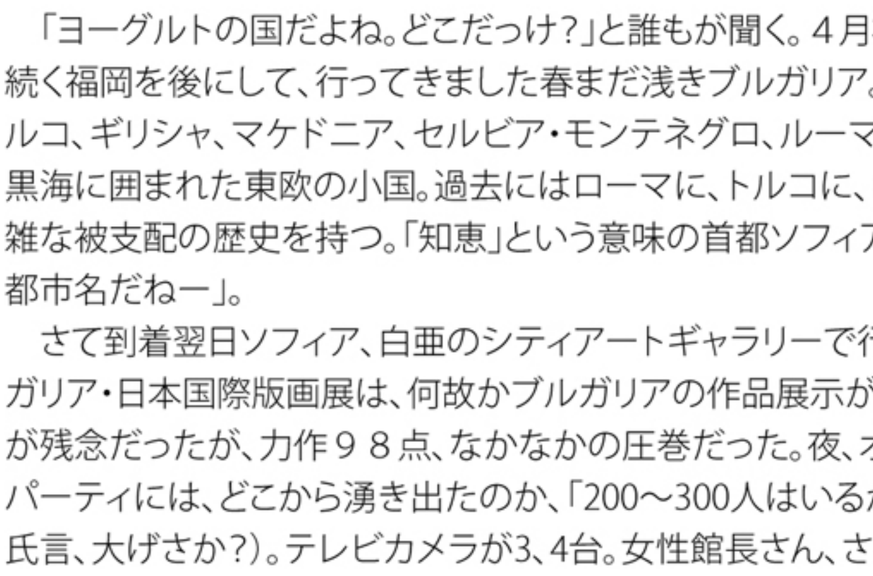
# ブルガリア報告　ーコウノトリは見ているー

田中　玉実

「ヨーグルトの国だよね。どこだっけ？」と誰もが聞く。４月初め、余震が続く福岡を後にして、行ってきました春まだ浅きブルガリア。総勢17名。トルコ、ギリシャ、マケドニア、セルビア・モンテネグロ、ルーマニア、そして黒海に囲まれた東欧の小国。過去にはローマに、トルコに、ロシアにと複雑な被支配の歴史を持つ。「知恵」という意味の首都ソフィア、「すてきな都市名だねー」。

さて到着翌日ソフィア、白亜のシティアートギャラリーで行われたブルガリア・日本国際版画展は、何故かブルガリアの作品展示が無かったのが残念だったが、力作９８点、なかなかの圧巻だった。夜、オープニングパーティには、どこから湧き出たのか、「200～300人はいるかなー」（村井氏言、大げさか？）。テレビカメラが3、4台。女性館長さん、さらに去年日本に来られたルーメン・スコルチェフ教授と黒崎彰先生のご挨拶の後、作家紹介。日頃、図太い中年主婦を自認する私だが、「田中玉実先生です」と黒崎先生に紹介され、頭がくらっと、でもちょっといい気分。

会場で話したり、名刺交換したブルガリア人は、詩人、文学部教授、建



写真①

築関係、インテリア関係の人など、なんだか支離滅裂だが皆さん熱心に見てくださっていた。

その晩、国立歌劇場最上階のレストランで開かれた歓迎会で、スコルチェフ教授の奥様エリーさんと席がお向かいになった。きりっとしまった顔立ちについ、「お仕事はなさっているんですか？」。「ラジオ局で働き、政府の広報を担当しています」。具体的にどんなことをするのか、さっぱり理解できなかったが、ばりばりキャリアウーマンの印象。でも最後に、「夫が一番大切です」と男性を立てるあたり、我が家に似ている（反論の声、少々あり）。

翌日、別のギャラリーの招待を受け、ブルガリアの作家との交流、そこでお昼をごちそうになる。言葉の壁は大きい。午後、黒崎先生が『日本版画の歴史』について講演。ここでも多くの聴講生。日本は人気があるのかしら？

黒崎先生といえば、ソフィアに着いて以来、ピッタリ寄り添うブルガリア女性あり。名はルーシー、今ではやや肉がだぶつき気味だが、「昔はスラリとした美人だった」（黒崎先生言）とか。親切にも、彼女がおいしいレストランに連れていってくれたり、いろいろ私たちの世話をしてくれた。これもすべて黒埼先生の魅力によるものと直感した私、「関係は？」「出会いは？」と鋭く先生を追及。この紀行文も、『黒崎彰とルーシーの出会い』とか『世界を制する黒崎彰の魅力』なんてのにしたら、もっと面白いのが書けそうだけど、まーそれはまたの機会にして…。（先生ごめんなさい）。いずれにせよ、今回のレセプションで、黒埼先生の大きさ、深さ、強さを実感したのだった。

そして私たちは、ブルガリア観光旅行へと旅立った。おっとその前にブルガリア料理。食を見れば、その国の文化、経済がよくわかる。まずはサラダの定番、ショプスカ・サラダ。トマトときゅうりに癖のない白チーズがたっぷり。ほとんど毎日これを食べた。ヨーグルトとチーズの国、どうも農業は苦手のよう、政府の政策も悪いのだろう。メインはほとんど挽肉料理、見た目も味もトルコに似ている。挽肉や卵などをチーズに載せて焼いた料理、ムスカは癖がなくとてもおいしい。ビールもワインもいい感じ。でもブルガリア人は、ブドウやプラムから作ったラキアという焼酎を飲むという。40度を生で。これを毎晩頼んでいたのは井上さん。滑らかな舌がますます滑らかに。ともあれ、食べられないのを懸念して日本から



写真②

持っていったごはん、しょうゆ、カップラーメンなどは全く無用であった。（カップラーメンはルーシーにプレゼント。食べられたかな？）

いよいよ観光。一度聞いたら忘れられない名前。我らが添乗員「つぐみさん」は、非常に有能だった。英語のガイドを彼女が同時通訳する。ここブルガリアは正教会、教会は色彩豊かなイコンで彩られている。世界遺産のフレスコ画が残る外壁も素朴で美しいボヤナ教会、リラ山の奥深く華麗にたたずむリラの僧院。そしてブルガリアの歴史そのままに、ローマ帝国の遺跡やオスマン朝の建物が残る石畳の街プロヴディフ。予算が足りないそうで整備はまだまだだが、素晴らしい遺産だ。「民主化されて数年、ロシアから離れてかえって経済は落ち込んでいる」と、ガイドさん。「確かに、そう言われれば…」。バスの窓からは、連なる山々に手入れされていないやせた林、ゴミが気になる牧草地。村では、わずかな庭にぎりぎりまでブドウ畑を作っている家々。ロバが荷を運んでいる農村。のどかだが、豊かとはいえない暮らしがうかがえる。ちょっとせつない。



写真③

でも私たちを一瞬にして幸せな気分にした町がある。リラの僧院に向かう途中のコチュリノボ、ここでは家々の屋根の古い大きな煙突に、コウノトリが見事な巣を作り子育てをしている。家のてっぺんで、風見鶏のように、首をりんともたげて世を見渡している。空気のきれいな所にしか住まず、愛情深い鳥という。「ワァッ」。それは、白黒のくっきりとした羽をパーッと広げ、悠然と頭上を渡っていった。鶴に似ている。誰もが笑顔。目に焼きついて忘れえぬ光景となった。

さて旅は続く。ブルガリアのど真ん中、カザンラクへ。バラの木一本見当たらないバラの谷で、おみやげにバラの香水（世界市場の８割を占めているとか）をたっぷり買い込み、いい香りを乗せて、さらにバスはバルカン山脈を越え（ついに出た！途中寄ったシプカ峠のトイレは恐ろしいものだったなー）、古都ヴェリコ・タルノボへ。

えっ、どんなトイレか聞きたいって？　薄暗い、足の乗せ場だけの、どっちをむいていいかわからない、手洗い場にあるバケツで水を汲んで流すトイレ。トイレ番のおじさんに今までで一番高いお金を払ったのに。数枚

の紙がもらえたけど。(ここ以外はどこも水洗が行き届いていた)。ところで峠で食べた水牛のヨーグルトはとてもおいしく、黒崎先生の真似をしておみやげに買った。

中世の面影をたっぷり残すヴェリコ・タルノボは、ルーマニアにも近いとあって、この旅で初めて本格的ヨーロッパの観光地を訪れた感じ。それにしても、ブルガリアは初めてだという、まだうら若きつぐみさんの能力の高さにはビックリ。で、「すごいねー。その語学力とフォローのきめ細かさ、感服しちゃう。出会えて本当にうれしいわ。ところで独身?それともう結婚されてるの?」。するとつぐみさん「バツイチなんですよ」。まったくおせっかいなおばさんでした。

往時がしのばれる、第二次ブルガリア帝国の宮殿の跡が残るツァレヴェッツの丘から、タルノボを一望するすばらしい眺め。蛇行して輝くヤントラ川の向こうに、家臣が住んだというなだらかな緑の丘、段状に建ち並ぶ白い家々の美しさ。しばしうっとり。さて旅の定番、立ち並ぶおみやげ屋を楽しんで、近郊の村アルバナシへ。

日本人も終の棲家として移り住んでいるというアルバナシには、オスマン朝の時代の豪商の家が立ち並び、さながら地上の楽園。石垣の向こうに、真白いアーモンドの花が咲き乱れていた。ここでスリにも遭遇し、スリルを味わう。そして私たちは、ブルガリア最後の夜を過ごすべく、ソフィアへ戻っていくのであった。

途中、食事で同席させていただいた田島征彦さん。(私は「ユキちゃん」と「ヘデコさん」の大ファンなのです)。新作絵本の話を聞いて、皆で大笑い。その後、もらされた一言。「この旅で新しい版画のモチーフを見つけたよ」。これには「ガーン!」。すっかりミーハー主婦になりきっていた私。そういえば２年前、中・日国際版画展で西安を旅した時も、山本桂右さんが「旅行中はいつも版画の題材を探している」とおっしゃっていたのを思い出した。作家たるもの、そうでなくちゃいけなかったと深く反省。が、時すでに遅し。

夜、ソフィアのホテルでルーシーを囲み、最後の別れ。「ブルガリアのことをどう思う?」と聞かれとまどっていると、「自由の国になったとはいえ、まだまだ共産党の名残は強く、上層部の腐敗、搾取がひどいのよ」とルーシーは嘆いた。確かに東欧の国々のなかでも、ずいぶんと出遅れた感のブルガリア。それでも２００７年にはEUに加盟の予定だ。文化も経済も急加速の予感。うまく乗り切ってくれたら…、そんな思いを胸にブルガリアを後にした。

芸術と物にあふれたウイーンで楽しむこと、２日間。この成熟した都市に比べて、ブルガリアの未熟さを思わずにはいれなかった。かってに親戚の子供の幸せを祈るような感情を抱いた私。コウノトリも見守っている。ブルガリアの自由と平和の日々を…。

写真①左　シティーアートギャラリー館長
　　中央　田中玉実
　　右　スコルチェフ婦人
写真②リラの僧院
写真③コウノトリ

# 公募展案内

(詳細を知りたい方は、募集要項をお取り寄せ下さい。)

## ■第３回山本鼎版画大賞展■

＜応募期間＞平成17年７月１日(金)～８月31日(水)
＜搬入期間＞平成17年９月22日(木)～９月24日(土)
＜応募規定＞
＊平成16年以降に制作した作品＊一人１点＊額の大きさ110cm×100cm以内とする。また、額の厚さは10cm以内とする。平面作品とする。額装し、展示可能な紐をつける。(アクリルは可、ガラスは不可)。
＜会期＞平成17年10月30日(日)～11月13日(日)
＜会場＞上田創造館 文化ホール(長野県上田市上田原1640)
＜賞＞大賞 １点 100万円(買い上げ)と賞状
　　準大賞　２点30万円(買い上げ)と賞状
　　サクラクレパス賞　１点10万円と賞状
　　佳賞　５点 5万円と賞状　／　入選　150点程度　図録と賞状
＜出品料＞１人 5,000円　(１人１点に限ります。)
＜募集要項、お問い合わせ＞
上田市山本鼎記念館内「山本鼎版画大賞展」係
TEL&FAX:0268-22-2693　／　Eメール:kanae.y@city.ueda.nagano.jp
URL:http://museum.umic.ueda.nagano.jp/

## ■第１０回浜松市美術館版画大賞展■

＜直接搬入＞平成１７年１１月１９日(土)・２０日(日)
＜委託搬入＞平成１７年１０月１７日(月)～１１月７日(月)必着
＜応募規定＞２年以内に制作した平面作品。１人２点以内。１点の総重量１０kg以内。額装(ガラス不可。アクリル可)し、展示可能な装備をしてください。(但し、額装後の外寸法が縦１２０cm×横１２０cm以内)
＜会期＞平成１８年１月４日(水)～２月１２日(日)
＜会場＞浜松市美術館
＜賞＞大賞１点３０万円、静岡新聞社賞１点２０万円、ほか。
＜応募要項・問い合わせ＞浜松市美術館　〒４３０－０９４７　静岡県浜松市松城町１００－１
＜TEL＞０５３－４５４－６８０１

# 掲示板

会報にお寄せいただいた京都版画展の出品者の展覧会、活動情報です。詳細は会場等へお問い合わせください。

**●黒崎　彰●**
＜展覧会＞
会期：2005年５月５日（木）～１０月３０日（日）
場所：北武記念絵画館
　　札幌市豊平区旭町1丁目1-36
TEL　：011-822-0306

**●柴田　真由美●**
＜版画展＞
会期：2005年１１月１６日(水)～２９日(火)（最終日17時閉場）
場所：大丸京都店　6Fアートスポット
　　京都市下京区四条高倉西入
TEL　：075-211-8111

**●ツツミ　アスカ●**
＜展覧会＞
会期：2005年１１月２８日（月）～１２月４日（日）
場所：十一月画廊
　　東京都中央区銀座７-１１-１１長谷川ビル３F
TEL　：03-3289-8880

**●二階　武宏●**
＜木口木版七人展＞
会期：2005年９月５日（月）～９月１４日（水）
場所：ミウラアーツ
　　東京都中央区銀座8の12の6 小野商ビル401
TEL　：03-3541-1327

＜二階武宏木口木版展＞（第73回日本版画協会受賞者企画展示）
会期：2006年 ２月１４日（火）～２月２６日（日）
会場：平安画廊
　　京都市中京区寺町通り三条上ル
TEL　：075-231-0694

**●福岡　舞子●**
＜ART CAMP in kunst-bau＞
会期：2005年９月１０日～２２日（第4期）
　　OPEN: 11:00-18:00（日、祝休）
場所：大阪市港区海岸通1-5-25 商船三井築港ビル　地階
TEL　：06-6577-0998

## 編集後記

この号から、会報担当者が二階委員から楢木委員に代わりました。堤、福岡は引き続き担当のままです。さて、会報担当者が代わって第２号目の発行となりました。前回に比べると少しは編集作業にも慣れたように思いますが、やはり会報の内容が興味深いものになったのは、原稿を依頼させて頂いた方々、各種情報をお寄せ頂いた方々のおかげだと大変感謝をしております。次回の発行は半年後を予定しています。皆さんからのご寄稿や、展覧会情報などを広く募集しておりますので、どしどしお寄せ下さい。それでは、今後とも宜しくお願い致します。尚、掲載希望の記事、情報等の送り先も代わります。お間違えの無いようご注意下さい。
会報担当一同

broccoli MOMYAGE

PANN News Letter
Vol.06
Printmaker's Association of Nishi Nippon
February 2006

## ● 会報第６号の発行によせて ●

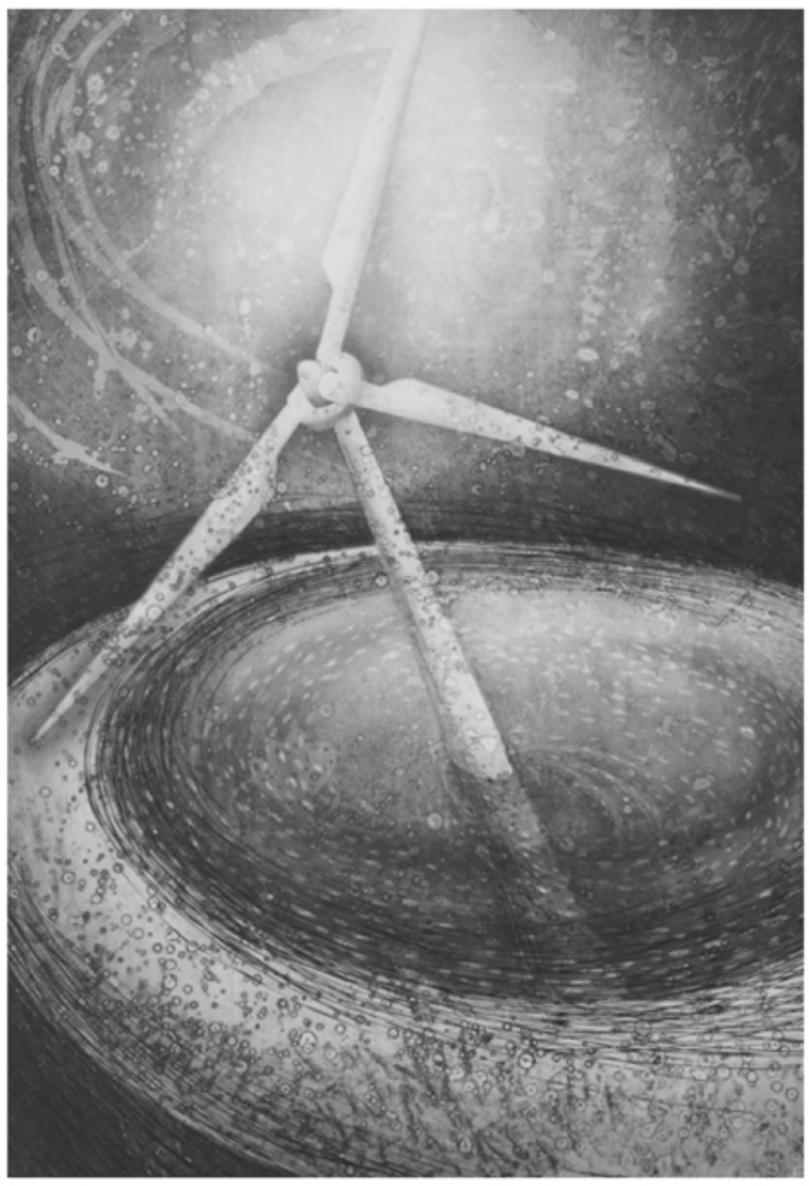
今回の会報では、昨年の京都市美術館別館、福岡アジア美術館で開催された日本・タイ国際版画展の報告を特集致します。

また、作家紹介ではギャラリーアーティスロングなど京都を中心に活動されている滋賀県在住の川端千絵氏を取り上げました。

それぞれ、大変興味深い内容となっておりますので、是非じっくりと読んで下さい。

# Kawabata Chie

川端　千絵



「風待ちの塔＃１」
97cm×67cm
木版画
2005年制作

## Contents

■会報第６号の発行によせて

■作家紹介　川端　千絵さん

■タイ・日本国際版画シンポジウム報告
清水　博文

■「日本タイ国際版画・博多展」騒動記
角間貴生

■公募展案内

■掲示板

■編集後記

PANN
Printmaker's Association
of Nishi Nippon

作家紹介

# Kawabata Chie

## 川端　千絵 さん



「作家活動とは何かを考える」をテーマに編集スタッフがお話を伺います。
今回は川端千絵さんです。川端さんは京都を活動の拠点とし、滋賀県にて木版画を制作されています。
水をイメージさせる作品は独特の色の深みや奥行きだけでなく、風の香りやぬくもりを感じます。

**Q1.** ご自身の作品について（テーマ、コンセプト等）
**Q2.** 作品を作る上で、1番大事にされている所はどんな所ですか？
**Q3.** グループ（団体）に所属して作品を発表する事について、どう思いますか？
**Q4.** 川端さんは滋賀県にお住まいですが、滋賀の自然（琵琶湖など）から何か感じておられますか？
また、それは作品に影響してますか？
**Q5.**今後の作家活動について、将来の夢など教えて下さい。
**Q6.**滋賀県のお勧めの場所があれば教えて下さい。

**<A1>**
はっきりとしたコンセプトやテーマはありません。自分自身の心象風景を延々と描き続けているだけの様な気がします。人はそれぞれ、自分だけの内面世界を持っていて、時々そこにふっと入り込んでしまう時があると思います。その世界の入り口は、日常の中のなんでもない何かである場合が多く、そこは心地よい静寂と孤独に包まれています。そんな世界を描きたいと思っています。



「風待ちの塔＃２」
97cm×67cm
木版画
2005年制作

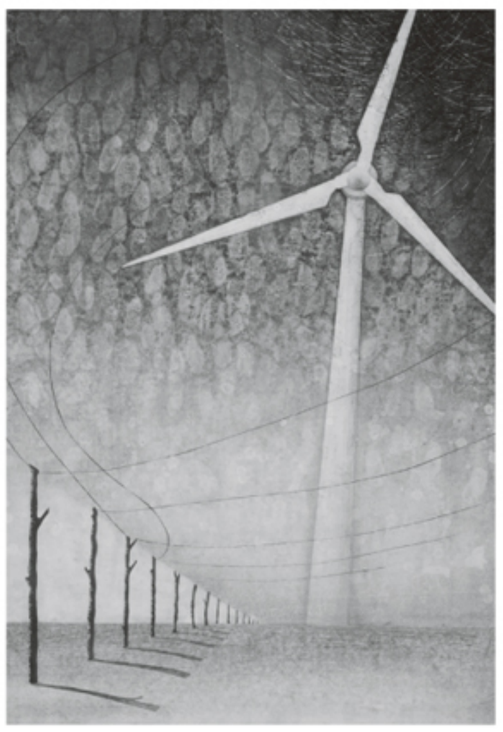
**<A2>**
本当に自分が作りたいと思っているものかどうか、絶えず確認する事です。

**<A3>**
ある一定のレベルで常に審査や評価をされる事は刺激や励みになり、良い事だと思います。また様々な機会を得るチャンスも生まれます。それは大きなメリットであると思います。ただ、その団体の中だけに終止してしまうだけではつまらないと思います。様々な場で作品を発表し、色々な側面からの評価を受けていくべきだと思います。

**<A4>**
とても大きく影響していると思います。私の家は琵琶湖を見下ろす高台にあるのですが、その風景を毎日見ているせいか、俯瞰した目線での風景をよく作品にしているように思います。また、天候によって毎日水面の色が変わって見える琵琶湖も大好きです。

**<A5>**
いろんな場所やもしくはいろんな国の展覧会に招かれるような作家になりたいです。自分が作品を作っているという事によって世界が広がり、それとともにたくさんの人達に出会えたら、ほんとうにおもしろいだろうと思います。

**<A6>**
雪の積もった比良山を晴れの日に遠くから見るとほんとうに綺麗です。
湖西道路を福井方面に走ると絶景の比良山が見れます。ドライブに是非。



「風待ちの塔＃３」
97cm×67cm
木版画
2005年制作

プロフィール

1974年　京都府生まれ
1998　京都精華大学美術学部造形学科版画専攻卒業
2000　京都精華大学大学院美術研究科造形専攻版画分野修了

主な活動

1997 年　第４９回京展＜紫賞＞受賞　（京都市美術館／京都）
2001　あおもり版画トリエンナーレ（青森／青森市民美術展示館）
ふくみつ棟方記念版画展（福光美術館／富山）
日本・中国国際版画展（京都市美術館別館／京都）
2002　第２回山本鼎版画大賞展＜佳賞＞（山本鼎記念館／長野）
2003　京都府美術工芸新鋭選抜展
第７１回日本版画協会展＜賞候補＞（東京都美術館／東京）
第５５回京展＜市長賞＞（京都市美術館／京都）
日本・ブルガリア国際版画展＜奨励賞＞（京都市美術館別館／京都）
2004　日本・ブルガリア国際版画展受賞者展（平安画廊／京都）
あおもり版画トリエンナーレ（青森／青森市民美術展示館）
ふくみつ棟方記念版画展（福光美術館／富山）
2005　２００５新鋭美術選抜展（京都市美術館／京都）

個展

2001　ギャラリーアーティスロング（京都）
2002　ギャラリーアーティスロング（京都）
2003　画廊　編（大阪）
2004　平安画廊（京都）
2005　ギャラリーアーティスロング（京都）

PANN
Printmaker's Association
of Nishi Nippon

# タイ・日本国際版画シンポジウム報告

清水　博文

KYOTO 版画 2005「日本・タイ国際版画展」の行事の一環として展覧会の二日目、2005 年 9 月 28 日（水）P.M.（午後）2:00～4:00 に「タイ・日本国際版画シンポジウム」というタイトルでパネルデイスカッションが行われました。平日にもかかわらず 100 名をこえる出席者がありました。

今回は会場を京都造形芸術大学 NC201 講義室をお借りしパネラーに和歌山県立近代美術館の奥村泰彦氏、タイからピサヌ・スパニミット氏、版画協会から平木美鶴氏をむかえ、通訳を交えながら「タイ現代版画の現況」と言うテーマのもとに進められました。

タイの版画事情に詳しい和歌山近美の奥村泰彦氏からはパソコンのスライドショウを使い液晶プロジェクターでスクリーンに画像を写しながら、タイの版画の歴史も交えタイ版画の全貌をレクチャーしていただきました。つづいてタイのピサヌ・スパニミット氏より主にタイの現代作家についてパソコンを使用しての詳しいレクチャーありました。途中休憩をはさみながら後半は質疑応答というかたちになりました。

ディスカッションの中では、タイの現代版画家の作品の紹介やその作



会場風景①

家のテーマや技法について、またタイを取りまく社会状況や環境の問題がテーマにどのように影響しているか、タイでの版画教育のしくみがどのようになっているのか、日本の技術の高さやそれに学ぶこと、コンセプトの大切さ等が話し合われました。

まだまだ質問はでそうでしたが、最後に黒崎先生のことばで会は締めくくられ、予定時間を大幅にオーバーしての閉会となりました。

近年、国際的にも活躍のめざましいタイの版画もシルパコーン大学に版画のコースが出来てからとのこと、今後ますます勢いがでてきそうなタイの版画の熱を感じました。

最後に大学の教室を借りての講演会にもかかわらず学生の参加者が少なかったのが少し残念に思いました。（版画専攻以外の学生がほとんどどいませんでした。）版画は一つの表現ジャンルとして確立していると思っておりますが。まだまだ一般的には認知が低いのかなと感じさせられ、これからも版画の発展と普及活動を続けて行く必要を（特に若い人へ）感じました。



会場風景②

# 「日本タイ国際版画・博多展」騒動記

角間貴生

版画国際展の福岡展は何年越しかの念願だったと聞いている。そんな展覧会だからどうせやるなら大きく盛大にやりたい…それが福岡展に賭けるぼくの思いだった。

オープニングには様々な人々に招待状を出した。ターボンさんらタイ作家、福岡市長にＮＨＫ局長、地元の西日本新聞の文化部長やらタイ政府関係の人々やらと、とにかく会を賑やかにしてくれそうな人々に…招待状を出したのだ。これで皆さんに来て頂ければ「日本タイ国際版画展・福岡展」は大成功!のはず。

ところが…である。まずタイのターボンさんらから「来日できない」とのメール。そして次に市長秘書から「オリンピック誘致で忙しく…」との電話。そしてＮＨＫからは「副局長が出席を予定していましたが別の予定ができたので…」。当のアジア美術館からは「館長が風邪で…」という具合にキャンセル続出。

そしてオープニングの当日。タイ貿易センターのカムヘーンさんが来らへーんみたいよと思えば、分厚いフードに顔面いっぱいのマスクをして現れた佐藤完児郎さんはゴホンゴホンと声も出ない悲惨なお姿だったので早々帰っていただいたし…、隣りではお立ち台の上でマイク練習の田島さんが「まあ、どうせ誰も来ないのだからここで独り何か好きなことしゃべればいいんやろうな…」なんて不吉に戯れていらっしゃるし、外は何年来の寒波。窓の外は雪が舞い…。根っからの大悲観論者でニヒリストのぼくはアレルギー鼻炎で鼻水を垂らしながら「あーあ、黒崎さん、坂爪さん、オランダなんぞに居らんでよ」

ところが…である。ぼくの悲鳴が聞こえたのか、ギャラリートークの始まる５～６分前から続々と人々がやってくるではないか。まるで天使の行列のように。ようやく 10 分遅れでぼくがフロアーの真ん中に立ち、田島・斎藤・平木さんや九州の作家たちにもお客様たちの前に並んでもらってさあ司会の挨拶を始めようとしたら、ぼくのケイタイが突然鳴った。「もしもし○○ラジオ放送です。3 時の番組でおたくの展覧会のことを紹介しようと思うのですが…」と若い女性アナウンサーの声。肝心の○○がよく聞き取れなかったけれど、そんなことは構っておれない。こちらも早口で説明するのだが、向こうもしつこくどんどん訊いてくる。ぼくの前ではたくさんの観客…おもにおばちゃんたちが並んだまま「まだか、まだか」としびれを切らしている。ぼくは汗だくで応対しながら、何度も「もうギャラリートークが始まっていて今皆さんが目の前で待っていらしゃるんです。」と悲鳴を上げるけれど、ケイタイの中の女性アナも必死でさらに質問の山。やっと終わらせてもらったら、田島さんが「今のはＮＨＫか？」…「やぁー、どこやったろうか」とぼく。

ギャラリートークはまず田島・斎藤・平木さんに自らの作品の前でその解説をしていただいた。さすが九州である。おばちゃんたちがどんどん質問してくる。後ろで加藤恵さんたちが写真撮影をしている。盛り上がりそうだ。その後は九州の作家たちが自らの作品の説明をする。どの説明もそれなりに長くてギャラリートークはなかなか活況を呈した。延々 2 時間以上。気がついたら、みんなずうと立ちっぱなしで疲れはてた観客から順々に一人ずつ脱落していったようだ。最後は「銅版画をやられる時はどうぞ我が工房へ」と笑わせたところでお開きとなりました。後の飲み会で、田島さんは「あれはギャグじゃなくてかなり真剣だった」とぼくに言ったっけ。

6 時からいよいよオープニングセレモニーである。久しぶりに会っ昔の友人と話をしている暇もなく、周囲はたくさんの人だかり。百人ぐらいは来てくれたかも知れない。

「取りあえず一度皆さんに会場から出ていただいて、まずはテ - プカット。テープカット。」ぼくらは大忙しだ。まず、安永元館長とタイ政府観光庁のトーンティップさん、タイ政府貿易センターのカムヘーンさんやタイ航空のワラワンさん、そして京都の皆さんらに一列に並んでもらい 無事に

テープカットが終わると、会場内でのセレモニーだ。館長の代理で話していただいた安永顧問の挨拶はさすがだし、田島さんの挨拶もなかなかだ。タイ政府の挨拶は「タイと日本は同じ王国で…」とこれも結構長いがタイ語の柔らかい響きが日本人には珍しく観客たちにも好評のようだ。「隣りのレストランはアジ・カフェで簡単な宴会の席を用意しています。みなさんには会場内の絵をもう少し見ていただいたら場所を移して30分後にパーティを始めまーす。」このパーティも裏方で奔走してもらった徳成、田中さんたちのおかげで大盛会だった。

こうして展覧会のパブリックなオープニングは無事終わった。多くのお客さんたちも帰った。「さーあ、これから長浜ラーメンに行きましょう。」と呼びかけるとなぜか若い女性たちが「私も」「私も…」と言っている。ふだんぼくの銅版画教室には滅多に通って来ない女性たちがなんでこんな飲み会だけは威勢良く参加するのだろうと、どうも納得がいかないが、横で斎藤さんが「若い女の子は大歓迎!」と叫んでいるし、まあいいか。

タクシーで押しかけたテント張りの屋台ラーメンは破れたテントの隙間から風がびゅうびゅう入り込み、周囲のお客たちの騒々しい声でちょっと怪しいが、無事、大仕事が終わった安心感からかやがて酒も話も絶好調。ぼくらの博多の夜は酩酊していったのだ。

9日に田島さんたち3人が帰ったあとは、10日間が長かった。来る日も来る日も例年にない寒波。どうも客の出足が今ひとつだったが、最後のワークショップが良かった。ひどい風邪なのに盛り上げてくれた佐藤さん、ご苦労様でした。女性客が全員佐藤さんの方に行ってしまい、おかげでぼくの制作ワークショップの方は惨めでしたが、展覧会自体は総じて成功だったと胸を張りたいと思います。それから、最終日の搬出のお手伝いに来ていただいた良平さん、佐久間さん、本当にありがとうございました。またギャラリーを提供して下さった武田さんや平田、田中、徳成、赤司、加藤、藤本、大山さんなど多くの皆様方に感謝したいと思います。おかげさまで楽しい思い出深い展覧会でした。

# 公募展案内

（詳細を知りたい方は、募集要項をお取り寄せ下さい。）

## ■第74回日本版画協会展■

＜直接搬入＞２００６年3月２６日(日)午後１２時より午後４時まで。3月２７日(月)午前１０時から午後４時まで
＜委託搬入＞２００６年3月１６日(木)～２３日(木)の間に必着のこと。
＜応募規定＞公募展未発表の版表現されたものとする。
すべて壁面陳列に適当な装備(作品保護)を施すこと。
作品の大きさによる部門別審査とする。作品規定は以下の通り。
A部門：出品作品の額外寸が75×60cm以上200×200cm以内
B部門：出品作品の額外寸が75×60cm未満
フレーム(額)1枚を1点と見なすので、組作品は1枚のフレームに装備すること。
ガラスを使用した額装は不可(アクリル等が望ましい)。
＜会期＞２００６年４月６日(木)～４月２１日(金)／１７日(月)休館
午前９時～午後５時(入場４時３０分まで)但し最終日は午前３時(入場２時まで)
＜会場＞東京都美術館
＜賞＞入選作品の内より、日本版画協会賞(３０万円)１名、山口源新人賞(２５万円・受賞作品額付き買い上げ)２名、他に新人賞(１０万円・シートのみ買い上げ)、立山賞(１０万円・シートのみ買い上げ)、A・B各部門奨励賞若干名、賞と賞金を贈ります。(山口源新人賞受賞作品は沼津市に帰属します)
＜応募要項・問い合わせ＞社団法人日本版画協会事務局
〒252-0826　神奈川県藤沢市宮原3447-3　鈴木方
TEL・FAX 0466(48)1149
展覧会期中の事務所　TEL03(3823)6921　東京都美術館内、版画展事務所

# 掲示板

会報にお寄せいただいた京都版画展の出品者の展覧会、活動情報です。詳細は会場等へお問い合わせください。

**●朝日みお●**
＜展覧会＞
会期：２００６年2月１０日～3月3日
場所：ギャラリー山の手
　　札幌市西区山の手七条６－２５
TEL　：０１１―６１４―２９１８

＜日本・タイ国際版画展受賞者展＞
会期：２００６年5月9日～１５日
場所：平安画廊
　　京都市中京区寺町三条上ル

**●角間貴生●**
＜角間貴生版画展ー夢と詩のイメージたちー／日本・タイ国際版画展受賞者展＞
会期：２００６年5月１６日（火）～２１日（日）
場所：平安画廊
　　京都市中京区寺町三条上ル
TEL　：（０７５）２３１―０６９４
内容：自然と人間との交感をテーマに自らの心象風景を具象化した木版画・銅版画作品

＜角間貴生版画展＆ワークショップ＞
会期：２００６年6月１３日（火）～１８日（日）
場所：福岡市美術館・特別展示室Ｂ
　　福岡市大濠公園

**●久木　朋子●**
＜久木朋子木版画展＞
会期：２００６年6月１５日（木）～２１日（水）
場所：近鉄百貨店　阿倍野店　6階　アートギャラリー第2
　　大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43

**●敷地光子●**
＜敷地光子銅版画展＞
会期：２００６年5月３０日（火)～６月１０日(土)
場所：ギャラリー八十川
　　神戸市東灘区住吉本町１－６－８

**●ツツミアスカ／福岡舞子●**
**＜３人展－3 styles derived from print making＞**
会期：２００６年2月２１日（火）～2月２６日（日）
場所：ギャラリー三条
　　京都市中京区三条小橋西入　鶴の井ビルF３

**●山本桂右●**
＜山本桂右展＞
会期：２００６年3月２７日（月）～4月1日（土）
場所：養清堂画廊
　　〒１０４－００６１　東京都中央区銀座５－５－１５
TEL　：03-3571-1312

＜山本桂右展＞
会期：２００６年4月２５日（火）～5月７日（日）
場所：ギャラリー白川
　　〒６０５－０８２２　京都市東山区祇園下河原上弁天町４３０－１

## 編集後記

今回の号は、会報担当のスケジュール調整が上手くいかず原稿を依頼した先生方にご迷惑をおかけしましたが、皆様のご協力もあり無事発行する事ができました。やはり会報の内容が興味深いものになったのは、原稿を依頼させて頂いた方々、各種情報をお寄せ頂いた方々のおかげだと大変感謝をしております。次回の発行は半年後を予定しています。皆さんからのご寄稿や、展覧会情報などを広く募集しておりますので、どしどしお寄せ下さい。それでは、今後とも宜しくお願い致します。尚、掲載希望の記事、情報等の送り先のお間違えがないようご注意下さい。
会報担当一同



PANN News Letter
Vol.07
Printmaker's Association of Nishi Nippon
July 2006

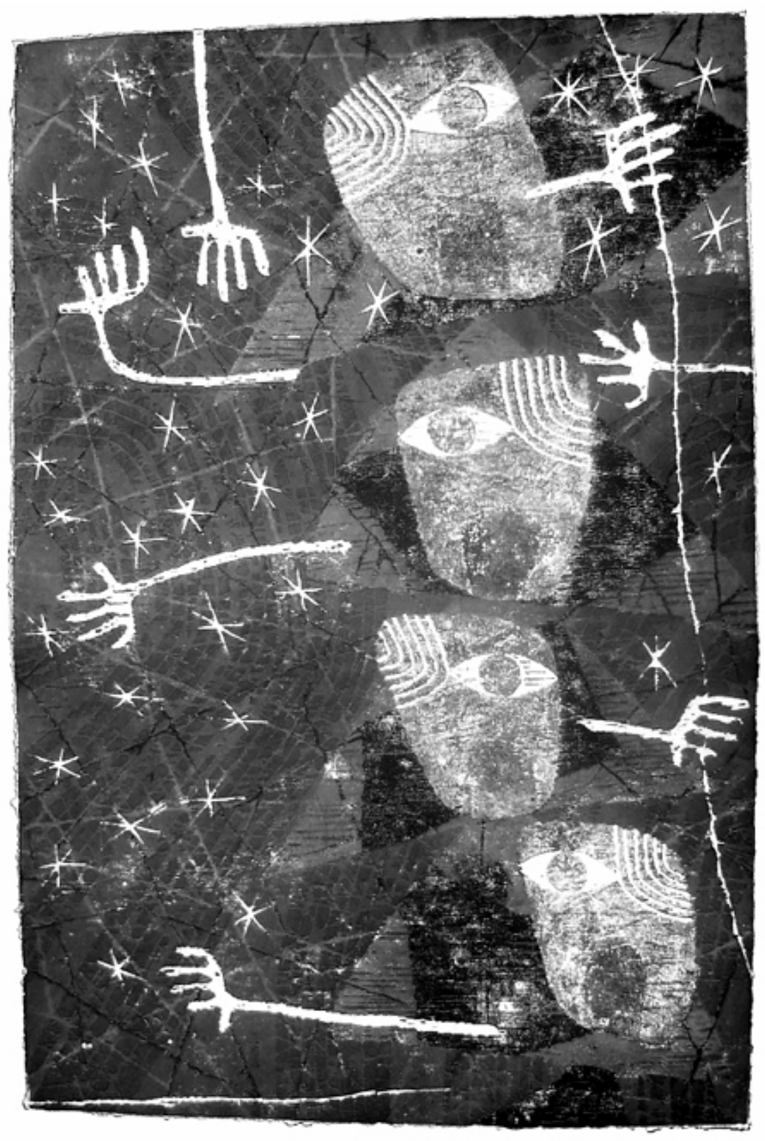
## ● 会報第7号の発行によせて ●

今回の作家紹介では今年５月に平安画廊にて開催された『日本・タイ国際版画展受賞者展』の出品作家である角間貴生氏を取り上げました。

また、新企画『ニッポン　工房の旅　津々浦々』は、工房や教室を運営されている作家の方にお話を聞き、そこから人と人の繋がりが出来れば と思い始めました。そして、文化庁からの海外研修に行っておられた坂爪厚生氏のオランダ研修の滞在記など、それぞれ大変興味深い内容となっておりますので、是非じっくりとお読み下さい。

# Kakuma Takao

**角間　貴生**



「星座　CONSTELLATION」
92×61cm
木版画（１版彫り進み）
2006年制作

# Contents

■会報第７号の発行によせて

■作家紹介　角間 貴生さん

■ニッポン　工房の旅　津々浦々No.01
アート工房創　鈴木　良治

■枯葉マークのオランダ滞在記―その１―
坂爪　厚生

■公募展案内

■掲示板

■編集後記

PANN
Printmaker's Association
of Nishi Nippon

作家紹介

# Kakuma Takao

## 角間　貴生 さん



「作家活動とは何かを考える」をテーマに編集スタッフがお話を伺います。
今回は角間貴生さんです。角間さんは福岡を活動の拠点とし、銅版画や木版画などを制作されています。
自然との交感をテーマに独自な宮沢賢治的心象イメージ世界を表現されています。

**Q1.** ご自身の作品について（テーマ、コンセプト等）
**Q2.** 作品を作る上で、1番大事にされている所はどんな所ですか？
**Q3.** グループ（団体）に所属して作品を発表する事について、どう思いますか？
**Q4.** 角間さんは福岡にお住まいですが、九州の作家の作風や気質などがあれば教えて下さい。
**Q5.**今後の作家活動について、将来の夢など教えて下さい。
**Q6.**福岡のおすすめのお酒があれば教えて下さい。

**<A1>**
光や風や星や月といった自然との対話から、ぼくの中に生み出されてくる様々なイメージ群…心象風景をテーマにしています。「イメージの豊かさ、想像力の豊かさ」こそが「生きることの豊かさ」と考えるからです。

**<A2>**
ぼくという個人的なイメージでありながらも、常にそれらのイメージが普遍的な一般性を持つものであることを考えます。具体的には絵の形や構成がフレッシュであることや相互の色面が美しくあることを願っているのではありますが…それがなかなか…（笑）。観念的な理屈や抽象的なテーマより、まずは誰にでも理解できストレートに感動してもらえる作品をつくれたら、といつも思っています。

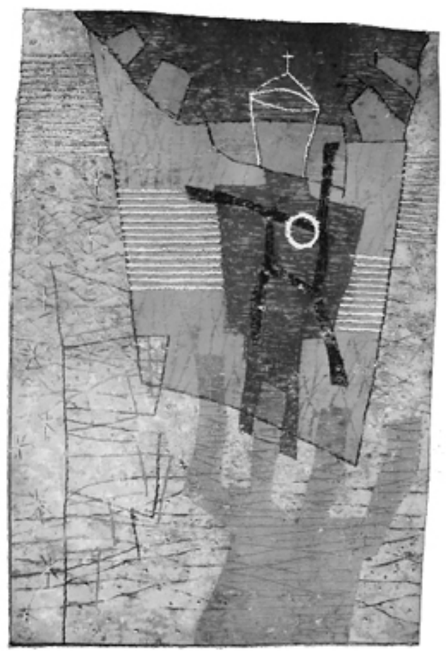
**<A3>**
ぼく自身は美術大学の出身ではないし、３０歳を越えてから独学で版画を勉強してきたこともあって、絶えずグループとの接触を求めていました。自分で九州版画会を立ち上げたり、日韓の交流展に努力したりしたのも、そんなぼくのコンプレックスからだと思います。今は京都版画会のみなさんとの交流から創作の刺激をもらえるし、色々な勉強をさせてもらえることがぼくの励みになっています。煩雑な事務的なことを京都の人たちにやってもらっていて、ただただ感謝しておりデメリットは感じません。昨年末の福岡での日本・タイ国際版画展はそれはそれは大変でしたが…。

**<A4>**
もう通算して２５年近くは福岡に住んでいることになりますが、未だに九州人という自覚がありません。ぼくのイメージの根っこは、二十歳近くまで過ごした故郷・北陸の原風景なものですから。昔の「九州派」といった運動などには九州らしい荒々しさのパワーがあったのでしょうが、現在の九州の作家たちから、共通した九州気質みたいなものを特別に感じたことはありません。ぼくが付き合っている韓国・プサンの作家たちの方がローカルなエキサイティングさを感じます。



「シルエット」61×43cm木版画（1 版彫り進み）2006年制作

**<A5>**
創作活動の出発点が遅いので、これからこそが本格的な作家活動と考えています。日本各地、そして世界各地で、制作ライヴをからめながらの作品展を開いて、できるだけ多くの方々に絵を見てもらい感動を与えられる…そんな全国行脚、世界行脚がぼくの夢です。



「道　On the road」92×61cm
木版画（１版彫り進み）2006年制作

**<A6>**
アルコールはいつもビールかワインしか飲まないので、福岡の日本酒についてはよく分かりません。聞くところによると、大吟醸「大手門」が通好みだそうですが…。ぼく自身は焼き鳥屋で駄洒落でもかましながら、みんなとわいわいビールを飲んでいるのが至福のときです。

### プロフィール

1947年 富山県高岡市生まれ
1983　国立九州芸術工科大学・版画研究室卒
ヨーロッパ、アメリカ、インド、ネパールなどを旅行後、1983 年より九州、東京、韓国、アメリカ合衆国、スペインなど各地で個展や展覧会を開催

### 主要な展覧会

個展 /　福岡市美術館（1983，1984,1986，1987）由布院空想の森美術館など（1992、1993 大分）ギャラリーとわーる（1988，1989、1990 福岡）ギャラリおいし（1992 福岡）ギャラリー源（1995,1996,1997 福岡）　養清堂画廊（1996,1997 東京）久我記念美術館（1998 須恵）ギャラリー風（1998 福岡）MILESTONE ART WORKS（2001 富山）ギャラリー IRIS（2002 福岡）　個展 /Gallery MESA, Gallery HILL , 石波美術館（1998,1999,2002 プサン 韓国）Gallery Jamiwon (2005 プサン ) 二人展 / 角間＋本郷 R 展（1983,1984,1986 福岡市美術館）Pilkey&Kakuma 二人展（1994Brady Commons Gallery, アメリカ合衆国）角間＋みね展（1999 ギャラリー風）角間＋井上敬一展（2001 SOHYANG GALLERY 韓国）グループ展 / 2001 年の旗手展（1991 福岡県立美術館）　JAPON Y ARTE 展（1994,1995　Barcelona,Montilla スペイン）九州現代版画展（1992,1993,1994,1995 福岡、北九州、熊本）島原アートプロジェクト（1995 島原）長崎水の波紋 `95（1995 長崎）日本アジア現代版画展（1996 福岡県立美術館）日韓現代版画交流展（1997,1998,1999 福岡アジア美術館）韓日現代版画の模索展（1997, 1998, 1999, 2000　ソウル 韓国）　International Exchange Show（1999 Los Angeles アメリカ合衆国）Seoul ICDExhibition（2000 ソウル 韓国）など

### 主要な入賞展

グフイナール国際美術展入選（1988 フランス）飛騨高山現代版画ビエンナーレ入選（1999、2001、2005　高山、岐阜）CWAJ 現代版画展入選（1995、1996、1999、2000、2003、2005 東京）大野城まどかぴあ版画ビエンナーレ入選（2000、2002　大野城、福岡）日本版画協会展入選（2002、2003、2004、2005　東京）Seoul ICD Exhibition 入選（2000 ソウル韓国）SPACE 国際版画ビェンナーレ入選（2002　ソウル）Busan International Print Art Festival 招待（2003、2004 プサン）日本・ブルガリア国際版画展（2003 京都、徳島）　棟方記念版画大賞展入選（2004 福光）ランプリ池田満寿夫大賞受賞（2004 大野城まどかぴあ）日本・タイ国際版画展奨励賞受賞（2005 京都、福岡）山本鼎版画大賞展入選（2005 上田）プサン国際ビエンナーレ招待作家

### 所蔵

久我記念美術館（福岡）由布院空想の森美術館（大分）陝西省美術博物館（中国）　石波美術館（韓国）大野城まどかぴあ（福岡）ロサンゼルス・カウンティ美術館（米国）

### その他

日韓アート交流会を主宰、版画京都展会員、プサン大学芸術論集執筆、エッセイスト詩画集「らぶ◎すとーりー」絵本「イーハトーヴの空色切符」発刊 / 西日本銀行カレンダー制作（1992）福岡市広報誌「鴻都」表紙制作（1998 年より）
HP→http://members2.jcom.home.ne.jp/yumemaru/

PANN
Printmaker's Association
of Nishi Nippon

# ニッポン　工房の旅　津々浦々No.01

アート工房創　鈴木　良治

委員会の方々の中に工房や教室を開かれている方も少なくないはず!?そんな思いつきから、それでは亀の歩みだけれどもゆっくりと紹介していこうと思いこの欄をつくりました。
今回は『アート工房創』の鈴木良治さんにお伺いしました。

＜Q１＞工房を始められたきっかけを教えてください。
A. 鈴木美恵さんが始められた教室に絵画担当として参加したのがきっかけです。

＜Q２＞工房ではどんな事を教えておられますか?
A. 受験コース、一般コース、高学年チャイルドコースで、油絵・アクリル水彩・透明水彩・デッサン・粘土造形など教えています。



左
鈴木良治
『Jump Ⅱ』
リトグラフ
90×70cm
2002年制作



上　工房風景①

＜Q３＞ホームページを拝見しましたが、自由で楽しそうな印象を受けました。実際に教えられる中で発見する事や感じる事があれば教えてください。
A. 自分が知っていることを人に教えるには、欲しがっている情報が何かわかること。整理して伝えないといけない事。対話があって初めて進歩できるという事。皆違うこと。当たり前だと思うことが実は難しい事。教える事は難しい事。

＜Q４＞沢山の生徒さんと接しておられますが、教えられる中で何を一番に伝えたいですか?
A. 楽しんだもの勝ち。　自分を飽きさせずにいつも面白く出来る人は幸せです。楽しく成れれば周りの人も観に集まってくる。好きな事を好きなだけする。

＜Q５＞工房での面白いエピソードがあれば教えてください。
A. ちびっ子達が大きくなって美大受験すると教室にかえって来たこと。

アート工房創
〒770-0868
徳島県徳島市福島 2-5-9-2F
TEL : 088-625-8158
HP→http://www.tcn.ne.jp
/~artschoolsou/



工房風景②

# 枯葉マークのオランダ滞在記―その１―

坂爪　厚生

タイとの交流展のオープニングのすぐ後 9 月 30 日関空を飛び立つ。夕方のアムステルダムは冷たい雨と風で、オランダはもう冬かよ～?といささかブルーな気分になる。幸い天気は持ち直し、例年になく暖かいというオランダの秋を楽しむことができた。
研修期間は 80 日ということでアパートを借りた。
４階建ての築?百年という石造りの家の１階、内部を改装したところで小ぎれいで洒落ていて気にいった。シャワーを浴びて日本風料理を作り、ビールを一杯･･･オランダ独身生活ばんざいだ。ただ早朝、２階の住人の足音などの物音にはじめのうち悩まされた。



アパートの部屋から

オランダのレストランの料理は１人前が２人前、とても食べきれない。その上大味ときている。１週間くらいは胃薬のやっかいになった。オランダは自炊にかぎる?　日本の食材はアムステルダム中央駅の南の運河沿いに広がる中華街の小さなマーケットでほとんど手に入る。インスタントラーメンなどは中国製、韓国製といろいろ、日清の「出前一丁」も中国製で海鮮味やらバラエティーに富んでいる。これが結構うまくていろいろ食べた。この地域は運河を挟んで飾り窓地帯と接していて、狭い道の両端の飾り窓を片目に見ながら買出しにいった。ショウウインドウのなかの女性たちの迫力には圧倒的されれる。押しつぶされちゃう?　小窓から顔を突っ込んでたアラブ人?が、中に消えるやカーテンがさっと引かれた。このあたりは危険地帯といわれるが観光客が沢山歩いているし、それほど危険は感じなかった。



プリンツェン運河

この飾り窓地帯の南には旧教会がどっしりと建っている。細い路地をはさんで聖と性が向き合っている。人間の両面が背中合わせになっているようでどきっとする。これ、オランダ的風景?　おおらか?自由?ひとそれぞれ?
ウイークデイは大体スタジオの AGA（Amsterdams Grafisch Atelier）に出かけ 5 時過ぎまでエッチングの制作をした。アパートからトラムを使って約 30 分の距離で、歩いても 1 時間足らず。オランダは自転車が便利というけど、ここの自転車のスピードにはついていけそうにないのでやめた。その代わり、トラム、地下鉄、バス共用のパス買った。
AGA は、広いスペースにすべての版種の設備がそろい、充実している。とくに健康と環境に配慮した設備になっている。具体的なことは別の機会に話せればと思う。
文化庁という御印籠のおかげか、1 部屋を専用に使わせてもらい、鍵一式を借りて、いつでも好きなときスタジオを使うことができた。最初に夜の 9 時過ぎまで一人で仕事したときは、高い天井に並んだ蛍光灯のスイッチがどうにもわからず、あちこち電話し、技術指導員のクリスティーナに消しに来てもらうというおさがわせをしてしまったりした。



旧教会と飾り窓の家

スタジオでは亜鉛版でのエッチング作品の制作と並行して、技術指導員のエリックをつかまえフォトエッチングの技法を教えてもらった。感光乳剤の代わりにポリマーフイルムを使う方法だが、悲しいかな英語力の欠如、説明が十分理解できない。オランダ人はでかいのが多いが、エリックも 190cm はあろうかという大男で、まさに食い下がる?という感じでいろいろ聞いて、どうにか 3 点の作品らしきものを作ることができた。

つづく



GAU にて
左からマネージャーのヨローン、技術指導員クリスティーナ、コーディネーターのアフラ

AGA の HP→HYPERLINK "http://www.amsterdamsgrafischatelier.nl"
www.amsterdamsgrafischatelier.nl

## ■第 18 回富嶽ビエンナーレ展■

＜作品搬入＞２００６年 11 月 26 日 ( 日 )
＜応募規定＞平面作品 ( 壁面に展示可能な作品 ) ・立体作品 ( 日本画、油彩画、水彩画、版画、工芸、彫刻・造形 )1 人 1 点として、2005 年以降に制作された未発表作品に限る。出身・在住・国籍は問わない。F130 号 (194.0cm×162.1cm) 以内。
＜出 品 料＞9,000 円
＜会期＞2007 年 1 月 2 日 ( 火 )～1 月 28 日 ( 日 )
＜賞＞大賞300 万円買上げ／準大賞 100 万円 ／優秀賞 50 万／佳作30 万円
＜応募要項・問い合わせ＞〒422-8033 静岡市駿河区登呂 3-1-1 静岡新聞社・静岡放送 事業局事業部内『第 18 回富嶽ビエンナーレ展』事務局
TEL 054-284-1869 ( 月～金の 9:00～7:00) FAX 054-284-9031

# 公募展案内

**（詳細を知りたい方は、募集要項をお取り寄せ下さい。）**

## ■第 5 回大野城まどかぴあ「版画ビエンナーレ展」■

＜作品搬入＞２００６年９月２日（土）・３日（日）　10：00～17：00
＜応募規定＞15 歳以上（中学生は除く）で住所は問いません。
＜作品規定＞①版形式は、凸版・凹版・平版・孔版。②本人が制作したもので、公募展未発表のもの。③額装されていること。但し前面のガラス入りは不可。アクリル板に限る。④サイズは 6 号～30 号以内（マットを含む）、厚さ 5 ㎝以内。（額を含む）⑤出品は 1 人 3 点まで。
＜出 品 料＞1 点につき　2,000 円
＜会期＞2006 年 9 月 30 日（土）～10 月 8 日（日）10：00～18：00
入賞・入選作品を多目的ホールに展示します。※最終日は 15：00 まで。
＜賞＞池田満寿夫大賞 30 万円／大野城市長賞 15 万円／大野城まどかぴあ賞 5 万円／審査員特別賞 3 万円
＜応募要項・問い合わせ＞大野城まどかぴあ「版画ビエンナーレ展」事務局
〒816-0934 福岡県大野城市曙町 2 丁目 3 番 1 号
☎092（586）4000　FAX092（586）4001
http://www.madokapia.or.jp/

## ■あさご芸術の森大賞展■

＜作品搬入＞２００６年６月１日（木）～8 月 25 日（金）
＜応募規定＞国籍、経歴、年齢不問。応募者本人が 2004 年 1 月以降に制作し所有する未発表の平面作品（個展、卒業制作展、学校展で発表したものは未発表とする）。立体、CG、映像作品不可。1 人 2 点以。要項は 270 円の切手を同封の上、下記住所まで。
＜出 品 料＞1 点 8000 円、2 点目 4000 円
＜会期＞2006 年 10 月 21 日（土）～11 月 26 日（日）あさご芸術の森美術館
＜賞＞大賞 1 点（300 万円、作品買上）、準大賞 1 点（150 万円、作品買上）、優秀賞 3 点（10 万円）他
＜応募要項・問い合わせ＞あさご芸術の森大賞展事務局
〒679-3423 朝来市多々良木 739-3
☎079-670-4111　FAX079-670-4113

# 掲示板

会報にお寄せいただいた京都版画展の出品者の展覧会、活動情報です。詳細は会場等へお問い合わせください。

**●朝日みお●**
＜展覧会＞
会期：２００６年9月１９日～２６日
場所：画廊シャノワール
　　川西市小花１－８－１ジョイン川西１F
TEL ：０７２―７５８―０８１１

**●坂爪厚生●**
＜展覧会＞
会期：２００６年１２月１２日～２８日
場所：平安画廊
　　京都市中京区寺町三条上ル
TEL ：０７５-２３１-０６９４

**●柴田真由美●**
＜柴田真由美　版画展＞
会期：２００６年１１月１日(水)～１４日(火)
　　10：00～20：00（最終日は午後5時閉場）
場所：大丸京都店６階　アートスポット
　　〒600-8511　京都市下京区四条高倉西入
TEL ：０７５-２１１-８１１１（代表）

**●二階武宏●**
＜木口木版展＞
会期：２００６年9月６日～１０月１６日
場所：ギャラリーアートグラフ
　　愛知県 名古屋市 千種区 末盛通４－１３

**●坪山由起●**
＜坪山由起銅版画の軌跡（仮称）＞
会期：２００６年9月１８日～３０日
場所：ギャラリー美游館
　　〒589-0022　大阪狭山市西山台6-1-16
TEL ：０７２-３６７-５６５０

＜坪山由起銅版画展＞
会期：２００６年１１月１４日～２５日（月曜休廊）
場所：ギャラリー八十川
　　〒658-0051　神戸市東灘区住吉本町１-６-８
TEL ：０７８-８４５-９３６６

## 編集後記

お詫び…前号の会報で印刷時に左右が逆転したまま刷ってしまい誠に申し訳ございませんでした。以後、このような事がないよう気を付けたいと思います。
さて今回から『工房の旅』を始めました。何かの工房や教室をされている方がおられれば是非会報担当までご一報下さい。次回の発行は半年後を予定しています。皆さんからのご寄稿や、展覧会情報などを広く募集しておりますので、どしどしお寄せ下さい。それでは、今後とも宜しくお願い致します。尚、掲載希望の記事、情報等の送り先のお間違えがないようご注意下さい。
会報担当一同



# PANN

News Letter

Vol.08

Printmaker's Association of Nishi Nippon

May 2007

## ●会報第8号の発行によせて●

今回の作家紹介では今年３月に京都精華大学版画専攻を退職された黒崎彰氏を取り上げ、作品制作における様々な思いを伺いました。また、この会報(PANN)を発行している、KYOTO版画展(版画京都展実行委員会)を立ち上げたきっかけなどもお聞きしました。そして、文化庁からの海外研修に行っておられた坂爪厚生氏のオランダ研修の滞在記や、KYOTO版画展出品作家よる作品研究会、当委員会開催の『日本・タイ国際版画バンコク展』の報告など、それぞれ大変興味深い内容となっております。

## ■作家紹介

# 黒崎　彰

表紙作品
『馬のくら:〈遊牧の民シリーズ〉より6』
木版画:7版6色／韓国楮紙／89.5×59.5cm
2002制作

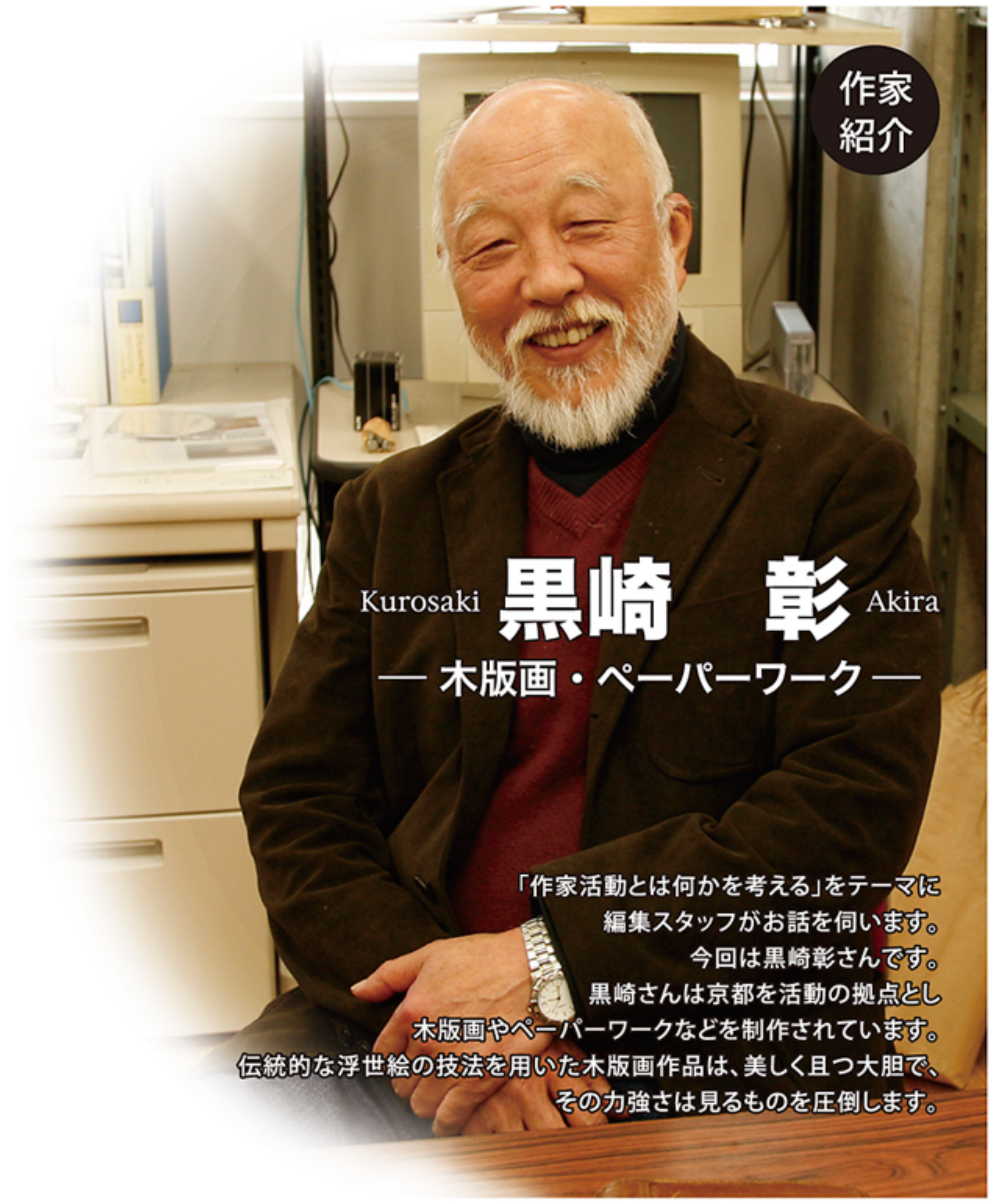
## ■枯葉マークのオランダ滞在記ーその２ー

坂爪　厚生

## ■版画京都展実行委員会　活動報告

## ■掲示板

KYOTO版画2007




## 黒崎　彰 Kurosaki Akira
### ― 木版画・ペーパーワーク ―

「作家活動とは何かを考える」をテーマに編集スタッフがお話を伺います。今回は黒崎彰さんです。黒崎さんは京都を活動の拠点とし木版画やペーパーワークなどを制作されています。伝統的な浮世絵の技法を用いた木版画作品は、美しく且つ大胆で、その力強さは見るものを圧倒します。

＜質問1＞
近年、作品に白が使われることが多くなりましたが、何かきっかけがあったのですか?

ボクは長い間「浮世絵木版画」の技法にこだわってきました。そこでは、雪などの表現に直接ふりかけることはあっても、白を刷ることはありません。それに気が付き、地色に使ったことの無い白を刷ってみたいと思ったからです。また、白や黒には「死」のイメージがあります。黒はまだ怨念の残る死、白にはそれも無い死。ちょうど、「ネクロポリス」（死の都市）というテーマを思い付いた時、使う色は白しか無いと考えました。

＜質問2＞
作品を作る上で、一番大事にされている事は何ですか?

単純な答えかもしれませんが、以前の作品より、さらに新鮮で新しく、実験的な作品を作ることです。後で振り返ってみると、いつも思い通りに行ってるとは限らないので、がっかりすることがしばしばですが。



＜質問3＞
版画京都展を立ち上げたきっかけについて聞かせて下さい。

すべて書けば長くなりますから、簡単に要点だけ述べます。
①田島征彦氏との次のような会話が最初の契機となりました。
②私たち同時代の作家たちも若い時には先輩（前田藤四郎先生、川西裕三郎先生たち）にお世話になりましたが、同じことをするべき年齢になった。
③関西にはフリーの版画家が多い。日版会の作家が少なく、また誤解もされている。日版会の歴史的存在や功績に関して一般の理解をすすめる必要性がある。
④現今の日版会は関西のために何をしたか、答えはNO。東京展のためだけに会費が使われています。ならば、西日本の力を見せてその誤りに自覚を促したい。
⑤東京展は巨大になり過ぎ金もかかり、一年中それで終わっている。もっと楽しく、自由な版画展ができるのではないか。などなどで始まりました。

＜質問4＞
グループ（団体）に所属して作品を発表する事について、どうお考えですか?（メリット、デメリット等）

団体のメリット、デメリットはこれまでも多く語られてきました。それでも無くなりはしません。つまりメリットがあるからです。地域を越えたプロの友人を作り、互いに研鑽、勉強ができるからです。日版会は少々特別で、それは職能団体的であり、世界の版画集団とのネットワークを持っています。日版会の会員はつまりは「版画のプロ」を意味しているのです。

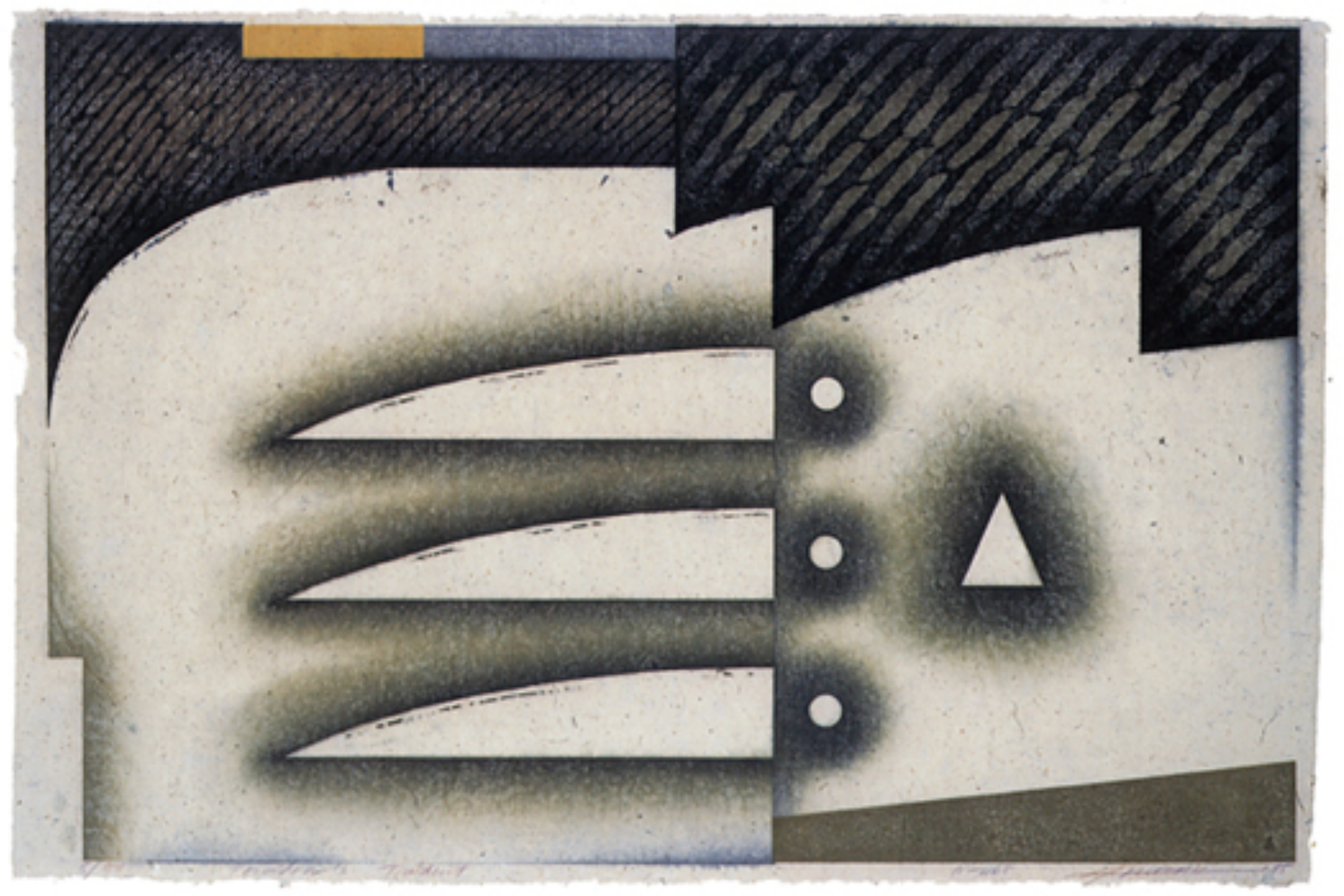


＜質問5＞
二〇代～三〇代の若い作家がどんどん活躍していることについて、どう思われていますか?（作風、作家自身とお話されて感じること等）

若い作家が活躍するのは当然のこと。もしそうでなかったら太陽が昇らない毎日です。ただ、ボクを含めて作家はいつでもよい作品を作り、活躍したいと思っているものですから、若い作家はよい競争相手だと思っています。負けたくありません。

＜質問6＞
今後の作家活動について、実現させたい夢など教えて下さい。

①現在制作点数六〇二点、これを一〇〇〇点に近づける努力をしたい。
②版画、木版画、紙のルーツを探るリサーチを続けたい。（そのためにネパール、ブータン、ベトナムは絶対に訪ねるぞ。）
③教育現場からできるだけ遠くに離れ、作家オンリーでいたい。
④少子化回避に協力して、もう二、三人子供を持つのもいいなあ。実現不可能（?）であればアダプション（養子）も考えています。などなど…



作品　上中央：ネクロポリス4〈沈黙の風景〉／六版六色／韓国楮紙／九〇×六〇cm／二〇〇六　右下：黄金の雨／混合手法：手漉き紙、顔料、柿渋、油絵の具／六六．五×四六．五cm／一九九九　左下：三叉の矛…〈ガイア〉シリーズ／六版九色／韓国楮紙／六〇×九〇cm／一九九五

# KYOTO 版画 2007

## 枯葉マークのオランダ滞在記ーその2ー
坂爪　厚生

個展は十月三一日から十一月十一日、ワークショップが十一月九日からの三日間と決まり、会場の下見と打ち合わせを兼ね、ライデン大学に講義に来ていた黒崎先生、アムスの画廊オーナーの松本さん、三好さんとGAU（グラフィックアトリエ・ユトレヒト）に出かけた。ユトレヒトはオランダ第四の都市で、日本での京都といったところか。街はドム塔とその隣にあるユトレヒト大学を中心に広がっている。工房は駅から十分ほどの住宅地にあり、ドム塔にも近い。

GAU の入口の右側に個展会場となる広いスペースのギャラリーがあり、その奥と二階が仕事場になっていて、何人かの作家が仕事をしていた。リトの作家が多いようだ。




個展とワークショップはマネージャーのドドが中心になっての段取りしてくれた。彼はトイレに［お手洗い］のプレートを掛けているような日本大好きのインドネシア人。

GAUには日本からの留学生もたくさんお世話になっているようです。

工房でスタッフや作家たちと一緒にオランダの昼食をご馳走になった後、黒崎先生、若い銅版画家の結城君とオルデ・バルト（古い水）村の三好さんのお宅を訪問。ムール貝のワイン蒸し、赤ワインとおいしいパンなどご馳走になりながら、版画談義に花を咲かせた。

三好百合子さんは版画協会の会員で数年前からオランダ人の版画研究家で銅版画家のアドさんと生活しているとのこと。彼女は留学生たちの情報センターといったところか。僕のAGAでの研修の受け入れ交渉等も手助けしてもらった。

個展オープニングの日、オランダ旅行にやってきた娘といっしょにGAUにでかけ、あ然とする。入口に案内もなければ、ギャラリーに作品がない。コーディネーターのアリアンも何で来たの?という顔をしている。それから大慌てでドドや主任のイネケさんなどに電話。どうにか翌朝には二五点の作品が額装展示され開催できた。オランダではオープニングは週末が慣例。ドドが日本流に月曜オープニングを予定して、それを忘れていたというお粗末でした。こんなところもおおらか、いいかげんなオランダ気質?

個展のオープンを確認し、翌日から娘をつれベルギーへ二泊三日の小旅行に出かけた。アントワープからゲントへ、ブルージュ、ブルッセルと回った。念願のハーブ大聖堂にあるファン・アイクの「ゲントの祭壇画」に出会えた。圧倒的な力、豪華絢爛、きらきら輝いてなめまいがしそう。

メゾチントのワークショップの受講者十一人、みな中年?女性。ユトレヒト在住の松尾、本山夫妻に応援をお願いした。奥さんの真樹子さんは角間さんから教え子である。

ワークショップは"How?""Why?"の連発で、"Like this"と実演するだけではとても引き下がってくれない。松尾君はオランダ語、英語どちらもOKで、彼女らの質問にも的確に対応、この難題をクリアーできた。なんとも彼女らは制作意欲旺盛、九時から五時まで、一緒に昼食休憩する以外、ずっと仕事。こっちは三日間でへろへろ。

個展の最終日、ワークショップ終了後、クロージングパーティーを開催。オランダの作家たち、画廊関係、美術愛好者など沢山来てくれた。留学生の留美子さん、虫さんもおにぎりなどもって駆けつけてくれ、娘の帰国と入れ違いにオランダ、ベルギー旅行に来ていた山本桂右さんも参加、賑やかで楽しいパーティになった。松尾さんの沖縄の三線演奏でワインの酔いも入って、踊りだしたり、いささかはしゃぎすぎ?の盛り上がりでした。黒崎さん、三好さんは一時帰国中で参加してもらえず残念。



AGAでの制作の合間、レンブラント、ブリューゲル、フェルメール、モンドリアンらの作品を中心に各地の美術館を見て回った。行き当たりばったりでかけるので、ゴッホを見にクローラー・ミュラー国立美術館に出かけたときは、冷たい雨も降り始め、暗くなった森の中の道を二キロも一人で自転車で走って帰るはめになった。

研修期間の終わりに、慌ててウイーン、バルセロナ、マドリッドと十二月三日より一週間かけて回った。ブリューゲル、ガウディー、ゴヤとフラメンコを訪ねる旅というわけだ。

冬から一気に初夏という感じのバルセロナで偶然、レンブラント展をみることができた。ガウディーのカサデミラにパリ国立図書館の三〇〇点ほどの銅版画が展示されてた。

「三本の十字架」は１刷から四刷が展示され、三刷から四刷への力強い変貌に強靭な意志を感じ背筋がぞくぞくする感動をうけた。三点の原版もま近に見られ勉強になった。

アムステルダムにもどって翌日には、ワークショップに参加したオーセさん宅のパーティ。その三日後、アパートにAGAの仲間、本山夫妻、黒崎先生、留美子さん、虫さんを招いて"うどんパーティー"と、ばたばたしている間に時間が過ぎてしまった。

AGAでフォトエッチングを制作もそこそこに、十二月十九日あわただしくスキポールを飛び立ち帰国した。関空の日差しの明るさに目をしばたいた。

## 坂爪　厚生 Sakazume Atsuo
### 銅版画

坂爪さんは昨年の９月３０日から８０日間、文化庁の芸術家海外研修員として、オランダの AGA（Amsterdams Grafisch Atelier）というスタジオで研修されました。
GAU(グラフィックアトリエ・ユトレヒト)で個展とワークショップを行い、その時のお話を前号から引き続き伺いました。
（AGA の HP　HYPERLINK "http://www.amsterdamsgrafischatelier.nl" www.amsterdamsgrafischatelier.nl）

作品：右下：ダム広場 /2006 年 /AGA で制作 / フォトエッチング
写真：右上:GAU 個展ポスターとドド氏（左）と坂爪氏（右）/ 左：ワークショップ・通訳の松尾君（右）と坂爪氏（中央）












2005年の京都市美術館別館の『日本・タイ国際版画展』に続き、今年の2月にタイ、バンコクのクィーンズギャラリーにて『日本・タイ国際版画バンコク展』を開催し、出品作家ら27名(内会員9名)が会期に合わせタイを訪れました。その後、カンボジアに渡り世界遺産をたくさん見て周り、収穫の多いツアーとなりました。

写真：左上/クイーンズギャラリー/王宮近く市の中心地に位置するバンコク銀行所有の美しい展示施設：中央上/ギャラリー2F日本作家作品展示風景：右上/ギャラリー3Fタイ作家作品展示風景：左下/カンボジア、アンコールワットにて：右下/展覧会オープニングレセプション





今年の3月に京都会館第2会議室にて、総会と日本版画協会展に出品予定作品の批評会、勉強会をしました。その後、京都会館カフェテラスにて懇親会を開き、会員の皆さんと楽しい時間を過ごしました。今年度は7月にも開きますので、ぜひご参加ください。

写真：左/作品講評会：右/懇親会
(写真提供：汾陽佐和子委員)

## 版画京都展実行委員会 活動報告

昨年の12月に版画集『京都十景』の出版とその企画展を京都の平安画廊で行いました。
2008年12月に同画廊にて2回目を行う予定です。出品作家は固定せず、当委員会メンバーの中から数名を変えていきます。

作品：右/祇園/川西祐三郎/木版画
　　左/清水寺/山本桂右/リトグラフ
写真：展示風景







## 掲示板

会報にお寄せいただいた京都版画展の出品者の展覧会、活動情報です。詳細は会場等へお問い合わせください。

**●朝日みお●**
＜展覧会＞
会期：２００７年4月１１日～１８日
場所：由美画廊
　　浜松市大工町３０３－１５
TEL ：０53－455－0004

＜展覧会＞
会期：２００７年9月２７日～１０月9日
場所：玉川高島屋　ルーフギャラリー
　　世田谷区玉川３－７－１
TEL ：０3－3709－2222

**●鈴木勝成●**
＜鈴木勝成展＞
会期：２００７年5月１５日～２７日
場所：平安画廊
　　京都市中京区寺町三条上ル
TEL ：０７５－２３１－０６９４

**●羽田多栄子●**
＜展覧会＞
会期：２００７年7月１６日～２１日
場所：番画廊
　　〒530-0047大阪市北区西天満2-8-1大江ビル1F
TEL ：０6－6362－7057

**●柴田真由美●**
＜柴田真由美　版画展展＞
会期：２００７年4月2日～7日
　　11：00～19：00(最終日17：00迄)
場所：ギャラリー神宮苑
　　〒150-0001　東京都渋谷区神宮前3-14-17
TEL ：０3－3470－7732

＜柴田真由美版画展＞
会期：２００７年5月２１日～２６日
　　11：00～19：00(初日13：00～、最終日16：00迄)
場所：光画廊
　　〒104-0061　東京都中央区銀座7-6-6 丸源ビル24-1F
TEL ：０3－3572－1855

## 編集後記

今回の号からカラーとなり、誌面デザインも新しくなりました。今回はスペースの都合上、公募展情報を割愛されて頂きました。公募展情報は各美術系雑誌や公募展の紹介サイト『登竜門』（ http://compe.japandesign.ne.jp/ ）などでお探し下さい。委員の皆さんからのご寄稿や、展覧会情報などを広く募集しておりますので是非お寄せ下さい。それでは、今後とも宜しくお願い致します。尚、掲載希望の記事、情報等は、会報担当か事務局までお願い致します。　会報担当　ツツミアスカ、福岡舞子

発行：版画京都展実行委員会

# PANN News Letter

Printmaker's Association of Nishi Nippon

Vol.09

April 2008

## ● 会報第９号の発行によせて ●

本年5月に京都市美術館別館で開催される日本・アメリカ国際版画展に向けての特集となります。日本とアメリカの版画工房の違いや版画に対する考えの違いなどを黒崎彰氏にお聞きし、また、山本桂右氏のアメリカ研修の滞在記を伺いました。そして、作家紹介では銅版画家の朝日みお氏を取り上げました。

それぞれ大変興味深い内容です。ごゆっくりとお読み下さい。



◆*Paulson Press*
*Louisiana Bendolph*
*"Threes Squares"*



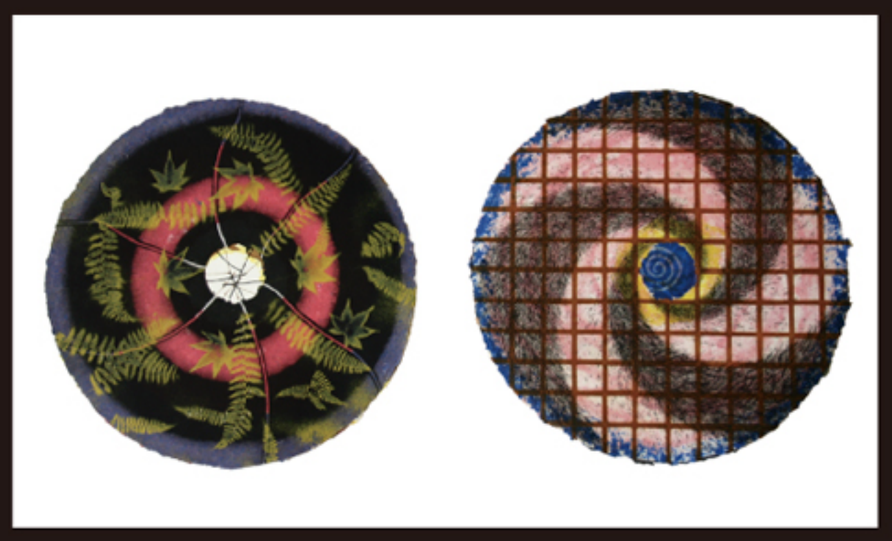
◆*Tamarind Institute*
*Jim Dine*
*"Tools for creeley III"*



◆*Solo Impression*
*Alexander Ross*
*"Untitled"*



◆*Segura Publishing Company*
*Luis Jimenez*
*"Ball Rattlesnake"*



◆*Pyramid Atlantic*
*Margaret Prentice*
*"No Past No Future in the Center I and II"*


■特集：アメリカ―版画の今―　黒崎 彰

■アメリカ研修報告 ―前編―　山本 桂右

■作家紹介　朝日 みお

■掲示板


KYOTO版画2008



日本・アメリカ国際版画展を開催するにあたり
国際的に活躍されている版画家の黒崎彰氏に
アメリカ美術での版画の位置づけや
日本との版画工房の違いなどを伺いました。




写真／右：ピラミッド・アトランティック版画工房内
左：ピラミッド・アトランティック外観
写真提供：右／黒崎彰　左／山本 桂右

**◆アメリカ展を企画することになった理由と経緯を教えて下さい。**

二〇〇五年のタイ展開催時期の頃から、多くの会員の皆さん、それに運営委員会委員の方々からの要請が強く、アメリカとの国際交流展開催の計画がはじまりました。

KYOTO 版画はこれまで中国、ブルガリア、タイと交流展を続けてきました。つまり、アジアを中心に東欧圏の版画を紹介してきましたが、その姿勢は日本であまり知られていない版画や版画活動を一般の方たちにぜひ紹介したいと考えた結果でした。しかし、皆さんの中から現代美術、版画の活動で指導的な役割を果たして来た国、例えばアメリカとの交流展をそろそろ開催すべきだとの意見が上がり、今回の企画につながったのではないでしょうか。

ただ、アメリカ美術はジャンル分けを嫌う傾向が強く、画家、彫刻家をはじめ、版画を制作する作家は群を抜いて多く、教育機関、団体、組織、工房の数も他の国と比較できない豊かさを誇っているために、展覧会の内容を強くアピールするには企画の絞り込みが必要でした。そこで委員会メンバーが持つネットワークを利用して、実力を持つ版画工房とそのディレクターに相談をかけ、どのような展覧会が日本で開催可能かを問い合わせました。

二〇〇五年夏のこと、幸い有力な版画工房タマリンドから好意的な返事が有り、アメリカを代表する五つの工房が推薦する作家の作品を紹介する案が提示されました。またタマリンドディレクターのマージ・デボンさんから、企画全体のディレクションを引き受けてもよいとの意向も寄せられ、アメリカとの国際交流展の計画が軌道に乗りはじめたわけです。

**◆アメリカの美術のなかで、版画作家や版画品はどのように見られているのでしょうか？**

版画は絵画、彫刻と同じく、一つの制作メディアと考えられていることがアメリカ美術界では当たり前の事実で、美術家であれば誰もが試みて当然の造形手法なのです。むしろ他と異なる特徴は、版画が複数制作できる媒体であり、その特性を生かせば、自身の作品コンセプトを多くの人々へ伝えることに効果を発揮し、同時に広い購買層には満足を与え、作家の収入を満たす点でも役立ちます。これら作家と美術愛好家、版画収集家の両者間を取り持つ役割を工房が果たしており、アメリカ作家の多くは今回の交流展で紹介するような版画工房を通して自身の版画を制作しています。

しかし一方で、版画しか制作しない作家がいることも事実で、アメリカに大変数多く存在する版画家たちは、アメリカ全土を幾つかのブロックに分けた版画家協会を作り、国際会議やアートフェアなどをほぼ毎年のように開催しています。版画が持つ表現上の特性に興味を抱き、それを生かして版画家たちは美術家とは全く異なる独自の作品を制作し、技術的、素材的な開拓にもまた力を注いでいるのです。この両側面の版画作品とその活動を今回の展示でお見せすることができると考えています。

**◆今回の展覧会図録は、アメリカ版画工房の存在も強く意識して構成されるとのことですが、日本の版画工房とアメリカの版画工房、双方の特徴の違いはあるのでしょうか？**

今回アメリカ側の展示には、全土に数多く広がる版画工房の中から、地域的な特性とすぐれた実績を持つ五つの工房が選ばれました。その各工房がそれぞれ七〜八名の作家を推薦し、都合約八〇点の作品が並びます。この展示によって、共同制作によるアメリカ現代版画の成果や実態に迫り、コラボレーションによる創造と表現の可能性を検討できたらと考えていますが、現在そのコンセプトに添って図録の編集が進んでいます。

バブル期の頃、日本でも多くの版画工房が誕生しましたが、その後の景気の後退と共に工房数は大幅に減少、設備や機器の身売りにも苦労している状況と聞きます。この傾向はアメリカにおいてもあまり違いはなく、版画工房の浮き沈みは画廊のそれと同じく世の常ともいえるでしょう。

ところで、工房にとって最も重要な要件は、優秀なディレクターの存在如何にかかっています。作家や作品の選定、高い表現技術の確保のみならず、豊かなアイデアや企画力、販売マーケットのネットワーク構築、それに加えて運営資金の調達ができる人物を必要としています。これらすべての要素が備わったディレクターを見付けることは簡単ではありませんが、フロンティア精神の伝統豊かなアメリカにはこの難事業に取り組み、決してあきらめない若いフロンティアたちが、一人でなければすぐれたチームワークを作り、次から次へと生まれているといえます。この好きな世界だから頑張る、決してあきらめないという底なしの熱意が、日本とは多少性格を異にしている点かも知れません。

「日本・アメリカ国際版画展」ではその開催に併せ、代表的な工房ディレクター、出品作家を招請して講演、ディスカッションを中心にシンポジュームを開く予定です。この機会に元気なアメリカ版画工房の秘密を、皆さんでぜひ探っていただきたいと願っています。




特集

## アメリカ ―版画の今―




写真／右：タマリンド・インスティテュート版画工房内
左：タマリンド・インスティテュート外観
写真提供／山本桂右

# KYOTO 版画 2008



## リトグラフ 山本 桂右

Yamamoto Keisuke

**山本さんは昨年の９月15日から12月３日まで文化庁の芸術家海外研修員としてアメリカニューメキシコ州タマリンド・インスティテュートとメリーランド州ピラミッド・アトランティック・アート・センターへ研修に行っておられました。その報告を前・後編に分けてお伝えします。**

作品：a window/2006 年 /
ピラミッド・アトランティックで制作 / リトグラフ /40×25 c m

### アメリカ研修報告 ―前編―

山本　桂右

昨年の九月十五日から十二月三日までの八〇日間、文化庁の芸術家海外研修員として米国ニューメキシコ州アルバカーキーのタマリンド・インスティテュートとメリーランド州シルバースプリングのピラミッド・アトランティック・アート・センターを訪れました。

タマリンド・インスティテュートは一九六〇年にロス・アンジェルスに設立されたリトグラフ専門の工房で、作品制作だけでなくプロのプリンターを育成する機関としても広く知られています。一九七〇年からはニューメキシコ大学の所属となり今は現所長のマージー・デヴォンさんの指揮の下にアルバカーキーで活動しています。

一方ピラミッド・アトランティック・アート・センターは一九七〇年に現所長のヘレ・フレデリックさんが設立した非営利の工房で、版画だけではなく紙漉き、製本、活版印刷、デジタルメディア、ギャラリーなどの設備を持ち、年間七〇回以上の講師を招いてのワークショップ、展覧会、スタジオレンタル、作品販売、二年に一度のブックアートフェアの開催など、その活動は多岐にわたっています。ワシントン DC の中心部から地下鉄で二〇分ほどのシルバースプリングという駅のすぐそばにあります。

そして、この二つの工房の所長であるマージー・デヴォンさんとヘレン・フレデリックさんは友人関係でもあり、私はこのお二人を黒崎彰氏から紹介されました。また二〇〇八年の日米版画交流展のアメリカ側の世話役も黒崎氏の働きかけでこのお二人にやっていただけることになっています。

言葉の問題など大変なこともありましたが、いろいろな人々との出会いがあり日本にいては決して味わえないような貴重な経験が出来た三ヶ月間であったと思います。



九月十五日午後、関空を出発、サンフランシスコ経由でグランドキャニオンを眼下に見ながら同日の午後アルバカーキーに着きました（日付変更線をさかのぼるため）。翌日はサンタフェという古い町を観光、翌十七日にニューメキシコ大学で版画を教えている島野芳子さんの案内でマージー・デヴォンさんのお宅へ伺いました。私とマージーさんと島野さんとタマリンドのレジデンスアーティストなど六人で昼食をとりながら日米版画交流展等の話をしました。マージーさんのお宅は、外側は典型的なこの地方の先住民族の家のスタイルですが、内側は白を基調にしたモダンなつくりで、裏庭には半地下の大きなスタジオもありました。

翌朝の飛行機でワシントン DC へ飛び、シルバースプリングのホストファミリーのお宅へ訪問し、翌日からニューヨーク、ボストン、フィラデルフィアと各地の美術館を見て回り二週間後、再びシルバースプリングへ戻ってきました。

十月一日緊張しながらピラミッド・アトランティックを初めて訪ねました。版画工房には大きなエッチングプレスとリトプレスが一台ずつありましたが常駐の指導者はおらず、時々レンタルで使用する人が来て制作したり、ワークショップで外部から来た指導者が教室として使用している、という状況です。

リトの材料も当初は足りないものがいろいろありましたがヘレンさんは私の要求に応じて即座に注文してくれました。そしてワシントン DC に住む版画家のトレーシー・ピルザーさんに連絡を取りアメリカでのリトの製版方法や薬品について私に教えてくれるよう手配し、もう一人の版画家ジェニー・フリーストーンさんにも連絡して良い状態の製版ローラーや薬品類を持ってきてくれるようお願いし、その他いろいろと便宜を図ってくれました。私の顔を見るたびに「何か足りないものはない？何か問題はない？」と気にかけてくれました。

トレーシーさんはワシントン DC のコーコラン美術大学の卒業生ですがタマリンドを卒業した人からリトグラフを習ったということで私が試し描きした版をタマリンドの方法で製版して見せてくれました。それは今まで私がやっていた方法とは様々な点で異なり、大変興味深いものでした。

この方法を参考にして二ヶ月間で四点の作品を制作し、その間、ヘレンさんが教授を勤めるジョージ・メーソン大学の大学院生二名（一人は日本人）にリトグラフを教え、コーコラン美術大学のリン・シュレス先生のリトグラフ作品の制作のお手伝いもしました。

ヘレンさんの親切さに答えなければ、と言う気持ちもあり二ヶ月間ほとんど主のように二人でこの版画室を使って制作を続けました。



写真／上段／ピラミッド・アトランティック版画工房／付属ギャラリー／下段／マージーさんの自宅前で／左から島野さん親子、コロンビアの作家、作家の友人、マージー・デヴォンさん／写真提供／上段／黒崎 彰／下段／山本 桂右

## 作家紹介

「作家活動とは何かを考える」をテーマに編集スタッフがお話を伺います。
今回は朝日みおさんです。
朝日さんは銅版画で制作されています。
絵本の挿絵のような、ファンタジックな世界観は人を惹き付けてやみません。

〈質問1〉
朝日さんの作品は、なにかストーリー性のようなものがが感じられます。実際に制作される時、朝日さんのなかで物語を設定されていらっしゃいますか？

良く同じ質問をされるのですが、実は元になるストーリーは何もありません。またどこかの国をモチーフにしてるのか？という質問も良く受けるのですが、それもまったくありません。自分の中で密やかに物語を組み立てています。





〈質問2〉
作品を制作するうえで、一番大事にされていることはありますか？

自分が楽しむ事です。銅版画は造るプロセスが長く、その間、自分が作り上げた出鱈目な人物や怪獣と、彼らが住む世界を楽しんでいます。

〈質問3〉
銅版画制作はプレス機、腐食液などを使用する為に特別な環境が必要ですが、朝日さんはどのような環境で制作されていますか？

銅版画家の神野立生先生の主宰する「アトリエ凹凸」で制作しています。このアトリエは二十四時間自由に作家に開放されています。ここには同じような銅版画の作家が多く在籍しています。私は独学で銅版画を学んだのですが、このアトリエを利用することにより、多くの作家から直接、または間接に技法を学ぶ事ができました。現在この京都の会のメンバーの十人以上が凹凸に在籍しています。

略歴

立命館大学卒業

2007『日本現代芸術祭』
ヘイリ芸術村・韓国
『第１１回国際ミニプリント・蔵書票ビエンナーレ2007』
優秀賞受賞 ('05)
Museum of Ostrow Wielkopolski
ポーランド
『SIPA2007 ソウル国際エディションアートフェア』('05、'03)
ソウル芸術センター・韓国
『あおもり国際版画トリエンナーレ2007』('04、'01)
国際芸術センター青森
2006『9th Bienal Internacional de Grabado Caixanova』
スペイン

その他、個展・グループ展・公募展に多数出品



作品　上段（上）：化鳥使いⅢ／銅版／四〇×五〇センチ／二〇〇四　上段（下）：天の樹の下で／銅版／五〇×六〇センチ／二〇〇五　下段（右）：ある日　樹の下で／銅版／二八×一八センチ／二〇〇三

〈質問4〉
グループ（団体）に所属して発表することについてどうお考えですか？（メリット、デメリットなど）

二〇〇〇年にこの会に参加させて頂くまで、全く一人で個展を中心に活動してきました。美大を出ていないので、上記の凹凸のメンバー以外他の作家との交流もありませんでした。この会に所属して以来、急に世界が開けた感があります。又、二〇〇五年度から日本版画協会の準会員にしていただきました。井戸から大海に泳ぎ出た気分です。

〈質問5〉
朝日さんが影響を受けた好きな作家、作品を教えてください。

版画家の方は多すぎるので、他の分野で。アンリ・ルソー。手塚治虫。漠然と太古のもの。五〇〇年以上経たもの。

〈質問6〉
今後の活動予定についてお聞かせください。

現在結構楽しく制作をしています。私の望みは、今、楽しく制作をしてるように、これからも制作を続けて行く事です。銅版画は身体にかなり負担がかかるので、「今と同じように」というのは、結構切実な願望です。




## 掲示板

会報にお寄せいただいた京都版画展の出品者の展覧会、活動情報です。詳細は会場等へお問い合わせください。

●黒崎彰・齋藤修・平木美鶴
＜現代版画三人展・大阪＞
会期：２００８年4月２３日～２９日
場所：大阪高島屋　美術画廊
大阪市中央区難波５－１－５
TEL：０６－６６３１－１１０１

＜現代版画三人展・横浜＞
会期：２００８年6月４日～１０日
場所：横浜高島屋　美術画廊
横浜市西区南幸１－６３－１
TEL：０４５－３１１－５１１１

●齋藤修
＜齋藤修木口木版展＞
会期：２００８年9月６日～２１日
場所：ぎゃらりー図南（富山市）
富山県富山市西大泉17-20第二浜忠ビルB-1
TEL：０７６－４９２－５８５０

＜齋藤修展＞
会期：２００８年１１月１８日～３０日
場所：わいアートギャラリー（大阪市）
大阪市北区堂山町15-17ACTⅢ-1F
TEL：０６－６３１１－５３８０

●角間貴生
＜角間貴生版画展＞
会期：２００８年3月１１日～２３日
場所：平安画廊
京都市中京区寺町三条上ル

●後藤優子
＜後藤 優子 展＞
会期：２００８年3月４日～3月９日
場所：ギャラリーすずき
京都市東山区三条通　TEL:075-751-0226

●夏目　陽子
＜夏目陽子展＞
会期：２００８年5月２７日～6月１日
場所：ギャラリー青い風
〒６０６－８３４４
京都市左京区岡崎円勝寺９１番地
TEL：０７５－７５２－０１８２

●山本桂右
＜山本桂右展＞
会期：２００８年9月１日～9月６日
場所：養清堂画廊
〒１０４－００６１
東京都中央区銀座5-5-15　TEL:03-3571-1312

＜山本桂右展＞
会期：２００８年9月１３日～9月２８日
場所：ギャラリー白川
〒６０５－０８２２
京都市東山区下河原通八坂鳥居前下ル２上弁天町
TEL：０７５－５３２－２６１６

＜山本桂右展＞
会期：２００８年１０月１４日～１０月２０日
場所：そごう神戸店　美術画廊
神戸市中央区小野柄通8-1-8　TEL:078-200-7110

●田島征彦
＜田島征彦個展＞
会期：２００８年5月２７日～6月８日
場所：ギャラリー・ヒルゲート
京都市中京区寺町通三条上る西側　TEL:075-231-3702

●平木美鶴
版画集［MITSURU HIRAKI Woodcut Print Works 1982-2007］出版
２５年間に制作した２００点の木版画掲載
２００８年4月5日出版
出版元　セントポールギャラリー
A4サイズ　本文１１２頁／カラー９６頁、一色１６頁
販売価格　普及版５０００円
限定版８０００円（１００部限定版画付）
※以下の展覧会場で画集の販売をしています。

＜平木美鶴版画展＞
会期：２００８年4月１日～4月７日
場所：徳島そごう5階美術画廊
〒770-8511 徳島市寺島本町西1-5　TEL:088-653-2111

＜平木美鶴作品展＞
会期：２００８年4月２６日～6月１５日
場所：相生森林美術館
徳島県那賀郡那賀町横石字大板34 TEL:0884-62-1117

＜平木美鶴版画集出版記念展＞
会期：２００８年5月１０日～5月２５日
場所：セントポールギャラリー
住所：群馬県前橋市2-43-2SKビル1F　TEL:027-243-1741

## 編集後記

次号からの会報担当は福岡舞子に代わり鈴木勝成となります。福岡さん、３年間お疲れ様です！会報担当はツツミ、鈴木となりますので、皆様、宜しくお願い申し上げます。内容の充実の為、公募展情報を割愛させて頂きました。公募展情報は各美術系雑誌や公募展の紹介サイト『登竜門』（ http://compe.japandesign.ne.jp/ ）などでお探し下さい。委員の皆さんからのご寄稿や、展覧会情報などを広く募集しておりますので是非お寄せ下さい。それでは、今後とも宜しくお願い致します。尚、掲載希望の記事、情報等は、会報担当か事務局までお願いします。　会報担当　ツツミアスカ、福岡舞子

発行：版画京都展実行委員会

PANN News Letter
Vol. 10
Printmaker's Association of Nishi Nippon
June 2009

## ● 会報第10号の発行によせて ●

今回の作家紹介は昨年、京都市美術館別館で開催された日本・アメリカ国際版画展の受賞者である長嶺斉氏(リトグラフ )と坪山由起氏(銅版画)です。また、山本桂右氏のアメリカ研修の滞在記(後編)を伺いました。
それぞれ大変興味深い内容です。ごゆっくりとお読み下さい。



◆ *Nagamine Hitoshi*



◆ *Tsuboyama Yuki*

■作家紹介　長嶺　斉・坪山　由起
■アメリカ研修報告 ー後編ー　　山本 桂右
■版画京都展実行委員会　活動報告
■掲示板

KYOTO版画2009

# KYOTO 版画 2009

Printmaker's Association of Nishi Nippon



## リトグラフ 長嶺 斉

1961年沖縄県那覇市生まれ/'89愛知県立芸術大学大学院美術研究科油画専攻修了/'91第2回フィラン大賞展特別賞（東京/アート・ミュージアム・ギンザ）/'95沖縄戦後美術の流れシリーズ1（浦添市美術館/'97第23回現代童画展JAL賞/'01第75回国展版画部門国画賞/第35回文化庁主催現代美術選抜展招待/'08「日本・アメリカ国際版画展」奨励賞　　その他、個展・グループ展多数
現在、日本美術家連盟会員・版画工房コントルポワン主宰
http://www.con-studio.com

**Q1：版画制作を始められたきっかけを教えてください。**
リトグラフを初めて学んだのは、大学の授業の時でした。専攻が油彩画だった事もあり、卒業後もしばらくは、油彩を続けていましたが、しばらく油彩が描けなくなった時期があり、その時に、表現の方向性を変えてみようと思い、取り組み始めたのがきっかけです。

**Q2：ご自身の作品の、テーマやコンセプト、最も大事だと考えている事を教えてください。**
人や、動物、植物など、生命あるものたちを、ある一定の距離関係に位置づけ、その関わりの中で生じる心理的描写や物の象徴性を通じての寓話（物語）を紡ぎだす事を意図しつつ制作しています。日頃から、制作の動機づけとなるイメージを触発させてくれるモチーフとの出会いを大切にしています。

**Q3：リトグラフの技法は、ご自身の表現にとって、どのような役割を担っていると思いますか?**
手描きの痕跡や、感情をオブラートに包みながら、繊細で、饒舌に語ってくれるところが、この技法の魅力的なところですね。版に描画材料で直接描く事が出来、モチーフの再現性にも向いているため、もっぱらこの技法に拘り続けています。
作品／表紙：TRANSFORMATION(変容)'08-2／八〇×六四センチ／リトグラフ／二〇〇八／野うさぎ／リトグラフ／八三×六六センチ／二〇〇九

**Q4：お好きな作家は誰ですか?その理由もお聞かせください。**
一八～一九世紀頃のボタニカルアート（主にリトグラフ）や一七～一八世紀のフランドル派の油彩など。西洋の古典的で存在感のあるものが割りと好きです。

**Q5：受賞者展の感想をお聞かせください。**
地元での発表がほとんどでしたので、貴重な体験をさせて頂きました。オープニングには、京都在住の版画家の方や、京都版画のメンバーの方々多数来て頂き、感謝感激。風土も文化も全く異なる場所での発表は、多くの出会いと、自分自身の仕事を新たな視点から見つめ直す良い機会となりました。

**Q6：今後の夢をお聞かせください。**
最近、新たに、絵本づくりにチャレンジしたり、油彩も再び手掛けたりしています。表現形態を変えたりする中で、そこで触発されたイメージを版画作品に取り込んだりすることもありますので、表現のキャパシティーを拡げつつ、イメージを豊かに膨らましていければと思っています。それから、現在、自宅一階にある工房では、教室も開いていますが、今年から版画に興味のある地元のアーティストにも開放するようになりました。まだ地元では、版画が低迷しているので、少しずつでも、版画の魅力も伝えていきたいですね。



## 銅版画 坪山 由起

1981年成安女子短期大学卒業/卒業後、白虎社にて踊り手として舞台活動(7年)/'90銅版画工房アトリエ凹凸所属/'92番画廊個展(以後10回)/第4回ミヤコ版画賞展都賞/'96第6回ミヤコ版画賞展大賞/'97都画廊個展/'98第12回現代版画コンクール展優秀賞/ガレリア・グラフィカbis個展/'99第1回山本鼎版画大賞展/'02第5回高知国際版画トリエンナーレ展/'08京都版画2008日本・アメリカ国際版画展奨励賞　　その他企画展、グループ展多数

**Q1：版画制作を始められたきっかけを教えてください。**
大学卒業後約七年続けた踊りの活動をやめ、表現する場所を探している時、大学で経験した銅版画を思い出したのがきっかけです。

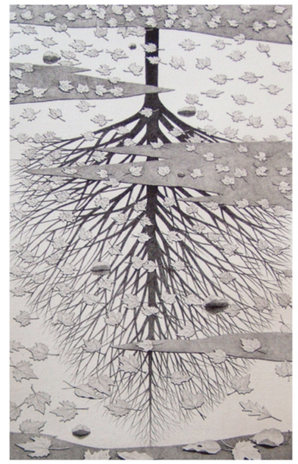
**Q2：ご自身の作品の、テーマやコンセプト、最も大事だと考えている事を教えてください。**
生まれて、生きて、死ぬ。命の連鎖のうつろいの中に見え隠れする存在、現象、ひとの想いの本質に向き合う事。制作は美しさの発見でありたいと願っています。

**Q3：銅版画の技法は、ご自身の表現にとって、どのような役割を担っていると思いますか?**
不要なものをそぎ落とす事、強弱濃淡、エッジの効いた線、黒の美しさは銅版が必須です。

**Q4：お好きな作家は誰ですか?その理由もお聞かせください。**
杉本博司。劇場シリーズ、海景シリーズ、東京大学所蔵の模型シリーズの写真群は五感を超えその美しさに圧倒されます。

**Q5：受賞者展の感想をお聞かせください。**
平安画廊への想いにつきます。学生の頃から通った平安画廊での最初で最後の個展となりました。平安画廊がなくなってしまう事のさみしさと、今まで数限りない版画家へのご尽力へ感謝します。

**Q6：今後の夢をお聞かせください。**
一〇年程前から、装幀やフライヤー等のデザイン的な仕事を頼まれることが増え水彩パステルなど、銅版以外の素材でも積極的に描くようにしています。ライフワークとして個展に併せてアーティストブックの制作にも力を入れてきました。詩や俳句、短歌など作家との言葉とのコラボレーションもとても興味があり、昨年、俳句の方たちとの展覧会（十七文字の花：ワイアートギャラリー）が実現し、とても刺激を受けました。言葉をちりばめた、美しい画集をつくるため目下準備中です。
作品／表紙：ゆふぐれ／七〇×五〇センチ／エッチング、アクアチント／二〇〇九／鬼火／七〇×五〇センチ／ソフトグランドエッチング／二〇〇九



## リトグラフ 山本 桂右

Yamamoto Keisuke

山本氏は 2007 年 9 月 15 日から 12 月 3 日まで文化庁の芸術家海外研修員としてアメリカ、ニューメキシコ州タマリンド・インスティチュートとメリーランド州ピラミッド・アトランティック・アートセンターへ研修に行っておられました。
その報告を前・後編に分けてお伝えします。

作品：reflection/2006 年
ピラミッド・アトランティックで制作 / リトグラフ /40×25 c m

### アメリカ研修報告 ー後編ー
山本　桂右

ピラミッド・アトランティックでは自作品のスライドレクチャーを行うことをヘレンさんから求められていたのでシルバースプリングに来て最初の一月くらいは毎晩食事の後、そのための原稿を考えていました。私の下手くそな英語で出来るだろうかと不安でしたが「下手でも自分の言葉で言えばちゃんと伝わりますよ。」とホストファミリーの方に励まされ，またいろいろな人に文章を添削してもらって何とかまとめました。
当日は大勢の人が来ていろいろ質問されたらどうしよう，と心配しましたが実際に集まったのは一〇人ほどで，ほとんど顔見知りの人たちばかりで安心しました。
またコーコラン美術大学のリン・シュレス先生から私を授業で学生に紹介したいという連絡があり翌週，大学へ伺いました。このときは学生三〇人くらいの前でスライドレクチャーを行い，その後，日本人学生の通訳で学生や先生との質疑応答になりました。「あなたの作品と仏教の関係は?」「どうやって生活しているの?」「あなたはお金のために絵を描いているの?」とか，いろいろ突っ込んだ質問を受け返答に窮した場面もありましたがこれも貴重な体験でした。
私のアメリカ滞在中にはハロウィンとサンクスギビングというアメリカでは重要な年中行事があり，私はアメリカ人の一般家庭にホームステイさせて頂いたおかげで食事の心配も無く，それらのアメリカ伝統文化にも触れることが出来ました。



私がお世話になった家庭はヘレンさんに紹介して頂いたのですが，アメリカ人の夫，日本人の妻，高校生の息子の三人で，上に二人の子供がいますが今は離れて暮らしています。
一〇月二八日に，彫刻家でワシントン DC に住んでいるご夫婦の友人がハロウィンパーティーを行うというので同行させてもらいました。何かに仮装しなければ参加資格が無いとの事で，ご主人はパジャマ姿で星条旗を背負い，奥さんは海賊に，私はご主人の提案で北朝鮮のキム，ジョンイル総書記に変装させられました。その頃，北朝鮮の核実験のニュースがアメリカで話題になっていたからです。会場に着いてみるとフランケンシュタインや魔法使いの老婆，モンスター等に仮装した人たちが，陽気に呑んだり騒いだりしていて，なんともいえない光景でした。芸術家のパーティーらしくサルバドール・ダリやフリーダ・カーロに変装している人もいました。



一〇月三一日にはかぼちゃの中身をくりぬき，怖い顔を作って内側にろうそくを立て提灯のようにして玄関の前に置いておくと，夜いろんな扮装をした近所の小さな子供達が次々とやってきて "Trick or Treat !（与えてくれなければ悪い事をするぞ）" と言ってキャンディーなどを要求するというイベントがあります。たいてい子供の数メートル後ろには両親がいて笑いながらこちらに手を振っています。話には聞いていたけれど実際に見たのはもちろん初めてで，実に平和的な風習だなと思いました。
余談になりますが，このハロウィンの風習は私には日本の仏教における施餓鬼供養を思い起させます。施餓鬼は今の日本では形骸化してしまい，単にお坊さんが先祖供養のためにお経を上げるだけの儀式になっていますが，Trick＝餓鬼の悪事，Treat＝施しと解釈するとハロウィン自体がまさに施餓鬼供養そのものに思えます。また，ハロウィンと良く似た風習は日本の古い集落にも見られるようなので，何か歴史的に共通の根っこがあるのかも…と想像しています。
一〇月三一日はサンクスギビングデイで家族や友人などが集まり，七面鳥，グランベリーソース，パンプキンパイなど，たくさんの伝統的な料理が並びました。
二ヶ月間のシルバースプリングでの滞在の後，十一月三十日の飛行機で再びアルバカーキーに戻り，翌二月一日に，島野芳子さんの案内で再びタマリンドを見学，マージー・デヴォンさんにも再会しました。九月に訪問したときは日曜日で誰も作業していなかったのですがその時は平日だったので大勢の人々が作業をしていて，いろいろ質問もでき大変勉強になりました。その後，島野さんが教鞭をとるニューメキシコ大学の版画部門とニューグラウンドという別の版画工房を見学させてもらい，翌日早朝の飛行機に乗り一二月三日の夕刻，無事日本に戻ってきました。
今改めて振り返ってみると，本当に多くの人々に助けられて有意義な研修がおくることができたと感謝の気持ちを新たにしています。
写真／上段／ピラミッド・アトランティック版画工房山本氏の仕事場／下段／ヘレン・フレデリックさん／ピラミッド・アトランティックのオフィスにて／写真提供／山本 桂右

# 版画京都展実行委員会　活動報告



## ○KYOTO版画2009新鋭展○

KYOTO版画2009新鋭展は1月24日(土)～2月8日(日)、ART　FORUM　JARFO(京都・東山)にて開催されました。出品作家の中から韓国美術展への参加は第一席に藤原杏菜さん、第二席に牧野浩紀さんが選抜されました。おめでとうございます!
2008年度の新会員は遠方の方が多かったのですが、参加人数が多く和やかにオープニングパーティがスタートしました。まず自己紹介をはじめ、出品作家とご来場の方との意見交換が行われ、お酒や食事を囲みながらの楽しい雰囲気が印象的でした。
会場内は一人あたり各3点程ゆとりを持って展示されており、作家の世界観にじっくり入れる空間でしたので、歓談の輪を少し抜けて一人でゆっくり鑑賞される方もいらっしゃいました。　会報担当:三上







## ○総会,作品研究会○

前回の総会は2月14日(土)、京都会館にて行いました。新役員と実行委員会の案件を出席者全員で承認、2009年、10年度委員会の事業計画については、主にアメリカ巡回展の件、新鋭展の展覧会報告、来年予定の日本・ポーランド国際版画展について話し合いました。
2009年4月1日より事務局が移転しましたので、お間違えのないようよろしくお願いいたします。
作品研究会では約10名が作品を持参しました。4月に東京で開催される版画展(東京都美術館)に向けて準備をしている方が多かったので、作品講評は昨夏の研究会よりも的確かつ具体的なアドバイスが出て、有意義な研究会となりました。
今回の総会は出席人数がいつもより少人数でした。作家同士の楽しい交流の場ですので皆様のご参加お待ちしております!　会報担当:三上

## ○ホームページ　リニューアル○

4月3日より版画京都展実行委員会のHPがリニューアルしました。作家紹介では各会員の作品を見る事が出来ます。また、版画京都展実行委員会の沿革・概要や今まで開催した国際展の紹介、出版物の案内など、さらに充実した内容となりましたので是非、ご覧下さい。　ウェブサイト担当:柴田

http://www.kyo-pec.org






## 掲示板

会報にお寄せいただいた京都版画展の出品者の展覧会、活動情報です。詳細は会場等へお問い合わせください。

●坪山由起
＜個展＞
会期：2009年11月23日(祝)～11月28日(土)
場所：番画廊
〒530-0047大阪市北区西天満2-8-1
大江ビル1階
TEL：06-6362-7057
TEL：０７５－２３１－０６９４

●豊岡緑
＜第94回二科展＞
会期：2009年9月2日～9月14日
場所：東京・国立新美術館
東京都港区六本木7-22-2
TEL：03-5777-8600

＜第94回二科大阪展＞
会期：11月3日～11月15日
場所：大阪市立天王寺美術館
大阪市天王寺区茶臼山1-82
TEL：06-6771-4874

●林葉子
＜林葉子銅版画展＞
会期：2009年11月23日(月)－11月26日(土)
11:00a.m－7:00p.m(土曜5:00p.m)
場所：ギャラリー白3
〒530－0047大阪市北区西天満4-3-3星光ビル
TEL：06-6363-0493

●山本桂右
＜太陽展(油彩)＞
会期：2009年5月14日～5月27日
場所：日動画廊
〒104-0061東京都中央区銀座5－3－16
TEL：03－3571－2553

＜小立野会展(油彩)＞
会期：2009年7月21日～7月26日
場所：ギャラリーヒルゲート2F
〒604-8081京都市中京区寺町通三条上ル西側
TEL：075－231-3702

＜山本桂右展(油彩)＞
会期：2009年8月18日～8月24日
場所：そごう神戸店　美術画廊
〒651-8511神戸市中央区小野柄通8－1－8
(三宮駅前)
TEL：078－221-4181

＜山本桂右展(油彩と版画)＞
会期：2009年10月16日～10月25日
場所：樹樹画廊
〒454-0807名古屋市中川区愛知町42-1
TEL：052-351-6867

## 編集後記

会報担当は川端、堤、三上となりました。皆様、宜しくお願い申し上げます。また、内容の充実の為、公募展情報を割愛させて頂きました。公募展情報は各美術系雑誌や公募展の紹介サイト『登竜門』（ http://compe.japandesign.ne.jp/ ）などでお探し下さい。それでは、今後とも宜しくお願い致します。

発行：版画京都展実行委員会　問い合わせ先(事務局)：075-956-6910

# PANN News Letter

Vol. 11

Printmaker's Association of Nishi Nippon　February 2010

## ● 会報第11号の発行によせて ●

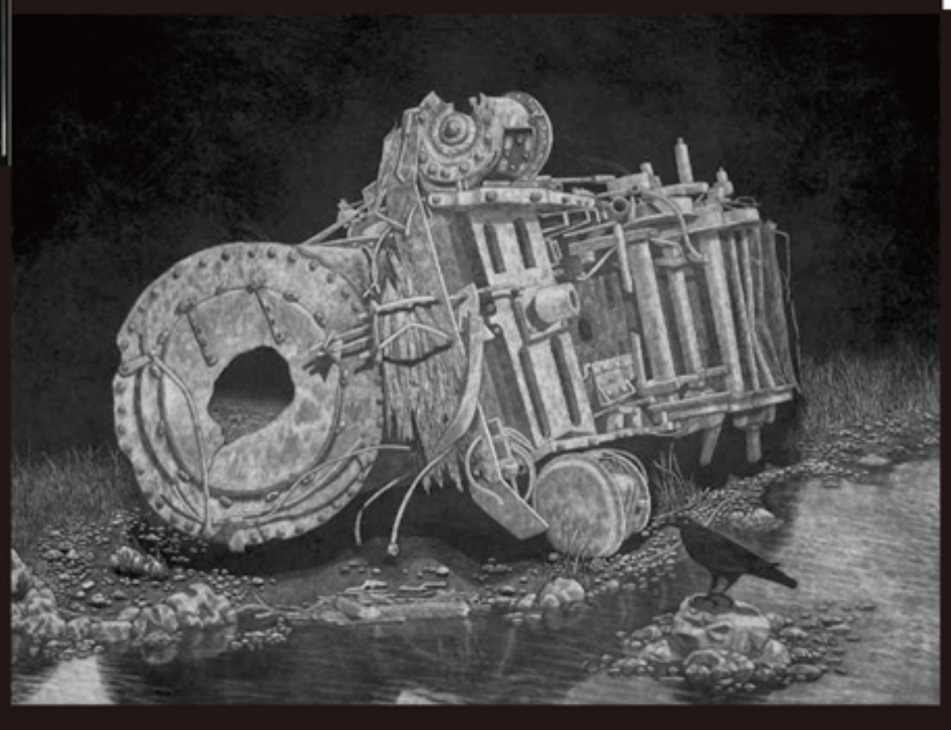
本年6月に京都市美術館別館で開催される日本・ポーランド国際版画展に向けての特集となります。ポーランドのSMTG（クラクフ国際版画トリエンナーレ委員会）とこの展覧会を企画することになった経緯を坂爪厚生氏に伺いました。ポーランドの興味深い話を黒崎彰氏にお聞きし、作家紹介ではリトグラフの小野知美氏と木版画の三上景子氏を取り上げました。




◆ *Jerzy Mazu*
digitalprint



◆ *Marcin Surzycki*
intaglio



◆ *Christopher Nowicki*
mezzotint

■特集：事の起こりは―クラクフ見聞録―　坂爪 厚生
SMTG(クラクフ国際版画トリエンナーレ)とは　坂爪 厚生
誰も知らない―押しポーランドの名所―　黒崎 彰
■作家紹介　小野 知美・三上 景子
■出版のご案内　片岡 れいこ
■掲示板

KYOTO版画2010

## 事の起こりは ークラクフ見聞録ー

坂爪 厚生

事の起こりは、二〇〇七年の四月、クラクフのSMTG（クラクフ国際版画トリエンナーレ委員会）代表のスクリツツ教授からのメールである。クラクフ建都七五〇年の記念行事として“From Kyoto to Krakow”-Print Exhibition-のタイトルで京都の作家たちの版画展をしたい。ついては日本側のキュレーターとして手伝ってほしいというものだった。クラクフの歴史とよく似てる京都と文化的交流をしたいというのがこの企画のもとにあったようだ。黒崎さんとも相談、版画京都展実行委員会が共催という形で KYOTO 版画の七名（大下、黒崎、斎藤、坂爪、佐久間、柴田、武蔵）を含め十五名の作品を出品することを運営委員会で承認してもらった。



会期は十二月十一日から二月二五日まで。会場の“Manggha”（日本美術技術ミュージアムManggha）はアンジェー・ワイダ監督の京都賞の賞金を基金にして作られた、日本の文化芸術を紹介するミュージアムで、四六〇〇点を超える浮世絵のコレクションでも有名である。クラクフのちいさな空港に降り立ったのは、十二月九日夜おそく、十一時をまわっていた。テレサさんが車でホテルまで送ってくれた。カーテンを開けると、大きな窓一杯に、ヴィスラ河にゆらめく光の影を落として、ライトアップされた古城ヴァヴェルの異形が飛び込んできた。洋画のワンシーンを髣髴させるシチュエーションである。

翌日はホテルに隣接している Manggh ミュージアムに出かけ、マジ館長と展示の打ち合わせ、昼からテレサさんに、クラクフ訪問のもう一つの目的で SMTG に案内してもらった。テレサさんは SMTG のキュレーターであり、スクリツツ氏の片腕的存在である。

古色蒼然とした石造りの建物の二階の事務所でスクリツツ氏に面会し、版画京都展実行委員会のこれまでの活動など、展覧会の図録やチラシなど見せて説明し、二〇一〇年の春、京都でポーランドの作家との展覧会をしたいので協力してくれないかとお願いした。スクリツツ氏は英語を話さないので、ぼくの片言英語をテレサさんにポーランド語に通訳してもらってのやり取りで、いささか頼りない説明だったが、快く了承してくれた。

黒崎さんは一九七〇年の第三回クラクフ国際ビエンナーレでメダル賞とクラクフ国立美術館賞を受賞し、翌年スクリツツ氏が来日した際、京都を案内している。第四回のビエンナーレではクラクフのガレリア・クリストフォーリーで個展を開催、第五回でも受賞、一九八八年には第十二回国際版画ビエンナーレの国際審査員としてクラクフに出かけている。この間のトリエンナーレでの活躍、度重なるクラクフ訪問などで黒崎さんが深めたスクリツツ氏との親交、さらに、“From Kyoto to Krakow”展での版画京都展実行委員会の共催や支援、協力などの信頼関係によって、日本・ポーランド国際版画展への SMTG の協力が得られたのではないかと思う。

SMTG を辞した後は、古い市街を見学してまわった。

クラクフは蒙古のヨーロッパ侵攻を食い止める砦となった城塞都市で、砦の石の壁があちこち崩れて残っている。この城壁のサークルの内側が街の中心をなし、古い石造りの建物がコンパクトに詰まっている。一時間も歩かないうちに端まで突き抜けてしまいそうである。街全体が世界遺産になっているそうだ。サークルの外側には新しい町が広がっている。



夜になってからテレサさんを訪ね、近くの版画工房を見せてもらった。古い石の建物の中庭に増築された窓の少ない秘密のアジトといった感じだ。いつごろのものか、いかにも古い型のプレスや使い込まれた作業台などが押し込められたような狭い部屋の中で鳥の巣頭やもじゃもじゃひげのおじさんたちが仕事をしていた。電燈の光に浮かび出たその様は、十七、八世紀にタイムトリップしたかと思わせる。彼らは実に陽気で愛嬌があり、これはどうだと自分の作品を披露してくれた。

その夜遅く、十一時過ぎに空港までテレサさんと黒崎さんを迎えに出かけた。

十一日はオープニングレセプションの日である。午前中に悪天候でミラノで足止めされ、一日遅れで到着した山本さんと合流、黒崎さん、テレサさんと一緒にクラクフ美術アカデミーを訪ね、学長のヤン・パムアさんに学内を案内していただいた。アカデミーはどっしりした石造りで、廊下には大理石のギリシャ彫刻？や古き時代の美術品があちこちに置かれ、時代の重みに威圧されそうである。こんな中で制作するのはどんな気持ちだろうと、ふと思った。

続いて、車で別棟の版画教室を訪問。版種別に部屋を持ち、設備も充実しているようだ。夕方からふりだした強い雨にもかかわらず、オープニングレセプションには五〇人を超える人たちが集まり展覧会の開催を祝ってくれた。パーティの後、場所を変えヤン・パムア学長、オトレウンバ教授夫妻、テレサさん、マジ館長とスタッフが歓迎会を開いてくれ、楽しいひと時を過ごした。（パムア、オトレウンバ両氏とも「日本・ポーランド国際版画展」に出品してくれるとのことです）

翌十二日の早朝、山本さんと一緒にアウシュビッツのユダヤ人収容所跡の見学にクラクフを後にした。すでにアウシュビッツを二度も訪ねたという黒崎さんはクラクフに残り、ポーランドとの国際版画展の詳細な打ち合わせをすることになった。

その日の夕方にはミラノに飛び、ベニスで山本さんと別れたのち、ローマ、フィレンツェと四日間で回り、ミラノから関空という何ともあわただしい駆け足旅行だった。

しばらくして、“From Kyoto to Krakow”展は八〇〇人を超える観客が訪れ成功だったとの連絡があった。

### 追悼
### スクリツツ教授の逝去をいたむ

昨年暮れの一二月二八日、クラクフ国際版画トリエンナーレ事務局（SMTG）委員長のスクリツツ教授が八三歳で逝去されました。クラクフ市で去る一月七日に取り行なわれた葬儀には、本委員会からも献花を行ないました。

SMTG は本年六月に開催する「日本・ポーランド国際版画展」の共催機関であり、展覧会を目前にした急逝は氏自身のみならず、委員会にとっても誠に無念な出来事でした。スクリツツ教授は四〇年余に渡り国際版画展を主導、クラクフの名を世界に認知させ、また特に日本の現代版画に早くから注目、愛した人物として知られてきました。氏のご冥福を心より祈りたいと思います。（黒崎記）

写真／上段／マンガミュージアム遠望／下段／クラクフアカデミー／中央、テレサさん（日本・ポーランド国際版画展に合わせて来日予定）／写真提供／坂爪厚生

# KYOTO 版画 2010



木版画 **三上 景子**

Q1：版画制作を始められたきっかけを教えてください。

高校生の頃に安藤広重の浮世絵と出合い、藍のグラデーションの美しさに惹かれたのがきっかけです。私の木版画に対する固定概念を覆された瞬間でした。

Q2：ご自身の作品の、テーマやコンセプト、最も大事だと考えている事を教えてください。

人が出会い集う場所をモチーフに描いています。誰かとその場所で過ごした時間は一度きりであっても、また別の誰かと同じように集う事に魅力を感じて制作しています。

Q3：木版画の技法は、ご自身の表現にとって、どのような役割を担っていると思いますか？

重ねれば重ねるほど深みを増す顔料のグラデーションの美しさと、機械にはない自身の彫刻刀の彫りあとを残せる大切な手法です。木版画を通して、私の生きている形跡を残せるような気がしています。

Q4：今後の夢をお聞かせ下さい。（作家活動以外でも）

今年は展覧会で賞を頂いたり、私の作品を手帳の挿絵にして頂いたりと、制作をしていく上で大変励みとなる一年でした。これからは海外の展覧会にも意欲的に出品していきたいです。一方で、昔していたテニスを再開し、版画制作を客観的に見つめる時間が出来たので、その中でより自分の納得のいく作品が作り続けられたらいいなと考えています。



1984年大阪府出身
2008年京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程修了
‘08第7回高知国際版画トリエンナーレ展(高知)、日本・アメリカ国際版画展優秀賞(京都・徳島)、第1回ワルシャワ国際グラフィックアートトリエンナーレ展(ポーランド)
‘09第6回飛騨高山現代木版画ビエンナーレ奨励賞(岐阜)、京展市長賞(京都)、日本版画展 从20世紀走向21世紀(中国)、クラクフ国際版画トリエンナーレ展(ポーランド)、第54回CWAJ現代版画展(東京)その他、個展・グループ展多数

作品写真／上段：春の披露宴ｎｏ．5／六〇×九〇センチ／木版／二〇〇九／下段：春の披露宴ｎｏ．2／六〇×九〇センチ／木版／二〇〇九



リトグラフ **小野 知美**

大阪府出身
89年嵯峨美術短期大学日本画科卒業
93年ニューヨークに拠点を移し、リトグラフの制作活動を始める。
02年東京国際ミニプリントトリエンナーレ優作賞
04年ポーランド国際ミニアチュアアート・ビエンナーレ佳作
09年国際ミニプリントビエンナーレ佳作
個展は平安画廊、ギャラリーぴー玉他
10年秋にアートゾーン神楽岡にて個展を予定。

Q1：版画制作を始められたきっかけを教えてください。

版画制作は二一歳の時から始めました。嵯峨美の日本画科を卒業してスペインに渡り、現地で通っていた美術学校の素描の先生に勧められてエッチングを習いだしたのが始まりでした。私のライトローイングがエッチングに合うと思われたんでしょう。実際にやってみると、今まで描いていたものとは違う何か神秘的な要素が加わっていくのが面白くて、新たな可能性にわくわくしました。その頃丁度自分に合った表現媒体を模索しているところだったので、良いタイミングで版画に出会えたと思います。その後渡米し、徐々にエッチングからリトグラフに移行して行きました。

Q2：ご自身の作品の、テーマやコンセプト、最も大事だと考えている事を教えてください。

私は作品に「boundless destination」や「flow」というタイトルをよく使います。これは直訳すると「無限の行き先」そして「流れ」。或る生命から次の生命へと受け継がれて行く、そんな「存在」をテーマにして作品を作ります。自分と同時に存在する他の生命に目を向けてそれらの世界を表現する事は、自身がこの世に存在した記録を残すようなものかも知れません。サブジェクトは種に始まって、細胞、卵、星など、ミクロからマクロまで規模は様々ですが、それぞれを同じ命のエレメントと捉えて描きます。静寂の中に胎動の様に漂う儚い生命の存在と、そこから溢れ出てくる力強い息遣いを作品から感じてもらえればと思います。

私が一番大事にしている事は制作を辞めないという事、そして作品は自分を映す鏡なのでなるべく正直に生きようと心がけています。

Q3：リトグラフの技法は、ご自身の表現にとって、どのような役割を担っていると思いますか？

リトグラフを自分の表現に取入れるようになった理由の一つは素材である石版石自体の美しさです。石の表面が生み出す独特の質感や、版に描く時の手応えは独自の魅力を持っています。そしてもう一つの理由は、自分なりの表現をリトグラフの中に見つけたからです。クレヨンで描く柔らかな感じや、色を重ねていく事で生まれる透明感は、私の作品にとって無くてはならないものです。もしもリトグラフを知らなかったら、きっと現在作っている様な作品は生まれて来なかったと思います。最近はよくモノプリントを作っているので、顔料やミクストメディアを直接手で加えたりしますが、大部分はリトグラフで刷っています。でなければどうも自分の作品として完成した気がしないのです。



作家写真／上段：NYのアトリエにて
作品写真／下段：‘dot ｰ’ 三五五×三五五センチ／リトグラフ／二〇〇六

Q4今後の夢をお聞かせください。（作家活動以外でも）

人生も半分来てしまったので現実を無視した夢はもう見れませんが、敢えて言うなら、これからたくさん旅をして、いつか自然の美しい田舎に落ち着いて、自給自足をしながら作家活動ができれば幸せだろうなと思います。

## ○SMTG(クラクフ国際版画トリエンナーレ)とは?○

坂爪　厚生

クラクフ国際版画展は 1966 年に第 1 回のビエンナーレが開催され、1988 年の 12 回まで続き、1992 年 SMTG（International Print Triennial in Krakow）が設立されトリエンナーレに改編、現在に至る歴史と伝統ある国際版画展です。SMTG はトリエンナーレを中心に、各種のイベントを企画、運営し、版画に関する豊富かつ詳細な情報を世界に発信しています。Web site で《SMTG　Krakow》を検索すればホームページがみつかります。また、現在、世界各地で公募している展覧会のエントリーフォームもそこからダウンロードできます。




クラクフトリエンナーレ 2009 の本展（main exhibition）は 2009 年 9 月 16 日から 10 月 11 日までクラクフで開催され、ポーランド各地で年末までにテーマ別、技法などの 50 を超える関連展覧会が開催されました。また、2010 年には、本展入選作品による展覧会が、ドイツのオルデンブルグとオーストリーのウイーンで開催予定です。

## ○片岡れいこさん、ガイドブック出版○










京都人の著者がイラストで綴る、全て手描きによるガイドブック　『イラストガイドブック京都はんなり散歩』著：片岡れいこ（メイツ出版）
（お寺もお店もお食事も、思いっきり楽しみたい!行きたい京都にすぐ逢える!とっておきの情報満載。）￥1500（税別）
今春出版いたしました。最寄りの書店でお見かけの際はご笑覧ください。
既刊のガイドブック『イギリスへ行きたい!』『カナダへ行きたい!』著：片岡れいこ（メイツ出版）全国書店にて発売中。

## ○誰も知らない一押しポーランドの名所○

黒崎　彰

首都ワルシャワに着いてポーランドーの名所を訪ねたいと問えば、大概のポーランド人は「スターリン宮殿」の異名を持つ巨大な建造物、現在の「文化科学宮殿」へ、それも最上階の展望室へ私たちを案内するだろう。しかし市街を見渡す眺めは見事だが、その階には大きな恐竜の化石が一体鎮座するだけである。不審に感じている訪問者を横目に眺めて、案内人はやおら「ここはスターリン宮殿を見ずに済む唯一の素晴らしい場所なのです。」と説明するに違いない。これはポーランド流ブラック・ユーモアの一例であるが、ただの小話ではなく 30 年前の現実の話であるから、かえってこの國の背負った傷を私たちは痛切に感じずにはいられない。

大国ロシアとドイツに挟まれて位置するポーランドは、これまで苛酷な過去を背負ってきた。この二国に南のオーストリァが加わって、毎年のように国境の位置が変わる無惨な三国分割の長い歴史があり、近くは二度の大戦下において悲惨なホロコーストの体験を重ねている。



「文化科学宮殿」はいかめしい左右対称形の重厚なビルで、いかにもスターリンからの贈物（押しつけ !!）にふさわしい。しかしながら、これほどこの國に似つかわしくない代物も他には見付からない。案内人は続けて「われわれは将来、周りに高層ビルを建て、街のどこから眺めても宮殿が見えないようにする計画です。」と語っていた。

それから 30 年、巨大な宮殿のまわりには実際高層ビルが建ちはじめている。その場限りのジョークかと思いきや、ブラック・ユーモアは今も生き続けていた。まだ宮殿は完全に包囲されていないが、さらに 30 年経てば「一押しの名所」はビルの谷間に確実に埋もれているに違いない。

版画京都展実行委員会

## 掲示板

会報にお寄せいただいた京都版画展の出品者の展覧会、活動情報です。詳細は会場等へお問い合わせください。

●伊藤尚子
＜Naoko ITO exhibition＞
会期：2010年5月8日～29日
場所：Medialia ; Rack and Hamper Gallery
335 West 38th Street, 4th Floor,
New York, NY 10018-2916 U.S.A.
TEL：1-212-971-0953
e-mail ：http://www.medialiagallery.com/

●黒崎　彰
＜黒崎　彰新作展＞
会期：2010 年 3 月 15 日～3 月 27 日
（日曜休み）
場所：シロタ画廊
東京都中央区銀座 7-10-8
TEL：03-3572-7971

＜黒崎　彰新作展＞
会期：2010 年 4 月 5 日～4 月 17 日
（月曜休み）
場所：ギャルリー宮脇
京都市中京区寺町通二条上ル東側
TEL：075-231-2321

●ツツミアスカ
＜個展　〃　.Love　.You　〃＞
会期：2010 年 1 月 25 日（月）～2 月 6（土）
休廊 1 月 31 日（日）
場所：十一月画廊　〒104-0061
東京都中央区銀座 7-11-11 長谷川ビル 3 階
TEL：03-3289-8880

●弘中征夫
＜西宮美術協会「第 7 回クロスロード展」＞
会期：2010 年 2 月 2 日（火）～2 月 7（日）
場所：西宮市立北口ギャラリー
〒663-8035 西宮市北口町 1-2 アクタ西宮東館 6F
TEL：0798-69-3160

＜関西国展「第 18 回 HARK 展」＞
会期：2010 年 3 月 16 日（火）～3 月 21（日）
11:00a.m－7:00p.m（土曜 5:00p.m）
場所：西宮市立市民ギャラリー
〒662-0944 西宮市川添町 15-26
TEL：0798-33-1666

＜国画会「第 84 回 国展」＞
会期：2010 年 4 月 28 日（水）～5 月 10（月）
場所：国立新美術館
〒106-8558 東京都港区六本木 7-22-2
TEL：03-5777-8600

＜国画会「第 84 回 国展」大阪巡回展）＞
会期：2010 年 6 月 8 日（火）～6 月 13 日（日）
場所：大阪市立美術館
〒543-0063 大阪市天王寺区
茶臼山町 1-82
TEL：06-6771-4874

編集後記

最近、某メーカーのヒート○ ○○のタートルネックTシャツを購入しました。今まで、その威力を信じていなかったのですが、仕事先の相方が絶賛するので思わず買ってしまいました。これが想像していたよりも温かい! 色んな メーカーがこの手のものを出しているので、着比べが 出来そうですね。

会報担当：川端千絵、ツツミアスカ、三上景子　編集：ツツミアスカ　発行：版画京都展実行委員会　問い合わせ先(事務局)：075-956-6910

# PANN News Letter

Vol. 12

Printmaker's Association of Nishi Nippon　November 2010


## ● 会報第12号の発行によせて ●

本年6月に京都市美術館別館で開催され、7月に島根県立美術館へ巡回した日本・ポーランド国際版画展の特集となります。この展覧会の感想を有年博行氏と島根展の報告を高橋恭子氏に伺いました。また作家紹介では、この展覧会で優秀賞を受賞された木版画のツツミアスカ氏とドモンコス紀子氏を取り上げました。
それぞれ大変興味深い内容です。ごゆっくりとお読み下さい。



◆ *Asuka Tsutsumi*

“　.love　.you　#05”

H570×W850mm
水性木版拓刷り、裏打ち
2010



◆ *Noriko Domonkos*

“ 青い夜”

H580×W890mm
水性木版
2010


■特集
・島根巡回展を終えて　高橋 恭子
・日本・ポーランド国際版画展に想う　有年 博行

■作家紹介
ツツミ アスカ・ドモンコス 紀子

■活動報告

■掲示板


KYOTO版画2010

# 島根巡回展を終えて

## 島根巡回展担当　高橋　恭子

### 夢が現実に

三年前のアメリカ展準備のための総会のときだったでしょうか・・。坂爪先生、黒崎先生から、「島根に巡回展を持って貰えないだろうか・・。」という会話を小耳に挟んだときは、まさか本当に実現するなんて思ってもいませんでした。また島根で現代版画が受け入れられるかどうかについても、不安材料でしたが、こうして無事に巡回展を終えることができ、しかも大盛況・・・。実質二年の準備期間中もあわせ、巡回展の開催にご尽力いただきました会員の皆様やお世話になったたくさんの方々に感謝の気持ちを込めて、ご報告したいと思います。

### ボランティア・大学生・高校生の力をかりて

搬入展示は、広い会場なので心配していましたが、佐久間、二階両氏の的確な指示によって京都の会員の皆様をはじめ、地元のボランティアで協力して、とても楽しく作業することができました。九州からも応援に駆けつけてくださり、島根大学の学生や、地元の県立高校の生徒などたくさんの方々が汗を流してくれました。展示の仕上がりは上々。ポーランドの作品もゆったりと鑑賞できる贅沢な空間構成になりポーランドと日本の作品を対比させながら鑑賞できるレベルの高い展示になったと思います。

### 反響の大きさにびっくり

夏休みに入ってすぐの連休にかけての開催だったこともあり観覧者数が県外からも含めてぐんぐん伸びていき、七月十九日に一〇〇〇人を達成しました。児童版画展と同時開催だったこともあって、小学生を含む家族連れや、県外からの観光客の方々も多かったです。高校生が校外活動として観覧してくれたことは今回の展覧会での特徴でもあり、子どもから大人までたくさんの方々に版画を楽しんでもらうという目標が達成したのではと喜んでいます。総入場者数は一六六三名、図録に興味をもたれる方も多かったし、個々の作品や作家についての問い合わせもたくさんあり、手ごたえを感じました。

山陰中央新報、島根日日新聞、松江マーブル、出雲ケーブルビジョン、NHK松江放送局などたくさんのメディアがとりあげてくれ、特にNHKでの三回にわたる放映は、ポーランド作家の作品をとりあげて具体的な説明も入れたスクープで、反響も大きかったです。このような質の高い国際的な作家の作品が島根にいながらにして鑑賞できることはすばらしい。とのコメントもありました。

### 国際児童版画交流展・WSなども人気

坂爪先生のワークショップには定員をこえる参加希望者があり、完成度の高い作品がたくさん出来上がりました。島根大学の学生がアシスタントとして五名入りましたが、このような形で勉強できる機会が得られ、今後、普及活動の広がりに期待したいです。参加者からまたぜひ継続的に開催してほしいという声もありました。

「国際児童版画交流展ポーランドと日本」も同時開催で松江と出雲を巡回しました。ポーランドの子どもたちのカラフルな作品と、島根の子どもたちの完成度の高い作品を見比べながら楽しんでもらうことができました。会場に訪れた子どもたちがポーランドの子どもたちにお手紙を書いたりするシーンもありました。「心から感動できた」という感想からみても、小中高等学校版画教育との連携の試みは、好感度が高かったようです。出雲・今岡美術館でのワークショップは齊藤先生が担当し木口木版画で蔵書印を制作しました。小学生から大学生まで十人が参加し個性豊かな作品ができました。

### 今なぜポーランドなのか？

会期中たくさんの方々が声をかけてくださいました。「ポーランドの作家の力強さに圧倒された」とか「日本の作家と比べてみると面白い」とか「これが版画？びっくりした」など。その中で一番多かったのがデジタルプリントについての質問でした。京都の講演会や、レクチャーでもテーマになった部分でもあり、七月十八日の黒崎先生の講演会で話題の中心になりました。「今なぜポーランドなのか？」「デジタルプリントとは？」の問いかけを常に意識しながら答えを見出すための会話があちらこちらで弾んでいたのが印象的でした。

### 人と人をつなぎ新しい風が

美術館のチラシやTVのお知らせなどでこの展覧会のことを知り、ボランティアを申し出てくれた方々がたくさんいました。また版画を大学で勉強していたけれど途切れているとか、これから版画を勉強したいという方々が自然と集まり、会期が終わることは、島根大学の美術専攻の学生や、高校の美術部の生徒、地域の版画の愛好家の方々が顔見知りになり版画の話で盛り上がりました。搬出に駆けつけてくださった斎藤先生、角間先生、有年先生とも打ち解けて交流が深まりました。手作りおにぎりとお茶で空腹を満たしながら、楽しい語らいのひと時もあり、版画でつながった仲間同士、再会を誓いました。島根でのこの経験を通して版画制作に向かう仲間が共に手を取り合って次世代の版画文化の振興に関わっていきたいと思います。

### 「SHIMANE 版画～未来へ・・」

最後に私事ですが、今回の島根巡回展の準備等も含め搬入から搬出、会計処理など様々な仕事に関わることで改めて京都版画の実行委員会の皆様のご苦労を知りました。教育現場で日々の雑事に追われながらの活動だったのでたくさん心配や迷惑をおかけしましたが、電話やメールで連絡を取り合いまた、京都には何回も往復しました。行き詰ったとき、困ったときにはいつでも助けてくださり、心強かったです。特に資金面でのやりくりやファンドの利用などについて多くのことを学びました。島根の会員が少ないことで、京都、九州などからたくさんの会員の方々が手弁当で助っ人に駆けつけて下さったおかげで盛り上がりました。本当にありがとうございました。

島根での実践は今後の京都版画・巡回展のよい前例になると思います。地方での開催には、多くの労力、資金、地元関係者の理解などが必要です。乗り越えねばならぬ壁もたくさんあります。それでも京都版画の組織力や会員一人一人の版画に対する情熱がひとつになって夢に向かっていけば、必ず版画の未来は開けると思います。KYOTO版画二〇一〇によってつながった人と人とが島根で新しい風を吹かせていく様子をまたお伝えできる時がきっと来ると思います。

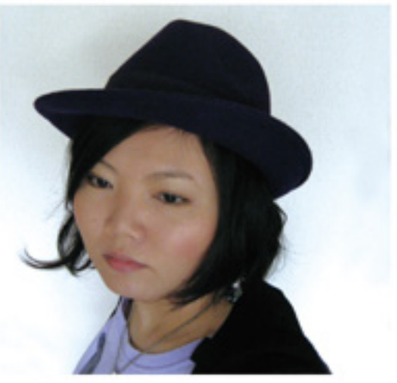







# ツツミアスカ

木版拓刷り
裏打ち



Asuka Tsutsumi

'80 京都府出身
'04 京都精華大学大学院修了

'03 大学版画展買上賞
'04 京展版画部門市長賞
あおもり版画トリエンナーレ1部優秀賞
'05 個展/十一月画廊：東京('07,'09,'10)
The international Invitational Exhibition of Prints in Taiwan 2005
'06 京展版画部門京展賞
'07 京都府美術工芸新鋭選抜展(京都市文化博物館)
'09 NIPPON TODAY/Kunsthalle Rostock：ドイツ

Q1　ご自身の作品の、テーマやコンセプト、最も大事だと考えている事を教えてください。

テーマはその時々で変わります。主軸となるコンセプトは「目に見えないモノやコトに具体的なカタチを与え、これらをみた後に残る最終的なイメージや言葉の断片に、それらの本質的な部分がある」と考えています。作品をつくる上で最も大事なことは、作家自身が何に興味を持ち、何を伝えたいのかだと思っています。また、たえず変化する時代の流れをすばやく感じ取ることも大切で、常に『今』の作家であることを心がけています。

Q2　ツツミさんは、木版の拓刷りを使った独特の技法で作品を制作しておられますが、その技法に至った経緯（自身の表現したいイメージと合わせて）簡単にご説明ください。

水性木版を大学で専攻した理由は色々な薬品や油性インクが体に合わなかったからです（笑）。また、より繊細で美しいグラデーションを多く使いたかったので、手元で簡単に色のコントロールが出来る水性の拓刷りが一番合っていました。
そして私にはキーワードのようなイメージがあり、それは①私が対象物に彫った『刺青』②蠢く『細胞』③人魚姫が消えたときの『泡』といったものです。それらは彫刻刀による粒子状の彫りと複雑に重なった刷りによって表現しています。また、『皮膚』のような質感が重要なので雁皮紙を使用しています。

Q3　ツツミさんの作品は、花をモチーフにされたものが多く見られますが、描かれる花は単に美しいだけではない何かを感じます。ツツミさんにとって、美しいものとはどんなものですか？

『美しいものには毒がある』の一言につきます。その毒が、妖艶さであったり、悲劇であったり、残酷な童話であったりします。しかし、これらはそれでいてなお美しいのです。

Q4　今後の夢をお聞かせください。（作家活動以外でも）

現在、版画作品中心の発表となっていますが、それ以外の作品で展覧会がしたいですね。また、何をどう発表しようと海外でも受け入れてもらえるような強い作品をつくりたいです。他にも色々と挑戦したいことがあるので体がもう一つほしいですよ（笑）。



"love you #03"／縦五七×横八五センチ／木版拓刷り、裏打ち／二〇一〇

# ドモンコス紀子

水性木版



Domonkos Noriko

'96 米国ミネアポリス美術デザイン大学美術学科卒業
'00 鳴門教育大学大学院芸術系（美術）課程修了
'04 徳島大学総合科学部人間社会学科卒業

'99 ARTBOX大賞展
'04 第72回日本版画協会展('05,'07,'09)
あおもり版画トリエンナーレ
第10回鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞展('05,06)
'05 第３回山本鼎版画大賞展('08)
第50回CWAJ現代版画展

Q1　版画制作を始められたきっかけを教えてください。

アメリカの美術大学に留学していた時に友達に勧められ、版画の授業をとったのがきっかけです。版画が職人仕事のように感じて興味を持ちました。その頃は主にリトグラフの制作をしていました。長く制作を続けることを考えるとリトグラフでは難しいと思い、地元の徳島大学に木版画の先生がいたこともあって徳島大学に編入学し木版画を始めました。

Q2　ご自身の作品の、テーマやコンセプト、最も大事だと考えている事を教えてください。

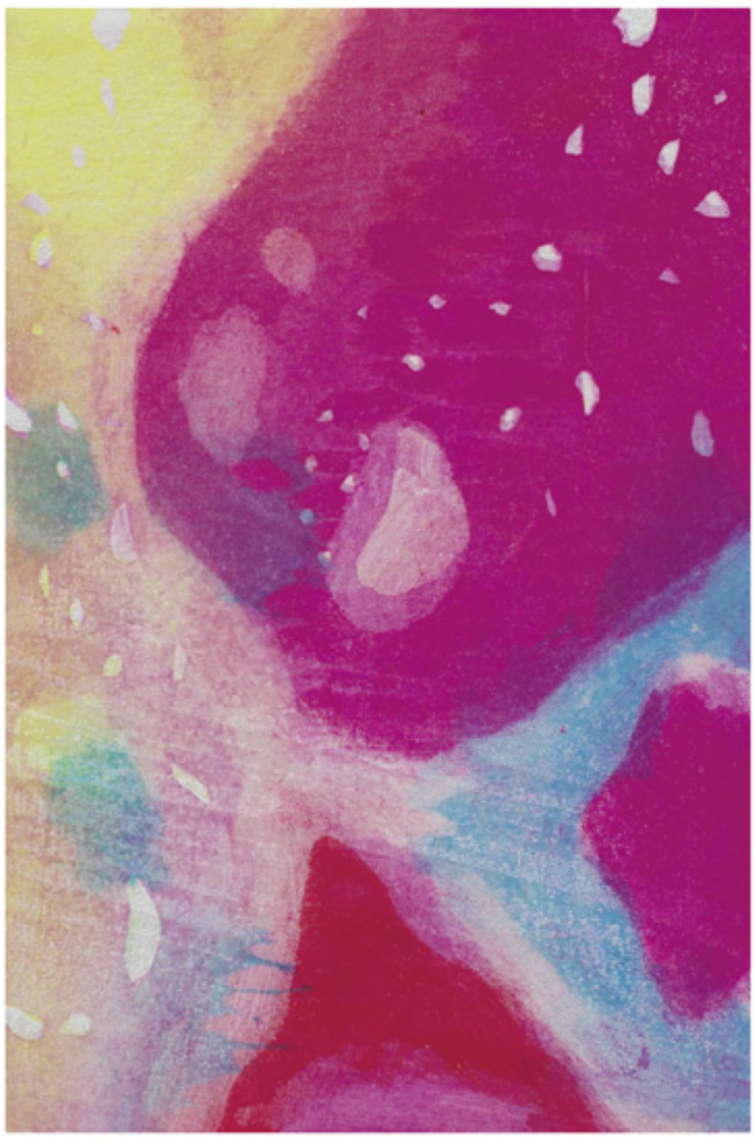
作品を作る時は、常にリズムや音というものを意識して作っています。音楽を聞いたりオルゴールの音を聞いたりするのが好きなのですが、それらの音を絵にしたような、音を感じる作品を目指しています。

Q3　ドモンコス紀子さんの作品は、その美しい色彩に大変魅力があると思いますが、その色彩にどのようなイメージを持っておられますか？

特に色のことについて意識をしたことはないのですが、本や雑誌の写真や空の色など、その時強く心に残っている色がイメージの元になっていることが多いと思います。
木版画というと、白黒で暗い絵というイメージがあるとよく言われるのですが、私自身、暗くて重い感じの作品はあまり好きでないので、明るく軽快で作っていても見ていても気分が明るくなるような作品になるよう心がけています。

Q4　今後の夢をお聞かせください。（作家活動以外でも）

去年は入院、出産、育児でほとんど制作できず、制作に対する自信や気力も落ち込みがちだったので、今回のポーランド展で賞を頂いたことは本当にうれしく励みになりました。
落ち着いて制作ができる環境を整え、作品を発表する機会を少しでも増やしていきたいと思っています。赤ちゃんが家にいるのでなかなか難しいのですが、まずは、なんとか保育所に入れたいところです。（かなり難しいのが現状ですが。）でも少子化の今の社会は、市などの子育てサポートがかなり充実しているのでいい時期に子どもが持てたと思います。なんとか制作と育児の両立ができるよう頑張りたいです。



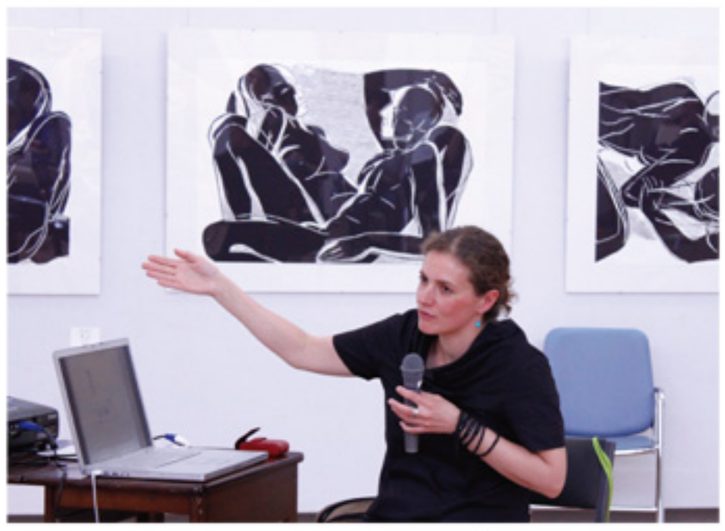
「イナズマドロップ」　H15XW10cm　水性木版　2008

## ○日本・ポーランド国際版画展に想う○

有年　博行

今回日本の作家とポーランドの作家の交流展が古都京都で開催されたことは非常に意義深いものがあります。日本とポーランドの国と国との交流、クラクフと京都の街と街との交流、とりわけ版画芸術の交流は日本の版画界にとって、単に展覧会を開催するイベント以上にひとつの時代を代表する芸術の深い精神性を表現することにおいて、非常に貴重な機会を得たと言えるでしょう。

今日社会において芸術を取り巻く環境は大変厳しいものがあります。世界的に経済が閉塞した現状は芸術家の生活を脅かし、その崇高な精神すら蝕んでいきかねません。混沌とした世界経済の負のエネルギーにはひとりの芸術家の力では抗いかねます。世界は、我々芸術家に、その精神性の深さと未来を洞察する鋭い眼に対し、敬意と援助をしなければなりません。



写真撮影：パルアート田積佳奈

そんな絶望的状況の中、この展覧会は開催されました。この会はポーランドの作家たちの情熱、クラクフの SMTG の関係各位、ポーランド大使館の熱意の賜物です。我々日本側作家にとって、これほどポーランドを代表する作家たちの多くの作品にふれる機会はめったにありません。その作品の一点一点に込められた思いは深く私たちの脳裏に刻み込まれました。ポーランドという国家が抱えてきた歴史を我々は今こそ思い起こし、その歴史のなかにこそポーランド作家たちの創造性の濃密な原点を見出した思いがします。展覧会場に足を踏み入れると、そこにはまさにポーランドそのものがあります。こんな象徴的な表現が過剰ではないほどポーランドの作品はぐいぐいと私たちをひきつけていきました。歴史を土台にした表現の重厚さが私たちを魅了していきます。ポーランドの作家たちのエネルギーは我々日本作家が持ち得ない性質のものかも知れません。が、その精神的深さが版画という表現媒体と見事に合致しています。

これほど版画の表現の可能性を見せてくれたことがかつてあっただろうか?我々日本作家はもっと学ばねばなりません。技法の多様性が日本作家にあります。その多様性が日本の作品の特徴です。個人の技術の高さは世界的にみても相当にあるのではないでしょうか。しかし問題はその技術の高さや、多様性にある気がします。ここで安易に結論づけるつもりはありません。単なる印象に過ぎませんが、ポーランド作家にあって、日本作家に無いもの。またその逆もあります。会場を歩きながら、感じ取る試みは版画という表現媒体を考える試みでもあります。私という一作家が感じ取る貴重な体験でもあります。版を媒体とした表現活動の可能性を探らなければなりません。伝統的技法の再認識や時代とともに開発されていく新しい技法の構築や展開、古きものと新しきものとの融合、何者にも囚われない自由な表現を版は秘めています。自由な表現はとりもなおさず自由な精神を意味します。果たして日本は自由な精神性に満ちているか?はなはだ疑問です。芸術が市民生活に満ちているか?これまたはなはだ疑問です。かつて日本は浮世絵という市井の芸術が市民生活に満ちていました。人々は毎日の生活の中に自然に芸術を取り入れていました。システムとして芸術が循環していたのです。いわば版画の黄金期でしょう。そして浮世絵を芸術として認識したのは西欧のコレクターたちです。現在、一昔前の矛盾と同じようなことが起きている気がします。悲しいかな、日本において版画は一段低い位置におかれ、様々な場面でその事態に遭遇します。驚くべき事態であり悲しき現実です。これはあくまでも一版画家の私見であってすべての版画家の意見を代弁するものではありませんが、あえてポーランドの人々に日本の現状をお知らせしたいのです。経済大国日本が芸術大国といえるのか?答えは NO です。芸術家は半死半生です。若い芸術家は死に絶えていきます。そして巷に流布するのは似非芸術ばかりです。芸術大国日本など何処にもありません。そんな時この展覧会が開催されたのです。希望を見出すことができるかもしれません。地方島根でも巡回され大きな反響をよびました。少しは希望の種をまくことができたようです。それもこれもポーランドの関係各位と京都版画実行委員会各位のおかげです。全てのこの展覧会に携わっていただいた方々のおかげです。一実行委員としてお礼を申し上げます。そして今回の交流がさらに発展していくことを願って文責を果たしたいとおもいます。ありがとうございました。2010 年 8 月

## 版画京都展実行委員会　　活動報告

版画 KYOTO2010 選抜展は、2010 年 8 月 24 日（火）～29（日）、ギャラリー恵風（京都）にて開催されました。出品者は加藤恵、竹原仁子、中東剛、牧野浩紀、三上景子 ( 計 5 名 ) です。技法はそれぞれ違いますが、版画の魅力を見出だし表現している点では共通していると思いました。
会期中は猛暑が続きましたが、たくさんの方にお越し頂きました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。（文：三上／写真：ツツミ）



### お知らせ

会報の見開きページを
プチリニューアルしました。

## 掲示板

会報にお寄せいただいた京都版画展の出品者の展覧会、活動情報です。詳細は会場等へお問い合わせください。

●朝日みお
＜朝日みお銅版画展＞
会期：2010 年 10 月 26 日～11 月 6 日
場所：乙画廊
　　大阪市北区西天満 2-8-1
　　大江ビルヂング 101
TEL：06-6311-3322

＜朝日みお展 ＝地の果て 空の果て＝＞
会期：2010 年 11 月 18 日～11 月 29 日
場所：玉川高島屋ルーフギャラリー
　　東京都世田谷区玉川 3-17-1
　　玉川高島屋 S・C 本館 R 階
TEL：03-3709-2222

●伊藤尚子
＜伊藤尚子作品展（漆芸、版画）＞
会期：2010年12月7日～12月19日
場所：アートライフ みつはし　〒606-8407
　　京都市左京区銀閣寺前町23

●角間貴生
＜角間貴生と日韓中の友人展＞
会期：2010 年 12 月 21 日 ( 火 )～12 月 26 日 ( 日 )
場所：福岡市美術館・特別展示室 B
　　〒810-0051 福岡市中央区大濠公園 1-6
TEL：092-714-6051

●片岡れいこ
＜片岡れいこ個展＞
会期：2010 年 12 月 6 日 ( 月 )～12 月 11 日 ( 土 )
場所：青樺画廊　〒104-0031
　　東京都中央区京橋 3-5-4 吉井ビル 3F
TEL：03-6856-2006

●武田あずみ・冨永真理
＜KYOTO 版画 2010 奨励賞展＞
会期：2011 年 3 月　6 日～3 月 13 日 ( 前期 : 武田 )
　　3 月 15 日～3 月 20 日 ( 後期 : 冨永 )
場所：ギャラリーヒルゲート 2F　〒604-8081
　　京都市中京区寺町通三条上ル天性寺前町 53

●ツツミアスカ・ドモンコス紀子
＜ツツミアスカ・ドモンコス紀子展＞
会期：2010 年 11 月 9 日 ( 火 )～11 月 14 日 ( 日 )
場所：ギャラリー恵風 1F　〒606-8392
　　京都市左京区丸太町通東大路東入ル南側
TEL：075-771-1011

●三上景子
＜三上景子展＞
会期：2010 年 12 月 7 日 ( 火 )～12 日 ( 日 )
場所：ギャラリー恵風　〒606-8392
　　京都市左京区丸太町通東大路東入ル南側
TEL：075-771-1011

●山本桂右
＜山本桂右展＞
会期：2010 年 10 月 30 日～11 月 14 日
場所：ギャラリー白川　〒605-0822
　　京都市東山区祇園上弁天町 430-1
TEL：075-532-2616

### 編集後記

ようやく涼しくなりましたが、この夏の話題といえば、とにかく暑かった！につきますね。わたしが育てている植物たちはこの暑さでだいぶダメージを受けましたが、この猛暑のなか多肉植物だけが元気にパワフルに増殖し、その生命力とタフさに感心する日々でした。来年はほどほどの暑さでありますように。

会報担当：川端千絵、ツツミアスカ、三上景子　編集：ツツミアスカ　発行：版画京都展実行委員会　問い合わせ先 ( 事務局 )：075-956-6910

PANN News Letter
Vol. 13
Printmaker's Association of Nishi Nippon
June 2011

## ● 会報第13号の発行によせて ●

版画京都展実行委員会主催の2012年の国際展はイギリスと行います。イギリスの楽しい情報を片岡れいこ氏に伺いました。また、作家紹介では昨年、京都市美術館別館で開催された日本・ポーランド国際版画展で、奨励賞を受賞された銅版画の武田あずみ氏と冨永真理氏を取り上げました。

それぞれ大変興味深い内容です。ごゆっくりとお読み下さい。



### ◆ *Azumi Takeda*

“ A棟 ”

H46.5×W83cm
銅版画　エッチング・アクアチント
2010



### ◆ *Mari Tominaga*

“ ほろほろ綻ぶ ”

H70×W100cm
銅版画　エッチング・アクアチント
2009

■特集
イギリスへ行きたい！　片岡　れいこ

■作家紹介
武田　あずみ・冨永　真理

■角間貴生さんの出版案内

■活動報告

■掲示板

KYOTO版画2011

どこまでも続く丘、はちみつ色の家、そして刺激的なロンドンの街…。
イギリスが大好きで学生の頃から何度も訪れ、留学までしてしまった私が、面白エピソードや現地の口コミ情報を織り交ぜたイラストガイドブックを出版するにまで至ったのは今から3年前の出来事です。
今回は、本誌で紹介した内容のピックアップとともに、イギリスでの出来事を思い出しながら、断片を紹介いたします。

片岡れいこ







『イギリスへ行きたい！』片岡れいこ著
メイツ出版　1575 円
とっても楽しくてわかりやすい
イギリスの旅あれこれ


衛兵さんは年中、黒い毛皮の帽子に赤い上着でいるそうで、夏の長い儀式の時などは、盆血で倒れる人もいるそうです。




★Old Manse Hotel で フィッシュ＆チップス！
イギリスの国民的食のメニュー。フィッシュ＆チップスは、価格がお店によって味も様々。ここで注文したは"骨が多い"と書いてあったフィッシュ＆チップスは、タルタルソースをたっぷり付けて、みみに応じてビネガー（黒酢ソース）を。

なる程、揚げたて！皮はサクサク、中味はフワフワ。
骨もさほど気にならないネ。
サンドイッチもボリュームたっぷりでおいしいよ。









毎日午後1時になると、イングランド最大の鐘「グレート・ポール」が鳴り響きます。



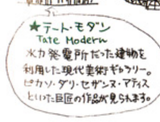




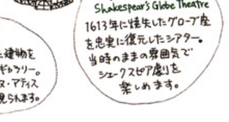





★BAロンドン・アイ
British Airways London eye
2000年に造られた高さ135mの巨大観覧車。晴れた日には一望できます。



★テート・モダン
Tate Modern
火力発電所だった建物を利用した現代美術ギャラリー。ピカソ・ダリ・セザンヌ・アディといった巨匠の作品が見られます。



★シェイクスピア・グローブ・シアター
Shakespeare's Globe Theatre
1613年に焼失したグローブ座を忠実に復元したシアター。当時のままの雰囲気でシェークスピア劇にも楽しめます。



★ノースヨークシャー・ムーアズ鉄道
North Yorkshire Moors Railway (NYMR)




お黒いトンネルを抜けます。
林や草原の間にささな集落を見え隠れし、高野の丘を駆け抜ける。
山肌をバックに草原を駆け抜ける。
森や林や牛の群れの中を駆け抜ける
中世の香りが漂うかわいらしい町。ここから1時間のタクシーは9ポンドないと走らないので、マルトンで乗った、好きのタクシーのドライバーに、帰りも頼んでおくとスムーズ。



★広場の前に建つナショナル・ギャラリーは、絵画ファンでなくても必見の、世界屈指の西洋絵画コレクションを誇っています。ゴッホの「ひまわり」をはじめ、ダヴィンチやボッティチェリ、ティツィアーノ、モネ、レンブラントなどの巨匠の絵画が目白押し。
日本語オーディオガイド（寄付£3.5）を借りとハイライトを廻ってみましょう。







中でもお気に入りの作品「鏡のヴィーナス」ベラスケス。
優う向きに横たわるヴィーナスの造き通る様な肌のなめらかな曲線と、その前の鏡を支える愛らしいキューピッド。錯誤しに見る（くうふいた）ヴィーナスの顔は何だか見てはいけないものを見てしまったような不思議な魅力にとらわれます。

★名物 ガーゴイルを探せ！
屋根の水出し口にある彫刻のことで魔よけとも言われるガーゴイル。オックスフォードの町ではたくさん見つける事ができます。



あっ、友達に顔が似ている（日本人）…。



この可愛らしい子供達はホームステイ先にいた兄弟。
3 才の妹ニコラになぜかとても嫌われていたのですが、実は私のアトリエ屋号の由来はこの憎らしい娘…！？。

Printmaker's Association of Nishi Nippon



# 冨永真理

**銅版画**
**エッチング・アクアチント**

立命館大学卒業

'94 銅版画工房アトリエ凹凸入会
'95 国展初入選
'00 現代版画コンクール('02)
'05 東京国際ミニプリント・トリエンナーレ
'07 日本・タイ国際版画展
'08 高知国際トリエンナーレ・賞候補
　銅版画日・仏交流展(パリ)
　日・米国際版画展
　山本鼎版画大賞展
'09 国展準会員優作賞/会員推挙
　クラコフ国際版画トリエンナーレ(ポーランド)
'10 日本・ポーランド国際版画展・奨励賞

Q1：ご自身の作品の、テーマやコンセプト、最も大事だと考えている事を教えてください。
<With The Wind> というテーマで制作してきました。いつも心がけているのは。Only one、で『私らしさ』。実は、人の影響をとても受けやすい性格です。

Q2：作品制作で使っている技法に至った経緯（自身の表現したいイメージと合わせて）を簡単にご説明ください。
私の場合、ベースとなる一刷目は普通に銅版を刷り、二刷目は沢山作った小さな部品を並べて刷ります。今回木々や草花がそよぐイメージにどうしても散らす表現が欲しかったので、小さな『風の精』たちを沢山つくりました。そんなわけで、今回奨励賞を頂いた「ほろほろ綻ぶ」は六四版二刷となりました。細かい型を刷るとエンボスができ、木版?と思われたりします。型をひとつずつ作るので、手間も時間もかかりますが、要領の悪さも私らしさだと思っています。

Q3：冨永さんの作品は、箱や植物、魚のような飛行機などが登場する不可思議な風景に大変魅力があると思いますが、その風景にどのようなイメージを持っておられますか?
いつからか、私の心象風景になっていました。箱は、私の気持ちを入れる入れ物だったり、飛行機は私の分身だったり…。作品の中で私自身飛び回り、遊んでいます。手?のような形は木がそよいでるイメージをデフォルメしたものですが、我ながらへんてこな形だと思います。そしてそのへんてこな形が私の作品にたびたび登場してきます。

Q4：今後の夢をお聞かせください。（作家活動以外でも）
このまま自然に続けていければと思っています。私を育ててくれたアトリエ凹凸に感謝しています。いつまでもアトリエの一員であり続けたいと思っています。そして一枚でも多く<With The Wind> シリーズを届けられたら、版画を通して人の心に寄り添えたら……これ以上の夢はありません。



作品写真／『くるくる回る』縦八〇×横八〇センチ／エッチング・アクアチント／二〇〇七



作品写真
『やっかいなはなし　【夢見る婦人の夢の話】』／縦十六×横十六センチ／エッチング・アクアチント／二〇一〇

Q1：ご自身の作品の、テーマやコンセプト、最も大事だと考えている事を教えてください。
テーマやコンセプトは作品によって違いますが、絵と言葉を用いて「人が生み出す物語」を表すことを目指しています。絵と言葉という表現方法は、一見バラバラのようでそうではなく、絵が言葉を生むこともあり、言葉が絵を生むこともあります。これらを組み合わせることで、登場人物を取り巻く現実が具体的になり、物語が生まれると考えています。

Q2：作品制作で使っている技法に至った経緯（自身の表現したいイメージと合わせて）を簡単にご説明ください。
エッチングとアクアチントを用いています。最初に手を出したそれらの技法があまりに上手くいかず、意地で続けていたら一筋になってしまいました。アクアチントを繰り返すと、薄い色の付いた膜を何度も重ねていくような張り詰めた感覚を覚えます。その感覚が、登場人物の想いを画面に充満させたイメージと繋がるように思っています。

Q3：武田さんの作品は、教訓童話のようなタイトルと作品に大変魅力があると思いますが、その発想はどこから得ますか?
日常生活から発想します。印象深い人物や出来事は、否応なしに目に飛び込んでくるものです。私だけでなく、誰しもが日々直面する様々な事柄について想いを巡らせながら生活しているのではないでしょうか。ただ、私の作品は『教訓』と言えるようなものではなく、『文句』程度の呟きです。作品を作ることは、「これってこうだよね?」と私なりに周囲に胸襟を開く方法としてあるように思えます。

Q4：今後の夢をお聞かせください。（作家活動以外でも）
例えば、「大分麦焼酎二階堂」のCMのような『放浪』に憧れを抱き続けています。意味深に帽子とコートを着込み、ふらっと立ち寄った「どこか」について、年期の入った万年筆で郷愁の言葉を綴りたい。しかし哀しいかな。私には帽子もコートも似合わないし、知らない土地は不安だし、万年筆で上手に文字が書けない。私はいつも通り旅に出ず、家で旅の物語を描くと思います。製本もしたい。「似非『刻の記憶』手帳」なんて面白いかもしれません。こんなふうに制作を続けていくことが今後の夢です。ひとまず、プレス機を買わねばなりません。



# 武田あずみ

**銅版画**
**エッチング・アクアチント**

'86 静岡県出身
'11 京都造形芸術大学大学院修了

'09 第54回　CWAJ現代版画展
　(東京アメリカン・クラブ)
'10 二人展　［10の言葉と2の話］
　(アートスペース虹)
　日本・ポーランド国際版画展
　(京都市美術館別館/奨励賞)
　第55回　CWAJ現代版画展
　(東京アメリカン・クラブ)
　第７回 大野城まどかぴあ版画ビエンナーレ展
　(まどかぴあ/入選)

## ○ 角間貴生さんの出版案内 ○




「ちきゅう旅ものがたり」の版画画集
『旅夜絵夜(たびやえや)十一夜物語』
（花書院刊）

作者が世界のあちこちを旅した放浪旅をテーマに、絵（版画）と文をコラボさせたエッセイ版画集です。画集に描かれた絵は彫りすすみ木版画や銅版作品 23 点で、人間や自然などを半抽象化した宇宙感覚的な心象風景を中心にしているようだ。「絵に興味のない人にも楽しんでもらいたい」と、ストーリーもエキサイティングで詩的なものにこだわり、「欧米、インド、ネパールなど旅先の人との出会いがアートへの意欲を目覚めさせた」と語るように、作者の原点を紹介する作品集と言えようか…。

（文・写真：角間貴生）




## ○ 版画京都展実行委員会　活動報告 ○

### ● 新鋭展 2011 ●

日　時：2011 年 1 月 22 日 ( 土 )～1 月 30 日 ( 木 )
会　場：ARTFORUM JARFO
出品者：岩崎咲子、高井信子、ふじいみよこ、三浦真衣、本岡千尋、
　　吉元光生（50 音順）



この度の新鋭展は、作品の大きさは様々でしたが、カラフルな作品は少なく、モノトーンの作品が多かったため、落ち着いた空間になっていました。
ガラスで区切られた空間で展示させていただいのは初めてでしたが一貫性のある透き通ったいい展示になりました。空間をガラスで仕切るというアイディアは面白く、今後の展示のための勉強になりました。

（文：岩崎咲子／写真撮影：三浦真衣）

### ● 版画集「京都十景 2010」出版記念展 ●

日　時：2010 年 12 月 14 日 ( 火 )～12 月 19 日 ( 日 )
会　場：ギャラリーヒルゲート ( 京都市中京区寺町三条上ル西側)
出品者：有年博行、黒崎彰、斎藤修、坂爪厚生、佐久間嘉明、
　　柴田真由美、清水博文、田島征彦、平木美鶴、山本桂右
　　（50 音順）

「京都十景」はご存知のとおり、当会が企画・発行し 2006 年より隔年に刊行しているオリジナル版画集です。早くも第 3 集の出版となり、今回からギャラリーヒルゲートさんでお披露目をすることになりました。
初日は会場が満杯になる程、沢山の方がお祝いに駆けつけてくださり、あわせてヒルゲートさん特製のお料理に舌鼓を打ちながらお酒もすすんで盛大なオープニングパーティとなりました。新しい会場で会期が短かったのですが、京都の風景を題材にそれぞれ作家の個性を生かした存在感のある版表現は、小作品ながらも見応えがあると好評をいただきました。
( 文：柴田真由美／写真撮影：右上下：人見ジュン子／左下：有年博行)








写真左：ギャラリーヒルゲートの人見ジュン子さん(一番左)と出品者／写真右：会場風景

第 3 集は 2011 年 3 月現在、エディション・AP 共に残部がございます!
お問い合わせ、購入ご希望の方は下記までお願いいたします。
( 第 1 集は完売、第 2 集は AP のみ若干数残部あります。)



版画集「京都十景 2010」
企画・発行：版画京都展実行委員会
頒 布 価 格 ：70,000 円
限 定 部 数 ：30 部（全て作家のサイン入り）
シートサイズ：A4(29.7×21.0cm)
装本：めおと箱ケース入り (32.4×23.0×2.8cm)

【問合せ先】
斎藤　修
〒622-0232　京都府船井郡京丹波町曽根清長 60-4
TEL/FAX：0771-82-2356

## 掲示板

会報にお寄せいただいた版画京都展の出品者の展覧会、活動情報です。詳細は会場等へお問い合わせください。

●朝日 みお
＜朝日みお作品展＞
会期：2011 年 5 月 6 日～ 5 月 16 日
場所：アートデアート・ビュー
　　〒569-0802 高槻市北園町 13-30
TEL：072-685-0466

●伊藤 尚子
＜伊藤尚子作品展＞
会期：2011 年 9 月 20 日～10 月 2 日
場所：Y.Art-Gallery　〒530-0027
　　大阪市北区堂山町 15-17 ACT 3-1F
TEL：06-6311-5380

●たなか 玉実
＜「時の魔術」たなか玉実 銅版画展＞
会期：2011 年 6 月 14 日～6 月 19 日
場所：ギャラリーおいし　〒810-0001
　　福岡市中央区天神 2-9-212
　　（新天町南通り）
TEL：092-721-6013

●岩崎 咲子
＜因州和紙版画展＞
会期：2011 年 4 月 29 日～6 月 12 日
場所：あおや和紙工房企画展示室
　　〒689-0514 鳥取市青谷町山根 313
TEL：0857(86)6060

＜白い衝撃展＞
会期：2011 年 5 月 15 日～5 月 22 日
場所：五臓圓ビル 2F
　　〒680-0033 鳥取市二階町 2-207
TEL：0857(21)7995

＜三日展＞
会期：2011 年 6 月 17 日～6 月 19 日
場所：ARTFORUM JARFO　〒605-0023
　　京都市東山区三条通東大路東入
　　今小路町 81 番地 1 階
TEL：075(75)1004

●近藤 幸
＜近藤 幸 展＞
会期：2011 年 6 月 13 日～6 月 25 日
場所：十一月画廊　〒104-0061
　　東京都中央区銀座 7-11-11
　　長谷川ビル 3F
TEL：03-3289-8880

＜近藤 幸 展＞
会期：2011 年 7 月 2 日～7 月 16 日
場所：Gallery A・C・S　〒460-0008
　　名古屋市中区栄 1 丁目 13-4
　　みその大林ビル 1 F
TEL：052-232-0828

●林 葉子
＜林 葉子 展＞
会期：2011 年 10 月 24 日～10 月 29 日
場所：ギャラリー白 3　〒530-0047
　　大阪市北区西天満 4-3-3 星光ビル 3F
TEL：06-6363-0493

●牧野 浩紀
＜木版画展＞
会期：2011 年 5 月 31 日～6 月 12 日
場所：ギャラリー恵風 1F　〒606-8392
　　京都市左京区丸太町通東大路
　　東入ル南側 野村ビル
TEL：075-771-1011

●科野和子、武田あずみ
　西住恵子、目良真弓
＜４人展（仮）＞
会期：2011 年 5 月 31 日～6 月 5 日
場所：ギャラリー恵風　〒606-8392
　　京都市左京区丸太町通東大路
　　東入ル南側 野村ビル
TEL：075-771-1011

## 編集後記

前回の号でプチリニューアルしたはずの見開きページが会報担当の手違いで元に戻ってしまいました。担当一同、お詫び申し上げます。次号からはプチリニューアル版で発行致します。さて、一気に暖かくなり私のアトリエの樹々花々はランランと咲き始めました。約 20 種類 (?) の植物は元気に成長中です。

会報担当：川端千絵、ツツミアスカ、三上景子　編集：ツツミアスカ　発行：版画京都展実行委員会　問い合わせ先 ( 事務局 )：075-956-6910

# PANN News Letter

Vol.14

Printmaker's Association of Nishi Nippon　December 2011


## ● 会報第14号の発行によせて ●

今回の作家紹介では、長年に渡り木版画の制作をされておられる川西祐三郎氏を取り上げました。作品を見ているとこちらまで楽しくなるその作風は私たちの心を常に魅了します。また、齋藤修氏に版画京都展実行委員会の企画出版物である『京都十景』について伺いました。それぞれ大変興味深い内容です。ごゆっくりとお読み下さい。

◆ *Yuzaburo Kawanishi*
“ザルツブルグ”

H60×W45cm
木版画
1996




■作家紹介　川西　祐三郎

■特集　『京都十景』京都から一新版画集出版　　齋藤 修

■第79回版画展回想　有年 博行

■活動報告

■掲示板

KYOTO版画2011

作家紹介

# 木版画 川西 祐三郎



2008 年 10 月 13 日　自宅にて撮影　刷りの作業

【略歴】
1923年に版画家　川西　英(1894-1965、版画家、画家)の
　　三男として神戸に生まれる
1931年　８歳で父を師として木版画制作をはじめる

1942年　第１１回日本版画協会展初入選以後毎回出品
　　第５回文部省美術展入選
1943年　第１８回国画会展初入選以後毎回出品
　　日本版画協会会員推挙
1948年　国画会奨学賞を受賞
1949年　国画会会友推挙
　　日本美術家連盟に加入
1968年　ピストイア（伊）第２回国際版画ビエンナーレ展
1971年　国画会会員推挙
1978年　個展　東京銀座養清堂
1985年　神戸市文化賞受賞
1989年　「神戸100景」版画集　神戸新聞社より発刊
1995年　兵庫県文化賞受賞
2002年　日本版画協会名誉会員推挙
2008年　地域文化功労者文部科学大臣表彰

【コレクション】
東京国立近代美術館
国立国際美術館
兵庫県立美術館
大阪府立現代美術センター
京都国立近代美術館
ホノルル美術館
神戸市立博物館
外務省作品買上

**Q1：川西先生は長年に渡って木版画の制作に取り組まれていますが、その技法に至った経緯を教えてください。**

父　川西　英が版画協会で三七才で会員推挙亡くなる七〇才まで所属していました。版画家の息子として生まれた私は子供心に親の真似がしたくて八才の時から父の横に机を並べて木版画を始めました。父は真剣に仕事をしている最中に隣に邪魔者が来るので機嫌が悪かったです。この時から木版画のみのスタートしたのが良かったが、父の作品の影響だけを受けたので、若い頃は周りの人から悪気でなく褒めるつもりで「英さんの作品とそっくりだ」と言われて悩みました。それが一九七五年から始めた「ヨーロッパシリーズ」で風景を一旦バラバラにして組み立て直すようになってから英さんと全く離れたと言われるようになりました。



『しまなみ眺望』　木版／縦三三．五センチ × 横四八センチ／二〇〇七年

**Q2：ご自身の作品制作において、最も大切だと思うことを教えてください。**

作品の原画作りの時に意気込んで緊張するものですが、児童が無邪気に自由奔放に描いているように大人もあの心境で描けたらと何時も考えております。私の場合、風景の作品が多いのですが、見たままでなく、画面上で自分の好きなように組み立て直す、そして気に入ったメインの物体は誇大に扱い、それ以外は思い切って省略する。更に画面を直線や曲線で区切って明暗を自由自在に配分して楽しく作り上げることです。画家の仕事は個人プレーで孤独なものですが、版画協会のような権威のある団体展に出品して、自分の作品を大勢の作品の中で見るのは何よりの勉強です。

**Q3：川西先生にとって版画とは何ですか？**

最初のところで申しあげたように、版画家の三男として生まれたので、木版画のみからスタートした。普通なら油絵や日本画を勉強してから途中で版画に転向するケースが多いのです。父も油絵から転向しています。私は幼い頃から風景でも版画的な省略表現で捉えて育ったのです。これは後に版画家として活躍した時にプラス要因になりました。併し小学校では図画の先生から「君の絵は濃淡の差が強くて中間色がない」と叱られました。私にとって木版画以外の仕事は無いわけです。スタートが早かったので、日本版画協会は二〇才で会員に推挙されて以来八七才の今日まで現役です。



『ベニス詩情』　木版／縦六五センチ × 横四五センチ／一九九八年

**Q4：東日本大震災以降、私たちの価値観や考え方は確実に変わりました。作家として、今後何を考えて作品をつくるべきだと考えておられますか？**

私は神戸生まれの神戸育ちです。平成七年に阪神大震災を経験しました。戦時中の米軍の空爆から復興した街は再び廃墟と化しました。地元ではただ呆然として復興は何時のことかと思われました。そんな中、被災された方の心を癒して励まそうと先頭に立ったのは文化人でした。音楽や絵画などが人々を気分転換して勇気づけ大切な役割を果たすことを、あの時初めて認識しました。東日本大震災では阪神の時より遥かに被害が大きいので、尚更文化人の奮闘が期待されます。版画家も各個人は微力でも制作を通じて現地の方の奮闘を盛りたてて、一日も早い復興をお祈りするばかりです。自分の仕事を一生懸命励むことがせめてもの貢献に繋がるよう、作品のチャリティーなどに積極的に参加します。

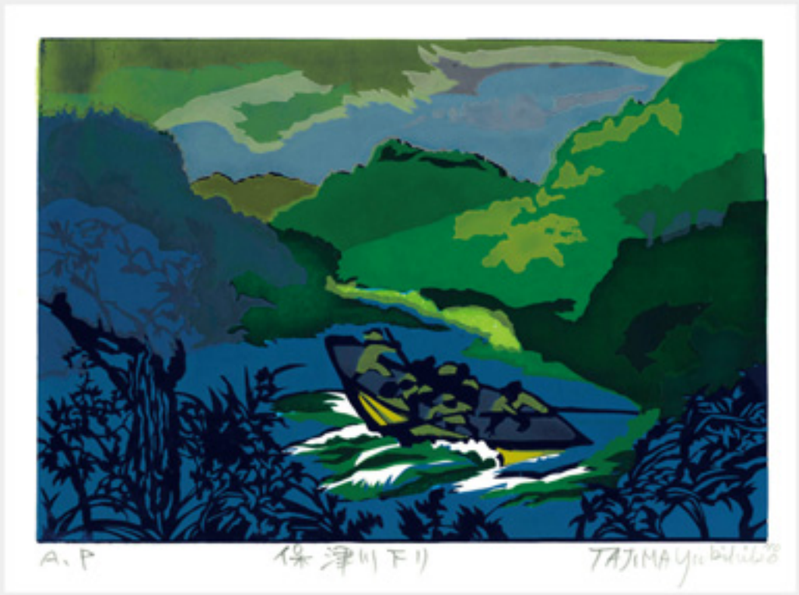
**Q5：これからの川西先生の展望と若い世代に一言お願いします。**

八才から今までに制作した作品は一二〇〇点を超えました。幼時から作品台帳を管理していたのも親の真似をしたのが良かったです。
①「ヨーロッパシリーズ」と②日本らしい風景、所謂「ふるさとシリーズ」③生まれ育った「神戸シリーズ」を中心にこれからも制作を続けます。作品制作では、作品に自分が創作した他人とは異なる個性が表現されていることが何よりも大切です。団体展で並んだ時にサインが無くても誰の作品か一目で判別されること、制作に当たって自分の好きな形や色彩を自由に組み合わせて楽しむことです。これは必ず鑑賞される方に伝わります。



『港都瑞光』　木版／縦三三．五センチ × 横四八センチ／一九九六年

# 版画集「京都十景」



田島 征彦



山本 桂右

## Dix Paysages de Kyoto 2010



齊藤 修



有年 博行

## 京都から
## ―新版画集出版―

齋藤 修

**Q1：『京都十景』を始めたきっかけは何ですか？**

第三回目のタイ国との交流展終了後の運営委員会で今後の交流展費用捻出に、版画京都展会員の負担を少しでも軽減するため、版画集発行のアイデアが出され各委員から色々な意見を聞き京都の風景をテーマにした版画集に決まり、二年に一度の発行で十点十セットで最終的に「京都百景」を目指すことになりました。

**Q2：『京都十景』は京都の風景をモチーフとしていますが、京都の町並みの魅力は何ですか？**

京都をテーマにした版画作品は、浮世絵師広重の作品から現代の作家まで各種制作されていますがほとんどの作品は、一人の作家が制作されたものであり我々が制作していく版画集は、各種技法作家の制作された十人十様の十点セットで構成されています。京都の魅力は，皆さんがご存知のとうりと考えています。



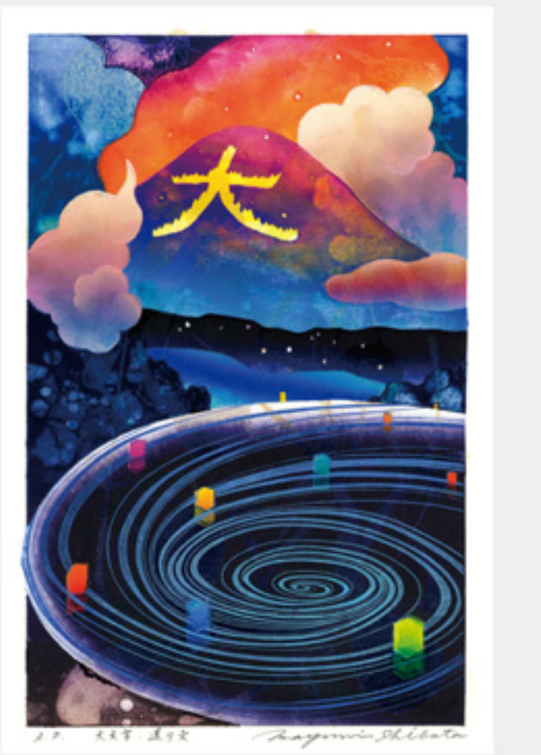
平木 美鶴

**Q3：オフセット印刷による出版物と版画作品による出版物の違いは何ですか？**

版画作品は、エディションがどうあれ一点一点がオリジナル作品です。それが印刷物と違うところです。ED：三〇、AP：一〇、HC：一〇、の制作です。

**Q4：『京都十景』の見どころや面白いと感じる所は何ですか？**

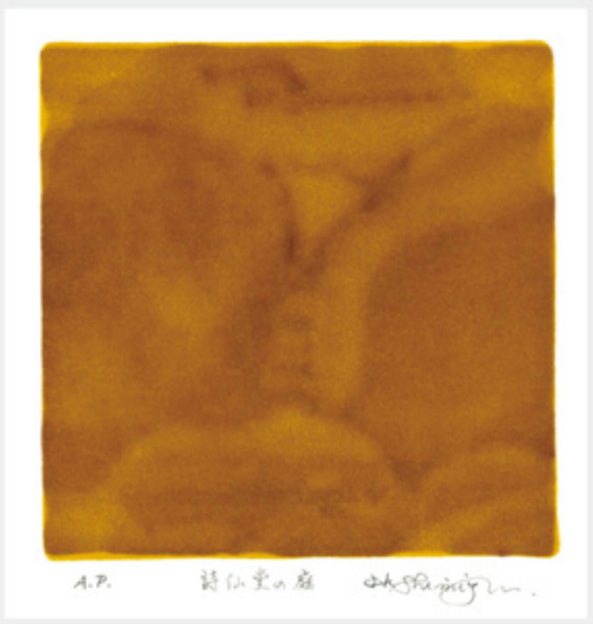
版画技法の違う作家の表現がいろんな意味で楽しみがあると考えています。また知らなかった京都の風景を教えてくれます。



柴田 真由美



佐久間 嘉明



清水 博文

**Q5：今後の展開はどのようにお考えですか？**

現在，第三集まで発行してきました。三十箇所の作品です。後、七十箇所の作品が制作されます。どんな表現の作品が出てくるか楽しみにしてください。

作家構成は、日本版画協会員であることが基本です。しかし、若干名を入れ替えて構成していきます。準会員、一般出品作家も考慮していくことも考えています。会員諸氏のご協力を御願いします。



黒崎 彰



坂爪 厚生

現代版画家の目を通してみる
新しい京都のイメージ

版画集『京都十景２０１０』

◆企画・発行
版画京都展実行委員会
◆頒布価格：70,000 円（税込）
◆限定部数：30 部
（すべて作家のサイン入り）
◆シートサイズ：A4
（29.7×21.cm）
◆装本：めおと箱ケース入り
（32.4×23.0×2.8cm）
◆お問い合わせ
斎藤　修
〒622-0232 京都府船井郡
丹波町曽根清長 60-4
TEL/FAX：0771-82-2376

## ○　第79回版画展回想　有年　博行　○

京都で開催される日本版画協会版画展の 2 年目にあたる、第７９回展が無事終わり関係者一同はホットされているとおもいます。ここへ至るまでの準備は大変なことと思い慰労申し上げます。

とりわけ版画京都展実行委員会のメンバーは縁の下の力持ち的役割として活躍されたこと、ご苦労様でした。筆者も展示係として仕事をしましたが、昨年よりも割合スムーズに事が進んで行ったと思うのは錯覚でしょうか？やはり本部との連携がうまくいったことの結果ではないでしょうか。





さて本題に移り展覧会全体の感想ですが、１Ｆではフェルメールを中心としたオランダ絵画展が開催されている中、入場者は如何ほどだったのか気になるところです。版画展となると版画京都展でも数があまり伸びない現状があり、世間の意識の現状を思い知る機会でもあります。それでも日本を代表する版画協会展を京都で開催したことの意義は非常に大きいと言えます。今後の西日本での版画芸術の発展に大きな足跡を残したといえます。続いて作品を見ての感想ですが、ベテラン勢の作品はさすがに安定感のある、見ごたえたっぷりの感があります。年齢を感じさせないアグレッシブで冒険心のある作品や、版画の可能性を追求した作品など、大変勉強になります。版画界の層の厚さと頼もしさを感じさせます。





歩を進めて行くと、いわゆる中堅層の作品となりますが、ここは期待が持てる作品と、いまいちかなあと思う作品との力の差が感じられて、とても面白い。偏見で言わせていただくと、大学の版画科カラーが出てたりして、この人これからどう発展していくのかなあと良きにも悪しきにも楽しみになります。

さて最後は新人ですが、さすがに技術的にはまだまだ稚拙な作品が多く見受けられますが、何といっても若さがあります。粗削りながら可能性を秘めた作品も多くあり、今後の成長が楽しみです。特に新人賞など各賞を受賞した作品はさすがに実力派揃いです。これからの版画協会を背負ってたつ人たちです。大いに期待するところです。

私もまだまだこれからだぞと奮い立たせてもらい、楽しい展覧会でした。来年は上野で、開催時期も変わりますが、ますます版画協会が発展していくことを願い文責を果たします。ご精読ありがとうございました。
（写真撮影／搬入風景：有年博行）

## 版画京都展実行委員会　　活動報告

展覧会名：2011 Residency Program Asia Art Project
日　　時：2011 年 6 月から 8 月の 3 ヶ月間
会　　場：Alternative Space MARU
会場住所：5-7 Sarim-dong Changwon-si Gyeongsangnam-do Korea
出 品 者：三宅由里子※当委員会からの出品者のみ記載

初めて私が版画京都展実行委員会に所属させて頂いた時に、JARFO という京都藝際交流会で新鋭展というグループ展が開催されました。その時、出品した作品が選抜され、JARFO から韓国での展示の機会を与えて頂きました。それがきっかけとなり、前回、韓国で展示をさせて頂いた MARU という社団法人のもとでレジデンスに参加させて頂く事となりました。レジデンスは、普段の生活と異なる人達や作品と接する機会です。そういった人達や作品と出会うことで、自分の価値観が大きく変わったり、新しい考え方を持つことができたり、人としての成長ができる機会でもあると、私は考えています。このレジデンスで、人としての交流を深め、作品作りのみならず、自分自身の大きな成長と、発見に繋がったことをとても嬉しく思っています。（文：写真撮影／三宅由里子）





展覧会名：第 3 回ポレポレ展
日　　時：2011 年 9 月 27 日（火）～ 10 月 9 日（日）
会　　場：JARFO
会場住所：〒605-0023 京都市東山区三条通東大路東入今小路町 81
出 品 者：有年博行、片岡れいこ、黒崎彰、坂爪厚生、佐久間嘉明、ツツミアスカ、二階武宏 、平木美鶴 、山本桂右（５０音順）

準会員と会員で構成されたポレポレ展は、どの作品も完成度が高く、展覧会全体がまとまった雰囲気になっているという感想が多かったです。また、今回は木版を使用している作家が 5 名いましたが、作品の印象が重なることがなく、興味を持って見て下さる方が多くおられました。
お忙しい中、たくさんの方にご来場頂きありがとうございました。
（写真撮影：左／有年博行、右：文／ツツミアスカ）





## 掲示板

会報にお寄せいただいた版画京都展実行委員会メンバーの展覧会情報です。
詳細は会場へお問い合わせください。

●伊藤尚子
＜WORKS THROUGH URUSHI Ⅱ＞
会期：2012 年 3 月 10 日～ 3 月 23 日
場所：Medialia Gallery　335 West 38th street, 4th floor, New York, NY 10018-2916 U.S.A.
TEL：01-212-564-6318

●岩崎咲子・本岡千尋
＜風景版画展＞
会期：2012 年 3 月 27 日～4 月 1 日
場所：ギャラリー恵風　〒606-8392
京都市左京区丸太町通東大路東入ル南側
TEL：075-771-1011

●三浦麻衣・本岡千尋
＜京都造形芸術大学版画工房／院生・4 年生・教員・スタッフ／ 30×30 の窓＞
会期：2012 年 3 月 6 日～3 月 11 日
場所：ギャラリー恵風　〒606-8392
京都市左京区丸太町通東大路東入ル南側
TEL：075-771-1011

●羽田多栄子
＜羽田多栄子銅版画展＞
会期：2012 年 5 月 31　日～6 月 12 日
場所：ギャラリーＮＯＢ画廊名　〒569 -0803
高槻市高槻町 16-16 ヤーズマルイビル 3 階
TEL：072-685-0159

●ツツミアスカ
＜第７９回版画展受賞者展＞
会期：2012 年 1 月 30 日～ 2 月 4 日
場所：シロタ画廊　〒104-0061
東京都中央区銀座 7-10-8
TEL：03-3572-7971

＜個展　“ in the forest ”　＞
会期：2012 年 2 月 20 日～3 月 3 日
場所：十一月画廊　〒104-0061
東京都中央区銀座 7-11-11
長谷川ビル 3F
TEL：03-3289-8880

### 編集後記

今回の会報から、担当メンバーが川端さんから竹本さんに代わりました。新体制の会報になり皆さまにご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。さて、私の小庭ですがこの秋にハーブ苗を 6 種類ほど植えてみました。来年の春までにどう生長するのか今から楽しみです。

会報担当：ツツミアスカ（編集）、三上景子、竹本千明　発行：版画京都展実行委員会　問い合わせ先 ( 事務局 ) ：075-956-6910

# PANN News Letter

Printmaker's Association of Nishi Nippon

Vol. 15

June 2012


## ● 会報第15号の発行によせて ●

今回の特集は、今年の７月３１日～８月１２日まで京都市美術館にて開催される『日本・英国 国際版画展』に合わせ、英国側のキュレーターで作家のレベッカ・ソルタ氏に英国の版画について伺い、本展の巡回先である北九州のお話を角間貴生氏に聞きました。また、２月にポーランドで開催された『日本・ポーランド国際版画展』の報告を３名の方に伺いました。
それぞれ大変興味深い内容です。ごゆっくりとお読み下さい。



◆ *Katherine Jones*
*“ the vanising land ”*
H71×W68cm
collagraph・relief
2010

◆ *Rebecca Salter*
*“ into the light 1 ”*
H47×W77cm
*woodcut*
*monoprint*
2011





◆ *Ruth Uglow*
*“ freefall ”*
H73×W14cm
etching
aquatint
drypoint
2005


■特集① 英国の版画について ー レベッカ・ソルタ ー

■特集② 『日本・ポーランド国際版画展』カトヴィツ 報告

●カトヴィツ展について ー たなか 玉実 ー
●中欧ポーランドの旅 ー 濱本 澄江 ー
●彫師から見たポーランド ー 北村 昇一（木版画彫師）ー

■『日本・英国 国際版画展・北九州展』にいらっしゃいませんか？ー 角 間 貴 生 ー
■活動報告
■掲示板


KYOTO 版画2012



## 【英国の版画について】

写真提供：レベッカ・ソルタ

Rebecca Salter

# レベッカ・ソルタ

木版画

Interview

**Q1：イギリスには多くの版画家が在住していますが、日本で展覧会を開催するためにどのような基準でアーティストを選びましたか？**

多くの芸術家が日本の版画の伝統に影響を受けていることもあり、日本での展覧会のためにイギリスの版画の選出を頼まれたのはとても光栄に思う次第です。私たちは特定の世代や技術を制限しないように決めていました。老若男女を問わず、そしてキャリアにおいて異なる段階にいる芸術家を参加させることに努めました。多くの芸術家たちが年齢を重ねてから版画に関わることはとりわけ重要なことであるにもかかわらず、彼らは単に年齢の理由で選ばれずにいる状況があります。

私たちの選出は今日のイギリス版画界に於いて幅広い見解を提示しています。技術に対する理解やその歴史的役割に対する敬意を示しているが、同時に、実験を試み従来の概念を覆そうとする柔軟な意識があらわれている。そういった意図が選出された作品には共通して内在していると思います。



ホットベッドプレス：マンチェスター

**Q2：日本で開催される展覧会についてどのような期待をお持ちですか？**

私は京都に住んでいたので、その都市と歴史にとても親しみを持っています。今回の展覧会に参加する芸術家たちは、その京都で作品を展示する機会を与えられたことにとても刺激を受けています。京都は美術工芸に関して他に類を見ない歴史があり、イギリスの芸術家たちはそのような洞察力のある鑑賞者からの反応に対して大きな興味を抱いています。北九州を訪れたことはありませんが、きっと興味深いリアクションを得る第二の場所になるでしょう。

モニカ・ペッツェル（私の共同キュレーター）と私は、私たちがイギリスで集めた作品にとても愛着を持っており、日本の芸術家の作品と共にイギリスの作品が展示され交流が生まれることを楽しみにしています。展覧会はいつも予期していない個人的かつ芸術的な偶然の出会いを与えてくれますが、それが起こることを私は願っています。この展覧会を通じてイギリス・日本両国の芸術家の交流が次の段階へと発展していくならば、それはきっとすばらしいことだと思います。芸術的な偶然の出会いを与えてくれますが、それが起こることを私は願っています。この展覧会を通じてイギリス・日本両国の芸術家の交流が次の段階へと発展していくならば、それはきっとすばらしいことだと思います。

**Q3：今日のイギリスの版画界にはどのような傾向があると思いますか？**

様々な意味において、イギリスの版画界は流動的な状態にあると言えます。版画は今でも人気を維持していますが、それが見られている文脈は常に変化しつつあるというのが公平な意見かと思われます。

芸術家は作品を売るためにアート・マーケットに頼っています。しばらくの間、版画専門のギャラリーはありましたが現在はほとんど消滅してしまいました。しかしこの状況は今では変わり、堅実な情報や知識を提供するインターネットによって、新しいコレクターが出てきています。

教育はとても重要です。コレクターは「版画とは何か」、そしてアートワールドとアーティストのキャリア両面における版画のポジションの重要性を理解する必要があります。一時期、デジタル画像は確かに物事を混乱させましたが、デジタルは版画に適切だと考えられる技法の領域に入ったのだと思います。芸術家は、彼らにとって正しいと思う手法で制作する自由を重んじますし、また彼ら自身の工房もそのような方向で整えています。

**Q4：どのようにイギリスでは版画が教えられていますか？**

伝統的にイギリスには数々の大学の美術学部に版画コースがあります。しかし最近は、版画コースを閉じてしまう大学もあれば、版画コースを美術演習プログラムに吸収した大学もあります。大学院においても同様の変化が見受けられます。版画の設備が大学で存続することは重要なことであり、専門家を育成するコースを除外するのは恥ずべきことだと思います。学ぶべき価値のある技術を獲得する「版画」はユニークな造形思考への道筋があります。

大学の他にも、多くの人々は版画工房の教室で版画を習っています。これは気軽に版画を学ぶにはとても有効な方法であり、更に深く版画を学びたいという人たちに、大学の版画コースへの登録を促すという結果にも繋がっています。特に彼らは他の学生と共に学べる機会にも恵まれ、有益で重要なセミナーやレクチャーに参加することで彼らの作品の質の向上にも結びついています。版画工房と大学を平行して運営させることでイギリスにおける版画教育は健康的であると言えます。

**Q5：今日のイギリスの版画界にはどのような傾向があると思いますか？**

イギリスと日本の版画に違いがあるかについては確信がありません。しかし版画を取り巻く環境には相違点があるだろうと思います。私は日本の伝統的な木版画職人を研究してきましたが、その制度は独特なものです。アーティストのために部数限定の版画を制作しているイギリスの版画工房はいくつかありますが、それらは大きなスケールの商業的なものであり、個人の版画工房ではありません。イギリスと日本、この二カ国での版画市場における大きな違いがあるかについては疑問を感じます。

イギリスのアート・マーケットの領域は日本よりも大きいと思いますが、版画家を取り扱うギャラリーは日本の方が多いかもしれません。ロンドンはアートワールドの主要な中心地なので、世界的に有名なアーティストに部数限定の版画を依頼するいくつかのギャラリーがあり、一方、版画家の作品のみを展示しているギャラリーもあります。そして場合によっては、版画家たちはまた他の芸術家のために部数限定の版画を制作していることもあります。



カンバーウエル美大版画教室

# 『日本・ポーランド国際版画展』カトヴィツ報告

## ●カトヴィツ展について●　たなか　玉実

初体験。カトビィツ空港に着いたのは夕刻、マイナス一四・五度。オー、冷える！ただ、頬は冷たくなるが、無風なので口は滑らかに動く。

人間はたくましい。その夜から連日、カトビィツ国立芸術アカデミーの人たちの歓迎を受け、巨大皿に盛られた料理に、私たちは常時満腹、ブロイラー化するのだった。まだオープニングは二日後。

翌朝は粉雪舞う銀世界、マイナス一九度。炭鉱跡の立派な住居群の見学、凍った道をざくざくと歩く。寒さも一段と厳しくなった午後遅く、Tychyビール醸造所に着いた。広大な敷地に点在する各施設を、雪の中、歩いて巡る。案内の女性が、立ち止まり説明をする。顔が凍え、手先、足先がじんじん。夕闇が迫り、無情にも雪まで激しくなった。思わず私は口走る。「こ、これは、八甲田山、イン、カトビィツだ！」。



①Tychy ビール醸造所



②カトヴィツ国立芸術アカデミーリトグラフ工房

みもあるが、なんだか落ち着かない。壁面が赤いのだ。額の中の縁取りマットは黒。絵が小さく見える。一壁面ずつ、ポーランドと日本作品が交互に飾られ、ポーランド作品は赤いキャプションを付けて、白い壁面に。比較しやすいが、ポーランド作品のほうがよく見えるのは、気のせいか…。

オープニングが始まった。正面、黒崎先生と小林敬生さんとの絵の間に三上景子さんの絵が飾られたそのまん前で、アカデミーの学長、SMTG(トリエンナーレ)委員長、そして黒崎先生の簡単な挨拶と、日本の作家紹介。一人ずつ順不同。同行の皆も紹介される。テレビの撮影。カメラの放列。淡々としてあっという間に終わる。来られなかった仲間の作品を探し回り、カメラに収めていると、集合がかかり、早々に次の招待ディナー会場へ。ゆっくり楽しむ間のない、あわただしいカトビィツ展であった。



③カトビィツ・ラウンドアバウトギャラリー　オープニング

写真提供①②⑤：三上景子
③④：村井紳浩

最後の試飲場に着いた時は、辺りは暗くなっていた。暖かくて広々とした部屋で、出来立てビールが巨大コップになみなみと注がれた。が、残念ながら私は下戸だ。黒崎先生を窺うと、美味そうに飲んでおられる。そこで気付いた。これは、無類の酒好きの黒崎先生の陰謀だ。自分の趣味をコースに組み込まれたに違いない。実際、後日のレストランで、「イギリス展でもビール工場を入れるかな」などとつぶやかれたのを、聞き漏らさなかった。

さて、当日がきた。芸術アカデミーの版画教室訪問を終え、夕方、展覧会会場の Round About Gallery へ。プラネタリュームを押しつぶしたような、ガラス張りの建物に入ると、既にすごい人。百人は下らない。ポーランド人の版画熱の高さが窺われる。中央に広い空間。周りの壁は不規則に入り組んで、自分の作品を見つけるのに手間取った。人ごだが、その後の三上さんの言葉に、私は心洗われることになる。「(あんないい所に飾られて)私、本当に嬉しかった」。もの静かで、素直な彼女の語り口に、喜びが移ってくる。私は思う。人生の折々に、こんな喜びの瞬間が、人それぞれ用意されているのだ、と。今、一人の若い女性が、感動し、無上の幸福を感じている、ということ自体、このカトビィツ展は大成功ではなかったか、と。

そして、翌日からのクラクフからプラハへの旅も、黒崎先生の素晴らしいお人柄（ダンディ、タフ、親切、&ちょっとドジ）に守られて、思い出深い抱腹の旅となったのだった。

## ●中欧ポーランドの旅●　濱本　澄江

氷点下一九度、頬を刺すような張り詰めた空気。二〇一二年二月八日、黒崎氏を団長とする総勢一六名のポーランドの旅は始まった。

最初に訪れたのは炭鉱で栄えた街カトビッツ。点在する広場、背の高いスプルースの樹々、うっすらと積もる雪。犬の散歩の風景にブリューゲルの「雪の中の狩人」を思い起こす。



④クラクフ・バルバカン（円形の要塞）

この街では一九三〇年代の直線的な近代建築、炭鉱夫が住んでいたという赤い窓枠のアパート群、そして国立芸術大学を見学。大学では版画技法別に責任者からの丁寧な説明を受ける。同じ技法でもお国が違えばやり方も多少違うよう。そして本来の目的であるカトビィツ展オープニングパーティーに出席。静かな印象のこの街で、初めて大勢の人を見かける。老若男女が極東の国の作品に魅入っている。嬉しいかぎり。

その後文化の街クラクフに移動。浮世絵のマンガ美術館、リゾート地ザコパネ、そして美しい旧市街の散策。この旅の初日から連日大学関係者、SMTG関係者の歓迎を受けるのだが、ポーランド人はなんと心優しい人々か。食事は美味しい、すれ違う人々は優しく微笑んでくれる。美しい街並みも手伝って当初の寒さも忘れる程の暖かさを感じる。

最終地チェコに入る前にアウシュビッツを訪ねる。広々とした大地に続く有刺鉄線、整然とした二階屋の配列、春には美しいであろう街路樹。祖国を守る為の正当化、これらがすべてを物語っている。我々も胸に手を当てて考えてみる、いつでも起こり得る「こと」を。

最終日、現地関係者や黒崎氏に感謝しつつプラハの夜を堪能。二月一六日，重い荷物を手に中欧の地を後にした。一人ひとりの想いを胸に秘めて・・。

## ●彫師から見たポーランド●　北村　昇一（木版画彫師）

今回のツアーでは浮世絵展を二つ見ることが出来ました。

一つはクラクフ、日本文化センター「FUJI 展」。北斎と併せて、北斎に影響を受けた現代作家の作品も展示されていました。その中に富嶽三十六景山下白雨を描いた作品があったのですが、その作品の左下に松林が描かれていました。これを見たとき私はかなり驚きました。と言うのも一般に知られる北斎のものには松林はありません。しかし私が以前コレクターに見せていただいた山下白雨には松林が摺られているものがあったのです。その時同席していた同業者全員が始めて見たと驚いていました。つまりこの作家は、その珍しい松林有りのものを見ていたということになるからです。

そしてクラクフ国立美術館での「歌川国芳展」。こちらは当初の予定より会期を延長していた為、幸運にも見ることが出来ました。しかも日程的に時間の取れない私達のために三〇分早く開館してもらえることになったのです。そのおかげで武者絵、美人画、役者絵、怪談絵、洒落絵、風景画、刷物など多くの作品をみることが出来ました。中でも刷物は日本でも見る機会はそれほど多くはありません。それは一般販売を目的としてつくられたものではなく、個人的に良い物を少数摺ることが殆どだったからです。今回の展覧会ではこの刷物は八点展示されていました。私はこの刷物を見るといつも暫く足を止め、彫り摺りの技術力に見入ってしまいます。今回展示されている作品の中で数点に空摺りが使われていました。部分的に使われているのはよく見るのですが、全面に絹目摺りされているものがあったり、技術的に理解し難い空摺りの物があったりと、大変興味深く見ることが出来ました。日本から遠く離れた国でこんなにもたくさんのオリジナルを見ることが出来るのは版画の利点だと改めて感じました。

そして先人達の残した作品が今でも世界中の人を惹きつけていることを実感し、その仕事に携わる者として技術を次代に引き継ぐことの大切さ、日本・ポーランド国際版画展出品作家の皆さんの様に新しい事へ挑戦する気持ちを持ち続けることの大切さを感じることが出来ました。



⑤クラクフ
日本文化センター
「ＦＵＪＩ展」

## ○『日本・英国 国際版画展・北九州展』にいらっしゃいませんか？　角間 貴生 ○

「えー、北九州市…それってどこ？　あーそうそう、昔、北九州工業地帯って習ったことあるよね。」北九州と聞くと決まってこんな答えが返ってくる。全国的には北九州って本当に認知度の低い都市なのだ。福岡県内でも若い女性たちは「あんなヤクザの多い怖いところはいや…」と言って、こぞって福岡市の方に移住してくるし、イメージは決して良いとは言えない。むかし、門司、小倉と戸畑、八幡、若松を無理やり?くっ付けて百万都市にしたというのに、その後、多くの工場は移転していくし、人口は減って年寄りばかり多くなるし、街なかはどこかくすんでいて…どうも九州人の評価も今ひとつなのだ。でも、いまだ九州人になれない北陸生まれのぼくには、北九州はとても魅力ある街と言って良い。一見華やかな「ミニ東京」の福岡よりはずっと奥が深い文化都市というのが、ぼくの北九州イメージなのだ。



まだ不遇時代の松本清張が子供を連れて夜の皿倉山に上り、北九州市内の無数の灯りを見ながら、あちこちの星座をわが子に教えているエッセイを読んだことがある。たしかに、北九州は前に海が広がり後に山がせまっていて、神戸のように起伏の多い美しい詩的な街なのだ。森鴎外、林芙美子、火野葦平、松本清張といった個性的な作家たちの独特な感性を育んだ所だし、今も画家や詩人や演劇人たちが色んなサークルを組んで活発に活動しているとても文化的な町と言って良いだろう。さらに忘れてならないのは、今や最先端の循環型（リサイクル）社会・エコライフ社会を目指す環境モデル都市でもあり、ライバルの福岡なんぞに負けてたまるかと絶えず奮闘してはいつもくじけてしまう?…いじらしい都市でもあるのだ。

平家物語のあの壇ノ浦を見やる関門海峡の風景は絶景である。そして若戸大橋を渡す洞海湾を背景に工場や船舶の煙突・鉄骨群がオーバーラップした風景も圧巻である。磯崎新設計の立派な市立美術館からはそんな美しい風景が一望でき、版画展の開かれるアネックス前にはフランク・ステラの巨大鉄オブジェも私たちを迎えてくれる。

あなたも是非、そんな詩的で魅力ある北九州にいらっしゃいませんか。







## 版画京都展実行委員会　　活動報告

展覧会名：京都版画 2012 新鋭展
日　　時：2012 年 2 月 21 日（火）～ 3 月 4 日（日））
会　　場：JARFO
会場住所：〒605-0023 京都市東山区三条通東大路東入今小路町 81
出 品 者：石井誠 、石塚恵子、謝敷ゆうり、白井かずよ、中垣満
　　松岡恵子 ( ５０音順 )

新規会員の有志が参加した新鋭展は、新会員の自己紹介を兼ねた場でもあり、それぞれの個性をしっかりと印象づけた展覧会となりました。版種、技法は様々でしたが、密度の高い作品や、変わった質感の作品が多くあり、足を止めてじっくり見ているお客様もたくさんいらっしゃいました。

お忙しい中、ご来場頂いた皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

（文：写真撮影／謝敷ゆうり）





展覧会名：第 79 回版画協会展：受賞者展
日　　時：2012 年 1 月 30 日 ( 月 ) ～ 2 月 4 日 ( 土 )
会　　場：シロタ画廊
会場住所：〒104-0061 東京都中央区銀座 7-10-8 第五太陽ビル B1F
出 品 者：ツツミアスカ　他７名　※当委員会メンバーのみ記載

展示壁面は一人あたり７～８メートルとゆったりとしており、とてもすっきりと見やすい展示でした。出品者全員が受賞者ということもあって、作品の完成度とクオリティーの高さはさすがと言った感じでした。また、こういった若手の作品を見ると、現在の準会員や会員は、作品制作にあたりどこか怠慢になってないだろうか?と指摘をされた会員の方がおられました。関東が母体である日本版画協会は、関東の若手に比べると関西の若手はどうしても不利になってしまうといった内容のお話が聞けました。お話させて頂いた作家さんの個々の意見は違いますが、版画の今後について皆さんが真摯に考えておられました。

（文：写真撮影／ツツミアスカ）





## 掲示板

会報にお寄せいただいた版画京都展実行委員会メンバーの展覧会情報です。
詳細は会場へお問い合わせください。

●川端千絵
＜川端千絵　新作木版画展＞
会期：2012 年 10 月 2 日～ 10 月 7 日
場所：ギャラリー恵風　〒606-8392
　　京都市左京区丸太町通東大路東入ル南側
TEL：75-771-1011

●武田あずみ
＜武田あずみ個展 ( 仮 )＞
会期：2012 年 11 月 27 日～ 12 月 2 日
場所：ギャラリー恵風　〒606-8392
　　京都市左京区丸太町通東大路東入ル南側
TEL：075-771-1011

●林葉子
＜林葉子個展＞
会期：2012 年 11 月 22 日～ 11 月 27 日
場所：OLD BOOKS & GALLERY SHIRASA
　　〒650-0022 神戸市中央区元町通 2-7-5
TEL：078-321-0801

●ふじい みよこ
＜ふじい みよこ　　銅板画 & アクリル展＞
会期：2013 年 1 月 10 日～ 1 月 15 日
場所：ギャラリー尋屋　〒460-0008
　　名古屋市中区栄 3-31-3 コンフォレスト尋屋ビル 5F
TEL：052-262-6800

●黒崎彰・小林敬生・ツツミアスカ
　二階武宏　他１０名
＜New Horizons in Contemporary
　　Japanese Woodcuts 2012 ＞
会期：2012 年 9 月 10 日～ 10 月 10 日
場所：Galeria Pryzmat, Krakow
　　Łobzowska 3, Kraków, Poland
TEL：+48 12 632 46 22

### 編集後記

この会報が発行される頃は暖かくなっていることを願っていますが。。。しかし、この冬は寒かった！インフルエンザにこそかからなかったものの、２回も肺炎になりかけるは、いきなり貧血で倒れるはで、改めて自分は寒さに弱い生き物であることを認識させられました。皆様、体調にはお気をつけ下さいませ。

会報担当：ツツミアスカ（編集）、三上景子、竹本千明　発行：版画京都展実行委員会　問い合わせ先 ( 事務局 )：075-956-6910

# PANN News Letter

Vol.16

Printmaker's Association of Nishi Nippon　December 2012


## ● 会報第16号の発行によせて ●

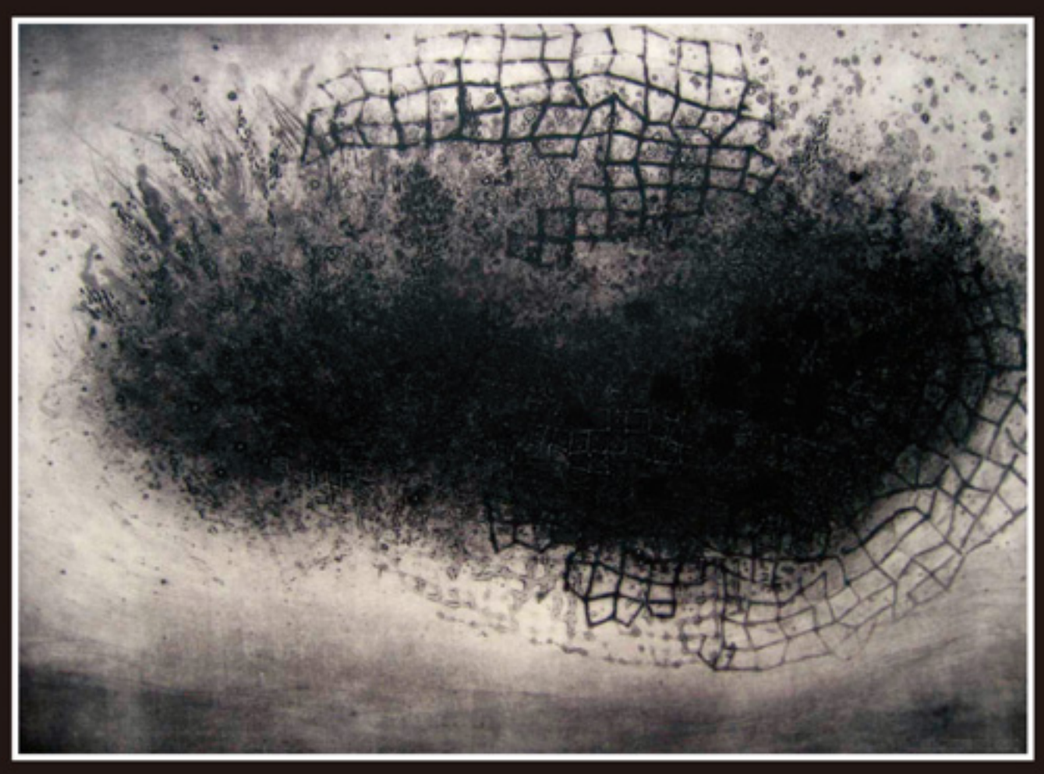
今回の特集は、今年の７月３１日～８月１２日まで京都市美術館にて開催された『日本・英国 国際版画展』の報告となります。また、作家紹介は本展覧会で『Moak Fund 賞』を受賞された本岡千尋氏と『アワガミファクトリー賞』を受賞された中橋靖彦氏と西住恵子氏の３名にお話を伺いました。
それぞれ大変興味深い内容です。ごゆっくりとお読み下さい。



◆ *Chihiro Motooka*
“ 夜の公園 α ”
H37×W92cm
etching
drypoint
2011



◆ *Yasuhiko Nakahashi*
“ 丘の上の貝塚 ”
H84cm×W54.5cm
woodcut
2012



◆ *Keiko Nishizumi*
“ 浮き漂う*b* ”
H78×W107cm
collagraph
2010


■特集　『日本・英国 国際版画展』京都展報告
- 講演会について　ー 平木　美鶴 ー
- ギャラリートークについて　ー 三宅　由里子 ー
- ワークショップについて　ー 牧野　浩紀 ー
- 展覧会で思ったこと　ー 有年　博行 ー

■作家紹介
- Moak Fund賞　ー 本岡　千尋 ー
- アワガミファクトリー賞　ー 中橋　靖彦・西住　恵子 ー

■活動報告
■掲示板


KYOTO 版画 2012

特集

# 『日本・英国 国際版画展』京都展報告



## 講演会について

平木　美鶴

二年に一度開催される版画京都展実行委員会主催の国際版画展は今回の英国も含めて六カ国との交流を果たしてきました。この国際版画展の特徴としては毎回交流国の作家を招待してギャラリートークや講演会を開催していることです。この講演会を聞くことで交流国作品への理解と興味が違ってくるので私はこの講演会を毎回楽しみにしています。前回のポーランド展では、歴史と実績を持つクラクフ国際版画トリエンナーレの歩みと現況を知り、現代中欧における版画の動きを理解する機会となりました。普段知ることのできない国の版画事情を知ることができる、こんなチャンスを逃すはもったいない話です。

今回も興味深い英国版画の歴史や現況を聞くことができたので、その内容を雑感も含めて報告します。

第一部は、法政大学講師の板橋美也さんより「二〇世紀前半の日英版画交流」についての講演でした。

百年前から日英の版画交流があった事とその背景について英国での緻密な文献調査を基にした研究発表で聞き応えのある内容でした。



第１部講演会

話は、十七世紀のシノワズリーから始まり、十九世紀中頃のジャポニズムを通り、二〇世紀前半における日本人版画家 漆原由次郎の影響や浮世絵版画の技法を取り入れたイギリス人版画家たち、同時代の学芸員による浮世絵版画研究、アーツ・アンド・クラフツ運動の理想を浮世絵版画と重ね合わせる動きなど今まで知らなかった知識が知っている知識と絡み合いながら新たな流れを見せてくれる講演でした。特に審美書院の漆原由次郎の生涯と浮世絵版画技法のマニュアル本「木版画」が一九一六年に発行され、浮世絵版画の本格的な技法教育が行われていた事など面白い話でした。

第二部は、レベッカ・ソルタさんによる講演会「英国版画における風景画の意味」についてでした。彼女は、京都市立芸術大学に留学していました。日本の美術研究家であり版画家でもあります。今回は、イギリスの法律事務所のコレクション作品をもとにして英国作家の風景作品や風景を使ったアースアート、風土から作り出された独自性について興味深い話を展開していましたが、具体的な意味付けの説明が弱く、ヨークシャとヘンリー・ムーア、コーンウォールとベン・ニコルソン、バーバラ・ヘップワースの関係等は実際に行って生活しなければわからないかなと思えました。

第三部は、モニカ・ペッツアルによる「英国版画制作の現場」という話です。彼女は、作家であり画廊主、大学教授でもあります。

最初に彼女が話した事は、「英国の美術大学の卒業制作において額に入った作品を見たことがない。」でしたが、私が英国へ在外研修で滞在していた一九九七年当時も同じでその年のターナ賞受賞作品すべてが映像や立体作品であったことを受けて絵画は死んだのかというテレビ討論会をしていたぐらいです。中に平面作品があっても例えばダミアン・ハーストのスポット・ペインティングのようにヤング・ブリテッシュ・アーティストのコンセプトが含まれていたものでした。

そのことから考えると今回の作品は、額に収まりすぎているのではないかとも思っていましたが、モチーフの建物が焼けた灰を作品に使ったアン・ノーフィールドの作品やレーザーカッターで切り抜いたジェニー・スミスの影を見せる作品の説明を受けて納得しました。講演後に再度、新たな目で展覧会を見ると、ジェニー・ウィーナーの名画を図法的に別角度で捕え直した作品やティモ・レートネンの移民者の文化的アイデンティティー示すようなヤムイモを使ったスタンピング作品等が気になる作品となりました。

新たな目で見る、これも講演会の効果です。

## ギャラリートークについて

三宅　由里子



ギャラリートーク／写真撮影（上段、中段）：有年博行

私は京都版画に参加させて頂く事となり、国際版画展は二度目となります。

今回の日本・英国国際版画展での作品は、前回のポーランドとはまた異なった特色を持ち、国の風土や趣き、個性を感じ、とても刺激を受けました。大胆で迫力のあるものから、繊細の中にも空間を大きく捉えたもの、いづれも版という枠を超えたアート作品であったと思います。展覧会のイベントの一つにギャラリートークがあり、顔を出させて頂きました。幾人かの英国作家が作品の前で説明をしていましたが、強く印象に残っている事は、日本の通訳の人以上に、日本語が堪能な作家や英国の人の中に日本語が話せる人、通訳の人が見えた事です。エッチングやスクリーンプリントを取り入れ、それを何版かに重ねあわせ制作した作品がありました。作品を説明する時、版画を制作している人には理解しやすい内容が、一般の人には難しく、さらにそれを通訳する事は大変な事であったのではないかと思います。通訳の人の説明を彼らが補う事で、作家の意図を上手に伝え、作品内容を分かりやすく説明する形となりました。参加した人達は、新たな版画に触れる機会となり、さらに興味を持った人も多いのではないでしょうか。私自身もその一人になった事に嬉しく感じています。

## ワークショップについて

牧野　浩紀

八月十二日に京都市美術館で水を使用しないウォータレス・プライウッドリトグラフのワークショップを行ないました。

ウォータレス・プライウッドグラフは新しい現代木版画技法であり、まだあまり知られていない手法だと思いますが、非常に簡単に版木からリトグラフの特徴を活かした表現が可能で，手書きで描いた線が木版の上で展開できる画期的な技法です。

この技法研究者としては現在、多摩美術大学准教授の佐竹邦子先生。関西では京都精華大学版画コース教授の武蔵篤彦先生があげられます。この技法に限らず美術家達が版画技法を研究し、現代の新しい版画表現の可能性を開いているのだと思います。

また当日、ワークショップ参加者が六〇人を越えたという事で、その一躍を担えたことに大変感謝しています。

今後も様々な『版画』に触れることができる機会を作れるよう、努めていきたいと思います。



ワークショップ
写真撮影：二階武宏

# 作家紹介

本展覧会では優秀な作品を制作した作家へ各賞が贈られました。
優秀賞とギャラリーヒルゲート賞を受賞された作家は次号から紹介致します。

＜受賞者＞

MoakFund 賞
本岡千尋

優秀賞
謝敷ゆうり・伊藤尚子

ギャラリーヒルゲート賞
岩崎咲子・三宅由里子

アワガミファクトリー賞
西住恵子・中橋靖彦

## Moak Fund賞

# 本岡千尋

*Chihiro Motooka*

銅版画

'88 兵庫県出身
'12 京都造形芸術大学大学院修了

'11 KYOTO版画新鋭展
'11 大学版画展買上賞
'12 日本・英国 国際版画展 Moak Fund賞



Q1：版画制作を始められたきっかけを教えてください。

大学に入学してまもなく学内の版画工房のことを知り、そこから版画に興味を持ちました。そして三年生から版画を学びはじめました。

Q2：ご自身の作品の、テーマやコンセプト、最も大切だと考えている事を教えてください。

夜の公園をかくことで、夜の公園にみつけた自分の原風景をなぞるような気持ちで制作しています。私の記憶や感情といった内面世界はとらえにくくはっきりと見えるものではありません。それと同じように私のモチーフである夜の公園のようなくらやみのなかで照らされた風景はとても見えにくく、見えている部分の少なさゆえに本当にそこにあるのかわからない気持ちになります。やみのなかに照らされた風景をかくことで、その場所は見えにくさやとらえにくさをきっかけに私の内面世界に近づいてくれると考えています。

Q3：本岡さんの作品はとても美しい奥行きあるモノトーンで全体をまとめておられます。夜の暗がり、月や電灯といった灯りはどのようにお感じですか。

くらがりを照らすことは、自分の記憶や感情をよく見ようとすることに似ているとおもいます。やみの中で照らされたものは、あかるい日のなかで見るよりもずっと見にくく確かめられないものです。それは鮮明には思い出すことのできない記憶と似ているように感じます。

Q4：今後の夢をお聞かせください。(作家活動以外でも)

これからも制作をつづけていきたいと思っています。版画を何十年もずっとつづけているかはわかりませんが、どんなかたちでも、作品をずっと作りつづけていきたいです。



「夜の公園 Jungle gym」 縦一〇〇×横一六七、五センチ
アクアチントドライポイント 二〇一二

## アワガミファクトリー賞

# 中橋靖彦

*Yasuhiko Nakahashi*

木版画

'43 旧樺太豊原市出身。

一圓達夫氏・黒崎彰氏に木版画の指導を受ける。

'11 第79回日本版画協会展
'12 日本・英国 国際版画展



「湿原の記憶-2」 縦三〇×横二三センチ 水性木版 二〇一〇

Q1：版画制作を始められたきっかけを教えてください。

二〇年程前のこと、ＮＨＫ教育テレビで黒崎彰先生の講座「木版画に親しむ」が始まりました。講座が終わる頃にはA四判程度の三色二版の作品が完成。年賀状以外に木版画の経験が無い私には上出来で、若い頃から油絵に親しんでいたのが、以来、木版画にはまってしまいました。その後、西宮大谷美術館の木版画講座で一圓達夫先生に基礎を学び、さらにその後、ＮＨＫ文化センターで、何と、今度は生身の黒崎彰先生の指導を受けることになります。私にとって、此の上無い幸運な出会いでした。

Q2：ご自身の作品のテーマ、コンセプト、最も大切だと考えていることを教えてください。

ここ数年、デッサンをしていると何やら現れてくるものがあります。どうも、それは私が三〇年暮らした北海道の街の郊外に広がっていた湿原地帯のように思われます。漠然としたそのイメージを、何とか版画の中に定着させようとしています。

Q3：今後の夢をお聞かせください。(作家活動以外でも)

この齢になっても、子供の頃初めて年賀状を摺り上げた瞬間の感激は忘れられません。バレンを十分に利かせた後、そっと和紙をめくる時のあの「ドキドキ」を、これからも感じ続けられたら言うことはありません。

## アワガミファクトリー賞

# 西住恵子

*Keiko Nishizumi*

コラグラフ

Q1：版画制作を始められたきっかけを教えてください。

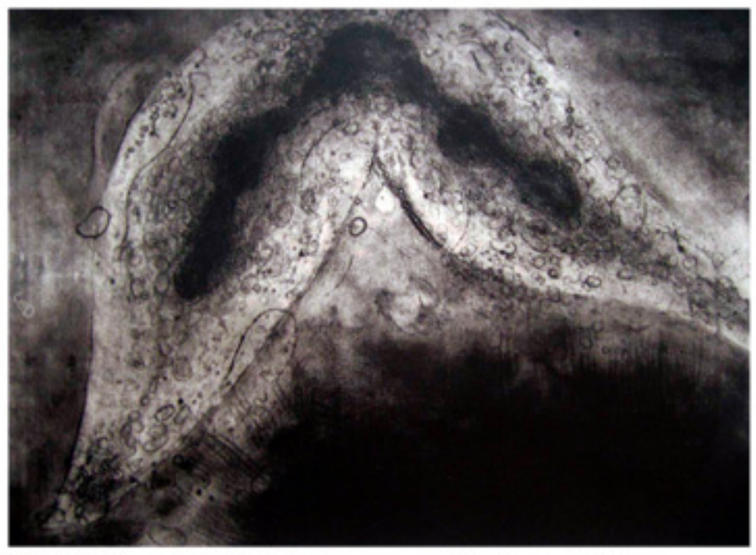
もともと、洋画コースで大学を入学したのですが、三年生の時に版画コースを選択できるということで、気分を変えたくて版画コースを選択したのがきっかけです。

Q2：ご自身の作品の、テーマやコンセプト、最も大切だと考えている事を教えてください。

自分自身の感情をテーマに、コラグラフの技法で制作しているのですが、目に見えない感情を目に見えるようにするために、私はコラグラフの〝物質〟にそれを託しています。身近にあるボンドや砂を使うことで、私の中の抽象的である感情の存在が物質と結びつき、実在するものになると考えています。私は、自分自身の感情の痕跡を残したいという思いで制作しています。

Q3：今後の夢をお聞かせください。(作家活動以外でも)

コラグラフは素材とその扱い方でいろんな表現ができるので、いろんな素材を研究して表現の幅をひろげていきたいです。今、制作できる環境を探しているところなので制作が止まっていますがやってみたいことは沢山あるので、とりあえず今年中によい制作環境をつくって作品制作を再開するのが目標です。



「浮き漂う」 H78XW107cm コラグラフ 2010

'86 兵庫県生まれ
'11 京都造形芸術大学大学院芸術表現専攻修士課程 修了

'11「版画四人」展／ギャラリー恵風
「版画三人展-プレス機の向こうに-」／ギャラリーシュタイネ

## ○『日本・英国 国際版画展・京都展』で思ったこと　有年 博行 ○

２年に１度の国際展も６回を数えるに至り、しみじみとよくぞここまで来たものだと感慨もひとしおといったところですね。

ひとえに会員諸氏の献身的な活動があってのことと敬意を表します。なかなかできませんよ、これ程の大事業は。多分いや確実に日本版画史に名を刻むことでしょうね。そして私を含め会員のみなさんの名前が残されていくことに喜びを感じます。何故こんな活動をしているのか?さらには今後どのように発展させていくのか?会員一人ひとりが考えていかなければいけない節目にさしかかっている気もします。まあそれほど深刻に考えなくてもいいのですが、個人個人の活動をまとめていく作業の集約の結果としての展覧会であればいいかなあと思います。継続していくこと、地道な活動をみんなで支えていければきっとまだまだ続いていけると思います。長生きをしなくちゃね。

さて展覧会の感想ですが、第一に思うこと、英国作家の作品は堅実、かつ技法的にもアカデミックで確かな技術の高さを感じます。さらに作品制作の基本的な姿勢に生真面目とさえいえる真摯さに感銘を覚えます。これまでの国際展でも感じたことですが、それぞれの地域の気候風土といったものが色濃く反映されています。もちろん文化的な、そして歴史的な背景も含めてのことはいうまでもありません。作家の精神性は日々の営みから生まれてくるものです。そこにテクニックが加味されて版画作品として誕生します。



会場：京都市美術館外観

話はガラリと飛躍しますが、英国において版画は芸術としては一段低いところにおかれているそう、これは日本も変わりませんね。何故でしょうね?思うに print という単語に原因の多くがありそうです。いわゆる印刷ですね。版画は印刷技術の発達と密接に関わってる以上、印刷の持つ安価なイメージがついて回ってるわけですよね。大衆はどこまでが版画でどこからが Print なのかわからないわけです。しかも商業ベースに乗って法外な値段で似非芸術を画商は売るから、ますます大衆は混乱するわけです。版画家という職業は今の世界では存在し得ません。

私の友人で版画一本で生活している人が何人存在してるでしょうか?かくいう私も教育に携わって飯をくってる。版画に限らず芸術で飯を食うってことは奇跡としか言えない。経済活動に芸術は組み込まれていないのです。音楽や演劇や著作関係は別です。これらはシステムが違います。

同列では扱えません。何とかならんものか?美術館に作品を並べてみても、これが版画芸術だと主張してもシーンと漂う空虚感は私だけでしょうか?画商さん、美術評論家さん、芸術関係者さん、そして政治家さんや行政に携わる皆さん、何とかしてくださいよ。ははは思いっきり愚痴ってやった。

ごめんなさい。版画展の話のはずがこんなことになって。まあ四方山話ということでお許しください。一版画人の戯言ですから読み飛ばしてお忘れくだされば幸いです。しかし腑に落ちんことばかり。続きは次回ということでご精読ありがとうございました。ではまたね。長生きするんだぜえ。



搬入後の集合写真　写真撮影／左右／有年博行

## 版画京都展実行委員会　活動報告

展覧会名：第４回　ポレポレ展
日　　時：2012 年 9 月 1 日（土）～ 9 月 12 日
会　　場：JARFO
会場住所：〒605-0023 京都市東山区三条通東大路東入今小路町 81
出 品 者：斉藤修　坂爪厚生　佐久間嘉明　田島征彦　武蔵篤彦
　　山本桂右（５０音順）

スワヒリ語でゆっくり、ぼちぼち、という意味のポレポレという言葉を冠した展覧会が残暑厳しい 9 月上旬、京都三条の JARFO で開催されました。４回目となる今回の出品者はみな数十年のキャリアを持つベテランばかりで私のを除いてはどれも技術、内容ともに高いレベルの作品が並んでいたと思います。初日のオープニングパーティーにはたくさんの人が集まりにぎやかな夏の終わりの夕べとなりました。

（文：写真撮影／山本桂右）





## 掲示板

会報にお寄せいただいた版画京都展実行委員会メンバーの展覧会情報です。
詳細は会場へお問い合わせください。

●角間貴生
＜角間貴生ＡＲＴ展＞
会期：2013 年 3 月 19 日～ 3 月 31 日
場所：It’s gallery（イッツギャラリ）
　　〒812-0026　福岡市博多区上川端町 11-289 B1F
TEL：090-4587-6141（稲尾）

＜角間貴生アート展＞
会期：2013 年 5 月 7 日～ 5 月 12 日
場所：ギャラリーヒルゲート 2F　〒604-8081
　　京都市中京区寺町三条上ル西側
TEL：075-252-1161(2F)

●濱本澄江
＜濱本澄江　ペーパースクリーン版画展＞
会期：2013 年 5 月 13 日～ 5 月 18 日
場所：シロタ画廊　〒104-0061 東京都中央区銀座 7-10-8
TEL：03-3572-7971

●ふじい みよこ
＜ふじい みよこ　　銅板画 & アクリル展＞
会期：2013 年 1 月 10 日～ 1 月 15 日
場所：ギャラリー尋屋　〒460-0008
　　名古屋市中区栄 3-31-3 コンフォレスト尋屋ビル 5F
ＴＥＬ：052-262-6800

●ツツミアスカ　他 20 名
＜Print Art Triennale in Kyoto＞
会期：2013 年 2 月 23 日～ 3 月 24 日
場所：京都市美術館　〒606-8344　京都市左京区岡崎円勝町 124
ＴＥＬ：075-771-4107

●牧野浩紀
＜牧野浩紀　個展＞
会期：2013 年 1 月 8 日～ 1 月 19 日
場所：養清堂画廊　〒104 - 0061　東京都中央区銀座 5-5-15
※1 月 12 日（土）16:00 ～ワークショップ

●坂爪厚生・田島征彦・二階武宏
　伊藤尚子　他 18 名
＜TAROT×22artist×LADS＞
会期：2013 年 3 月 19 日～ 3 月 31 日
場所：LADS ギャラリー　〒553-0003
　　大阪府大阪市福島区福島
　　3 丁目 1-39
ＴＥＬ：06-6453-5706

＜TAROT×22artist× ヒルゲート＞
会期：2013 年 4 月 23 日～ 4 月 28 日
場所：ギャラリーヒルゲート〒604-8081
　　京都市中京区寺町三条上ル西側
ＴＥＬ：075-231-3702

※各画廊での展示内容は異なります。

## 編集後記

『日本・英国　国際版画展・京都展』は関係者皆様のお力添えのおかげで、無事終了することが出来ました。誌面にて改めてお礼を申し上げます。さて、今年はあまり花が咲かなかった我が家のミカンの木ですが、いつの間にか実がなっていました。今年もおいしく食べられることを願っております。

会報担当：ツツミアスカ（編集）、三上景子、竹本千明　発行：版画京都展実行委員会　問い合わせ先 ( 事務局 )：075-956-6910

# PANN News Letter

Printmaker's Association of Nishi Nippon

Vol.17

July 2013


## ● 会報第17号の発行によせて ●

今回の特集は、２０１２年１１月２０日～２５日に北九州市立美術館アネックスにて開催された『日本・英国 国際版画展ー北九州巡回展ー』の報告となります。また、作家紹介は本展覧会で『優秀賞』を受賞された伊藤尚子氏と謝敷ゆうり氏の２名にお話を伺いました。
それぞれ大変興味深い内容です。ごゆっくりとお楽しみ下さい。



◆ *Naoko Ito*

“ サラマンドラは燃えよ、
ウンディーネはうねれ”

H60×W45cm
lithgraphy
2013

◆ *Yuri Shashiki*

“ じきに開かれる”

H93.8×W60.3cm
etching
drypoint
ganpi chin-colle
2011




■特集　映画ロケの中の「にぎやかな展覧会」
「日本・英国 国際版画展・北九州巡回展」を振り返って
ー 角間 貴生 ー

■作家紹介　　優秀賞受賞作家　　ー 伊藤 尚子・謝敷 ゆうり ー

■活動報告
■作品研究会
■掲示板


KYOTO 版画 2013

特集

# 映画ロケの中の「にぎやかな展覧会」

## 「日本・英国 国際版画展・北九州巡回展」を振り返って

文・写真　角間 貴生




まず初めに展覧会の開かれた北九州市立美術館のことから書こうと思う。

北九州市内が一望できる小高い丘全体が美術館敷地になっていて、ふもとかららせん状の道路が上がっていく。周囲は木々で覆われ、道路の左右にあちこち彫刻作品が並べられていて、ちょっとした美術公園と言えるかも知れない。丘の頂上には、そこに立ち上がるような美術館が鎮座しておらして、真下から長い長いエスカレータで上がって本館入り口に入る仕掛けになっている。



広々としたエントランスホールの右にショップと事務所、ホール正面の上は階段を上るとパイプ状の通路が左右に伸びている。右へ行けば休憩・図書室、左に行けば透明プラスチックパイプの通路で奥にレストランがある。ホール正面下にはオープニングパーティを開いた講堂が地下に隠れている。このエントランスホールから版画展の行われるアネックス会場に行くのがはなはだややこしい。まず、エレベータで二階に上がり、出たところにある扉をくぐると、天井ガラスの吹きさらし通路が続く。そこからは美術館の外観と周囲の外の風景が楽しめるのだが、五十メートルくらい歩くとまた建物の中に入る扉がある。そこをくぐると水の張った四角い池があって、まるでギリシャ神殿の庭園のような趣きになっている。そこを通ると、またエレベータがあって…えーとそこからは…正直、今のぼくには分からなくなってしまった。とにかく、館内はだだっ広く上に行ったり下に行ったりで、その複雑な迷路は初めての人でなくても間違いなく迷子になってしまう。

ようやく、アネックス会場に到着してみると、何と言うことはない、外部から直接入れる専用の入り口があるのだ。結局、この入り口から美術館の外を歩いて事務所や本館に行く方がずっと分かりやすく便利なのだ。アネックス会場の前にはフランク・ステラの巨大鉄クズ…失礼、いや巨大鉄オブジェが置いてあって錆だらけの代物になっている。この美術館はこんな訳でバブル時代の遺物のような建築物で、ぼくはメンテナンスに金がかかるだろうなぁ、と要らぬ心配をするのだった。

とにもかくにも、この磯崎新の渾身作・建築物でわれらの展覧会が始まった。

だが…である。正面の長いエスカレータ下には、あちこち土豪が積まれ、軍用柵や槍や銃の列の間を顔面煤だらけにした戦闘服の男たちが駈けずり回る。そう…映画「図書館戦争」のロケが展覧会の会期中、ちょうどクライマックスなのである。突然「行け！」「打て！」「走れ！」の監督の怒号がこだまするとと、あちこちでドーン、ドーン。

いったい、ここはどこなんだ？



展覧会の会場に戻ろう。ギャラリーは少し狭くて英国作品はそれぞれ一点ずつに絞らざるを得なかったけれど、まとまっていてとても見やすい良い展示だったとぼくは思う。オープニングパーティには平日にも関わらず、市の美術家連盟など多くの人たちが駆けつけてくれた。「酒ばっかりね…」と平田さんは女性たちに突っ込まれていたが、結局、酒も食べ物も余ってしまった。でも、ミュージシャンたちの演奏もあって、パーティ会場は大変盛り上がった。

当初、福岡から遠く美術館のアクセスも悪く、おまけにヘンな美術館の方針で本館も空いたまま…と観客の入りが心配の展覧会だったが、平田さん、久保さんの献身的な努力や日々、晴天に恵まれたこともあって会場は盛況だった。小生のワークショップも探すのも難しいアトリエ内だったが、急きょ貼ったポスターの助けもあってか、多くの人が来てくれた。また、映画ロケの見学に来た親子連れが多数、展覧会に来てくれたことも会場を活気づけてくれたように思う。岡田准一、榮倉奈々、様々である。

「版画がこんなに多彩なものとは思わなかった」「北九州でイギリスの現代版画が見られるとは思わなかった」…会場でぼくが時々聞いた観客たちの声である。

会期六日間で観客六九七人。アクセスの悪い美術館で集客やアルバイト集めなど大変ではあったが、総じて成功と言える展覧会だったと思う。

これも、福岡県内会員の結束と、あちこちから手伝いに来ていただいた方々、そして何より北九州展に参加して頂いた会員の皆様のおかげだったと深く感謝しています。

みなさま、本当にありがとうございました。



# 作家紹介

## 優秀賞 伊藤 尚子 Naoko ITO
リトグラフ

'79　京都市立芸術大学専攻科（現大学院）塗装（現漆工）専攻卒業
Ecole Nationale superieure de l'architecture et des Arts Visuels（ブリュッセル）留学（ロータリー財団奨学生）

'76～'12　漆、版画による個展（京都、大阪、神戸、東京、ブリュッセル、パリ、ニューヨーク）等で35回開催。
グループ展、企画展、コンクール展（大阪、京都、神戸、東京、福岡、名古屋、ブリュッセル、ニューヨーク、ブエノスアイレス、ソウル、トロント、サンフランシスコ、イスタンブール、北キプロス、アレンベルグ、フィラデルフィア、リスボン、ルクセンブルグ、リヨン）等で160回出品。



**Q1：版画制作を始められたきっかけを教えてください。**
私は元々京都芸大の漆工科出身で、漆で絵を描いていました。卒業後、ベルギーの国立高等視覚芸術大学で金属彫刻と版画を始めました。漆で絵を描くことと銅板にニードルで絵を描くことに大きな違いは感じませんでした。現在は銅版とリトグラフ、漆のスクリーンプリントの三タイプの作品を作っています。

**Q2：ご自身の作品のテーマやコンセプトを教えてください。**
私の作品は殆どがモノクロです。最初に漆を選んだのも、漆の黒の中にある底知れない闇が好きだったからなのです。「覚醒なき夢の領域」を常に描いています。そして大概一人の登場人物（殆どが子供）がいます。彼らは笑っていません。時空間が歪んだ世界、黙示的な現代社会の影絵の中でけなげに対峙しています。ユーモアと優しさをもって、です。そうありたいと常に思っています。

**Q3：作品制作の中で、最も大切だと考えておられる事を教えてください。**
私が漆を離れて、ベルギーで版画を始めたのは、漆の持つ素材としてのあまりの強さと美しさに負けてしまいそうな自分が居たからです。版画を始めてからも、例えば銅の持つ強いマチエールや存在感に負わずに、如何に自分の表現ができるかという点に悩みました。でも現在は版とも漆とも、そういう気負いなくつきあえつつあります。

**Q4：今後の夢をお聞かせください。**（作家活動以外でも）
三年前に勤務先から半年間サバティカル休暇というのを頂き、あちこちでワークショップや個展をしたり、作家の方と交流しつつ、ヨーロッパを縦断し楽しく過ごしました。あと六年で大学が退官になりますので、年の内三、四ヶ月は、（友人も沢山いますので）フランスかベルギーに住んで制作したいと思っています。



「鬼火が出ていると、沼の婆さんが言いました」H45×W60cm：リトグラフ：2013

## 優秀賞 謝敷 ゆうり
Yuri Shashiki
銅版画



'85　埼玉県出身
'09　明星大学日本文化学部造形芸術学科卒業
'12　京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程芸術専攻修了

'10　京展
'11　第8回高知国際版画トリエンナーレ展
　　第5回山本鼎版画大賞展
'12　日本・英国国際版画展
　　優秀賞
　　日本版画協会版画展
　　賞候補

**Q1：版画制作を始められたきっかけを教えてください。**
高校三年生の選択授業で銅版画を受講した事です。エッチングがとても楽しくて自分に向いていると思ったので、大学でも三回生から版画を専攻しました。銅版画の作業が好きで実験ばかりしていたので、作品を作りだしたのは四回生の夏くらいでした。
同時期に、多賀新さんの春陽堂江戸川乱歩シリーズと、ドゥシャン・カーライの作品に凄く影響を受けました。

**Q2：ご自身の作品のテーマやコンセプトを教えてください。**
死について考える事は、今生きている事を再確認する行為です。私は人体の骨格や内臓の造形にインスピレーションを得て絵を作る事が多いのですが、観る人にも何か取っ掛かりになってくれたらいいと思っています。
描くにしても見るにしても楽しい方がいいので、色んなものをごちゃごちゃ密集させたり、組み合わせたりして飽きのこないような絵を目指しています。

**Q3：作品制作の中で、最も大切だと考えておられる事を教えてください。**
モチーフが骸骨や内臓などホラー系なので、あまり気持ち悪くならないように、かわいらしさやファニーな要素を入れるようにしています。

**Q4：今後の夢をお聞かせください。**（作家活動以外でも）
まだ個展をしたことがないので、そのうち個展をやりたいです。



「やがて閉じられる」H92.7×W60cm：エッチング、雁皮刷り：2012

# 活動報告

展覧会名：京都十景第４集
日　　時：2012 年 12 月 18 日 ( 火 ) ～ 12 月 23 日 ( 日 )
会　　場：ギャラリーヒルゲート
会場住所：〒604-8081 京都市中京区寺町通三条上る天性寺前町 535
出 品 者：黒崎　彰、近藤　幸、齋藤　修、坂爪厚生、佐久間嘉明
田島征彦、田中良平、二階武宏、武蔵篤彦、山本桂右
(50 音順 )

京都十景は今回で第 4 集目であと六集で完成、百景までは長い道のりです。今回初めて参加させていただきましたが風景などは制作したことがなく非常に苦戦しました。皆でなにかを創る､版画だからこそできること、とてもいい経験をさせて頂いたと思っています。三条寺町ギャラリーヒルゲートのオープニングの日には腹を空かして遅れて到着いたしましたが既に祭りの後、たくさんの人で賑わい、盛り上がって居りました。
搬出の後、次の京都十景の課題のことなどを話し合い、無事展覧会を終えることができました。　（文：写真撮影：二階武宏 )





※『日英 国際版画展』にてギャラリーヒルゲート賞を受賞し、個展を開催した岩崎咲子氏 (2013 年 4 月 2 日～ 4 月 7 日 ) と三宅由里子氏 (2013 年 4 月 30 日～ 5 月 5 日 ) の報告は次号の作家特集と合わせて掲載致します。

展覧会名：京都版画 2013 新鋭展
日　　時：2013 年 1 月 15 日 ( 火 ) ～ 1 月 27 日 ( 日 )
会　　場：ART FORUM JARFO
会場住所：〒605-0023 京都市東山区三条通東大路東入今小路町 81
出 品 者：小川航平、鎌田隆行、塩飽和子、鈴木正仁、橋本圭司
花原淳子、務川めぐみ、山口剛史、山田裕英
(50 音順 )

新規会員９名が参加した新鋭展は、水性木版、木口木版、銅版と版種も様々で、また同じ版種でも技法や表現方法が異なり、個性ある作品が大小３１点並びました。開催期間中、お名前の記載があった方だけでも約１６０名の方々がご来場下さり熱心に作品を見て下さる方が多く見受けられました。出品者にとって学ぶことの多い作品展となりました。
( 写真左：松原知子 (JARFO) ／文：写真右：花原淳子 )







版画京都展実行委員会

# 作品研究会

日　　時：2013 年 3 月 10 日 ( 日 )
会　　場：京都府立文化芸術会館
会場住所：〒602-0858 京都府京都市上京区河原町通広小路下る東桜町 1

作品を各自持参し、コンセプトやテクニックについて意見交換を行いました。次回の作品研究会は 7 月第 1 回総会開催日に行います。各先生方から版画協会展の出品前にアドバイスを頂けますので､奮ってお集りください。







# 掲示板

会報にお寄せいただいた版画京都展実行委員会メンバーの展覧会情報です。
詳細は会場へお問い合わせください。

●牧野 浩紀
＜個展：木版画・ドローイング展＞
会期：2013 年 7 月 9 日～ 14 日
※最終日 17:00
場所：ギャラリー恵風 1F・2F
〒606-8392 京都市左京区丸太町通
東大路東入ル南側
TEL：075-771-1011

●角間 貴生
＜「祈りの像」展＞
会期：2013 年 7 月 27 日～ 8 月 15 日
場所：Gallery Hee　韓国プサン・ヤンサン
82-051-505-9424 尹賢珠

●牧野 浩紀
＜グループ展：牧野浩紀推薦版画作家展（仮）＞
会期：2013 年 8 月 19 日～ 24 日
※祝日休・最終日 17:00
場所：養清堂画廊
〒104-0061 東京都中央区銀座 5-5-15
TEL：03-3571-1312

●武内 由美子
＜武内 由美子：銅版画展＞
会期：2013 年 8 月 20 日～ 9 月 1 日
※月曜日定休
場所：Y.Art-Gallery　〒530-0027
大阪市北区堂山町 15-17 ACT3-1F
TEL：06-6311-5380

●清水 博文
＜清水 博文：版画展＞
会期：2013 年 8 月 27 日～ 9 月 8 日
場所：ギャラリー恵風　〒606-8392
京都市左京区丸太町通東大路東入ル南側
TEL：075-771-1011

●松本 智子
＜松本 智子：銅版画展：unexpected pathos＞
会期：2013 年 9 月 19 日～ 9 月 24 日
場所：OLD BOOKS & GALLERY SHIRASA
〒650-0022 神戸市中央区元町通 2-7-5
TEL：078-321-080

●ツツミ アスカ
＜グループ展：阿波紙と版表現展 2013
- AIJP（アワガミ インクジェットペーパー）と
ミクストメディア - ＞
会期：2013 年 10 月 12 日～11 月 10 日
※月曜日定休 ( 祝日の場合は翌日 )
場所：阿波和紙伝統産業会館 展示室
〒779-3401 徳島県吉野川市山川町川東 141
TEL：0883-42-6120

●坪山 由起
＜坪山 由起：銅版画展＞
会期：2013 年 11 月 2 日～ 11 月 10 日
場所：OLD BOOK & GALLERY シラサ
〒650-0022 神戸市中央区元町通 2-7-5
TEL：078-321-0801

## 編集後記

『日本･英国　国際版画展･北九州巡回展』は関係者皆様のお力添えのおかげで､無事終えることが出来ました。本誌面を通して改めてお礼を申し上げます。次回の展覧会はオーストラリアとの国際版画展を開催致します。会報担当：ツツミアスカ（編集)、三上景子、千明　発行：版画京都展実行委員会　問い合わせ先 ( 事務局 )：075-956-6910

PANN News Letter Vol.18
Printmaker's Association of Nishi Nippon
Winter 2014

## ● 会報第18号の発行によせて ●

今回の特集は、平木美鶴氏に公募展についてお話を伺いました。また作家紹介では、２０１２年に京都市美術館で開催した『日本・英国 国際版画展』で『ギャラリー・ヒルゲート賞』を受賞された三宅由里子氏と岩崎咲子氏の２名にお話を伺いました。
それぞれ大変興味深い内容です。ごゆっくりとお楽しみ下さい。



◆ *Yuriko Miyake*
“ Life（digital version）”
H41×W25cm
Digital print on copperplate
2012



◆ *Shoko Iwasaki*
“ 横の風景”
H77×W105cm
collagraph
2010

■特集　　公募展に思うこと－狩猟してみます？　　－ 平木 美鶴 －
■作家紹介 ギャラリー・ヒルゲート賞 受賞作家
－ 三宅 由里子・岩崎 咲子 －
■活動報告
■掲示板

# 公募展に思う事 狩猟してみます？

平木美鶴

公募展は、美術家による団体（公募団体）が主催するものと、コンクール形式のものに分かれますが、私が美大の学生だった一九八〇年代は、公募団体展の氷河期とも言える時代で、公募団体展は若い感性を理解しないとか出品規定に縛られる等の理由からコンクール形式か個展発表によって美術家デビューを目指す者が多くなっていました。

私のデビュー当時の場合、日本版画協会展と個展、コンクールの併用という感じでしたが、日本版画協会展には画廊関係者も見に来ていて、何年か作品の動向を追ってから、個展の企画を頂いたりしていたので公募団体展も悪くないかなとも思っていました。しかし、さすがに絵も描き始めて絵画公募団体二紀展に出品し始めると、それはやりすぎではないかと周りに随分と言われましたが本格的に絵を描くためには、多くの絵の中で自分の絵がどう見えるか勝負する必要があったので、今まで出品を続けています。その二紀会の理事長山本貞氏が公募団体について農耕社会に似ていると語っています。「農耕は時間がかかる、土の耕作から始まり秋の収穫まで時を紡ぐ持続作業であるが、公募団体も持続という時間の蓄積から生み出される収穫方法である。一方、コンクールに応募するのは一発勝負で当たれば獲物も大きい狩猟社会である。」一面、上手く表現していると思います。人には、色々なタイプがあるのと同じように作家の獲物の獲得方法も色々あっていいわけで、最近の若い人は、公募団体展への昔のようなアレルギーが無くなっているように思えるし、公募展の利用方法もその人なりのスタイルに合わせて一番良い方法を選べば良い訳です。

美大時代に同じアトリエで制作していた友人とこれからどのように作家として生きて行こうかと作戦を立てた事があるのですが、一つ目は、近い将来に大きな賞を一つ獲りたい。二つ目に四〇歳までに大学の教員になる事。これができたら後は好きな作品を作って暮らせると嬉しそうに話しをしていましたが、その友人はコンクールで大賞を一つ貰った後は、公募展にはコンクールも含めて一切出品しないで個展のみで今でも活躍しているし良い作品を作っています。コンクールでどれだけの成果が私にあったかというと、画歴を捜しても大した成果もないのですが、大学院終了後あたりのコンセプチュアルアートやモノ派以降のニューペインティングの出現あたりに注目度の高い時期はあったかなと思います。（その時期の作品を掲載します。）

この十月に阿波和紙国際ミニプリント展の審査員をしたのですが、ミニプリントと言う事もあって全体のレベルが高く、同時にこの中から幾つかの賞に入る事の難しさを感じました。ただ、時間を掛けて作品群を見ていると何故か呼びかける作品が幾つかあり、その作品はいつの間にか賞に上がっている。不思議なもので、これが作品の持つ力なのかなと思い、もう一度コンクールを見直す良い機会にもなりました。

さて、この欄で求められているのはコンクールへの勧めなのですが、一度ぐらいは大きな獲物を得てお腹いっぱいの肉食もいいですね。しかし、それは数日の満足でしかないので本質はそこには無いようです。次のステップへのチャンスとして利用する一つの手段なのでしょう。



「ジャングル風呂でウヒウヒ風 How to もりつけアイ Ⅲ」木版画／縦六〇．五×横八三．五センチ／一九八二年

Infomation about Print Competitions

## 公募展情報

### 募集中

**● 第 13 回 南島原市 セミナリヨ版画展 ●**

・紙に刷った版画作品に限る
・テーマは自由※セミナリヨにこだわるものではない
・平成 24 年以降に制作されたものに限る。
但し、他のコンクールなどでの受賞作品を除く
作品受付：平成 25 年 12 月 3 日～平成 26 年 1 月 24 日
作品サイズ：シートサイズ 765mm×1,085mm 以下※額装なし
応募点数：1 人 1 点に限る
問合せ先：050-3381-5082

**● 第 20 回 鹿沼市立 川上澄生美術館 木版画大賞 ●**

・木版画または木版画を主たる版材とした作品と審査員が認めた作品
・平成 25 年以降に制作された公募展未発表作品
・国籍・年齢不問
作品受付：平成 26 年 2 月 11 日～ 2 月 16 日
作品サイズ：額外寸 120×120cm 以内 ※要額装
応募点数：1 人 1 点に限る
問合せ先：0289-62-8272

**● 第 9 回 高知国際版画 トリエンナーレ展 ●**

・紙に刷った版画作品に限る
・2012 年以降に制作された作品。
作品受付：2014 年 4 月 1 日～ 4 月 30 日
作品サイズ：シートサイズ 100cm×100cm 以下※額装なし
応募点数：1 人 3 点以内
問合せ先：088-893-0886

※各公募展の問い合わせは、主催者へお願いします。
※詳細はインターネットの検索サイトでお調べください。

### その他公募展

**● 第 4 回 バンコク 国際版画・ドローイングトリエンナーレ ●**

**Timeline of the 4th Bangkok Triennale International Print and Drawing Exhibition**

・画像の提出 ( 応募 ) 期間：August 1st - 20th, 2014
・画像による審査と選抜 Initial Selection ( JPEG files in CD or DVD for the initial screening )：September 24th - 25th, 2014
・選考結果の通知 Announcement of the Initial Selection：October 7th, 2014
・オリジナル作品提出日 Submission period：November 27th - 29th, 2014
・最終審査 Final round selection：January 21st, 2015

○ あおもり国際版画トリエンナーレ
○ 飛騨高山現代木版画ビエンナーレ
○ 山本鼎木版画大賞
○ 池田満寿夫記念芸術賞
○ 京展
○ CWAJ 現代版画展

○ クラクフ国際版画トリエンナーレ
International Print Triennial KRACOW
○ 中華民国国際版画・素描ビエンナーレ
International Biennial of Print and Drawing R.O.C. TAIWAN
○ カダケス国際ミニプリント展
Mimi Print International of CADAQUÉS
○ バンクーバー国際ミニプリント・ビエンナーレ
Biennial International Miniature Print Exhibition VANCOUVER
○ フィンランド国際ミニプリント・トリエンナーレ
International Miniprint Miniature Graphics Triennial FINLAND

キーワード　検索

## ギャラリー・ヒルゲート賞

# 三宅 由里子

Yuriko Miyake

ミクストメディア



`77　名古屋出身

`07　高知国際トリエンナーレ
`08　愛知県立芸術大学卒業
`09　第77回版画協会　B部門受賞
`10　日本・ポーランド国際版画展
　　現代日本版画展　中国美術学院美術館
　　日韓藝術交流展（JARFO）
`11　Asia Art Program(Gallery MARU・韓国)
`12　日本・英国国際版画展 ギャラリー・ヒルゲート賞
`13　依代 プロジェクト（松尾大社）

## 各賞と作家紹介

2012 年に京都市美術館にて開催された「日本・英国国際版画展」では優秀な作品を制作した作家へ各賞が贈られました。

2014 年に同じ会場で開催される「日本・オーストラリア 国際版画展」でも同様に、優秀な作品に賞が贈られ、受賞作家はこの会報にて紹介をさせて頂きます。

＜参考：『日本・英国 国際版画展 2012』の各賞＞

●MoakFund 賞：1 名
賞金授与
●優秀賞：2 名
賞金授与
●ギャラリー・ヒルゲート賞：2 名
ギャラリー・ヒルゲートにて個展を開催
●アワガミファクトリー賞：2 名
阿波紙授与



「こころをうつす器。から　御酒の盃」／acrylic plate
直径三十センチ／二〇一三年

Q1：版画制作を始められたきっかけを教えてください。

在学時代、私は銅版画というものを知りました。当時はデザイン科卒業に向け、就職等も含め、本当に自分は何がしたいのかを考えておりましたが、銅版画に出会い、それがとても面白く、作家活動をするきっかけとなりました。

Q2：ご自身の作品のテーマとコンセプトを教えてください。

私は、生物のかたちに関心があることから、かたちあるものがどのように形成されていくのか、また表面の形に保護されているものが、もし取り払われた場合の状態を考え、細密に描くことをテーマにしています。

Q3：作品制作の中で、最も大切だと考えておられる事を教えてください。

作品では、一瞬の変化という表現ではなく、徐々に変化していく様子を描こうと考えています。そうすることで、表面にあるかたち以上に、生物の本質を垣間見ることができるのではないだろうか。そこに、生物の外見のもつイメージからは想像のできない、本来の野性的なエネルギーや、鼓動、生温かさを表すことができるのではないかと、私は感じています。人間には皮膚があり、血液が流れ、一つの命しか持たない生物なのだという当たり前のことなのですが、新しい技術の開発と共にそのことがどこか希薄になり、個であること自体がそれほど重要ではなくなる時がくるのかもしれません。しかし、描く、彫るという行為で、今を生きる生物の本質を表現することが、私の作品制作では大切なことだと考えております。

銅版、アクリル等の素材に彫り、紙に刷るという行為から、最近では、新しい素材、プロセスを加えることで、さらに作品をより具体的なイメージに作り出そうと取り組んでいます。一例を挙げるなら、見えないものを表現するならアクリル板を彫り、それ自体を作品として使用することもあります。

Q4：今後の夢をお聞かせください。

現在は、私自身の版画作品を改めて見つめ直すことも含め、また学生をしておりますが、そこで経験する知識や技術に、新しい作品表現の可能性を見つけることができたらとも考えております。しかしながら、技術や言葉では表現しきれないものも大きな要素と捉え、今後も活動していきたいと考えております。

## ギャラリー・ヒルゲート賞

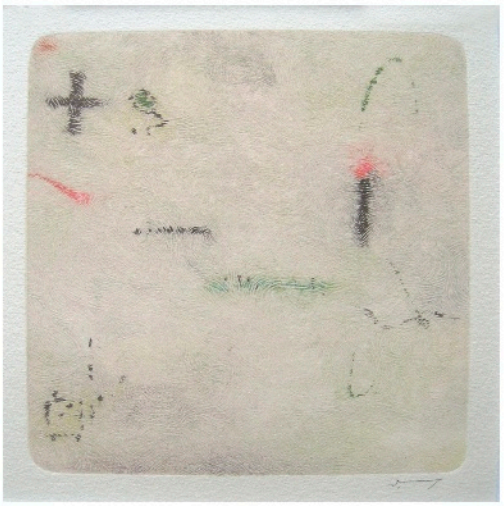
# 岩崎 咲子

Shoko Iwasaki

コラグラフ

'88　鳥取県米子市出身
'10　京都造形芸術大学 洋画コース版表現卒業

　　卒業制作展 学科賞
'10　グループ展参加多数
'11　鳥取県展 奨励賞
　　個展（デザインスペースヤスノ）
'12　日本・英国 国際版画展
'13　ギャラリー・ヒルゲート賞
　　個展（ギャラリー・ヒルゲート）



「風景no.4」縦十七×横十七センチ／紙版／二〇一三年

Q1：版画制作を始められたきっかけを教えてください。

かっこいいな〜という好奇心からだったと思います。

Q2：ご自身の作品のテーマやコンセプトを教えてください。

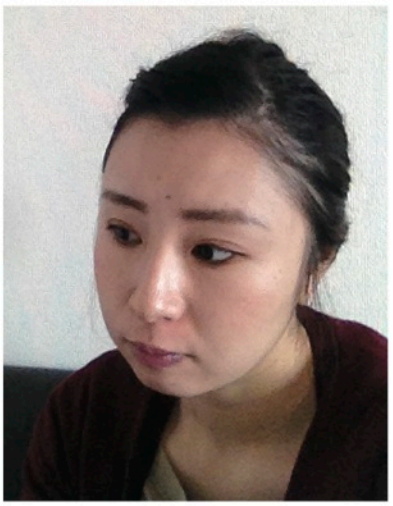
テーマはエネルギーについてです。コンセプトは太古から先まで。

Q3：作品制作の中で、最も大切だと考えておられる事を教えてください。

今は集中力です。

Q4：今後の夢をお聞かせください。（作家活動以外でも）

英語がペラペラに話せるようになりたいです。



# 活動報告

展覧会名：ギャラリー・ヒルゲート賞　受賞者個展 ①
　　ー 岩崎 咲子 版画展 ー
日　　時：2013 年 4 月 2 日 ( 火 ) ～ 4 月 7 日 ( 日 )
会　　場：ギャラリー・ヒルゲート
会場住所：〒604-8081 京都市中京区寺町通三条上る天性寺前町 535

多くの発見と大量の反省が出来ました。
たくさんの来場者の方にご意見・ご感想をいただきとても刺激になりました。今後の制作活動に生かしたいと思います。ありがとうございました。
（文：岩崎咲子／写真撮影：ギャラリー・ヒルゲート）




展覧会名：ギャラリー・ヒルゲート賞　受賞者個展 ②
　　ー 三宅 由里子 記憶の向こう側 ー
日　　時：2013 年 4 月 30 日 ( 火 ) ～ 5 月 5 日 ( 日 )
会　　場：ギャラリー・ヒルゲート
会場住所：〒604-8081 京都市中京区寺町通三条上る天性寺前町 535

今回、日本•英国国際版画展でギャラリー賞を頂き、ヒルゲートで展示をさせて頂きました。そこは低い天井、木の柱が特徴で、大きな丸いライトが暖かい光を作りだす、ホワイトキューブでありながら、建物自体の特徴を活かした展示空間でした。しかし、私は大きめの作品が多いので作品と上手く調和するのか不安もありましたが、実際展示をしてみると、その特徴が逆に作品の味を出してくれました。開催期間が GW だったこともあり、多くの人が来客して下さり、充実した展覧会になりました。
（文・写真撮影：三宅由里子）




展覧会名：第 5 回ポレポレ展
日　　時：2013 年 8 月 27 日 ( 火 )～ 9 月 8 日 ( 日 )
会　　場：JARFO
会場住所：〒605-0023 京都市東山区三条通東大路東入今小路町 81
出 品 者：伊藤尚子　片岡れいこ　越田美智子　竹原仁子
　　ツツミアスカ　羽田多栄子　ふじいみよこ　（五十音順）

今回のポレポレ展は女性作家のみの選抜となりました。オープニングパーティーでは作品や技法、政治や宗教についてなど、とても多様な意見交換が行われ、大変充実した時間でした。また作品点数が多く、ボリュームがあり、幅広い年代の女性作家の様々な版種の作品が一堂に見られ、とても良い展覧会だと思いました。
まだまだ暑い中、たくさんの方にご来場頂き、誠にありがとうございました。
（文・写真撮影：ツツミアスカ）




## ★開催日決定★

# 日本・オーストラリア 国際版画展 2014

## 2014 年 10 月 28 日～11 月 9 日

## 京都市美術館



AUSTRALIA 2014 JAPAN

版画京都展 実行委員会

# 掲示板

会報にお寄せいただいた版画京都展実行委員会メンバーの展覧会情報です。
詳細は会場へお問い合わせください。

●弘中 征夫
＜西宮美術協会 第 11 回クロスロード展＞
会期：2014 年 2 月 4 日～ 2 月 9 日
場所：西宮市立　北口ギャラリー　第 2 展示室
　　〒663-8035　西宮市北口町 1-2 アクタ西宮東館 6 階
TEL：0798-69-3160

●ツツミ アスカ
＜ツツミ アスカ 個展＞
会期：2014 年 2 月 17 日～ 3 月 1 日※日曜日休廊
場所：十一月画廊
　　〒104-0061　東京都中央区銀座 7-11-11 長谷川ビル 3F
TEL：03-3289-8880

●角間 貴生
＜角間 貴生 絵画展＞
会期：2014 年 3 月 18 日～ 3 月 23 日
場所：山本文房堂画廊
　　〒810-0041　福岡市中央区大名 2 丁目 4-32
TEL：092-751-4342

●たなか 玉実
＜時の魔術Ⅴーたなか 玉実 銅版画展＞
会期：2014 年 4 月 8 日～ 4 月 13 日
場所：ギャラリー　おいし
　　〒810-0001　福岡市中央区天神 2-9-212
　　（新天町南通り）
TEL：092-721-6013

●弘中 征夫
＜第 88 回 国展＞
会期：2014 年 5 月 1 日～ 5 月 12 日
場所：国立新美術館
　　〒106-0032 東京都港区六本木 7-22-2
TEL：03-5777-8600

## 編集後記

2013 年夏、念願のスリランカへ行って来ました。遺跡巡りはもちろん、この国は芸術活動が盛んになって来ています。ホテルやレストランには若手の絵画が飾ってあったり、壁画が描かれていたりと、なかなか楽しいですよ。会報担当：ツツミアスカ（編集）、三上景子、千明　発行：版画京都展実行委員会　問い合わせ先 ( 事務局 )：075-956-6910

# PANN News Letter

Printmaker's Association of Nishi Nippon

Vol.19

Summer 2014



## • 会報第19号の発行によせて •



今回の特集は、今年１０月京都市美術館にて開催の『日本・オーストラリア国際版画展』に向けてオーストラリアの風土や美術大学について武蔵篤彦氏に、今年２月に英国のバンクサイドギャラリーにて開催した『76th Annual Exhibition of The Society of Wood Engravers, U.K. & Kyoto Print Exhibition｜第 76 回英国木口木版画協会展 & 現代日本の木版画選抜展』について、黒崎彰氏へお話を伺いました。
それぞれ大変興味深い内容です。ごゆっくりとお楽しみ下さい。



マーサ　マクドナルド　ナパルチャリ
**Martha MacDonald Napaltjarri**

“ *Untitled* ”

Paper size – approx. H70×W70cm
Aquatint 2009
Printer – Michael Kempson at Cicada Press

ヨルク　シュマイサー
**Jörg Schmeisser**

“マングローブとノート”

Paper size – H68.5×W78.5cm
Etching
2010

ヨルク・シュマイサー:
Bilder der Reise (「旅行記」),
メルボルン、マクミラン美術出版 p. 158
図版提供:スティーブ・クー





ジャン　ディビス
**Jan Davis**

“ジェミーズ・
ポイントの出来事”

Paper size –
H82×W103cm
Digital print
2011


■特集１　キャンベラの追想 —— 武蔵 篤彦
■特集２　ロンドンでの「現代日本の木版画選抜展」報告 —— 黒崎　彰
　　英国木口木版画協会の紹介 —— 齋藤　修
■活動報告
■掲示板

# キャンベラの追想

文・写真　武蔵 篤彦

今から二〇年ほど前、私はオーストラリアのキャンベラ・スクール・オブ・アートの客員講師として、一年弱滞在しリトグラフの授業を担当しました。シドニーから小型プロペラ機に乗り換えキャンベラに到着しましたが、オーストラリアの首都と言うには不似合いな小さな空港で、いささか当惑したのを覚えています。百年前、オーストラリアの首都をシドニーとメルボルンで争った結果、その二大都市の中間地点で妥協し、小高い山と草原しか無かったこの地に計画都市をつくったという話を聞きました。

美術学校でもあり、かなりレベルの高いプログラムが豊富に用意されていました。なかでもアーティスト・イン・レジデンスは他に類を見ないほど充実しており、私が滞在していた期間中でもアメリカ、イギリス、中国、南アフリカから様々なアーティストが二ヶ月以上の長期にわたり学内の教員宿舎に泊まって各工房で制作を行い、学生たちとの交流を深めていました。アーティストの制作を間近に見ることができ、滞在期間中に制作された作品を大学ギャラリーで展示する手伝いをするなど、美術を学ぶ学生にとってはこの上ない刺激になったことと思います。

イデンティティーを築き美術を通して発信をしていく時代を迎えるであろうと考えます。


キャンベラ・スクール・オブ・アート版画コースの講評会


キャンベラ・スクール・オブ・アートの中庭

この首都キャンベラにあるキャンベラ・スクール・オブ・アートはちょうど私が滞在していたときにオーストラリア国立大学に合併されました。当時オーストラリアの大学の美術学部が三年制であったのに対して唯一四年制カリキュラムを導入していたこともあり、オーストラリアの美術学校の中でも先住民であるアボリジニ文化と共存し、独自のアイデンティティーを築き美術を通して発信をしていく時代を迎えるであろうと考えます。

ニュージーランドもそうですが、オーストラリアは地理的に不利な状況を意識しているのか、他国の文化を非常に積極的に吸収する姿勢があるように感じました。テレビを観ていてもドラマやバラエティ番組などのほとんどがアメリカやイギリスで制作されたもので、報道番組を除くと自国で制作された番組は一割にも満たないという印象を持ちました。多民族の文化が混在するオーストラリアは、これからも先住民であるアボリジニ文化と共存し、独自のアイデンティティーを築き美術を通して発信をしていく時代を迎えるであろうと考えます。

ところで、私がオーストラリに滞在するきっかけを与えていただいたのは、ヨルク・シュマイサーさんです。ヨルクさんは、私が勤める京都精華大学の版画専攻教授として、一九八九年から九〇年にかけて一年間銅版画をご指導いただきました。学生たちに対して非常に熱心にいろいろな技法を教えられるご様子は、オーストラリアに戻られてからも変わりませんでした。キャンベラ・スクール・オブ・アート版画コースの主任教授のお仕事はたいへんお忙しそうでしたが、決してご自分の制作ペースを崩されることはなく、アトリエを訪ねるたびに新しい銅版画作品の試し刷りが常に入れ替わり、壁に貼られていました。

今回の日本・オーストラリア国際版画展が開催されるに至ったのは、ヨルクさんが両国の版画の架け橋となり、長い年月をかけてその土壌をつくっていただいたおかげだと思っています。


ヨルク・シュマイサーさんの授業風景


『自画像』／エッチング／一九八四
シートサイズ 四四 x 三九センチ／
図版提供：オーストラリア国立美術館

## ヨルク・シュマイサー

1942年ポメラニア(現ポーランド)のストルプ生まれ。
78～97年オーストラリア国立大学キャンベラ美術学校の版画とドローイング教室の主任を務め、また京都精華大学芸術学部客員教授(89年)、京都市立芸術大学教授(2002～08年)も歴任した。彼はオーストラリア国内と海外で数多くの個展とグループ展を開催し、その作品はオーストラリア国内外のプライベートとパブリックのコレクションに収蔵されている。ヨルクは2012年にその生涯を閉じた。

## ＜旅する版画家 ヨルク・シュマイサー追悼展 ＞

会期：2014 年 10 月 25 日 ( 土 )～11 月 16 日 ( 日 )
会場：ギャルリ―宮脇　〒604-0915 京都市中京区寺町通二条上ル東側
TEL：075-231-2321

## 日本・オーストラリア国際版画展

### 特別展示 – ヨルク・シュマイサーに捧げる –

### 2014年10月28日(火)～11月9日(日)
### 京都市美術館


マイケル・シュリッツ
『砂漠の華』／二〇〇九
日本の楮紙に木版画
シートサイズ：六二 x 九〇センチ

# ロンドンでの「現代日本の木版画選抜展」報告

黒崎 彰

英国木口木版画協会主催の表記展覧会が二〇一二年二月八日から二十三日までの十六日間、ロンドンのバンクサイドギャラリーで開かれた。

この展示は、私たち実行委員会が二〇一一年に、京都と北九州で開催した「日本・英国国際版画展」へのいわばへお返し展Vとして英国側で企画され、実現したものである。会員諸氏は充分ご承知と思うが、委員会は二〇〇一年の「日・中展」以来、それぞれ関係両国において交流展、巡回展を持つことを条件に国際展を実施してきた。しかしながら、国際的な企画がすべて順調に進むとは思われず、その例が「日・米展」であったといえる。二ヶ所の会場がアメリカ側で予定されていたにもかかわらず、ちょうどリーマンショックの不況をまともに受け、美術館の日程は以降一年間すべてがキャンセルされた。



バンクサイドギャラリー


展示風景

展覧会には多大の経費と労力が必要であり、政情や経済動向の如何によっては中止、縮少がやむを得ない場合もある。その意味で、英国での日本版画展が木版画のみの出品数十点に絞り、それでも開催が実現したことは喜ばしいと言わねばならない。その困難な任に当られたR・ソルタ、M・ペッツアル両氏に心から感謝したいと思う。

さて、この両者によって出品作家の選出が京都展にて行われた。木口木版画協会とのジョイント展でもあり、まず小林敬生、斎藤修、二階武宏の木口組が参加、板目組としては藤嶋敬子、平木美鶴、本荘正彦、黒崎彰、三上景子、田中康、ツツミアスカが選ばれ、合計十名の出品である。作品は紙寸で最大六〇x四〇cmと規定され、ほとんどの作家が旧作を出品、それを私の所に集め、年内にロンドンへ到着するよう余裕を見て十月に速達便で送り出した。


展示風景

ところが、いくら待っても到着の通知がなく、問い合わせた京都の国際郵便局からは「荷物は行方不明、現在捜索中」との返答。この混乱の中、R・ソルタ氏から京都を再訪するのでその際作品を持ち帰りたいとの知らせが入った。再び作家たちにご苦労を願い、十二月に作品を手渡すことが無事できたのである。そしてその直後、最初の荷が私の所へ返送されてきた。それには付箋があり、曰く「保管期間が過ぎたので返送します。」とあった。これも国際交流のリスクの一つであろう。郵便事情、ルールの違いその他、国が変わればなんとやら、信じられないことも発生するものだと、この時つくづくと思い知らされたのである。

本展覧会開催につきご努力をいただいたR・ソルタ、M・ペッツアル両氏と英国木口木版画協会の作家諸氏、そして二度にわたり作品提供を承諾された十名の出品作家たちへ、この紙面を借りて心より深くお礼申し上げます。

# 英国木口木版画協会の紹介

齋藤 修

以下の文は、協会のホームページにアップされている紹介文です。元の英文からの翻訳は、図録や通訳等でいつもお世話になっているモニカ・ベーテさんにお願いしました。（齋藤記）

ー協会は英国の伝統的な版画技法である木口木版画を支え、育てることを目的とする組織である。このメディアに興味を持つ人々が集まる団体ではあるが、さらに関連する木版や凸版技法にも強い関心を向けている。基本的に協会は展覧会に参加できる選ばれた作家や招待を受けた作家の約七〇人が協会員を構成している。

また別に、協会の活動に賛同するアマチュア作家、コレクター、美術館の学芸員など、展覧会の鑑賞を希望する人々、書物、出版物を通して木口木版画に興味を持ち始めた一般の人々も加わって、幅広く協会の支援グループを構成しているのである。

英国木口木版画協会ホームページ
http://www.woodengravers.co.uk


オープニングパーティー

協会は一九二〇年、フィリップ・ハグリーン、ロバート・ギビングス、ルシアン・ピサロ、グエン・ラヴラットそしてエリック・ギルなどの作家グループによって設立された。彼らは毎年展覧会を開催、デヴィッド・ジョーンズ、ジョーンとポール・ナッシュ、ポール・ゴーギャン、クレア・レイトンなど、注目すべき作家たちの展示も行った。

協会の活動は第二次世界大戦前までは活発だったが、戦時下になると経済的な不況と画材の不足によって、停滞を余儀なくさせられる。戦後、年次展は再び開催されたが、協会の委員メンバーとその文化環境は大きく変貌した。

その後十年間のブランクを経て、八〇年代前半に協会は新しく出発し、国際的にも優れた協会と認められるようになった。協会の主な活動は毎年開催される展覧会とニュースレターの発行である（年六回）。公募から厳しい選択で選ばれた作品とその展覧会は毎年8カ所を巡り、国内と国外から寄せられた質の高い木口木版画を展示している。

木口木版画作家と作品、それらに興味がある英国と世界の人たちが出会う機会、場所を提供している協会は、このユニークな表現活動をサポートし、その技法を将来に守り続けるというまことに重要な役割を果たしているのである。ー


展示風景

（見開き左頁：写真提供：レベッカ・ソルタ）

# 活動報告

展覧会名：京都版画 2014 新鋭展
日　　時：2014 年 2 月 18 日 ( 火 ) ～ 3 月 2 日 ( 日 )
会　　場：ART FORUM JARFO
会場住所：〒605-0023 京都市東山区三条通東大路東入今小路町 81
出 品 者：池之内幹之　木本ありさ　児玉啓子　宿南泉　神野茅生子
田島恵美　中津留友子　日高理恵　松井三和子　望月泉
若狭陽子（50 音順）

新規会員 11 名が参加した新鋭展は、大作や作品数を多く持ち寄る方もおり、版種も銅版やリトグラフなど様々で見ごたえのあるものとなりました。独学で版画を学んだ方や、知らなかった技法を使った版画など、出品者同士でお話しする機会もあり、その中で多くの事を感じ、学べることができ、今後の制作意欲をかきたてられるよい機会となりまた 。

（文・写真撮影：松井三和子）





展覧会名：版画集『京都十景』と版画小品展
日　　時：2014 年 4 月 1 日 ( 火 )～ 4 月 6 日 ( 日 )
会　　場：Art Space 東山
会場住所：〒605-0033 京都市東山区三条通神宮道東入夷町 166-16
出 品 者：有年博行　大下百華　川西祐三郎　黒崎彰　小林敬生
近藤幸　齋藤修　坂爪厚生　佐久間嘉明　柴田真由美
清水博文　鈴木良治　田島征彦　田中喜一　田中良平
二階武宏　平木美鶴　武蔵篤彦　山本桂右　（五十音順）

隔年に発行する版画集『京都十景』の第 2 ～4 集の作品と各作家の小品で構成された展示は、知っている京都と知らない京都が広い空間に一同に並べられ、新しい京都の発見がありました。あと 10 年で 10 集が完成します。21 世紀の「KYOTO100 景」の完成を楽しみにしています。

（文・写真撮影：ツツミアスカ）





# 掲示板

会報にお寄せいただいた版画京都展実行委員会メンバーの展覧会情報です。
詳細は会場へお問い合わせください。

●近藤 幸
＜個展｜近藤 幸 展＞
会期：2014 年 8 月 23 日～8 月 29 日
場所：歩歩琳堂
〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通 1 丁目 10－11
元町エビスビル 3F
TEL：078-321-1154

●富田 伸介、他 3 名
＜グループ展｜光鯱の会＞
会期：2014 年 8 月 27 日 -9 月 2 日
場所：松坂屋名古屋店 南館 6 階 美術画廊
〒460-8430 名古屋市中区栄 3-16-1
TEL：052-251-1111

●小野 知美、他 9 名
＜グループ展｜Past Traditions/New Voices in Asian Art＞
会期：2014 年 9 月 2 日～12 月 10 日
場所：The Hofstra University Museum, Emily Lowe Gallery
112 Hofstra University  Hempstead, NY  11549, USA
TEL：516-463-5672

●黒崎 彰
＜個展｜黒崎 彰 新作木版画展「万葉」近江と大和＞
会期：2014 年 9 月 20 日～10 月 12 日
場所：ギャルリ―宮脇
〒604-0915 京都市中京区寺町通二条上ル東側
TEL：075-231-2321

●務川 めぐみ
＜個展｜動物、動物たち考＞
会期：2014 年 9 月 23 日～9 月 28 日
場所：ギャラリー SHIMA
〒662-0036 兵庫県西宮市大井手町 7-15
TEL：0798-70-7000

●川端 千絵
＜個展｜川端 千絵 木版画展＞
会期：2014 年 10 月 1 日～10 月 15 日
場所：まるごのギャラリー
〒604-8091 京都市中京区下本能寺 492
TEL：075-744-0105

●松井 康子
＜個展｜ペーパースクリーン版画展＞
会期：2014 年 10 月 27 日 -11 月 2 日
場所：ギャラリー風
〒541-0041 福岡市中央区天神 2-8-136 新天街北通り
TEL：092-711-1510

●児玉 啓子、濱本 澄江、松井 康子、他 1 名
＜グループ展｜4 つの宙展 II ＞
会期：2014 年 10 月 27 日～11 月 2 日
場所：ギャラリー風
〒541-0041 福岡市中央区天神 2-8-136 新天街北通り
TEL：092-711-1510

●濱本 澄江
＜個展｜濱本 澄江 ペーパースクリーン版画展
- 見えぬものとの対話 -＞
会期：2014 年 10 月 28 日～11 月 2 日
場所：GALLERY とわーる
〒810-0001 福岡市天神 2-8-34 住友生命ビル 1F
TEL：092-714-3767

●大下 百華
＜個展｜大下 百華 木版画展＞
会期：2014 年 11 月 1 日～11 月 15 日
場所：まるごのギャラリー
〒604-8091 京都市中京区下本能寺前町 492
TEL：075-744-0105

●池内 幹之
＜個展｜池内 幹之 銅版画展 - メゾチントの世界 -＞
会期：2014 年 11 月 7 日～2015 年 1 月 25 日
場所：喜多美術館
〒633-0002 奈良県桜井市金屋 730 番地
TEL：0744-45-2849

PANNのバックナンバーは、下記ウェブサイトへ

http://kyotohanganewsletter.jimdo.com

## 編集後記

シンガポールの若手作家の作品は、急成長する経済へ警鐘を鳴らす厳しい視線とメッセージがありました。その一方でアニメやマンガに影響を受けた作品や伝統的な水墨画や書の作品もたくさんあり、興味深い旅でした。

会報担当：ツツミアスカ ( 編集 )、三上景子、千明　発行：版画京都展実行委員会　問い合わせ先 ( 事務局 )：075-956-6910｜2014 年 8 月発行

# PANN News Letter

Printmaker's Association of Nishi Nippon

Vol.20

Spring 2015

## • 会報第20号の発行によせて •

今回の特集は、昨年開催の『日本・オーストラリア国際版画展』（10 月京都市美術館／ 12 月ふくやま美術館）報告を武蔵篤彦氏と石井誠氏にお願いしました。また作家紹介では、本展覧会にて優秀賞を受賞された廣瀬敦史氏とふじいみよこ氏からお話を伺っています。
それぞれ大変興味深い内容です。ごゆっくりとお楽しみ下さい。



◆ ***Atsushi Hirose***

“ 躁転”

H171×W23.7cm
Etching, Engraving
2014



◆ ***Miyoko Fujii***

“ Lesson—1”

H18×W18cm
Etching
2012

■ 特集　「日本・オーストリラリア国際版画展」報告
・京都展（京都市美術館）　について —— 石井　誠
・広島展（ふくやま美術館）について —— 武蔵篤彦

■ 作家紹介　「優秀賞」受賞作家 —— 廣瀬敦史・ふじいみよこ

■ 追悼　川西祐三郎先生のご逝去を悼む

■ 活動報告　■ 掲示板

版 KYOTO 画

## 京都市美術館報告

文　石井　誠

十一月二日に行われたギャラリートークでは、両国の出品者が自作や知己の作家・作品についての解説を行いました。会場では熱心にメモを取る方や、終了後も作家へ質問をする方々が多く見受けられました。

オーストラリア側から四名の方々と、見識のある作家の解説が有り、日本側は当日の出席者と受賞者の参加が中心でした。紙面の都合上、主にオーストラリアの方々の発表の中から抜粋して述べさせていただきます。


① 京都美術館 2014年11月2日 ギャラリートーク

最初にブルース・ラティマー氏の解説においては、オーストラリアの社会情勢や、イメージがもたらす要素が五感へどう訴えかけるのかなどを、掘り下げてご説明いただきました。

次にロン・マクバーニー氏の解説では個人の感覚をどうイメージとして表現していくかを解りやすく解説され、そこに至るまでのご自身の経歴や作品に向かい合う心持ちを、多くの質問に真摯に答えながら話されているのが印象的でした。

最後に東京藝術大学で研究生として木版を専攻された口ズリン・キーン氏は同大学の恩師が憧れの作家であったというエピソードを交えながら楽しく解説されていました。また、オーストラリアの版画施設の設備、現状や、各作家の版画以外の制作プロセスといった興味深い内容を聞くことができました。また、アボリジニ作家の制作における背景など、ステートメントや図録からは知り得ることのできない内容のお話も聞くことができました。


② 京都美術館 2014年11月1日 レクチャー

日本側に移り、前半は受賞作家の紹介や若手作家の発表があり、後半のベテラン会員のトークでは、ジョークを交えた明るい雰囲気での要所を抑えた説明に感嘆の声が上がり、大勢の拍手でトークを終了しました。トップクラスの作家に直接お話を伺え、また、自身の作品を解説する機会をいただける企画の開催には多くの方々のご尽力あってこそ成せるものであり、両国の事前、当日の関係者の方々に感謝の意をこの場をお借りしまして申し上げます。

## 日本・オーストラリア国際版画展 in 京都＆広島

## ふくやま美術館報告

文　武蔵　篤彦

広島県福山市のふくやま美術館において、福山市と福山市教育委員会の後援で、昨年十一月二九日（火）から十二月九日（日）まで、月曜の休館日を除いて十日間「日本・オーストラリア国際版画展」が開催されました。ふくやま美術館は、新幹線福山駅からすぐ近くのたいへんアクセスの良いロケーションにあり、博物館や文学館が建ち並ぶ福山市文化ゾーンの奥に位置する二階建ての落ち着いた瀟洒な美術館です。

しかし京都市美術館に比べ、ふくやま美術館の展示スペースが狭いことから、京都市美術館では日本とオーストラリア両方の出品作家が基本的に二点の作品を発表していましたが、二点を一点に減らして京都展のちょうど半分サイズの展示規模での展覧会を行うことになりました。



③ ふくやま美術館

あいにく福山市近辺には版画京都展実行委員会の会員が居られず、搬入・搬出や会期中の受付の手配は非常に難しいものがありました。倉敷芸術科学大学の五十嵐英之先生にお願いして、なるべく多くの学生を集めていただいたのですがそれでも足らず、会員皆様のご助力を得て、なんとか無事に作品展示が完了し、搬出もスムーズに行えました。特に担当していただいた佐久間嘉明先生には大変ご苦労をおかけしたことと思います。

それと事前にふくやま美術館および倉敷芸術科学大学に、ポスターとチラシの配布をお願いしましたが、展覧会の広報に関しても充分であったとは言い難いものがあります。このことはふくやま展の入場者数にも反映されていて、十日間の入場者総数が三七二名で京都展の五分の一弱ほどでした。やはり前回の北九州展のように、熱心な会員のいる地域の美術館で開催した方が、その地域での広報活動から搬入や搬出も含めて順調に事が運ぶように思いました。

しかしながら、ふくやま美術館学芸課長の谷藤史彦様には、打ち合わせから搬出まで多大なご尽力をいただきました。この場を借りて改めて御礼を申し上げたいと思います。


写真提供
①　北村昇一
②〜④ 坂爪厚生
④ ふくやま美術館 展示風景

## 優秀賞

# 廣瀬 敦史

Atsushi Hirose

銅版画

'87　徳島生まれ
'09　大阪芸術大学芸術学部美術学科 卒業

'09　第77回日本版画協会展 賞候補
'10　第78回日本版画協会展 賞候補
'14　第82回日本版画協会展 奨励賞
'14　日本•オーストラリア国際版画展 優秀賞



「冬の亡霊」縦二五・五×横二二センチ／エッチング／二〇〇八

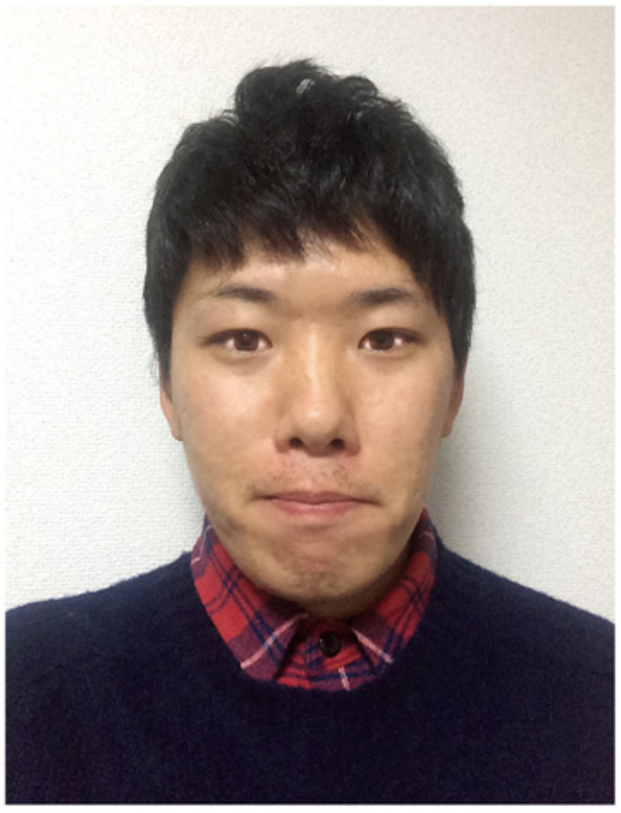
この度は優秀賞を頂き、ありがとうございます。
私が銅版画を始めたきっかけは細い線でイメージをつくれる事、黒色のみで表現できる事が大きかったです。緻密な表現が出来る銅版画の世界はすぐに夢中になりました。

今回出展した作品にはエッチングとエングレービングの技法を併用して制作しておりますビュランを使用する事で表現できる線の幅が広がり、また立体感を出す事が出来ました。今後の制作においてもビュランをうまく使っていこうと思います。

作品についてですが、生き物を描く事を意識しています。その時々で浮かんだイメージを版に描いていきます。特に人の身体のパーツを描くのは好きなので作品には必ず登場します。
細い線を重ねていく作業なので、サイズの大きい物作れませんが、小さなサイズの中でしっかり自分の世界を描いていきます。

作品を制作する際に一番大切に考えている事は、自分らしい作品を作る事です。イメージを自分なりの表現で描いていく事は常に意識しています。

今後の夢ですがエングレービングのみで作品を作ってみたいと考えています。中々時間がかかる作業にはなりますが、気合を入れて制作していきます。



## 作　家　紹　介

### 日本・オーストラリア国際版画展　受賞者

本展覧会では優秀な作品を制作した作家へ各賞が贈られました。次号から奨励賞とアワガミファクトリー賞の受賞者を紹介致します。

優秀賞
廣瀬 敦史・ふじい みよこ
奨励賞
高井 信子・千明
アワガミファクトリー賞
加藤 宏・日高 理恵

## 優秀賞

# ふじい みよこ

Miyoko Fujii

銅版画



愛知県生まれ
京都造形芸術大学卒業

'11　山本鼎版画大賞展
'12　大野城まどかぴあ版画ビエンナーレ
'14　セミナリヨ現代版画展 南島原市長賞
　　中華民国国際版画ビエンナーレ 美術館収蔵
　　日本•オーストラリア国際版画展 優秀賞

二〇〇七年に名古屋で個展を開きました。当初は油彩画と水彩画のみの予定でしたが、学生時代に銅版画を教えてくださった佐久間先生の「せっかくだから少し銅版画の作品も展示されたら?」との一言で急遽十点程制作しました。翌年に日本版画協会展のB部門に応募し、入選したのがきっかけで本格的に銅版画に取り組み始めました。

テーマは「仲間」です。それは人のみではなく、動物も植物も含めこの地球上に共存している全てを対象にしております。私は犬好きで油彩画の頃から我が家の犬達をモデルに作品を作っておりましたが、最近はご近所さんからいただいた家庭菜園の大根がまるで人が足組をしているような妙な形をしているのを見て「野菜の擬人化」をコンセプトに制作しております。あまり難しく考えずに自分が感じるままを表現し、作り手も見る側も楽しくなるような、ほっとするような空間を作っていきたいです。

今春から娘夫婦が仕事の関係で子ども二人を連れて三〜四年程フランスに住むことになりましたので私自身もなにかとフランスへ行く事が増えてきそうです。娘たちがパリにいる間に一度ぐらいはパリで個展ができるように作品作りはもちろんのことでがフランス語も少し話せるようになりたいです。



「畑のサーカス団—Ⅳ」縦九〇×横六〇センチ／エッチング・アクアチント／二〇一四

## 追悼　川西祐三郎先生のご逝去を悼む



2008 年 10 月 13 日　自宅にて　刷りの作業

昨年の暮れ十二月五日、私たちの大先輩川西先生が九十歳で逝去されました。先生は版画京都展委員会では発足以来の会員であり、また本会最初の名誉会員でも有られました。

よく知られるように、川西英、祐三郎父子二代にわたる木版画家は共に活動の地を神戸に据え、父が創作版画運動の一翼を担った開拓者であるならば、三男の先生は制作数が千点を越えるすぐれた木版風景画家でした。すでに八歳で木版を始め、二十歳にして日本版画協会会員推挙という早熟の才と、以降これまでの長い道程を美しく飾ったその明るい色調やモダンな構成は、私たちのみならず多くの愛好家の心をいつも奪い続けてきたのです。

ここに委員会を代表し、先生に心より哀惜の念を捧げたいと思います。

（黒崎記）

## 活動報告

展覧会名：ポレポレ展 2014
日　　時：2014 年 9 月 9 日 ( 火 )〜9 月 21 日 ( 日 )
会　　場：ART FORUM JARFO
会場住所：〒605-0023 京都市東山区三条通東大路東入今小路町 81-1F
出 品 者：朝日みお、伊藤尚子、ツツミアスカ、服部久美子、三田村直美、目良真弓（五十音順）

今回のポレポレ展は、出品者の人数が程よく、1 人あたり 4〜6 点の作品を展示する出来ました。空間にゆとりがあり、窮屈さを感じさせず、落ち着きのある上品な展示となりました。

文・写真撮影：ツツミアスカ





展覧会名：京都十景・第 5 集 出版記念 展
日　　時：2015 年 12 月 16 日 ( 火 ) 〜 12 月 21 日 ( 日 )
会　　場：ギャラリーヒルゲート
会場住所：〒604-8081 京都市中京区寺町通三条上る天性寺前町 535
出 品 者：角間貴生、黒崎彰、齋藤修、坂爪厚生、佐久間嘉明、田島征彦、縄田也千、牧野浩紀、武蔵篤彦、山本桂右（五十音順）

京都十景に参加させて頂き、岩倉にある円通寺の庭園を木版画で制作させて頂きました。京都で沢山のお寺の庭園を拝見する機会があり、その一つが円通寺でした。素朴な雰囲気が気に入り、何度か足を運び、庭から見える比叡山を眺めました。静けさと落ち着きがある京都の風景の 1 枚にふさわしいと感じます。みなさんもこの庭園に一度伺ってほしいと思います。

文：牧野浩紀／写真撮影：人見ジュン子（ギャラリーヒルゲート）





展覧会名：新鋭展 2015
日　　時：2015 年 1 月 27 日（火）〜 2 月 8 日（日）
会　　場：ART FORUM JARFO
会場住所：〒605-0023 京都市東山区三条通東大路東入今小路町 81-1F
出 品 者：奥島麻子、菊池香代子、古来涼子、長瀬哲夫、野嶋革、福田和国、村崎晃、山口恵味（五十音順）

本年度から版画京都展実行委員会に新しく加わった 8 名の作家による新鋭展が京都三条の JARFO で開催されました。版画というジャンルでありながら様々な技法や表現方法で彩られる展示作品、そこから垣間見えるそれぞれの世界観や制作スタンスからは、「表現」の可能性をますます感じることができました。単に展示会というものに留まらず、地域や世代を超えて新しい交流の場となったのではないでしょうか。

文：野嶋革／写真撮影：松原知子（JARFO スタッフ）









## 掲示板

会報にお寄せいただいた版画京都展実行委員会メンバーの展覧会情報です。
詳細は会場へお問い合わせください。

●池本 明代、高井 信子（他 6 名）
＜グループ展｜玉手箱展＞
会期：2015 年 3 月 22 日〜3 月 29 日
会場：ぐらびゅうる神戸
〒651-0065 神戸市中央区割塚通 4-2-13
TEL：078-803-3145

●久保 直美
＜個展｜きおくのカタチ＞
会期：2015 年 3 月 31 日〜4 月 5 日
会場：ギャラリーヒルゲート 2F　〒604-8081
京都市中京区寺町通三条上る天性寺前町 535
TEL：075-252-1161

●ツツミ アスカ
＜個展｜The Silent Drama＞
会期：2015 年 4 月 7 日〜 4 月 19 日※4/13 休廊
会場：ギャラリー恵風　〒606-8392
京都市左京区丸太町通東大路東入ル南側
TEL：075-771-1011

●角間 貴生
＜個展｜角間 貴生展『だまし絵・顔魔術の世界』＞
会期：2015 年 4 月 28 日〜5 月 3 日
会場：山本文房堂画廊
〒810-0041 福岡市中央区大名 2-4-32
TEL：092-751-4342

●高井 信子
＜個展｜日本・オーストラリア国際版画展 受賞者展
高井 信子展 ( 銅版画 )＞
会期：2015 年 5 月 12 日〜 5 月 17 日
会場：ギャラリーヒルゲート 2F　〒604-8081
京都市中京区寺町通三条上る天性寺前町 535
TEL：075-252-1161

●近藤 幸
＜個展｜近藤 幸 木版画展＞
会期：2015 年 5 月 30 日〜6 月 13 日
会場：ギャラリー ACS　〒460-0008
名古屋市中区栄 1-13-4 みその大林ビル 1F
TEL：052-232-0828

●朝日 みお
＜個展｜朝日 みお 銅版画展＞
会期：2015 年 6 月 8 日〜6 月 13 日
会場：アートデアート・ビュー
〒569-0802 大阪府高槻市北園町 13-30
TEL：072-685-0466

●ふじい みよこ
＜個展｜ふじい みよこ 銅版画展＞
会期：2015 年 6 月 25 日〜6 月 30 日
会場：ギャラリー尋屋　〒460-0008　名古屋市
中区栄 3-31-3 コンファレンス尋屋ビル 5F
TEL：052-262-6800

●近藤 幸
＜個展｜近藤 幸 木版画展＞
会期：2015 年 8 月 24 日〜8 月 30 日
会場：アートデアート・ビュー
〒569-0802 大阪府高槻市北園町 13-30
TEL：072-685-0466

●黒崎 彰
＜個展｜黒崎 彰 新作個展＞
会期：2015 年 8 月 24 日〜 9 月 5 日※8/30 休廊
会場：シロタ画廊　〒104-0061
東京都中央区銀座 7-10-8 第五太陽ビル B1F
TEL：03-3572-7971

●松岡 惠子
＜個展｜松岡 惠子展 - 油彩 / 銅板画 ->
会期：2015 年 10 月 6 日〜10 月 11 日
会場：ギャラリーヒルゲート 2F　〒604-8081
京都市中京区寺町通三条上る天性寺前町 535
TEL：075-252-1161

●野嶋 革
＜個展｜野嶋 革 展＞
会期：2015 年 10 月 23 日〜11 月 8 日
会場：京都・アートゾーン神楽岡　〒606-8311
京都府京都市左京区吉田神楽岡町 4
TEL：075-754-0155

発行：版画京都展実行委員会　問い合わせ先 ( 事務局 )：075-956-6910　会報係担当：ツツミアスカ ( 編集 )、千明｜2015 年 3 月発行

Kyoto Hoga

# KYOTO版画 21

Winter 2015

Kyoto Print Exhibition Executive Committee

# Newsletter



Etching, Hand colouring, H 53.5×W 39cm, 2013

Nobuko Takai “ジャッカ”



Woodcut, H 30×W 25cm, 2012

Chiaki “今日の挨拶”

作家紹介

日本・オーストラリア国際版画二〇一四奨励賞・受賞作家

高井 信子

千明

特集

福祉とアート

取材に行ってきました 西住 恵子

■活動報告

■掲示板



## 奨励賞

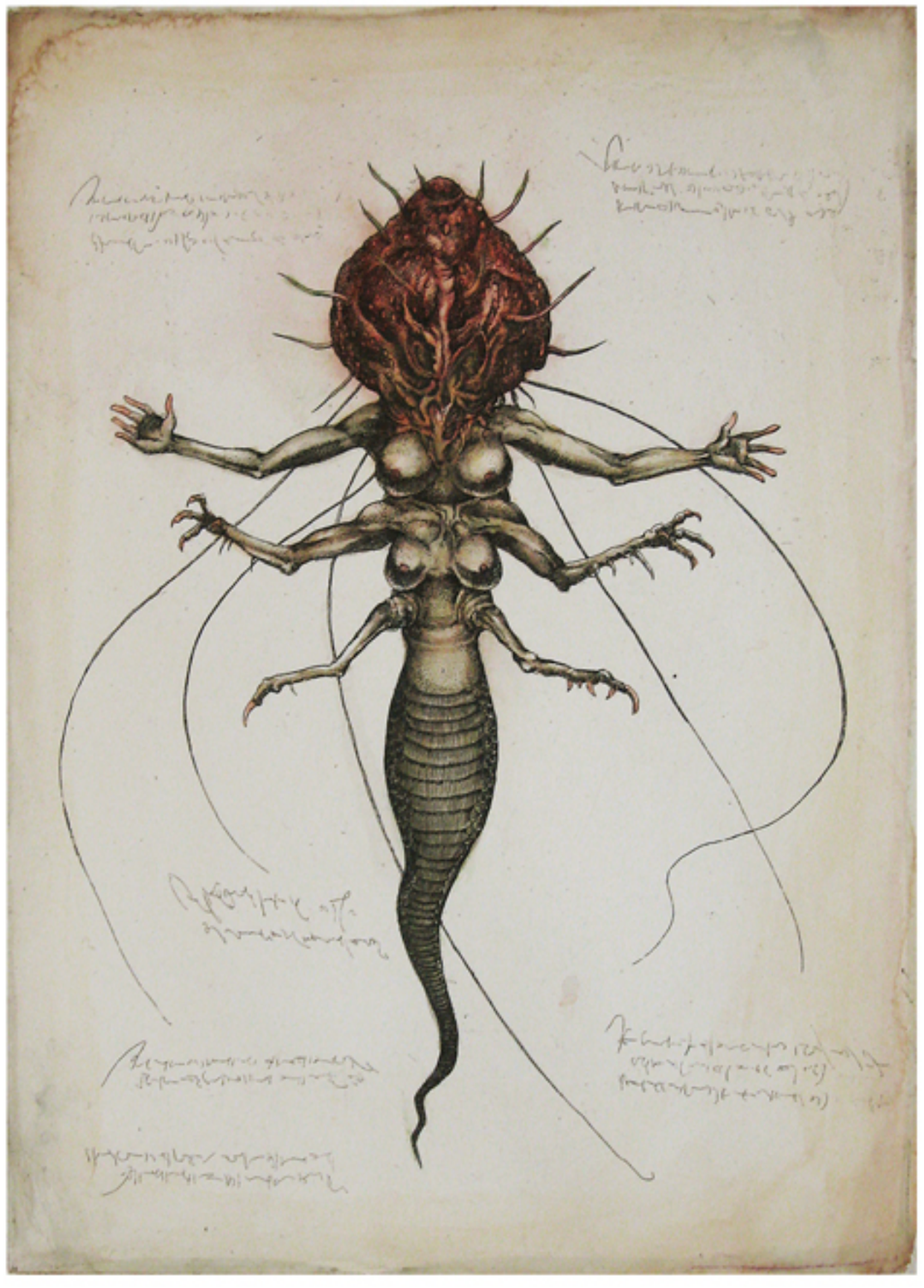
銅　版　画

# 高井 信子

Nobuko Takai

'88　新潟生まれ
'13　京都造形芸術大学大学院
　　芸術表現専攻修了

'11　第79回版画展入選
'14　版画の魅力展vol.2
　　日本・オーストラリア国際版画展奨励賞
'15　日本・オーストラリア国際版画展奨励賞
　　受賞者展



「いちごむし」
縦 21X 横 15 センチ／エッチング・手彩色／ 2015

### □版画制作を始めたきっかけ

大学二回生の時にドライポイントを体験する機会があり、今までにない楽しさと自分の表現との相性に手応えを感じました。そして三回生で版画コースに進み、そこで自分の作品制作において最も適したと感じるエッチングと出会い、本格的に版画での制作を始めました。

### □作品のテーマとコンセプト

美しさとグロテスクさを併せ持つものに興味を持っており、様々な生物の体のパーツを分解、再構築して架空の生物を生み出しています。二〇一三年からは刷ったものに水彩絵の具での手彩色を試みています。

### □作品制作の中で最も大切だと考えている事

多様な表現の中においても、自分の根源、土台となるものを大切にし、そしてその純度を高めていく事だと考えています。

### □今後の夢

これまで連作として架空の生物を図版的なイメージで作り続けており、いずれ一冊の本としてまとめたいです。

小さい頃から画家になりたいと思っていましたが、自分の技量では無理だとも思っていました。幾つになっても諦めきれずに、結局芸大に行くことを決めて絵を勉強し始めたのが十五歳の時です。大学の学部は本当なら洋画に行きたかったのですが、やっぱり自信もないし、どうしよう?と考えていたときに版画科なら色々な技術が学べると聞いて少し興味が湧きました。また、色々な作家の画集を見ていて、版画もやっていた画家が多いことに気付きました。カンディンスキーが初期に作った木版画がこの頃から好きでした。当時、自分の周りに大学に行かずに絵を描いている人もいたから、どうせ大学に行くなら技術を学ぼうと思い、版画専攻に進むことにしました。あと、本当に画家として成功した人を生で見てみたかったんです。だから精華大学の版画に行って黒崎彰に学ぶぞ!と思って、そのまま木版ゼミに入って、今も木版画をやっています。

## 奨励賞

木　版　画

# 千 明

Chiaki



'83　兵庫県生まれ
　　京都精華大学芸術学部造形学科
　　版画専攻卒業

'12　個展　「日暮らし」　ギャラリーヒルゲート
'14　第82回日本版画協会展　準会員推挙
　　日本・オーストラリア国際版画展奨励賞
'15　日本・オーストラリア国際版画展奨励賞
　　受賞者展

私は、木版画の魅力は面の美しさだと思っていて、だから具体的な形はできるだけ出さないようにしています。具体的なものを描いてはいるんですけど。ベタ刷りとごま刷りのバランスをうまく調整しながら、その上で、できるだけ難しい構成、難しい配色を心がけています。どうして成立しているのかわからないけど、なんだかとても良い!みたいな絵を作るのが理想です。

小説を読んだり、実際に自分で散文を描いたりするのが好きなせいか、作品になるのは小説の一文のような、映画のワンシーンのような、わたしの日常です。大学を出てすぐの頃は、建物とか、古い本とか、布とかをモチーフにすることが多かったんですが、最近は人物を描くことが多くなってきました。五年くらい前から障がいを持った子ども達に美術を教えているんですけど、人物をモチーフにすることが多くなったのはそのせいかもしれません。いつか子ども達との学校での生活を小説にしてみたいなぁと、最近ぼんやり考えています。



「生きる」縦 65X 横 98 センチ／木版／ 2013

# 取材に行ってきました

文・写真
西住 恵子



当委員会のメンバーである吉元光生さんが勤めている福祉施設の「花友しらかわ」さんに取材に行ってきました。そこでは、吉元さんの案で利用者さんが、画用紙などで版を作り、その上に、半紙や色紙をのせて色鉛筆でこする、フロッタージュで作品を創っていました。

絵を描いているテーブルには活気があり、お互い褒めあったりなど笑顔が絶えない雰囲気に私も笑顔になりました。スタッフの鴨野さんに福祉に芸術の必要性を感じるかとお聞きしたところ、「言葉で上手く話せなかったり、感情を表現できなくても、画用紙に向かって何かを描き、表現することは自分から発信して伝える方法の一つであり、自己実現の一つでもある。描くこと、創ることによって認知症の改善につながったりと、福祉に芸術の必要性を感じる。」と話してくださいました。

吉元さんは絵を描いたことがない人や握力がなくて〝描く〟という行為が難しい人でも、少し手を動かすだけで創れるものをと思い、フロッタージュを始めたそうです。他にも描いた絵の上にチラシをちぎって貼りつけてコラージュの作品を創ったり、線と丸だけで画面を埋めるという決まったルールで作品を創ってもらうなど、「誰でも、どんな人でもできる」をテーマにいろいろとレクリエーションを考えているそうです。

吉元さんが勤める前までは塗り絵が主で、芸術系の大学を卒業した吉元さんだからこそ、大学で学んできた知識を生かし、いろんなバリエーションのレクリエーションができたのだと思います。今回の訪問で、福祉には芸術が必要だということ、そして芸術系の大学を卒業した後の道として、福祉での芸術の活動がもっと広まればと強く感じました。

## CASE1 斎藤きよ子様

元々、編み物が好きで絵を描いたことはなく、初めてフロッタージュを創った時は緊張して、どうやったらよいか、どの色を選んでよいのかわからず、吉元さんと相談しながら制作し、作品が出来上がった時は、出来栄えはどうであれ、顔が赤くなるほど嬉しかったそうです。

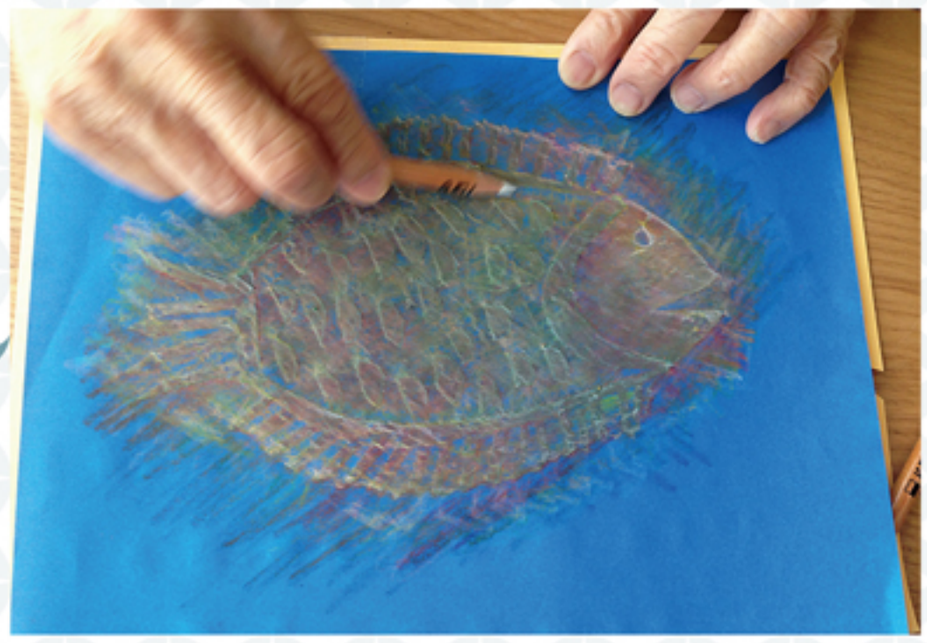
## How To Make Frottage.

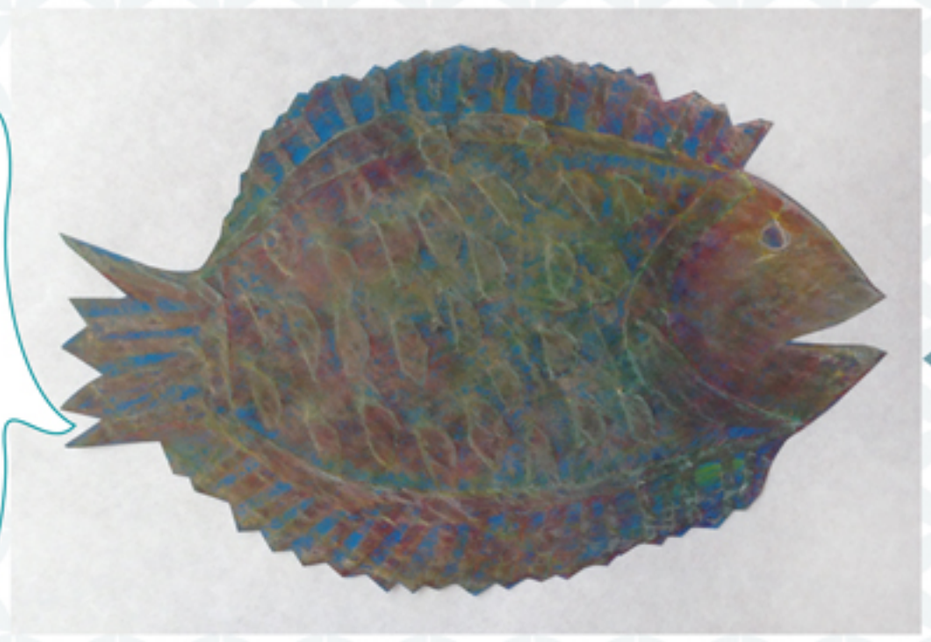


ヒレとシッポがこだわりのお魚の版。吉元さんに「変わった形の方が面白いよ」とアドバイスを受け、思い切ってギザギザの形にしたそうです。

お魚の版に青い色紙を置き、色鉛筆でこすります。どんな色を使うか悩みつつもどんどん色を重ねていき、とても集中しています。







最後は、吉元さんに周りを切り取ってもらい、紙に貼って完成！やわらかく、温かみと深みのあるお魚になりました。

いい色になったと思う。出来上がって、これが自分で作った作品だと思うと嬉しくなる！

## Washi-Chigiri-e



この、ちぎり絵は二週間ほどかけて作った大作！とても九三歳とは思えない集中力です。

ここ（花友しらかわ）に来たら、1～2時間は何かを創るというクセをつけている。



## CASE2 宮崎照子様

こちらは蝶のフロッタージュ。蝶の版はあらかじめ吉元さんが用意したもの。色はオレンジと赤と紫のみ。「お好きな色なんですか？」という問いに、「好きということはないけど、なんとなくね。」と答えていましたが、とても綺麗な蝶の作品になりました。そして、なんとこの蝶の作品を私にプレゼントしてくれました！本当にありがとうございます！

# 活動報告

展覧会名：日本・オーストラリア 国際版画展 奨励賞 受賞者展 vol.1
　　千明 個展 “ラブレター”
日　　時：2015 年 3 月 24 日（火）～29 日（日）
会　　場：ギャラリーヒルゲート
会場住所：〒604―8081 京都市中京区寺町通三条上る天性寺前町 535

　前回の個展から２年半ぶりの展示でしたが、前回以上にたくさんの方に来て頂き、また作品を購入して頂けたことが何よりでした。ギャラリーのオーナーである人見さんからは、「受賞のお祝いに」とパーティーまで開いて頂き、申し訳ないやら嬉しいやらで、本当に感謝の気持ちでいっぱいでした。前回の個展で私を知って下さった方々との嬉しい再会などもあり、あっと言う間の５日間でした。

文：千明／写真撮影：涼川めぐみ





展覧会名：日本・オーストラリア 国際版画展 奨励賞 受賞者展 vol.2
　　高井 信子 個展
日　　時：2015 年 5 月 12 日（火）～17 日（日）
会　　場：ギャラリーヒルゲート
会場住所：〒604―8081 京都市中京区寺町通三条上る天性寺前町 535

　何年かぶりの個展という事で緊張しました。開催してみていろいろと反省点もありますが、自分の作品と表現方法については手応えを感じる事ができました。この度はこのような機会を与えていただき、誠にありがとうございました。

文：高井信子／写真撮影：ギャラリーヒルゲート スタッフ





## 日本・カナダ 国際版画展 開催日決定

International Print Exhibition,
Canada and Japan 2016

2016 年 10 月 4 日(火)～10 月 16 日(日)
京都市美術館
午前９時～午後５時　月曜休館
〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町 124( 岡崎公園内 )

2016 年 10 月 22 日(土)～10 月 30 日(日)※予定
徳島県立２１世紀館(多目的活動室)
＋徳島県立近代美術館ギャラリー
〒770-8070 徳島市八万町向寺山文化の森総合公園内

Relaunch of Our Website!
ホームページのリニューアルに伴い、ウェブアドレスが変わりました。
**http://www.kyotohanga.com**

# 掲示板

会報にお寄せいただいた版画京都展実行委員会メンバーの展覧会情報です。
詳細は各会場へお問い合わせください。

●松岡 恵子
＜個展｜松岡 恵子 個展　版画 油彩画 篆刻＞
会期：2015 年 11 月 5 日～11 月 10 日
会場：ギャラリ - 尋屋
　　〒460-0008 名古屋市中区栄 3-31-3
　　コンフォレスト尋屋ビル 5F
TEL：052-262-6800

●武田 あずみ
＜個展｜武田 あずみ 銅版画展＞
会期：2015 年 11 月 13 日～11 月 29 日
会場：京都・アートゾーン神楽岡
　　〒606-8311 京都市左京区吉田神楽岡町 4
TEL：075-754-0155

●濱本 澄江
＜個展｜濱本澄江版画展
　　「見えぬものとの対話-ｍｕｓｅ-」＞
会期：2016 年 5 月 16 日～5 月 21 日
会場：シロタ画廊
　　〒104-0061 東京都中央区銀座 7-10-8
TEL：03-3572-7971

お　詫　び

２０１５年９月発行予定の PANN 秋号 ( 第２１号 ) ですが、誌面デザインの変更の為、１２月発行冬号となりました。また、今年度は年１回の発行となります。みなさまに大変ご迷惑をお掛けし、誠に申し訳ございません。　　会報係一同

発行：版画京都展実行委員会（KYOTO 版画）
問い合せ：075-702-5142
会報係：西住恵子、謝敷ゆうり、ツツミアスカ
取材協力：花友しらかわ（福祉施設）

# KYOTO版画

22

Summer 2016

Kyoto Print Exhibition Executive Committee

# Newsletter



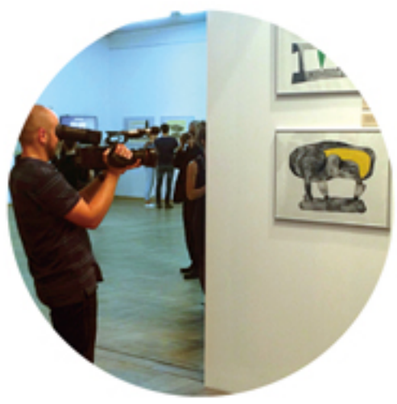
Soft Ground Etching, H80xW60cm, 2014

Rie Hidaka " Some Secrets "



Woodcut, H22.5×W30cm, 2015

Hiromu Kato " Scenery "



Interview of International Print Triennial in Krakow by Naomi Kubo




## 作家紹介

日本・オーストラリア国際版画二〇一四

アワガミファクトリー賞受賞作家

加藤 宏

日髙 理恵

## 特集

クラクフ国際版画トリエンナーレ訪問記

久保 直美

■活動報告

■日本・カナダ国際版画展のお知らせ

■掲示板

## アワガミファクトリー賞

木　版　画

# 加藤 宏
Hiromu Kato

‘46　愛知県生まれ
‘11　飛騨高山現代木版画ビエンナーレ（協賛賞）
　　国展（奨励賞）
　　高知国際版画トリエンナーレ（‘14）
　　山本鼎版画大賞展（‘15）
‘12　鹿沼市立川上澄生美術館木版画展（‘14, ‘16）
‘15　日本・オーストラリア国際版画展アワガミファクトリー賞



「郊外」H77×W98cm ／水性木版／ 2014



三〇歳を過ぎた頃、ある美術誌で「小野忠重」の版画作品を観て、陰刻法による油絵的なマチエールの作品に感動した。自分にも出来ないかと我流で始めたことがきっかけと記憶しています。その後、NHKの通信講座を知り「木版画コース」を二年間学んだ。提出課題が添削され講師のコメントが返って来るのを楽しみにしていました。その後「国展」に出品する機会があり、抽象的な作品に興味を持ち現在に至っています。

私達は自然の中に生かされ、常に自然と対峙した存在であると思っています。若い時から油絵に興味を持ち、特に風景画を描き続けてきた点から版画作品も風景の色と形を心象の視点で捉えた半抽象的な作品作りをコンセプトとしています。

身の回りには抽象的な美しさは多々潜んでいます。しかしイメージとしてなかなか気付かない。造形物からの美しさ、組み合わせや、平面構成、表現密度による美しさ、更には有機無機質固有の美しさ等イマジネーションに限りがない。制作にはこの段階が最も大切であると思っているがいつも暗中模索に終わっています。

常に思ことは個性的な自分だけの作品を作れないものかと、高齢となった今、夢と終わることは間違いないでしょう。

## アワガミファクトリー賞

銅　版　画

# 日髙 理恵
Rie Hidaka



‘82　京都市立芸術大学 工芸科 陶磁器コース卒業
’13　第59回全関西美術展ホルベイン工業賞、日本版画協会展入選（’14）
‘14　日本オーストラリア国際版画展 アワガミファクトリー賞
’15　山本鼎版画大賞展 入選、日本版画協会展 入選

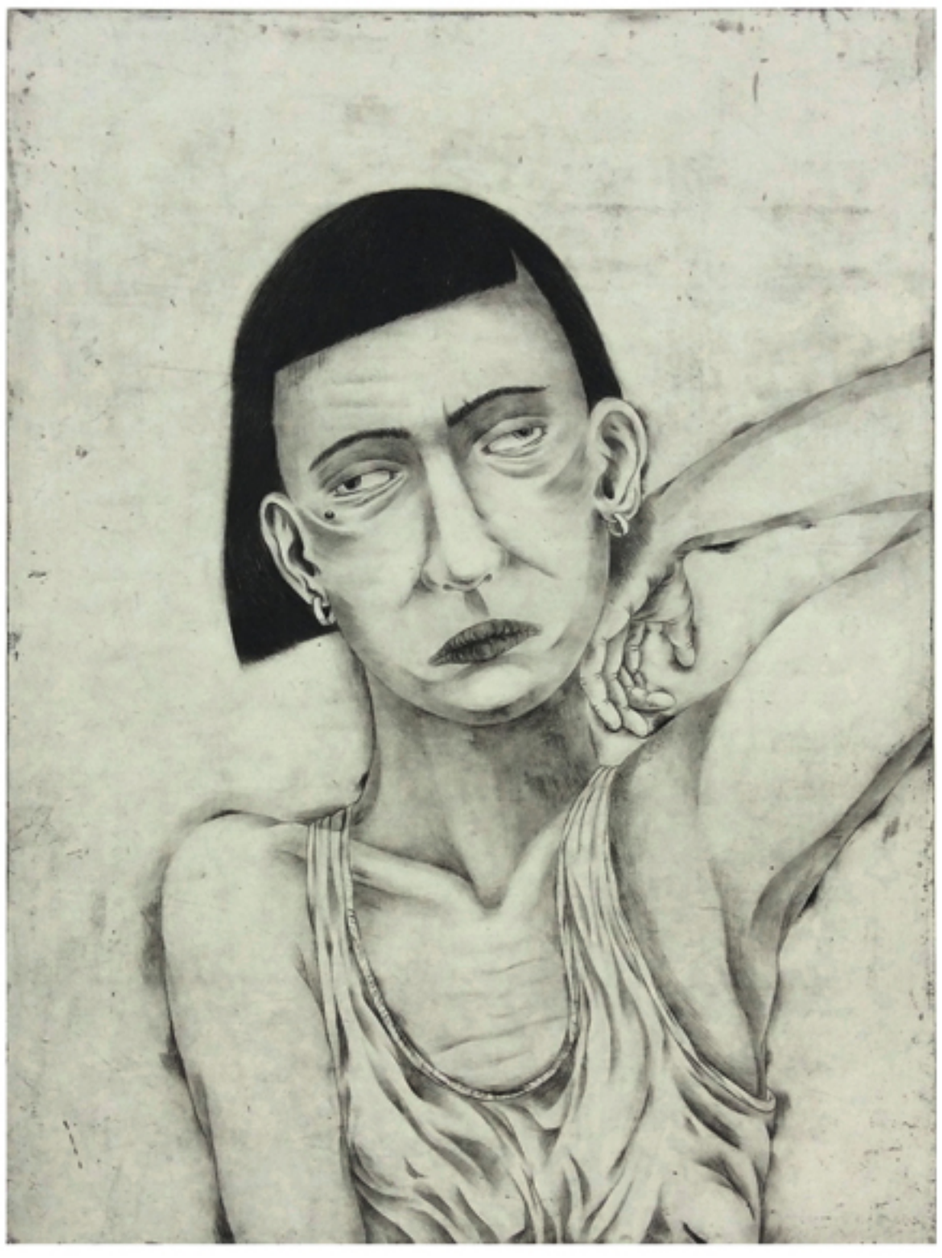
「日本・オーストラリア国際版画展」ではアワガミファクトリー賞を頂き、ありがとうございました。私にとってこの賞は今も大きな励みとなっています。

銅版画を始めたきっかけは九年ほど前に偶然、現在所属しているアトリエ凹凸を知ったことです。当時　何の知識もないままにこれまで続けてきましたが、本当に銅版画が面白くなってきたのは、ここ三〜四年です。

鉛筆の黒い線が何層にも重なって、どんどん紙にモノトーンの世界が広がっていく様子が好きで、作品は主にソフトグランドエッチングで制作しています。

厚みのあるやわらかな色の版画紙と黒いインクの調和も私が銅版画に魅かれる理由のひとつです。今は作品に人物が多く登場していて、ある一瞬の空気感、しぐさや表情、心の動き…自然と自分の中にわいてきたものを表現しています。今後、それらが画面上にどのような「かたち」となってあらわれるのか、自分にもわかりません。

制作する上で大切だと考えていることは、ごく基本的なことばかりですが、あまり迷わずに思い切って、自分らしい表現をすること、今後もできるだけ継続して、制作を続けること、――長く関わらなければ何もつかめないと思うからです。そして集中力をもって制作すること、今後の夢は、今の延長線上に本当に自分が納得できるものをつくりたいということです。あと、英語が話せるようになること、パソコンが上手に使えるようになること、海外の国々へ行くこと、です。



「the position1」H80XW60cm ／ｿﾌﾄｸﾞﾗﾝﾄｴｯﾁﾝｸﾞ ／ 2014

# クラクフ国際版画トリエンナーレ訪問記

久保　直美


Gallery Bunkier Sztuki 展示風景

クラクフ国際版画トリエンナーレの入選発表の日、自分の名前を見つけて余りの嬉しさに事務局からの連絡も待たずに航空チケットを購入しました。

開催地であるクラクフ歴史地区はポーランド王国のかつての首都で、中世の街並みが残り、ヨーロッパでもっとも美しい都市の一つと言われているそうで心が弾みます。

私の滞在は二日半。到着したのはオープニング前日の九月一七日夜でした。ウィーンで乗り換えた小さな飛行機で到着し、タクシーでクラクフ歴史地区に入った時、あまりにも美しい石畳の風景に圧倒されました。



街には展覧会のポスターが貼ってある

クラクフでは、一五日から一九日の期間中、グラフィックアートの展覧会のオープニングが街中のいたる所で行われ、そのメインがクラクフ国際版画トリエンナーレとなっているようです。

一八日夕方六時からのオープニングは会場である「Gallery Bunkier Sztuki」の外で行われる簡単なものだったにもかかわらず、沢山の方々が集まっていました。見渡せば年齢層は幅広く、この展覧会への人々の関心の高さを感じます。スピーチの後、開場となり私も皆の流れに続いて中に入り、自分の作品を見つけた時の感動は今でも忘れられません。


クラクフの街並

着物で行った事が皆の目を引き、カタログにサインを求められるという初めての経験をしました。その上テレビのインタビューを受ける事となり、一緒に行った友人が英語で通訳をしてくれ、技法やコンセプト、この展覧会をどう思うかなどをお話ししました。テレビ局はドキュメンタリー番組を制作するために素材を集めているそうで、私もその一つになったようです。緊張したので、どんな顔をしていたのか気になります。その映像を見たいような、見たくないような・・・


撮影の様子

実は着物で参加することは、黒崎彰先生のアドバイスでもあります。そして、クラクフ国際版画トリエンナーレ（SMTG）の理事長であるリシャルド・オトレンバ氏をご紹介頂き、会場でお会いする事ができました。とても感謝しています。

夜八時からの授賞式は「Meeting Chamber of the City Council」訳すと「市議会の会議室」という場所で開催されました。会場の中に入ると、中世の絵の中に自分がいるのではないかと錯覚するような美しさでした。唯一お会いした、日本から来られている他の入選者の方のお蔭で、展示会場から少し離れたこの場所にたどり着く事が出来ました。終始大変お世話になりました。

授賞式の後、隣接するホールで立食パーティーが行われました。地元の方はもちろん、各国からの受賞者や入選者の方たちが参加されており、賑わいを見せていました。そして、私の作品を選んでくださった審査員の方と直接お会いする事が出来、とても嬉しく光栄に思いました。様々な方と触れ合える機会となり、有意義な時間を過ごせました。


Gallery Bunkier Sztuki の前。
オープニング後の開場を待つ人々。

会場を出たのは夜十時半。友人とホテルまで歩く途中の道端では、沢山の人たちが石畳のオープンテラスで楽しそうにグラスを傾けていました。ポーランド料理は薄味で美味しく、日本人の口にも合うと思いました。そして街中の治安は良い印象を受けました。クラクフ歴史地区内は歩いて巡る事が可能な規模でしたが、もう少し滞在が長ければ、散策したい場所はまだまだあり、それが心残りでなりません。

冬はマイナスになるという寒さの厳しいクラクフも、九月の夜は心地よい良い風が吹いています。三年後、この美しい街をまた訪れる事が出来るように精進したいと思う一日となりました。


Meeting Chamber of the City Council での受賞式の様子

# 活動報告

展覧会名：第７回ポレポレ展
日　　時：2015 年 11 月 17 日 ( 火 )〜11 月 26 日 ( 木 )
会　　場：ART FORUM JARFO
会場住所：京都市東山区三条通東大路東入今小路町 81 番地 1F
出 品 者：伊藤尚子、片岡れいこ、川端千絵、汾陽佐和子、千明、
　　ドモンコス紀子、三上景子（五十音順）

関東で生活をして 3 年目の夏、育児により少し制作から離れていた私に､ポレポレ展出品の依頼が！嬉しいのと同時に､久しぶりの作品出品で、いつもとは違う緊張が走りました。搬入には、久しぶりにもかかわらず、暖かく迎え入れて下さったグループ展出品の皆様が居られて、展覧会はまだ始まっていないのに、既に参加出来て良かったと確信しました。出品作家は偶然にも皆女性で、それぞれの作品から、各作家のしなやかに生きる姿勢を拝見させて頂きました。この場をお借りして、御高覧頂いた皆様と参加させて頂きました事を厚く御礼申し上げます。

文・写真：三上景子





展覧会名：京都十景第６集出版記念展
日　　時：２０１５月１２月２２日（火）〜１２月２７日（日）
会　　場：ギャラリーヒルゲート
会場住所：〒604―8081 京都市中京区寺町通三条上る天性寺前町 535
出 品 者：黒崎彰、近藤幸、斉藤修、坂爪厚生、佐久間嘉明、
　　神野芽生子、田島征彦、縄田也千、服部久美子、三田村直美

私がモチーフとして選んだ花山天文台は元々京都大学にあったものだが、市電の開通に伴い観測環境が悪くなると、1929 年今の山科の花山山に設立された。主に太陽について黒点の観測や、太陽光を分光器で分解して観測されている。山科駅から軽いハイキングで観測所に着く。アンティークな建物や建設当時の資料なども興味深いが、天気が良ければ 70 ㎝シーロスタット望遠鏡を通った光が暗い教室のような観測室の壁一面に、一瞬にして光を走らせる様は、「美しさに息をのむ」としか言いようがない。虹が走る。一瞬で虹が横に走る！　存続が危ぶまれたこともあったそうだが、京都の財産としてこれからも残してもらって感動を与えてほしいと思います。

文：三田村直美／写真撮影：近藤幸





展覧会名：KYOTO 版画 2016 選抜展
日　　時：2016 年 3 月 1 日（火）〜 3 月 13 日（日）
会　　場：ART FORUM JARFO
会場住所：京都市東山区三条通東大路東入今小路町 81 番地 1F
出 品 者：加藤恵、木村寿子、謝敷ゆうり、神野茅生子、野嶋革、
　　三宅由里子（五十音順）

今回は選抜展と同時開催で京都十景の展示も行いました。選抜展の方は銅版作家の方が多く、私自身も銅版なので皆さんの作品を拝見してとても勉強になりました。個性的な作品が揃いましたが、みんなで配置にあれこれと悩んだ甲斐もあり納得のいく展示になったと思います。オープニングパーティーは総会と同じ日だったので、帰りに立ち寄ってくださった方も多く、にぎやかな時間を過ごせました。どうもありがとうございました。

文・写真：謝敷ゆうり





## 日本・カナダ 国際版画展2016

現代カナダを代表する版画作家 45 名 82 作品、
西日本版画作家 87 名の作品を展示。

会期中は、シンポジウムやギャラリートーク、
ワークショップやデモンストレーションなど、
気軽に参加頂けるイベントを企画しています。

普段、日本では見ることのないカナダの現代版画を
一堂にご覧頂ける機会になれば幸いです。

京都展｜2016年10月4日(火)〜10月16日(日)
京都市美術館

徳島展｜2016年10月22日(土)〜10月30日(日)
徳島県立近代美術館ギャラリー
＋徳島県立２１世紀館（多目的活動室）

http://www.kyotohanga.com

# 掲示板

会報にお寄せいただいた版画京都展実行委員会メンバーの展覧会情報です。
詳細は各会場へお問い合わせください。

●朝日 みお
[ 個展｜ AHAF( アジア ホテル ア - ト フェア ) ]
会期：2016 年 8 月 2 5 〜 8 月 2 8 日
会場：W マリオットホテル　ソウル
　　176, Sinbanpo-ro, Seocho-gu
　　ソウル　06546　韓国
TEL：+82-2-62826262

●濱本 澄江
[ 個展｜ペ - パ - スクリ - ン版画展 Sounds good! ]
会期：2016 年 10 月 4 日〜10 月 16 日
会場：GALLERY　とわーる
　　〒810-0001 福岡市中央区天 2-8-34
　　住友生命ビル 1F
TEL：092-714-3767

●伊藤 尚子
[ 個展｜伊藤尚子個展 ]
会期：2016 年 10 月 22 日〜10 月 29 日
会場：ギャラリーオキュルス
　　東京都港区白金台 2 - 2 6 - 8
　　岡田ビル２０２
TEL：03-3445-50881

[ 個展｜伊藤尚子個展 ]
会期：2106 年 12 月 17 日〜12 月 25 日
会場：LADS GALLERY
　　大阪市福島区福島 3 丁目 1-39
TEL：06-6453-5706

●平木 美鶴
[ 個展｜平木美鶴作品展 ]
会期：2017 年 2 月 8 日〜2 月 14 日
会場：高島屋大阪店６階ギャラリー NEXT
　　大阪市中央区難波 5-1-5
TEL：06-6631-1101

※会期順

発　　行：版画京都展実行委員会
（KYOTO 版画）
問い合せ：075-702-5142
会 報 係：西住恵子、謝敷ゆうり
ツツミアスカ

# KYOTO版画

23

Spring 2017

Kyoto Print Exhibition Executive Committee

# Newsletter













## 特集

日本・カナダ国際版画二〇一六
京都展と徳島巡回展の報告

カナダ展開催までの軌跡
黒崎彰

京都展を振り返って
坂爪厚生

ギャラリートークについて
本岡千尋

ワークショップを終えて
鈴木良治

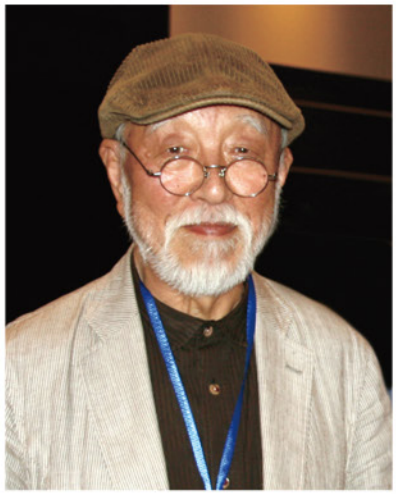
徳島巡回展について
平木美鶴

ワークショップを終えて
廣瀬敦史

■活動報告
■日本・カナダ国際版画展in カナダ
■掲示板

## カナダ展開催までの軌跡

# 黒崎　彰



二〇〇八年にトロント（カナダ）在の出先機関、日本国際交流基金に招かれ個展や講演を行ったとき、私はエドモントンの版画家リズ・イングラムとウオルター・ジュールに会い、帰国することにした。勿論、前もってアポを取ってはいたが、彼らを訪ねるのも初めてなら、評判のアルバータ大学版画センターを訪ねるのも初めてであった。

しかし、私の目的は、版画仲間たちとの親交を深めることでもなかったし、見学が目的でもなく、ただひとえに、今日的なカナダ作品と京都版画（＊版画京都展実行委員会の通称名）の作品交流が可能か否かを探ることにあった。計画の実現には時間がかかり、相互の信頼と尊敬を必要とし、また京都サイドの理解と熱意がなければ不可能なことでもある。こうして始まった「日本・カナダ国際版画展」のプランは、ようやく八年後の昨秋に実現、開催された。

幸福な交流展に至った因には、カナダ側の努力と、それを支えるリズとウオルター二人の熱意によるものであった。レセプション、シンポジウムとギャラリートークに参加したカナダ作家は二〇名を越え、幸い最も活気ある国際交流展となったのである。



## 「日本・カナダ国際版画展京都展」を振り返って

# 坂爪　厚生

レクチャー：京都市美術館

昨年一〇月四日から一六日まで京都市美術館で開催されましたが、一四〇〇人近くの入場者があり、有意義な展覧会が出来たと思います。

カナダと日本の作家の作品を一堂に展示したことで、それぞれの国の作家たちが、どのように制作に取り組んでいるかが、かなり明確に示されたものになっているのではないだろうか。カナダの側の作品には自然破壊、環境問題など作家を取り巻く現代社会の問題に対峙する表現が沢山見られました。

展覧会にはカナダから沢山の作家たち、関係者が来られ、レクチャー、ギャラリートーク、レセプションパーティーとにぎやかに行われました。ワークショップも沢山の参加者で成功でした。

展覧会の準備は、事務局を中心にして、各係がしっかり対応してスムーズに行われたように思います。ただ、オープン前日の展示、飾付は時間がなく、作品の配置やディスプレイ、会期中の当番などの準備が十分ではありませんでした。展示にもう一日とる必要を感じました。

## ギャラリートークについて

# 本岡　千尋

一〇月九日、京都市美術館で催した日本・カナダ国際版画展二〇一六にて、両国の作家によるギャラリートークが行われました。

カナダ作家の方から、一人ずつ自分の作品の前に出ていただき、版種や技法について、またモチーフやコンセプトについて話して頂きました。

今回展示している作品についてだけでなく、これまで作って来た作品について話す方や、これから作品をどう展開していくか具体的なプランを話す方もいらっしゃいました。また、自分が普段どのような仕事に就いているのか、労働者としての生活と作家としての活動について、二つの生活を語る方もいらっしゃいました。

参加された方々は、お互いの国の作家はもちろん、自国の作家の解説についても熱心に耳を傾けていました。そのため予定時間を上回る盛況となりました。



ギャラリートーク：京都市美術館



## ワークショップを終えて

# 鈴木　良治

二〇一六年一〇月一五日、京都市美術館一階北側一〇五号室一三時～一六時にワークショップ（メディウム剥がし刷り技法）を開催いたしました。

この技法は多摩美術大学の小作青史名誉教授が考案された技法です。私が在学中にアトリエに行くと誰よりも早くアトリエで制作している先生がいました。その時先生が格闘していたのが凹版の剥がし刷りでした。より深い凹版のインクをプレス機の圧力をかけないで刷れないか試作されていました。

大学を卒業してメディウム剥がしは　平木美鶴さんに技法を教えていただきました。今のメディウム剥がし刷りはすごく簡単に綺麗にできることに衝撃を受けました。プレス機がいらない、教育現場や趣味の人たちにも紹介しやすい、などいいことづくめで私も取り組むようになりました。

今回のワークショップでは　会員の野嶋革さん、謝敷ゆうりさん、吉元光生さん、並びに各係りの皆様方のおかげでワークショップをやり抜くことができました。正直、準備不足のところが多くバタバタなところがありましたが、始まってみれば剥がし刷りの経験者の方がおり、的確にお手伝いいただきました。作品も皆さんたのしく制作できて、版から剥がれる時の皆さんの表情が気持ちよさそうでした。

## 徳島巡回展について

## 平木　美鶴



日本・カナダ国際版画徳島巡回展は京都展の終了した六日後にはオープンするというタイトなスケジュールでした。

搬入飾付けには徳島のメンバー五名とアルバイト八名に加えて、近畿、中部、九州からメンバー九名が手伝いに来てくれ大いに助かりました。

展示は、徳島県立近代美術館ギャラリーに日本作家、徳島県立二一世紀館多目的ホールにはカナダ作家と分けました。



徳島県立近代美術館外観

日本作家の作品は多少窮屈な展示となりましたが、どうにか展示できました。また、小品展は、一〇月二一日（土）～三〇日（日）に眉峰ギャラリー（徳島市東船場町一丁目一〇番地）にて開催しました。その日の夜は、徳島の食とお酒を堪能し楽しい時間を過ごしました。



日本側作家の作品搬入
徳島県立近代美術館ギャラリー

翌日の一〇月二二日（土）はオープン記念のギャラリートークということで徳島在住の阿部雅光、近藤幸、鈴木良治、平木美鶴、廣瀬敦史の5名と名古屋から来て頂いた松岡恵子さん、ふじいみよこさんに自作の作品を説明してもらいました。カナダ作品については平木が解説しました。一般からの参加人数は四〇名で皆、真剣に聞き入り好評でした。



カナダ側作家の展示：徳島県立 21 世紀館多目的ホール

一〇月二三日（日）は近藤幸さんによる「木版画の刷り実演」を美術館ギャラリー内で開催しました。二〇名の方が参加し、近藤さんの軽妙な水性木版画の多色刷りについて説明は大変好評でした。



近藤幸氏による木版画の刷りの実演

一〇月二九日（土）は廣瀬敦史さんによる「木口木版画の制作実演」を同じく美術館ギャラリー内で開催しました。九名の方が参加し、ビュランのよる廣瀬さんの超絶技法の彫りや刷りに参加者は魅入られていました。

九日間の総入場者数は五八九名で徳島での展覧会では多い入場者数でした。地方でなかなか見ることのできないカナダ現代作家の作品や多彩な日本作家の作品に対して賞賛の言葉を多くいただきました。また、徳島新聞紙上にも大きく掲載していただき、地方巡回展の意義を改めて感じました。搬入出にお手伝い頂いたメンバーの方々や下見に来ていただき展示計画に尽力いただいた佐久間嘉明氏と弘中征夫氏に感謝致します。

## ワークショップを終えて

## 廣瀬　敦史



昨年は初めて、京都版画と徳島で三回、ワークショップをさせて頂き、木口木版画、銅版画を教える機会がありました。今までに人に教えるという経験がなかったので、すごくいい経験をさせて頂いたと思います。とにかく準備が大変で、銅版だとプレス機が必要になってくるので、色々とお手伝いをして頂いた方々にはご迷惑をおかけしたかと思います。

最初のワークショップでは、作家さんに教える形で銅版画のエングレービングをさせて頂いた所、すごく興味深そうに色々と突っ込んだ意見をもらい、返答するのに大変でした。

徳島の美術館のワークショップでは、木口木版画をさせて頂きました。参加型のワークショップをしたいとは思っていたのですが、版木を用意する所でつまずきました。ほとんど木口木版の紹介の様なかたちで、もう少し資料等でわかりやすい説明をした方がいいかなと、色々反省する点も見つかりました。

三回目のワークショップは、徳島の阿波銀ホールでエングレービングと、雁皮刷りの実演をしたのですが、非常に多くの方々に来て頂いて緊張しました。作家さんとはまた反応が違って、実演を興味深そうにみて頂きました。今回木版画用のプレス機を使用したのですが、問題なく刷れたことに驚きました。

ワークショップをする事で自分のやっている制作方法を人に伝えるのは難しい点もありましたが、すごく楽しかったです。ありがとうございました。

# 活動報告

展覧会名：第８回ポレポレ展
日　　時：2016年９月20日（火）～10月２日（日）
会　　場：JARFO 京都画廊
会場住所：〒602-0841 京都市上京区河原町通り今出川下る
　　梶井町 448-17 河原町トウキュウビル１階
出 品 者：朝日みお、片岡れいこ、齋藤修、坂爪厚生、佐久間嘉明、
　　ツツミアスカ、野嶋革、平木美鶴、武蔵篤彦

JARFOが移転して初めてのポレポレ展になります。新しい会場はすっきりとした良い空間で、鑑賞もし易いと思いました。オープニングパーティーは JARFO のスタッフの心遣いも暖かく、和やかな楽しい雰囲気でした。京都版画を凝縮したように年齢、技法など多種多様で見応えのある展覧会だったと思います。唯一の問題点は、やはりお客様の動員数の少なさにあります。JARFOの移転の認知度の低さが原因でしょうか？今後の課題と考えます。

文：朝日みお／写真撮影：松原知子 (JARFO)





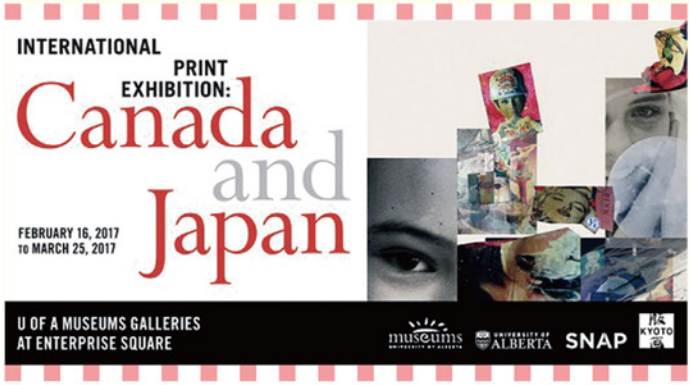



## カナダ・日本 国際版画展2017

### エドモントン展
2017年２月16日（木）～３月25日（土）
アルバーター大学美術館

### レジーナ展
2017年９月開催予定
レジーナ・アート・ギャラリー

２０１６年１０月に京都と徳島で開催しました，「日本・カナダ国際版画展 2016」が、２０１７年にカナダへ巡回します。３月のツアーは、参加者の定員が満たず、残念ながらキャンセルとなりましが、また、９月の展覧会に合わせてツアーの企画を予定しています。ぜひ、皆さまのご参加をお待ちしております。詳細は、決まり次第、追ってお知らせいたします。




https://www.kyotohanga.com

# 掲示板

会報にお寄せいただいた版画京都展実行委員会メンバーの展覧会情報です。
詳細は各会場へお問い合わせください。

●日高 理恵
[個展｜ 日本・カナダ国際版画展 2016 受賞者展 日高 理恵 個展]
会期：2017年４月18日～４月23日
会場：ギャラリーヒルゲート２Ｆ
　　京都市中京区寺町通三条上ル天性寺前町 535
TEL：075-252-1161

●花原 淳子
[個展｜ 日本・カナダ国際版画展 2016 受賞者展　花原 淳子 版画展]
会期：：2017年５月９日～５月14日
会場：ギャラリーヒルゲート２Ｆ
　　京都市中京区寺町通三条上ル天性寺前町 535
TEL：075-252-1161

●謝敷 ゆうり
[グループ展｜ BLIND PEAK Ⅰ]
会期：：2017年５月12日～５月28日
会場：不忍画廊
　　東京都中央区日本橋 3-8-6 第二中央ビル 4F
TEL：03-3271-3810

●小野 知美
[個展｜小野 知美 石版画展]
会期：2017年５月26日～６月３日
会場：ギャラリーインザブルー
　　栃木県宇都宮市東宿郷 3-1-9
TEL：028-635-5832

●朝日 みお
[個展｜朝日 みお 個展]
会期：2017年：６月６日～６月11日
会場：ギャラリーヒルゲート２Ｆ
　　京都市中京区寺町通三条上ル天性寺前町 535
TEL：075-252-1161

●坪山 由起
[グループ展｜2017 International Contemporary Exhibition “ In Pursuit of Beauty ”]
会期：2017年８月19日～８月29日
会場：3331 Arts Chiyoda メインギャラリー
　　東京都中央区日本橋 3-8-6 第二中央ビル 4F
TEL：03-6803-2441

●川端 千絵
[個展｜川端 千絵 個展]
会期：2017年９月19日～９月24日
会場：ギャラリー恵風
　　京都市左京区丸太町通東入ル南側
TEL：075-771-1011

※会期順

### お詫び

３月下旬の発行を予定していました会報が遅れてしまい、誠に申し訳ありませんでした。このような事がないように、会員の皆さまから選出されました、2017-18年度の運営委員のメンバーにて、運営委員の体制を見直して行きたいと思います。

会員の皆さまには、カナダ展や小品展（@JARFO 京都画廊）に引き続き、温かいご協力を頂ければ、運営委員一同、とても助かります。

それでは、どうぞよろしくお願い申し上げます。

会報係・総務係・WEB係　ツツミアスカ

発　　行：版画京都展実行委員会
（KYOTO 版画）
問い合せ：075-702-5142
会 報 係：西住恵子、謝敷ゆうり
三上景子、ツツミアスカ

# KYOTO版画 24

Spring 2018

Kyoto Print Exhibition Executive Committee

# Newsletter



Junko Hanahara, Winter Day, woodcut, 74.5×56cm, 2015



Rie Hidaka, Friend 2, soft-ground etching, 80×60cm, 2015



Mayumi Mera, Untitled, mezzotint, 35×35cm, 2014




Report on Japan and Canada International Print Exhibition 2017 in Edmonton by Akira Kurosaki



## 特集 日本・カナダ国際版画展二〇一七

## エドモントン展報告 黒崎彰

## 受賞者インタビュー

優秀賞 目良真弓

奨励賞 花原順子

奨励賞 日高理恵

## ■活動報告

## ■地域ブロック展（仮）開催決定

# 日本・カナダ国際版画展二〇一七
# エドモントン展報告

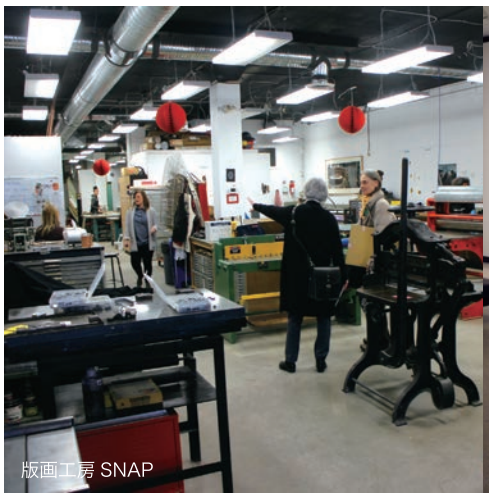
文・写真　黒崎　彰

「日本・カナダ国際版画展」は去る二〇一六年一〇月に京都市美術館で開催されたが、同展のカナダ側展示が、昨年三月アルバータ大学美術館（市内のデパート一階を利用したスペース）で開かれた。もともと同展は七月開催の予定だったが、大学美術館閉館の話が起り、カナダでも北に位置するエドモントンでは春まだ遠い三月に開催されることになり、そのため訪問を希望するメンバーが集まらず、代表として私だけが参加する結果になった。


W・ジュール先生のスタジオ

三月二二日夕、エドモントン着。早速リズ・イングラム宅でのディナーで歓迎を受けた。二三日午前、版画工房 "SNAP" 訪問、午後アルバータ大学版画科（井田昭一、池田良二たちが学んだ）を見学、そして市内より車で一時間ほどの距離から、大先生ウォルター・ジュールのお迎えがあり、雪に覆われた彼のスタジオを訪ねた。二四日、両国の版画展をリズと訪問、余裕のあるスペースと日本作家の作品だけは額装されている、その手厚い扱いぶりに感謝し、また驚く。

当日は展示の最終日でもあり、夕刻私の講演と在カナダ日本人の若者による太鼓連打が用意されていた。一〇〇名を越える聴衆を前に、私は古代から現代に至る「日本の木版画」と題し、用意したPower Pointを披露したのである。


版画工房 SNAP


日本・カナダ展会場



日本・カナダ展正面入口

*表紙右下の写真：アルバータ美術大学版画研究室

## 優秀賞

銅版画　目良真弓　Mayumi Mera

'83　千葉生まれ
'11　京都造形芸術大学大学院修士課程修了
'09　日本版画協会版画展（'09, '10, '11,' 15賞候補）
'12　個展（ギャラリー恵風／京都）
'16　日本・カナダ国際版画展優秀賞
'17　アワガミ国際ミニプリント展アワガミファクトリー賞


「untitled (lace shirt)」H18.2×W21cm／メゾチント／2017



版画は、大学三回生から本格的に始めました。それ以前は油画コースに所属して作品を作っていましたが、デッサン的な仕事や緊張感のあるモノトーンの世界観で作品を作りたいと思い、なんとなく版表現コースに転コースしました。もともと、高校時代に予備校で版画家の重野克明さんに絵を習っていて先生の作品が好きでしたし、銅版画のフラットな中に職人的な厳しさとニードルで版面を引っ掻く原始的な感覚が両立する感覚が不思議で未知の表現として憧れていました。

今までメゾチントで衣服を描いたシリーズの作品を作ってきましたが、このシリーズは長年身に着けていた衣服を自画像として描いたことから始まりました。それから、衣服を生身の肉体に代わるからだや皮膚、抜け殻として描いています。メゾチントを始めた時、銅版の表面にベルソーで傷を付ける感覚は自分の皮膚に傷をつけるような感覚があり、版と自分の皮膚感覚が重なる感覚がありました。人間の存在の生々しさや美しさを感じたり想像できるような作品を作りたいと思っています。

奨励賞

## 木　版　画　花原 淳子　Junko　Hanahara






「雨上がり」H41×W58cm ／水性木版／ 2017

'09年～　NHK文化センターで黒崎彰先生の木版画講座を受講

'12　日本版画協会展
　　('14, '15 B部門賞候補, '16, '17)
'16　日本・カナダ国際版画展奨励賞
'17　日本・カナダ国際版画展受賞者個展
　　(ギャラリーヒルゲート／京都)

●木版画をはじめたきっかけ●

二〇〇九年にNHK文化センターで黒崎彰先生の木版画講座を受講したことが始まりです。二〇一二年に日本版画協会展に初出品し幸運にも入選したことで、それまで趣味で楽しんでいた木版画が、真剣に取り組んでいきたいことへと変わりました。

●作品のテーマと思い●

作品では大阪の街や人を描いています。私は生まれてから現在までずっと大阪で暮らしていますので、まず大阪の街と人が好きだから。二つ目は絵の技術も経験も足りない私には知らない土地やよく知らない人たちのことはもっと勉強しないと描けない気がしていました。自分の知っている土地や見慣れた人を描くことで下手なりに地に足のついた作品になる気がしたのです。

二〇一四年三月、十三の「しょんべん横丁」と呼ばれる場所を写生しました。その一週間後、火事でその辺りはほぼ消失してしまいました。ここを作品にするときは一日も早く元の賑わいを取り戻してほしいという一心で作品を仕上げました。幸い二〇一六年一〇月に一部店舗も戻り徐々に活気が戻りつつあります。私が描く場所はありふれた暮らしのある風景なのですが、以来どこを描くときも「ここにある日常がずっと当たり前に続きますように」と願いながら作品を作っています。



奨励賞

## 銅　版　画　日高 理恵　Rie Hidaka



「friends 4」H80XW60cm ／ｿﾌﾄｸﾞﾗﾝﾄﾞｴｯﾁﾝｸﾞ／ 2016

'82　京都市立芸術大学 工芸科
　　陶磁器コース卒業
'13　第59回全関西美術展賞ホルベイン工業賞
　　日本版画協会展('13～'16)
'14　日本・オーストラリア国際版画展
　　アワガミファクトリー賞
'15　山本鼎版画大賞展
'16　日本・カナダ国際版画展奨励賞
'17　日本・カナダ国際版画展受賞者個展
　　(ギャラリーヒルゲート／京都)

日本・カナダ国際版画展で奨励賞を頂きありがとうございました。

相変わらず、比較的大きなモノクロの作品を作っています。特にこれといったテーマやコンセプトはなく、その時々で気の向くまま手の動くまま、自然に出てくるものが作品になっていきます。

「自画像」ですかとよく聞かれますが、意識したことはなく、でも自分の中から出てくるので「自画像」といえるかもしれません。作品は、自身のものに限らず強さがあり、おおらかでのびのびとした構図、どこか見る者の意表をつき、尚且つちょっとした可笑しさや皮肉のあるものに魅かれます。作品が完成するといつも「何カガチガウ」という感覚におそわれることに矛盾を感じながらも、また次にとりかかります。

今後の課題は、制作面では単調な画面にならないように違う技法も入れること、画面の枠や大きさに捉われない構図、同じものの視点や角度を変えてみる、などです。モノトーンの世界をもっと楽しみ、今より大きな作品にもチャレンジしてみたいと思います。

自分自身への課題は、頭や心を常に柔らかくして、あらゆるジャンルから良い刺激を受けながら、自由気ままに作品づくりを続けていけば、また新しい発見があると密かに期待しています。

# 活動報告

展覧会名：KYOTO 版画 2017 第１回小品展
日　　時：2017 年２月 28 日 ( 火 )～3 月 12 日 ( 日 )
会　　場：JARFO 京都画廊
会場住所：〒602-0841 京都市上京区河原町通り今出川下る
　　梶井町 448-17 河原町トウキュウビル１階
出 品 者：会員有志６４名（作品点数：１２０点）

　第 1 回の小品展は、2016 年の秋に開催されたカナダ展に引き続き、近畿圏以外の皆様にも搬入にお越し頂き、大変勢いのあるスタートを切りました。皆様の慣れた搬入作業であっという間に空間完成！作品 2 段掛けの会場は、凝縮された美術館のようで、大変見ごたえのある空間となりました。この場をお借りして JARFO のスタッフの皆様、積極的にご参加頂きました皆様に、深く御礼申し上げます。もうすぐ第 2 回も開催予定です。第1回に続き､楽しくご参加頂きますようお願い申し上げます。

文：三上 景子／写真撮影：JARFO スタッフ




展覧会名：日本・カナダ国際版画展 2016 受賞者展 日高 理恵 銅版画展
日　　時：2017 年４月 18 日 ( 火 ) ～４月 23 日 ( 日 )
会　　場：ギャラリーヒルゲート 2F
会場住所：〒604-8081 京都市中京区寺町通三条上る天性寺前町 535
出 品 者：日高 理恵

　ヒルゲートでの受賞者展は私にとって初個展でした。皆様に助けていただき､緊張の初日を迎え､立派なオープニングも催していただきました。
　ヒルゲートは定期的に観に来られる方がとても多く、おかげさまで６日間、ほぼ人が途切れることがなく毎日が楽しくてあっという間に最終日をむかえました。色々な方々とお話しできたこと、作品を観てもらえたこと全てが勉強になりました。お忙しい人見さんやスタッフの方にもお世話になり、本当に有難うございました。

文：日高 理恵／写真撮影：ギャラリーヒルゲートスタッフ




展覧会名：日本・カナダ国際版画展 2016 受賞者展 花原 淳子 版画展
日　　時：2017 年５月９日 ( 火 ) ～５月 14 日 ( 日 )
会　　場：ギャラリーヒルゲート 2F
会場住所：〒604-8081 京都市中京区寺町通三条上る天性寺前町 535
出 品 者：花原 淳子

　観て下さった多くの方々から「おもしろかった」「楽しかった」と声をかけていただきました。初めての個展で不安しかありませんでしたが、面白かったからと翌日も来てくださった方、木版画教室へ通う前に楽しかったから教室で配ると言ってDMを何枚も持って帰られた方等々、絵を通じてたくさんの方々と会話できましたことが何より嬉しく幸せな日々でした。

文・写真撮影：花原 淳子




展覧会名：版画集「京都十景」第７集・出版記念展
日　　時：2017 年 12 月 12 日 ( 火 ) ～ 12 月 17 日 ( 日 )
会　　場：ギャラリーヒルゲート 1F, 2F
会場住所：〒604-8081 京都市中京区寺町通三条上る天性寺前町 535
出 品 者：黒崎 彰､近藤 幸､齋藤 修､坂爪 厚生､神野 茅生子､鈴木 良治､野嶋 革､平木 美鶴､武蔵 篤彦､三田村 直美（五十音順）

　1F では新作の第 7 集に加え、これまでの６集分の作品が一同に展示されました。京都の街並みや自然の姿が各々の視点、各々の技法で描かれ、その多彩な作品群から、版画表現の面白さや作家のユニークさ、そして京都という場所の魅力を改めて感じました。
　2F では第７集の出品作家の小作品が並びました。「京都十景」作品と照らし合わせる事で、作家の技術の深さや世界観をより堪能することができました。

文：野嶋 革／写真撮影：ツツミアスカ




## KYOTO 版画 2017 小品巡回展

2017 年２月に開催した小品展の中から選抜された会員 31 名が、３会場へ巡回する展覧会を催しました。詳細は、ウェブサイトをご覧ください。

日　　時：2017 年 5 月 24 日 ( 水 )～6 月 4 日 ( 日 )
会　　場：ギャラリー悠玄 ( 石塀小路・しぇりークラブ内 )

日　　時：2017 年 6 月 15 日 ( 木 )～6 月 19 日 ( 月 )
会　　場：アートスペース 973

日　　時：2017 年 7 月 1 日 ( 土 )～7 月 13 日 ( 木 )
会　　場：ART FORUM JARFO

共　　催：版画京都展実行委員会、特定法人京都藝術交流協会





ギャラリー悠玄　　アートスペース 973　　ART FORUM JARFO

## 地域ブロック展 ( 仮 ) 開催決定

九州展
日時：2018 年 6 月 5 日 ( 火 )～10 日 ( 日 )
会場：山本文房堂画廊

京滋展
日時：2018年10月16日(火)～11月4日(日)(予定)
会場：JARFO 京都画廊

阪奈・兵庫展
日時：2018 年 10 月 18 日 ( 木 )～23 日 ( 火 )
会場：芝田町画廊

四国展､中部展については､決まり次第お知らせします。

https://www.kyotohanga.com
発　　行：版画京都展実行委員会（KYOTO 版画）
問い合せ：075-702-5142
会 報 係：謝敷ゆうり、西住恵子、ツツミアスカ、三上景子